

獣医学科

(ページ) (授業コード) (科目名)

(担当教員)

1	11005000 獣医倫理学Ⅱ	柿沼 美紀
3	11007000 野生動物学	羽山 伸一
5	11056000 獣医呼吸器循環器病学	藤田 道郎, 小山 秀一
7	11062000 獣医運動器疾患学	原 康, 原田 恭治
9	11071000 獣医衛生学実習	田中 良和
11	11075000 獣医公衆衛生学実習	植田 富貴子, 落合 由嗣, 高野 貴士, 小林 真理子
13	11078000 獣医臨床繁殖学Ⅲ	河上 栄一
15	11079090 獣医臨床繁殖学実習	河上 栄一, 堀 達也, 小林 正典
17	11082000 獣医寄生虫病学	池 和憲
19	11083000 家禽疾病学	伊藤 亮
21	11087000 衛生動物学	森田 達志
23	11088000 小動物基礎栄養学	小山 秀一, 左向 敏紀, 石岡 克己, 坂根 弘, 徳本 一義, 藤井 立哉
25	11089000 獣医腫瘍学	藤田 道郎, 盆子原 誠, 皆上 大吾, 小林 哲也
27	11091000 獣医皮膚病学	西藤 公司, 松本 浩毅, 小山 秀一
29	11092000 野生動物医学	成島 悦雄
31	11094000 産業動物医療Ⅰ	小山 秀一, 山田 裕, 松本 浩毅, 片岡 康, 左向 敏紀
33	11095000 産業動物医療Ⅱ	小山 秀一, 山田 裕, 松本 浩毅, 左向 敏紀
35	11096000 毒性学	津田 修治, 植田 富貴子, 金田 剛治, 田島 剛, 高野 貴士
37	11097000 総合獣医学	V 学科長
39	11098081 獣医総合実習(臨床)(共済)	藤田 道郎, 松本 浩毅
41	11098082 獣医総合実習(臨床)(小動物/学外)	藤田 道郎, 原田 恭治
43	11098083 獣医総合実習(臨床)(小動物/医療センター)	藤田 道郎, 長谷川 大輔
45	11098091 獣医総合実習(臨床)(共済)	藤田 道郎, 松本 浩毅
47	11098092 獣医総合実習(臨床)(小動物/学外)	藤田 道郎, 原田 恭治
49	11098093 獣医総合実習(臨床)(小動物/医療センター)	藤田 道郎, 長谷川 大輔
51	11099080 獣医総合実習(応用)	植田 富貴子, 落合 由嗣, 高野 貴士
53	11099090 獣医総合実習(応用)	植田 富貴子, 落合 由嗣, 高野 貴士
55	11101000 卒業論文	V 学科長
57	11104000 専門外国語Ⅲ	V 学科長

獣医学科

(ページ) (授業コード) (科目名)

(担当教員)

59	11105000	専門外国語Ⅳ	V 学科長
61	11109000	獣医臨床解剖学	尼崎 肇, 添田 聡, 大石 元治, 奥田 綾子, 浅利 昌男, 印牧 信行
63	11110000	病理学特論	高橋 公正, 塚田 晃三, 道下 正貴
65	11111000	野生動物学実習	羽山 伸一, 加藤 卓也
67	11113000	伴侶動物学	堀 達也
69	11114000	シンポジウム	植田 富貴子, 落合 由嗣, 高野 貴士, 池 和憲, 小林 真理子
71	11115000	獣医臨床栄養学	小山 秀一, 左向 敏紀, 坂根 弘, 徳本 一義, 藤井 立哉
73	11116000	獣医畜産法規	牧野 ゆき
75	11117000	病院経営学	桜井 富士朗, 村中 志朗
77	11118000	畜産経営学	小澤 壮行
79	11119000	鳥・特殊動物の臨床	野村 治, 滝沢 直樹
81	11120000	総合文化講座Ⅱ	4V 担任
83	11121000	生物学実験	土田 修一, 島山 仁
85	11122000	化学実験	田崎 弘之, 片山 欣哉, 佐藤 稲子
87	11123000	物理学実験	八木 昌平
89	11124000	獣医学特論	鷺巣 月美, 藤田 道郎, 入交 眞巳, 牧野 ゆき, 水越 美奈, 山口 千津子
91	11125000	学外実習	6V 担任
93	11126000	獣医眼科神経病学	長谷川 大輔, 余戸 拓也
95	11127000	獣医遺伝病学	鈴木 浩悦, 片山 健太郎, 栃木 裕貴
97	11128000	獣医歯科学	奥田 綾子
99	11129000	獣医東洋医学	糸数 七重
101	11130000	獣医救急医療学	小山 秀一, 原 康, 長谷川 大輔, 堀 達也, 原田 恭治, 余戸 拓也
103	21000000	獣医学概論	科目責任者: 学科長 単位認定者: 学科長
105	21002000	動物福祉学 B期間	科目責任者: 入交 眞巳, 野瀬 出 単位認定者: 入交 眞巳
107	21004000	獣医解剖学Ⅰ B期間	科目責任者: 尼崎 肇 単位認定者: 尼崎 肇
109	21005000	獣医解剖学Ⅱ	科目責任者: 尼崎 肇 単位認定者: 尼崎 肇
111	21006000	獣医解剖学Ⅲ A期間	科目責任者: 尼崎 肇 単位認定者: 尼崎 肇
113	21007000	獣医解剖学実習	科目責任者: 大石 元治 単位認定者: 尼崎 肇
115	21008000	獣医組織学	科目責任者: 添田 聡 単位認定者: 尼崎 肇

獣医学科

(ページ) (授業コード) (科目名)

(担当教員)

117	21009000	獣医発生学 I B期間	科目責任者:大石 元治 単位認定者:尼崎 肇
119	21010000	獣医発生学 II A期間	科目責任者:大石 元治 単位認定者:尼崎 肇
121	21011000	獣医組織発生学実習 I	科目責任者:樺山 実幸 単位認定者:尼崎 肇
123	21012000	獣医組織発生学実習 II	科目責任者:樺山 実幸 単位認定者:尼崎 肇
125	21013000	獣医生理学 I B期間	科目責任者:片山 健太郎, 栃木 裕貴 単位認定者:鈴木 浩悦
127	21014000	獣医生理学 II	科目責任者:鈴木 浩悦, 片山 健太郎 単位認定者:鈴木 浩悦
129	21015000	獣医生理学 III	科目責任者:鈴木 浩悦, 片山 健太郎 単位認定者:鈴木 浩悦
131	21016000	獣医生理学 IV A期間	科目責任者:鈴木 浩悦, 栃木 裕貴 単位認定者:鈴木 浩悦
133	21017000	獣医生理学実習	科目責任者:栃木 裕貴 単位認定者:鈴木 浩悦
135	21018000	獣医生化学 I B期間	科目責任者:新井 敏郎, 川角 浩 単位認定者:新井 敏郎
137	21019000	獣医生化学 II	科目責任者:新井 敏郎, 川角 浩 単位認定者:新井 敏郎
139	21020000	獣医生化学 III A期間	科目責任者:新井 敏郎 単位認定者:新井 敏郎
141	21021000	獣医生化学実習	科目責任者:山本 一郎 単位認定者:新井 敏郎
143	21022000	獣医遺伝子工学 B期間	山本 一郎
145	21023000	獣医薬理学 I	科目責任者:金田 剛治 単位認定者:金田 剛治
147	21024000	獣医薬理学 II	科目責任者:金田 剛治, 田島 剛 単位認定者:金田 剛治
149	21025000	獣医薬理学 III A期間	科目責任者:金田 剛治, 田島 剛 単位認定者:金田 剛治
151	21026000	獣医薬理学実習	科目責任者:田島 剛 単位認定者:金田 剛治
153	21027000	獣医遺伝・動物育種学	科目責任者:鈴木 浩悦, 片山 健太郎 単位認定者:鈴木 浩悦
155	21028000	動物行動学	科目責任者:中田 友明 単位認定者:横須賀 誠
157	21029000	実験動物学	科目責任者:横須賀 誠 単位認定者:横須賀 誠
159	21030000	実験動物学実習	科目責任者:畠山 仁 単位認定者:横須賀 誠
161	21031000	放射線生物学 A期間	科目責任者:田崎 弘之 単位認定者:藤田 道郎
163	21032000	獣医病理学 I B期間	科目責任者:高橋 公正, 塚田 晃三 単位認定者:高橋 公正
165	21033000	獣医病理学 II A期間	科目責任者:高橋 公正, 塚田 晃三 単位認定者:高橋 公正
167	21034000	獣医病理学 III B期間	科目責任者:高橋 公正, 塚田 晃三 単位認定者:高橋 公正
169	21035000	獣医病理学 IV	科目責任者:高橋 公正, 塚田 晃三 単位認定者:高橋 公正
171	21036000	獣医病理学実習 I	科目責任者:道下 正貴 単位認定者:高橋 公正
173	21037000	獣医病理学実習 II	科目責任者:道下 正貴 単位認定者:高橋 公正

獣医学科

(ページ) (授業コード) (科目名)

(担当教員)

175	21038000	獣医免疫学	科目責任者:土田 修一 単位認定者:土田 修一
177	21039000	獣医微生物学 I	科目責任者:田口 文広 単位認定者:池 和憲
179	21040000	獣医微生物学 II	科目責任者:片岡 康 単位認定者:池 和憲
181	21041000	獣医微生物学 III A期間	科目責任者:片岡 康 単位認定者:池 和憲
183	21042000	獣医微生物学実習 I	科目責任者:氏家 誠 単位認定者:池 和憲
185	21043000	獣医微生物学実習 II	科目責任者:氏家 誠 単位認定者:池 和憲
187	21044000	家禽疾病学 I B期間	科目責任者:常盤 俊大 単位認定者:池 和憲
189	21045000	家禽疾病学 II B期間	科目責任者:常盤 俊大 単位認定者:池 和憲
191	21046000	魚病学	科目責任者:和田 新平 単位認定者:和田 新平
193	21047000	動物感染症学 I	科目責任者:田口 文広 単位認定者:田口 文広
195	21048000	動物感染症学 II A期間	科目責任者:田口 文広 単位認定者:田口 文広
197	21049000	獣医寄生虫学 A期間	科目責任者:池 和憲 単位認定者:池 和憲
199	21050000	獣医寄生虫病学 I B期間	科目責任者:池 和憲 単位認定者:池 和憲
201	21051000	獣医寄生虫病学 II	科目責任者:池 和憲 単位認定者:池 和憲
203	21052000	獣医寄生虫病学実習	科目責任者:森田 達志 単位認定者:池 和憲
205	21053000	動物衛生学	科目責任者:田中 良和 単位認定者:田中 良和
207	21054000	動物衛生学実習 I (牧場実習含む)	科目責任者:田中 良和 単位認定者:田中 良和
209	21055000	動物衛生学実習 II (牧場実習含む)	科目責任者:田中 良和 単位認定者:田中 良和
211	21057000	公衆衛生学総論	科目責任者:植田 富貴子 単位認定者:植田 富貴子
213	21058000	公衆衛生学 I (環境衛生)	科目責任者:落合 由嗣 単位認定者:植田 富貴子
215	21059000	公衆衛生学 II (食品衛生)	科目責任者:落合 由嗣 単位認定者:植田 富貴子
217	21063000	毒性学 I	科目責任者:植田 富貴子 単位認定者:植田 富貴子
219	21065000	獣医疫学 I A期間	科目責任者:植田 富貴子 単位認定者:植田 富貴子
221	21069000	野生動物学 I (野生動物基礎) B期間	科目責任者:羽山 伸一 単位認定者:羽山 伸一
223	21070000	野生動物学 II (野生動物医学) A期間	科目責任者:加藤 卓也 単位認定者:羽山 伸一
225	21071000	獣医内科学総論 A期間	科目責任者:小山 秀一 単位認定者:小山 秀一
227	21072000	獣医内科学実習 I (一般診断・治療)	科目責任者:手嶋 隆洋 単位認定者:小山 秀一
229	21073000	獣医内科学実習 II (一般診断・治療)	科目責任者:手嶋 隆洋 単位認定者:小山 秀一
231	21074000	獣医臨床病理学	科目責任者:鷺巢 月美 単位認定者:鷺巢 月美

獣医学科

(ページ) (授業コード) (科目名)

(担当教員)

233	21075000	獣医臨床病理学実習	科目責任者:鷺巣 月美 単位認定者:鷺巣 月美
235	21076000	獣医臨床薬理学 B期間	科目責任者:田島 剛 単位認定者:金田 剛治
237	21077000	獣医呼吸器病学 A期間	科目責任者:藤田 道郎 単位認定者:藤田 道郎
239	21078000	獣医循環器病学 B期間	科目責任者:小山 秀一 単位認定者:小山 秀一
241	21079000	獣医消化器病学 I (内科) B期間	科目責任者:松本 浩毅 単位認定者:小山 秀一
243	21080000	獣医消化器病学 II (外科) A期間	科目責任者:余戸 拓也 単位認定者:原 康
245	21081000	獣医泌尿器病・生殖器病学 I B期間	科目責任者:竹村 直行 単位認定者:竹村 直行
247	21082000	獣医泌尿器病・生殖器病学 II A期間	科目責任者:竹村 直行 単位認定者:竹村 直行
249	21083000	獣医内分泌代謝学 I B期間	科目責任者:手嶋 隆洋 単位認定者:小山 秀一
251	21084000	獣医内分泌代謝学 II A期間	科目責任者:手嶋 隆洋 単位認定者:小山 秀一
253	21085000	獣医臨床栄養学	科目責任者:佐々木 典康 単位認定者:佐々木 典康
255	21086000	獣医血液病・免疫病学 A期間	科目責任者:田村 恭一 単位認定者:鷺巣 月美
257	21088000	動物行動治療学 A期間	科目責任者:入交 眞巳 単位認定者:鷺巣 月美
259	21089000	獣医外科学総論 A期間	科目責任者:原 康 単位認定者:原 康
261	21090000	手術学総論 B期間	科目責任者:原田 恭治 単位認定者:原 康
263	21091000	獣医麻酔学 B期間	科目責任者:神野 信夫 単位認定者:原 康
265	21092000	獣医外科学実習 I -1(手術学)	科目責任者:神野 信夫 単位認定者:原 康
267	21093000	獣医外科学実習 I -2(手術学)	科目責任者:余戸 拓也 単位認定者:原 康
269	21094000	獣医外科学実習 II (麻酔学)	科目責任者:神野 信夫 単位認定者:原 康
271	21095000	獣医軟部外科学 I	科目責任者:原 康 単位認定者:原 康
273	21096000	獣医軟部外科学 II	科目責任者:原田 恭治 単位認定者:原 康
275	21097000	獣医運動器病学 I B期間	科目責任者:原 康 単位認定者:原 康
277	21102000	獣医画像診断学 I (軟部) B期間	科目責任者:藤田 道郎 単位認定者:藤田 道郎
279	21103000	獣医画像診断学 II (運動器) A期間	科目責任者:長谷川 大輔 単位認定者:藤田 道郎
281	21104000	獣医画像診断学実習	科目責任者:藤原 亜紀 単位認定者:藤田 道郎
283	21105000	生産動物臨床学 I B期間	科目責任者:小山 秀一 単位認定者:小山 秀一
285	21109000	獣医臨床繁殖学 I	科目責任者:河上 栄一 単位認定者:河上 栄一
287	21111000	獣医臨床繁殖学実習 I	科目責任者:堀 達也 単位認定者:河上 栄一
289	21116000	比較細胞生物学	土田 修一,畠山 仁

獣医学科

(ページ) (授業コード) (科目名)

(担当教員)

291	21117000	生体分子化学	田崎 弘之,片山 欣哉
293	21118000	生物統計学 A期間	大坂 元久
295	21119000	化学実習 I	田崎 弘之,片山 欣哉,佐藤 稲子
297	21120000	生物学実習 I	土田 修一,畠山 仁
299	21121000	動物心理学 A期間	柿沼 美紀,野瀬 出
301	21122000	畜産学概論 I A期間	東條 英昭
303	21125000	専門外国語	各研究室
305	21126001	English Communication I V1	バリー ヘイタ
307	21126002	English Communication I V2	佐藤 エミリー
309	21127001	English Communication II V1	バリー ヘイタ
311	21127002	English Communication II V2	佐藤 エミリー
313	21128001	English Communication III V1	佐藤 エミリー
315	21128002	English Communication III V2	バリー ヘイタ
317	21129000	国語	西連寺 成子
319	21130001	独語講読 V1	山本 裕子
321	21130002	独語講読 V2	山本 裕子
323	21131001	独語文法 V1	山本 裕子
325	21131002	独語文法 V2	山本 裕子
327	21132001	仏語 V1	大柳 貴
329	21132002	仏語 V2	黒木 朋興
331	21134000	基礎生物学 I・II (命名法・自然科学概論)	竹村 直行,畠山 仁
333	21135000	基礎生物学 III・IV	森田 達志,加藤 卓也
335	21136000	基礎生物学 V・VI (脊椎動物・遺伝学)	土田 修一,和田 新平,倉田 修
337	21137000	研究用機器論	担当教員,V 学科長
339	21138000	生物学	土田 修一
341	21139000	生物学入門 A期間	土田 修一,畠山 仁
343	21140000	生物学実習 II	土田 修一,畠山 仁
345	21141000	化学	田崎 弘之
347	21142000	化学入門 A期間	田崎 弘之,佐藤 稲子

獣医学科

(ページ)	(授業コード)	(科目名)	(担当教員)
349	21143000	化学実習Ⅱ	田崎 弘之,片山 欣哉,佐藤 稲子
351	21144000	物理学入門 A期間	八木 昌平
353	21145000	物理学Ⅰ	武藤 知巳
355	21146000	物理学Ⅱ	武藤 知巳
357	21147000	物理学実習Ⅰ	八木 昌平
359	21148000	物理学実習Ⅱ	八木 昌平
361	21149000	数学Ⅰ・Ⅱ(コンピュータ概論含む)	大坂 元久
363	21150000	健康科学	濱部 浩一,野口 泰子
365	21151001	スポーツ野外活動(ウォーキング)	濱部 浩一,小泉 健司,野口 泰子
367	21151002	スポーツ野外活動(スキー)	濱部 浩一,小泉 健司,野口 泰子
369	21151003	スポーツ野外活動(ダイビング)	濱部 浩一,小泉 健司,野口 泰子
371	21151004	スポーツ野外活動(ゴルフ)	濱部 浩一,小泉 健司,野口 泰子
373	21151005	スポーツ野外活動(濱部)	濱部 浩一
375	21151006	スポーツ野外活動(小泉(健))	小泉 健司
377	21151007	スポーツ野外活動(野口(泰))	野口 泰子
379	21152000	心理学	柿沼 美紀,野瀬 出
381	21153000	哲学概論	高村 夏輝
383	21154000	経済学概論	佐々木 輝雄
385	21155000	法学	牧野 ゆき
387	21156000	獣医学史	佐々木 典康
389	21157000	総合文化講座	2V 担任
391	21158000	産業動物品種論 B期間	小山 秀一,牛島 仁,小澤 壯行,太田 能之,吉田 達行,時田 昇臣,古田 洋樹,岡田 幸之助
393	21159000	伴侶動物品種論 B期間	横須賀 誠,中田 友明,左向 敏紀,堀 達也,稲富 理香,滝沢 直樹
395	21160000	畜産学概論Ⅱ・Ⅲ A期間	阿久澤 良造,松本 光人
397	21161000	病院経営学 B期間	桜井 富士朗,村中 志朗
399	21163000	魚病学実習	和田 新平,倉田 修
401	21164000	野生動物学実習	羽山 伸一,加藤 卓也
403	21165000	比較発達心理学実習	柿沼 美紀,野瀬 出
405	21166000	学外実習	2V 担任

獣医学科

(ページ) (授業コード) (科目名)

(担当教員)

407 21330001 中国語 V1

大江 平和

409 21330002 中国語 V2

大江 平和

科目No.	110050R5	科目区分	必修
科目名	獣医倫理学Ⅱ	単位数	1.0
学科	獣医学科(60分)	学年	5
担当教員	柿沼 美紀		

授業のねらい	生命倫理学の基本を理解し、その上で獣医療、動物福祉や獣医学研究にかかわる倫理的問題について理解し、実践に応用できる資質を身につける。
到達目標	生命倫理学の概念が様々な立場、国、時代によって異なることを理解する。獣医倫理綱領の理念及び獣医師の専門職倫理を理解する。獣医療、福祉や研究にかかわる倫理的問題を意識し、考え方を整理し、問題点を関係者と議論できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	オムニバス方式で行う。倫理学の問題をより身近なものとして考えてもらうために、授業中の発言や小問題の記述などを通して主体的に授業に参加することを求める。
概要・スケジュール	第1回：柿沼 美紀 生命倫理学序説 第2回：柿沼 美紀 獣医療における倫理 第3回：柿沼 美紀 医療における倫理 第4回：柿沼 美紀 獣医倫理学概説 第5回：柿沼 美紀 人間動物関係論 第6回：柿沼 美紀 産業動物と倫理 第7回：柿沼 美紀 獣医師の責務 第8回：柿沼 美紀 獣医薬・麻薬・治験と倫理 第9回：柿沼 美紀 遺伝子操作(クローン)と動物生産における倫理 第10回：柿沼 美紀 家庭動物・ペットロスと倫理 第11回：柿沼 美紀 野生動物と倫理 第12回：柿沼 美紀 実験動物と倫理 第13回：柿沼 美紀 展示動物と倫理 第14回：柿沼 美紀 補助犬・介在動物と倫理 第15回：柿沼 美紀 安楽死・異種移植・医療応用の倫理
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110050R5	科目区分	必修
科目名	獣医倫理学Ⅱ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、授業内で指定された資料を読んでおく(60分)。 復習として、その日の授業内容を整理してまとめる(60分)。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	講義とグループディスカッション		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	80%	定期試験
レポート試験	20%	小レポート
平常点評価	10%	出席点他

オフィスアワー	月曜日12:00-13:00、D棟4階 比較発達心理学研究室 Eメールで予約をすること。送信の際はメールアドレスの◎を@にする。 柿沼美紀 (kakinuma-miki@nvl.u.ac.jp)
その他	

科目No.	110070R5	科目区分	必修
科目名	野生動物学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	羽山 伸一		

授業のねらい	野生動物学は、野生動物と人間との間にあるさまざまな問題を解決するための科学である。1年次の動物学概論で講義した生態学や行動学等の基礎科学に立脚し、とくに獣医学および獣医師とかかわりの深い分野を中心に、問題解決の考え方や必要な研究および技術について学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野生動物の保全と獣医学との関わりを理解できる</li> <li>2. 野生動物の捕獲や検査に関わる技術や理論を理解できる</li> <li>3. 外来動物問題と動物福祉の関連を理解し、獣医師として行動できる</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	1年次の動物学概論で学んだ野生動物学の基礎知識への理解を確認してから履修に臨むこと。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 羽山 伸一：野生動物学とは何か 第2回 羽山 伸一：野生動物の捕獲 第3回 羽山 伸一：物理的不動化 第4回 羽山 伸一：化学的不動化 第5回 羽山 伸一：野生動物検査技術（1）性・年齢査定法 第6回 羽山 伸一：野生動物検査技術（2）繁殖状態検査法 第7回 羽山 伸一：野生動物検査技術（3）栄養状態検査法 第8回 羽山 伸一：野生動物検査技術（4）感染症検査法 第9回 羽山 伸一：感染症のリスク分析と対策 第10回 羽山 伸一：外来動物問題と動物福祉 第11回 羽山 伸一：PHVA（個体群と生息地の存続可能性分析） 第12回 羽山 伸一：野生動物の救護 第13回 羽山 伸一：野生復帰のためのリハビリテーション 第14回 羽山 伸一：トピックス 第15回 羽山 伸一：まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110070R5	科目区分	必修
科目名	野生動物学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習（90分）、復習（90分）		
テキスト・参考文献他	テキストとして「野生動物学」村田浩一、坪田敏男 編、（文永堂出版）。参考図書として「野生動物管理」羽山ほか編（文永堂出版） そのほか、講義内に最新のものを指示する		
授業形態	おもにスライドを使用した講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	70	論述試験を実施する
レポート試験	0	実施しない
平常点評価	30	出席と疑応答等積極的な参加を総合的に評価する。

オフィスアワー	①羽山伸一 野生動物学教室 ②hayama×nvl.u.ac.jp ③Eメールにて受け付け、日時を調整する
その他	

科目No.	110560R5	科目区分	必修
科目名	獣医呼吸器循環器病学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	藤田 道郎, 小山 秀一		

授業のねらい	<p>獣医呼吸器病学については呼吸生理および疾患の病態生理・診断、治療についての知識の習得を目的とする。</p> <p>循環器の構造と機能ならびに循環器疾患の病態生理、診断および治療について修得する。</p>
到達目標	<p>上部気道から下部気道の生理および機能について理解する。</p> <p>循環器の構造と生理機能を理解する。</p> <p>疾患の病態・診断および治療について理解する。</p>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 藤田道郎 鼻腔および鼻咽頭部の機能、疾患の病態生理・診断・治療について</p> <p>第2回 藤田道郎 咽喉頭部の機能、疾患の病態生理・診断・治療について</p> <p>第3回 藤田道郎 気管・気管支の機能、疾患の病態生理・診断・治療について</p> <p>第4回 藤田道郎 肺の機能、疾患の病態生理・診断・治療について 1</p> <p>第5回 藤田道郎 肺疾患の病態生理・診断・治療について 2</p> <p>第6回 藤田道郎 胸腔・縦隔部の機能、疾患の病態生理・診断・治療について</p> <p>第7回 小山秀一 短絡性の先天性心疾患</p> <p>第8回 小山秀一 狭窄性およびチアノーゼ性先天性心疾患</p> <p>第9回 小山秀一 房室弁疾患 (1)</p> <p>第10回 小山秀一 房室弁疾患 (2)</p> <p>第11回 小山秀一 心筋症 (1)</p> <p>第12回 小山秀一 心筋症 (2)</p> <p>第13回 小山秀一 フィラリア症 (1)</p> <p>第14回 小山秀一 フィラリア症 (2)</p> <p>第15回 小山秀一 心膜疾患</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110560R5	科目区分	必修
科目名	獣医呼吸器循環器病学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため次回の講義で取り扱う内容を参考書等で確認 復習として毎回のテーマについてまとめておく		
テキスト・参考文献他	授業ごとにプリントを配布する。 参考図書：獣医内科学（小動物編）（文永堂出版）、小動物の心臓病学（インターズー）		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	予定なし。
平常点評価	10%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する。

オフィスアワー	小山秀一（担当教員）：獣医内科学教室（D棟2階）hkoyama@navlu.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約（月曜または木曜16:00～17:00）
その他	

科目No.	110620R5	科目区分	必修
科目名	獣医運動器疾患学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	原 康, 原田 恭治		

授業のねらい	動物の運動効果系器官（骨格筋、靭帯・腱、骨、関節）に発生する疾患について、その病態を理解し、診断法、治療法、そして予防法について学ぶことを目的とする。
到達目標	動物の運動効果系器官（骨格筋、靭帯・腱、骨、関節）に発生する疾患の病態、診断法、治療法について説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学、獣医生理学、獣医生化学、獣医微生物学、獣医病理学、獣医薬理学、獣医外科学総論
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回・原康・獣医整形外科学の歴史 第2回・原康・整形外科学的検査法 第3回・原康・放射線学的診断法 第4回・原康・骨の構造と生理 第5回・原康・骨折①分類、治癒機転 第6回・原康・骨折②治療法 第7回・原康・骨折③合併症 第8回・原田恭治・代謝性骨疾患 第9回・原田恭治・骨格筋の疾患 第10回・原康・関節疾患（総論） 第11回・原康・膝関節の疾患 第12回・原康・股関節の疾患 第13回・原康・肩関節の疾患 第14回・原康・肘関節の疾患 第15回・原田恭治・中手/中足関節の疾患
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110620R5	科目区分	必修
科目名	獣医運動器疾患学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の理解を深めることを目的として、次回の講義で対象とする器官の解剖学的、組織学的、ならびに生理学的特徴を改めて確認しておくこと（予習）（30分）。 復習として、授業で取り上げたテーマについてまとめておくこと（30分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	なし	なし
平常点評価	10%	出席回数

オフィスアワー	原 康：毎週、金曜日9:00～12:00（会議、出張を除く） 原田恭治：木曜日15:00～17:00、金曜日9:00～17:00
その他	

科目No.	110710R5	科目区分	必修
科目名	獣医衛生学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	田中 良和		

授業のねらい	獣医衛生学分野で一般的に行なわれている細菌学的分離・同定方法と畜産環境衛生試験法についてその意義を理解し、試験手技を修得することを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細菌の分離同定および薬剤感受性試験の意義について理解する。</li> <li>2. 消毒薬の特性および評価方法を理解し、その使用方法を説明できる。</li> <li>3. 産業動物飼育環境の科学的評価方法を学び、測定できる。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物感染症の診断法についての基礎知識を理解した上で実習に参加すること。 抗生物質の分類・副作用・使用法を理解した上で履修に臨むこと。
履修上の留意点	実習に積極的に参加し、手技や説明等に疑問が生じた場合、質問をすること。
概要・スケジュール	<p>第1～3回 田中良和腸内細菌叢の観察と臨床材料からの細菌の分離法</p> <p>第4～8回 田中良和抗生物質感受性試験法と細菌同定法 (遺伝子診断も含む)</p> <p>第9～10回 田中良和消毒剤の評価法および消毒効果に影響を与える要因 (1)</p> <p>第11～12回 田中良和消毒剤の評価法および消毒効果に影響を与える要因 (2)</p> <p>第13回 田中良和残留抗生物質試験法</p> <p>第14回 田中良和飼育環境の科学的評価 (その1)</p> <p>第15回 田中良和飼育環境の科学的評価 (その2)</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110710R5	科目区分	必修
科目名	獣医衛生学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習内容の理解を補助するため、各自細菌学のテキストを熟読しておくこと。 抗生剤の種類と作用について薬理学のテキストで調べておくこと。		
テキスト・参考文献他	テキスト：実習プリントを配布する。		
授業形態	5人くらいのグループワークを基本とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	実習内試験 10%	実習期間内に小テストを行なう。
レポート試験	なし。	レポート試験は、課さない。
平常点評価	90%	出席、積極的な実習参加態度を総合的に評価する

オフィスアワー	田中良和：疾病予防獣医学部門衛生分野（獣医衛生学教室）（D棟3階） 火曜日昼休み（12時～13時）
その他	

科目No.	110750R5	科目区分	必修
科目名	獣医公衆衛生学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	落合 由嗣		

授業のねらい	<p>獣医公衆衛生では食品衛生、人獣共通感染症、環境衛生などが対象となるが、この実習では食品衛生に焦点を絞り、最も基本的な乳と食中毒を取り上げて一連の実習を行うことにより、食品検査についての概念を修得することを目標とする。</p>
到達目標	<p>食品衛生における基本的な乳の衛生検査と食品からの食中毒原因菌を分離する方法を習得し、食品検査についての概念を理解すること。</p>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 落合由嗣：食品からの食中毒原因菌分離 I  第2回 落合由嗣：食品の鮮度検査法  第3回 落合由嗣：生物学的検査法（細菌検査：総菌数，一般細菌数，大腸菌・大腸菌群，腸球菌）  第4回 落合由嗣：理化学的検査法（一般分析：比重，無脂乳固形分，酸度など）  第5回 落合由嗣：乳の異物検査法と官能検査法  第6回 落合由嗣：乳房炎乳の検査（PLテスト、アルコールテスト）  第7回 落合由嗣：有害物質の検査  第8回 落合由嗣：抗菌物質検査法（TTCテスト，平板発育阻止試験）  第9回 落合由嗣：生乳の鮮度・品質検査法（レサズリン還元試験，メチレンブルー還元試験など）  第10回 落合由嗣：まとめ</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110750R5	科目区分	必修
科目名	獣医公衆衛生学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	毎回の資料および実習内容を、まとめておくこと。		
テキスト・参考文献他	獣医公衆衛生学実習（学窓社）、配付資料		
授業形態	実習室内での実習を中心にする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	実習終了後に最終試験を行う。
レポート試験	0%	-
平常点評価	0%	-

オフィスアワー	落合由嗣：獣医公衆衛生学教室（D棟4階） 水曜 16:00-17:00：但し、電話（内線3497）または研究室にて事前に面接予約すること。
その他	

科目No.	110780R5	科目区分	必修
科目名	獣医臨床繁殖学Ⅲ	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	河上 栄一		

授業のねらい	臨床繁殖学Ⅲでは、雌雄の生殖器の疾患の種類・原因・診断法・症状および治療法を中心として理解・習得することを目的とする。
到達目標	1. 生殖器の様々な疾患の特徴を理解する。 2. 生殖器疾患の診断方法を理解する。 3. 生殖器疾患の治療方法を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	解剖学、生理学、病理学、微生物学、内科学、外科学、臨床病理学、放射線学の中の生殖器疾患に関連した内容を十分に理解しておく。
履修上の留意点	「動物臨床繁殖学」(朝倉書店)の教科書を携帯すること。
概要・スケジュール	第1回河上 栄一生殖器の先天性疾患 第2回河上 栄一生殖器の腫瘍 第3回河上 栄一膣および子宮頸管の疾患 第4回河上 栄一子宮内膜炎 第5回河上 栄一子宮蓄膿症・子宮粘液症・子宮水症 第6回河上 栄一卵管の疾患および卵巣静止 第7回河上 栄一卵巣嚢腫および黄体機能不全 第8回河上 栄一リピート・ブリーディング 第9回河上 栄一流産 第10回河上 栄一膣脱および子宮脱 第11回河上 栄一子宮外妊娠および子宮捻転 第12回河上 栄一ミイラ胎子および浸漬胎子 第13回河上 栄一難産 第14回河上 栄一精巣および精巣上体の疾患 第15回河上 栄一前立腺・精嚢腺・陰茎の疾患
授業期間を通して課される課題	とくになし

科目No.	110780R5	科目区分	必修
科目名	獣医臨床繁殖学Ⅲ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義内容を深く理解するため、次回の講義に関する教科書のページを読んでおくこと。講義を受けた内容の復習を行うこと。		
テキスト・参考文献他	使用する教科書：「動物臨床繁殖学」（朝倉書店） 毎回の講義で、参考書としてプリントを配付する。		
授業形態	教室内での講義とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80 %	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0 %	実施しない。
平常点評価	20 %	出席割合を評価する。

オフィスアワー	獣医学科：臨床獣医学部門・治療学分野II 獣医臨床繁殖学研究室（D棟3階）
その他	

科目No.	110790R5	科目区分	必修
科目名	獣医臨床繁殖学実習	単位数	2.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	河上 栄一, 堀 達也, 小林 正典		

授業のねらい	<p>獣医臨床繁殖学実習では、獣医臨床繁殖学の講義において教授した内容について、実際に動物や生体材料を用いて、学生一人一人に体験させ、野外での臨床応用に資する基本的手技を理解し、習得することを目的とする。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種動物の妊娠診断法と分娩について理解する。</li> <li>2. 雌雄の生殖器疾患の診断法および治療法を理解する。</li> <li>3. 体外受精法や受精卵の体外培養法について理解・習得する。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	4年後期の「獣医臨床繁殖学実習」で使用した実習テキストを携帯すること。		
概要・スケジュール	<p>第1回 河上栄一、堀達也、小林正典</p> <p>第2回 河上栄一、堀達也、小林正典</p> <p>第3回 河上栄一、堀達也、小林正典</p> <p>第4回 河上栄一、堀達也、小林正典</p> <p>第5回 河上栄一、堀達也、小林正典</p> <p>第6回 河上栄一、堀達也、小林正典</p> <p>第7回 河上栄一、堀達也、小林正典</p>	<p>各種動物の妊娠診断法および分娩</p> <p>妊娠子宮の解剖・観察</p> <p>産業動物の雌性生殖器疾患の診断・治療法</p> <p>産業動物の雄性生殖器疾患の診断・治療法</p> <p>小動物（雌雄）の生殖器疾患の診断・治療法</p> <p>体外受精法</p> <p>受精卵の体外培養法</p>	
授業期間を通して課される課題	第7回終了後、実習内容に関する筆記試験を実施する。		

科目No.	110790R5	科目区分	必修
科目名	獣医臨床繁殖学実習	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	次回の実習内容について実習用テキストを事前に読むこと（15分）。 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（30分）。		
テキスト・参考文献他	実習用テキストを使用する。		
授業形態	顕微鏡実習室および本学付属牧場において、学生は小班に分かれて履修する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	60%	実習最終日に筆記試験を実施する。
レポート試験	10%	実習スケッチの提出により評価する。
平常点評価	30%	出席点や実習態度を総合的に評価する。

オフィスアワー	獣医学科 臨床獣医学部門 治療学分野II 獣医臨床繁殖学教室（D棟3階） 事前に担当教員と相談の上、適宜、時間設定を行う。
その他	

科目No.	110820R5	科目区分	必修
科目名	獣医寄生虫病学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	池 和憲		

授業のねらい	寄生虫病学は寄生虫の侵襲を受けた宿主側の反応と障害、さらには診断、治療、予防法を考究する学問である。従って本講義では寄生虫学を基礎とし、病因に関わる病理学の知識、内科学の一分野、さらに衛生学を関連づけて講述する。
到達目標	1. 獣医臨床および公衆衛生上重要な寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、流行の現状・疫学、診断、治療、予防および宿主の防御機構について理解する。 2. 寄生虫による病害発生の機序やその対策についての考え方を身につける。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医寄生虫学I・II」を理解してから履修に臨むこと。
履修上の留意点	「獣医寄生虫学I・II」で履修した各寄生虫の、特に生活環を想定しながら授業に参加すること。
概要・スケジュール	第1回 池 和憲 獣医寄生虫病学総論 (1) 第2回 池 和憲 獣医寄生虫病学総論 (2) 第3回 池 和憲 トキソプラズマ症 第4回 池 和憲 放牧牛のピロプラズマ病 第5回 池 和憲 犬および馬のピロプラズマ病 第6回 池 和憲 牛および小動物の吸虫病 第7回 池 和憲 条虫類 (1) 家畜の条虫病 第8回 池 和憲 条虫類 (2) 人獣共通の条虫病 第9回 池 和憲 線虫類 (1) 移行幼虫に起因する疾病 第10回 池 和憲 線虫類 (2) 畜産形態に関わる線虫病／線虫類 (3) 眼・脳・脊髄の線虫病 第11回 池 和憲 線虫類 (4) 呼吸器の線虫病／線虫類 (5) 循環器の線虫病 第12回 池 和憲 線虫類 (6) 線虫による皮膚炎／線虫類 (7) 筋肉の線虫病 第13回 池 和憲 線虫類 (8) 消化管の線虫病 第14回 池 和憲 線虫類 (9) 泌尿器に感染する線虫／駆虫薬 第15回 池 和憲 寄生虫学的診断 (検査)
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110820R5	科目区分	必修
科目名	獣医寄生虫病学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として各寄生虫の生活環を理解すること（30分）。 復習として各疾病の病因をまとめること（30分）。		
テキスト・参考文献他	参考書：改訂 獣医寄生虫学・寄生虫病学1 総論／原虫 石井俊雄著／今井壮一編 改訂 獣医寄生虫学・寄生虫病学2 蠕虫他 石井俊雄著／今井壮一編 講談社サイエンティフィク		
授業形態	上記参考書の内容を基本に、スライドを用いて講述する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	必要に応じて実施する可能性あり。
平常点評価	0%	必要に応じて実施する可能性あり。

オフィスアワー	池 和憲（担当教員）：獣医寄生虫学教室（D棟4階）ike-k×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） Eメールにて受付または面談を予約（日時は応談）
その他	

科目No.	110830R5	科目区分	必修
科目名	家禽疾病学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	伊藤 亮, 塚田 晃三, 常盤 俊大		
授業のねらい	養鶏産業の実態に即応した家禽疾病の知識ならびに技術を修得する。養鶏産業現場での疾病動向等の総論と各家禽疾病ごとの各論を講義する。		
到達目標	獣医師として、養鶏産業現場で様々な家禽疾病に対する診断・治療・予防等を総合的に判断できる知識を持つことができるようにする。これに加えて、養鶏産業の大まかな産業構造を理解して、家畜飼養衛生についても併せて理解できるようにする。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 伊藤 亮： 養鶏現場の動向と鶏病疾病動向 第2回 伊藤 亮： 疾病検査技術と疾病防御技術 第3回 伊藤 亮： ウイルス性疾病 (1) 第4回 伊藤 亮： ウイルス性疾病 (2) 第5回 伊藤 亮： ウイルス性疾病 (3) 第6回 伊藤 亮： ウイルス性疾病 (4) 第7回 伊藤 亮： ウイルス性疾病 (5) 第8回 伊藤 亮： 細菌性疾病 (1) 第9回 伊藤 亮： 細菌性疾病 (2) 第10回 伊藤 亮： 細菌性疾病 (3) 第11回 伊藤 亮： 細菌性疾病 (4) 第12回 伊藤 亮： 真菌性・原虫性疾病 第13回 常盤俊大： 内部寄生虫、外部寄生虫 第14回 常盤俊大： 鶏以外の家禽の疾病 第15回 塚田晃三： 鶏の非感染性疾患：腹水症、骨形成異常、栄養・代謝障害性疾患、中毒		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	110830R5	科目区分	必修
科目名	家禽疾病学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	適宜、予習復習をすること。		
テキスト・参考文献他	鳥の病気（鶏病研究会編）を参考図書として推薦する。講義はその都度プリントを配布する予定。		
授業形態	スライドによる説明。配布資料アリ。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	レポート試験は実施しない。
平常点評価	10%	授業に対する積極性等を総合的に評価する。

オフィスアワー	kyomu×nvl@u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） 実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	都合により、同日に2～3コマ連続で講義を実施することもあり。 その都度、掲示板や口頭で周知する。

科目No.	110870R5	科目区分	必修
科目名	衛生動物学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	森田 達志		

授業のねらい	これまでにヒトや家畜の感染症病原体について微生物学や寄生虫学で学んできたが、これら以外にも病原生物として軟体動物や節足動物等の生物群が残されている。また直接的害が無くとも病原体媒介者として重要な生物も多い。本科目では実例を交えつつこれらについて学ぶ。
到達目標	微生物学や寄生虫学で学ぶ以外のヒトや家畜に対する有害動物を狭義の衛生動物とするが、その各々による被害に対し獣医師としての予防・対策能力を身につけることを目標とする。これまでに学んだ種々の関連教科との連携を意識し、総合的な問題解決能力の涵養を望む。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	衛生動物による病害は、刺咬や組織破壊等の直接的病害のほか、間接的病害の一つとしての病原体媒介が非常に重要である。これまでに学んだ知識を本科目で学ぶ内容と併せて整理・確認し、実社会での応用に備えるため、既修得科目の当該内容を事前に確認しておく。
履修上の留意点	講義すべき内容が多く、授業進度が速くなりがちのため、一定の予習のもとに受講するのが望ましい。
概要・スケジュール	第1回：森田 達志 衛生動物とはなにか／衛生動物による病害とその対策 第2回：森田 達志 各論 (1) 軟体動物 第3回：森田 達志 各論 (2) 節足動物 1 (衛生動物としての意義と分類) 第4回：森田 達志 各論 (3) 節足動物 2 (生態と防除) 第5回：森田 達志 各論 (4) 節足動物 3 (ダニ類概説, マダニ類 1) 第6回：森田 達志 各論 (5) 節足動物 4 (マダニ類 2) 第7回：森田 達志 各論 (6) 節足動物 5 (中気門類) 第8回：森田 達志 各論 (7) 節足動物 6 (ツツガムシ類) 第9回：森田 達志 各論 (8) 節足動物 7 (ヒゼンダニ類 1) 第10回：森田 達志 各論 (9) 節足動物 8 (ヒゼンダニ類 2, その他のダニ類) 第11回：森田 達志 各論 (10) 節足動物 9 (昆虫類概説, シラミ・ハジラミ類) 第12回：森田 達志 各論 (11) 節足動物 10 (ノミ類) 第13回：森田 達志 各論 (12) 節足動物 11 (双翅類-1) 第14回：森田 達志 各論 (13) 節足動物 12 (双翅類-2, その他節足動物) 第15回：森田 達志 各論 (14) 脊椎動物
授業期間を通して課される課題	授業進度に応じ第8回目ないし第9回目の講義日を目処に、講義時間中に到達度判定試験を一度行う。

科目No.	110870R5	科目区分	必修
科目名	衛生動物学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	<p>【講義前学習】次回講義までに指定教科書の講義予定部分をおおまかに読み、学習済みの関連科目の当該内容について確認する（30分間）。</p> <p>【講義後学習】教科書と配付資料をもとに講義を反駁し、獣医師としてのアウトプットのトレーニングを行う（60分）。</p>		
テキスト・参考文献他	<p>適宜プリントを配付する。</p> <p>図説獣医衛生動物学（今井他著・講談社サイエンティフィック）〔教科書として「必須」〕</p> <p>獣医寄生虫学講義プリント〔参考資料〕</p>		
授業形態	<p>指定教科書の幅広い内容の理解と定着を促し、獣医師として活用可能な知識が身につくよう、可能な限り多くの図版と実例を引きながらスライドを中心に講述する。</p>		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	およそ70%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	およそ30%	講義期間中に到達度判定試験を記述試験形式で一度行う
平常点評価	—	—

オフィスアワー	<p>森田達志</p> <p>獣医寄生虫学研究室（D棟4階）t-morita[at]nylu.ac.jp（【at】=@）</p> <p>月～金の午後。但し実習・会議等で不在の可能性があり、上記メールであらかじめ面接を予約すること。</p>
その他	

科目No.	110880R5	科目区分	必修
科目名	小動物基礎栄養学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	小山 秀一, 坂根 弘, 徳本 一義, 藤井 立哉		
授業のねらい	栄養に役立つ化学成分を栄養素という。栄養素はタンパク質, 脂質, 炭水化物, 無機物およびビタミン (五大栄養素) に大別される。本科目は, 動物に必要な各栄養素やエネルギーの役割, 利用と代謝, 飼料の概要について解説する。		
到達目標	炭水化物、脂質、タンパク質（アミノ酸）の消化吸収、生体内移動および代謝経路を説明できる。ビタミンおよびミネラルの機能、欠乏症、過剰症を説明できる。ライフステージの違いによる要求の違いを説明できる。肥満状態の違いを説明できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第01回 小山秀一：総論 第02回 小山秀一：炭水化物と糖代謝 第03回 小山秀一：脂肪と脂質 第04回 小山秀一：脂肪と脂質2, 疾病との関係 第05回 小山秀一：タンパク質 第06回 藤井立哉：ビタミンと関連疾病（欠乏症と過剰症） 第07回 徳本一義：カルシウム代謝、ミネラル代謝とその異常症 第08回 坂根弘：水、エネルギー計算、ペットフードの基準と生産 第09回 小山秀一：動物の食性と比較生理学 第10回 小山秀一：犬と猫の代謝～生化学と臨床1～ 第11回 小山秀一：犬と猫の代謝～生化学と臨床2～ 第12回 小山秀一：ライフステージと栄養1 第13回 小山秀一：ライフステージと栄養2 第14回 小山秀一：犬と猫の肥満1 第15回 小山秀一：犬と猫の肥満2		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	110880R5	科目区分	必修
科目名	小動物基礎栄養学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の事前配布による予習（30分） 授業内容のレポートまたは内容の確認テスト（70分）		
テキスト・参考文献他	小動物臨床栄養学		
授業形態	授業での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	10%	授業内容のレポート
平常点評価	10%	小テスト

オフィスアワー	左向敏紀：獣医保健看護学科臨床部門（D棟1階） t-sako××nvl.u.ac.jp（××を@にすること） メールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	110890R6	科目区分	必修
科目名	獣医腫瘍学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	藤田 道郎, 盆子原 誠, 皆上 大吾, 小林 哲也, 藤原 亜紀		
授業のねらい	犬および猫の腫瘍性疾患に対する診断アプローチ法、細胞診断学および治療学として外科療法、放射線療法、化学療法そして分子標的治療などに対する基礎的な知識を習得し、獣医臨床腫瘍を行うために必要な考え方について習得することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腫瘍症例に対してどのような診断アプローチを行うべきかについて理解する。</li> <li>2. 腫瘍の細胞診断学について理解する。</li> <li>3. 各種治療学の特徴について理解する。</li> <li>4. 腫瘍症例を紹介しながら、実践的な診断および治療について理解する。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医臨床病理学 1, 2」、「獣医放射線学 2」、「放射線生物学」、「獣医軟部外科学 1, 2」		
履修上の留意点	授業中の説明をしっかりと聞くこと。また配付資料以外についても講義するのでメモを取ることを。		
概要・スケジュール	第1回 小林哲也 獣医腫瘍診断のアプローチ 1 第2回 小林哲也 獣医腫瘍診断のアプローチ 2 第3回 皆上大吾 獣医腫瘍診断における細胞診の役割 1 第4回 皆上大吾 獣医腫瘍診断における細胞診の役割 2 第5回 藤田道郎 放射線腫瘍学 1 第6回 藤田道郎 放射線腫瘍学 2 第7回 藤原亜紀 血液腫瘍学 1 第8回 藤原亜紀 血液腫瘍学 2 第9回 皆上大吾 腫瘍外科学 1 第10回 皆上大吾 腫瘍外科学 2 第11回 小林哲也 化学療法 1 第12回 小林哲也 化学療法 2 第13回 小林哲也 化学療法 3 第14回 盆子原誠 腫瘍の遺伝子診断 第15回 盆子原誠 分子標的治療		
授業期間を通して課される課題	15回の授業終了後にテストを実施する。		

科目No.	110890R6	科目区分	必修
科目名	獣医腫瘍学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために、配布したスライド資料を必ず復習すること。		
テキスト・参考文献他	テキスト：配布するスライド資料。 参考書：小動物の臨床腫瘍学第4版（文永堂）		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	課したとしても今のところ成績には反映しない。
平常点評価	10%	出席、授業態度を総合的に評価する。

オフィスアワー	藤田道郎（担当教員）：獣医放射線学教室(D棟2階) mfujita@nvl.u.ac.jp メールにて随時受け付け可 小林先生への質問については藤田まで。 その他の教員については各教員まで。
その他	

科目No.	110910R6	科目区分	必修
科目名	獣医皮膚病学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	西藤 公司, 松本 浩毅, 小山 秀一		

授業のねらい	主に犬や猫に発症する皮膚疾患の病態、診断、治療に関する理解を深める。
到達目標	動物の皮膚疾患の病態、診断、治療について知識を深め、説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 小山 秀一：総論 第2回 松本 浩毅：皮膚の構造と機能 第3回 西藤 公司：診断学Ⅰ - シグナルメントと病歴 第4回 西藤 公司：診断学Ⅱ - 皮疹の見方 第5回 西藤 公司：診断学Ⅲ - 皮膚科の検査 第6回 西藤 公司：外部寄生虫症 第7回 西藤 公司：真菌性、細菌性皮膚疾患 第8回 西藤 公司：犬のアレルギー性皮膚疾患 第9回 西藤 公司：自己免疫性・免疫介在性皮膚疾患 第10回 西藤 公司：犬の脱毛症 第11回 西藤 公司：角化異常性疾患 第12回 西藤 公司：犬のその他の皮膚疾患 第13回 西藤 公司：犬の外耳炎 第14回 西藤 公司：猫特有の皮膚疾患 第15回 西藤 公司：まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110910R6	科目区分	必修
科目名	獣医皮膚病学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習・復習ともにそれぞれ90分を15回分		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90%	選択問題式による点数評価
レポート試験	0%	該当無
平常点評価	10%	出席点

オフィスアワー	メールアドレス : kojimail×cc.tuat.ac.jp (×を@に代えて使用すること) 実施方法 : 教務・学生課を通して調整する。
その他	

科目No.	110920R6	科目区分	必修
科目名	野生動物医学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	成島 悦雄		

授業のねらい	野生動物医学では野生動物を対象に、家畜とは異なる野生動物の特殊性に基づいた獣医学の基礎について習得することを目的とする。更に、一つの地球、一つの健康の意義について理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野生動物医学の対象となる野生動物と家畜の違いについて説明できる。</li> <li>2. 野生動物の疾病対処の基本について理解する。</li> <li>3. 野生動物とそれを取り巻く環境について、獣医師としてどのように関わるか考える素養を身につける。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「野生動物学」および「野生動物学実習」で学んだ野生動物学の基礎知識への理解を確認してから履修に臨むこと。
履修上の留意点	授業中の発言、質疑など、主体的に授業に参加すること。
概要・スケジュール	第1回：成島 悦雄 野生動物医学とは何か 第2回：成島 悦雄 臨床対象としての野生動物（動物園動物） 第3回：成島 悦雄 野生動物（動物園動物）と獣医倫理 第4回：成島 悦雄 野生動物（動物園動物）の健康管理 第5回：成島 悦雄 野生動物（動物園動物）の体の栄養 第6回：成島 悦雄 野生動物（動物園動物）の心の栄養（環境エンリッチメント） 第7回：成島 悦雄 野生動物と中毒 第8回：成島 悦雄 野生動物（動物園動物）の馴致 第9回：成島 悦雄 野生動物（動物園動物）の物理的保定・化学的保定 第10回：成島 悦雄 野生動物の感染症 第11回：成島 悦雄 再興感染症・新興感染症と動物園 第12回：成島 悦雄 野生動物（動物園動物）の臨床 第13回：成島 悦雄 生息域内保全／生息域外保全と動物園 第14回：成島 悦雄 “一つの地球、一つの健康”と動物園 第15回：成島 悦雄 まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110920R6	科目区分	必修
科目名	野生動物医学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習（90分）、復習（90分）		
テキスト・参考文献他	テキスト：「動物園学入門」村田浩一ほか編（朝倉書店）、参考書：「野生動物学」村田浩一ほか編（文永堂出版）、「野生動物の医学」中川志郎 監訳（文永堂出版）		
授業形態	おもにスライドを使用した講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	70	学期末に試験を実施する。
レポート試験	0	実施しない
平常点評価	30	出席と疑応答等積極的な参加を総合的に評価する。

オフィスアワー	①成島悦雄 ②kyomu×nvlu.ac.jp ③メールアドレス：kyomu×nvlu.ac.jp、実施方法：教務・学生課を通して調整する。
その他	

科目No.	110940R5	科目区分	必修
科目名	産業動物医療 I	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	小山 秀一, 山田 裕		
授業のねらい	産業動物臨床の現場について解説し、牛の消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患について、原因、病態、臨床症状、治療及び予防について学ぶ。		
到達目標	1. 産業動物臨床現場について理解する。 2. 牛の消化器疾患、呼吸器疾患および循環器疾患について、原因、病態、臨床症状、治療および予防法について、それぞれを関連づけて説明できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	解剖学、生理学、微生物学などの基礎教科を理解する。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 山田 裕：総論 産業動物臨床の概論 第2回 山田 裕：家畜飼養学 家畜の管理技術 1 第3回 山田 裕：家畜飼養学 家畜の管理技術 2 第4回 山田 裕：牛の消化器疾患 口腔食道の疾患 第5回 山田 裕：牛の消化器疾患 第一胃疾患 第6回 山田 裕：牛の消化器疾患 第四胃変位外の第二～四胃疾患 第7回 山田 裕：牛の消化器疾患 第四胃変位 第8回 山田 裕：牛の消化器疾患 成牛の腸の疾患 第9回 山田 裕：牛の消化器疾患 子牛の下痢 病態 第10回 山田 裕：牛の消化器疾患 子牛の下痢 治療 第11回 山田 裕：牛の呼吸器疾患 上部呼吸器 第12回 山田 裕：牛の呼吸器疾患 下部呼吸器 診断 第13回 山田 裕：牛の呼吸器疾患 下部呼吸器 治療 第14回 小山 秀一：牛の循環器疾患 第15回 小山 秀一：牛の循環器疾患		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	110940R5	科目区分	必修
科目名	産業動物医療 I	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	それぞれの疾病について、生理学、病理学などの基礎的内容を確認し、原因、病態、臨床症状、治療および予防法を関連づけて理解すること。		
テキスト・参考文献他	参考書：獣医内科学改訂版 大動物編 文永堂出版株式会社。主要症状を基礎にした牛の臨床 デーリマン社。		
授業形態	パワーポイントによる教室での講義。 ハンドアウトを配布する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	レポート提出の予定は無い
平常点評価	20%	出席状況および質問などの積極性を評価する。

オフィスアワー	山田 裕：C棟4階 yutaka_y@nvl.u.ac.jp 内線3271 小山秀一：D棟2階 hkoyama@nvl.u.ac.jp		
その他			

科目No.	110950R5	科目区分	必修
科目名	産業動物医療Ⅱ	単位数	1.0
学科	獣医学科(60分)	学年	5
担当教員	小山 秀一, 山田 裕, 左向 敏紀		
授業のねらい	産業動物分野における牛の代謝性疾患、内分泌疾患、乳房炎の原因、病態、臨床症状、治療および予防について学ぶ。牛の生産獣医療および遺伝性疾患、馬の臨床および豚の臨床について学ぶ。		
到達目標	1. 牛の代謝性疾患、内分泌疾患、乳房炎、生産獣医療について、原因、病態、臨床症状、治療および予防についてそれぞれを関連づけて理解し説明できる。 2. 馬および豚の臨床現場について、多発疾病、重要疾病について理解し説明できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	解剖学、生理学、微生物学など基礎科目を理解しておく。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 左向敏紀：牛の代謝性疾患 糖質脂質代謝異常 第2回 左向敏紀：牛の代謝性疾患 糖質脂質代謝異常 第3回 山田 裕：牛の代謝性疾患 カルシウム代謝 第4回 山田 裕：牛の代謝性疾患 その他のミネラル異常 第5回 左向敏紀：牛の代謝性疾患 ビタミン欠乏症/過剰症 第6回 左向敏紀：牛の内分泌疾患 第7回 山田 裕：牛の腎泌尿器疾患 第8回 山田 裕：牛の腫瘍・血液病 白血病 第9回 山田 裕：牛の泌乳器疾患 乳房炎 第10回 中央競馬会：馬の臨床 第11回 中央競馬会：馬の臨床 第12回 片岡 康：豚の臨床 第13回 片岡 康：豚の臨床 第14回 山田 裕：牛の生産獣医療 MPT, Cow comfort 第15回 特別講義(家畜改良事業団)：牛の遺伝性疾患		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	110950R5	科目区分	必修
科目名	産業動物医療Ⅱ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	各疾病と関係する生理学、病理学、微生物学などを復習し、原因、病態、臨床症状、治療および予防を関連づけて理解する。		
テキスト・参考文献他	授業に用いるスライドを配布する。参考書：獣医内科学 改訂版 大動物編 文永堂出版株式会社、主要症状を基礎とした牛の臨床 デーリマン社		
授業形態	教室に於いてパワーポイントを用いた講義。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	レポート提出の予定なし
平常点評価	20%	出席および質問などの積極性を評価する

オフィスアワー	山田裕：C棟4階 内線3271. yutaka_y@nvl.u.ac.jp 左向敏紀：E棟4階 s-sako@nvl.u.ac.jp 小山秀一：D棟2階 hkoyama@nvl.u.ac.jp 片岡康：D棟3階 ykataoka@nvl.u.ac.jp
その他	開講時期は前期に変更しています

科目No.	110960R5	科目区分	必修
科目名	毒性学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	津田 修治, 植田 富貴子, 金田 剛治, 田島 剛		
授業のねらい	化学物質が人、動物、環境に及ぼす有害作用を理解し、その防止における獣医師の役割を習得する。化学物質の生体での有害作用、動態、毒性発現のメカニズムなどについて学び、毒性学の重要性を理解すると共に、リスク解析や規制方法を理解することを目標とする。		
到達目標	毒性学と社会、化学物質の生体内動態、毒性試験と評価、化学物質の有害採用とその管理・規制、化学物質のリスクアナリシス、遺伝毒性と発ガン性、臓器毒性、環境毒性のそれぞれを説明できること。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第 1回津田修治 : 毒性学総論 (1) 第 2回津田修治 : 毒性学総論 (2) 第 3回津田修治 : 毒性学総論 (3) 第 4回津田修治 : 毒性学総論 (4) 第 5回津田修治 : 毒性学総論 (5) 第 6回津田修治 : 毒性学総論 (6) 第 7回田島剛 : 神経毒性・消化管毒性 第 8回田島剛 : 免疫毒性 第 9回金田剛治 : 肝毒性 第10回金田剛治 : 化学物質の体内動態と代謝 第11回植田富貴子 : 生殖発生毒性 第12回植田富貴子 : 呼吸器・循環器毒性 第13回植田富貴子 : 腎毒性 第14回植田富貴子 : 皮膚・粘膜・感覚器・運動器毒性 第15回植田富貴子 : 内分泌・血液毒性		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	110960R5	科目区分	必修
科目名	毒性学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために次回の講義で取り扱う内容を事前に読むこと。復習として、毎回のテーマについてまとめておくこと。		
テキスト・参考文献他	獣医毒性学（近代出版）		
授業形態	教室内の講義を中心にする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	-
平常点評価	0%	-

オフィスアワー	植田富貴子：獣医公衆衛生学教室（D棟4階） 水曜 16:00-17:00：但し、電話（内線3496）または研究室にて事前に面接予約すること。 金田剛治、田島 剛：獣医薬理学教室（D棟4階） 火曜 17:00-18:00：但し、電話（内線3491、3492）または研究室にて事前に面接予約すること。
その他	

科目No.	110970R6	科目区分	必修
科目名	総合獣医学	単位数	4.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	V 学科長		

授業のねらい	6年間で履修した全科目(国家試験出題科目)の基礎的知識を確実に身につけること目的とする。
到達目標	全科目について基礎的な知識を習得する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	全科目について履修時に使用したテキスト、資料等に目を通しておく。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	10月上旬～11月下旬にかけて連日(3コマ)午前中開講。 21科目(国家試験出題科目)について、1科目につきそれぞれ2ないし6コマ数を受講する。 最後に理解度を確認するため総合試験を2回(12月と1月)実施する。
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110970R6	科目区分	必修
科目名	総合獣医学	単位数	4.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習・復習に200時間を費やす。		
テキスト・参考文献他	授業ごとにプリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100	2回の総合試験で何れか正答率60%以上で合格とする。
レポート試験	0	-
平常点評価	0	-

オフィスアワー	毎日、17:00~18:00 在室時は随時受け付け
その他	

科目No.	110980R5	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（共済）	単位数	8.0
学科	獣医学科（60分）	学年	5
担当教員	藤田 道郎, 松本 浩毅		

授業のねらい	産業動物臨床の現場において、牛、馬、豚の消化器、呼吸器、循環器、腎泌尿器、運動器、代謝・内分泌などの疾患や繁殖障害について、原因、病態、臨床症状、治療及び予防について学ぶ。
到達目標	1. 産業動物臨床現場について理解する。 2. 牛、馬、豚の疾患について、原因、病態、臨床症状、治療及び予防法について、それぞれを関連づけて説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	解剖学、生理学、微生物学、薬理学及び栄養学などの基礎教科を理解する。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	夏季および春季の休業期間中に学外の産業動物診療施設において連続した2週間で臨床例を対象とした実習を行う。
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110980R5	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（共済）	単位数	8.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	各疾患について、原因、病態、臨床症状、治療及び予防法を関連づけて理解できる。		
テキスト・参考文献他	参考書 獣医内科学改訂版 大動物編 文永堂出版株式会社 主要症状を基礎にした牛の臨床 デーリイマン社		
授業形態	全国の産業動物診療施設での実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は行わない。
レポート試験	80%	診療日誌及び症例検討会用の抄録とスライドにより評価する。
平常点評価	20%	実習受け入れ施設からの実習評価を参考にする。

オフィスアワー	松本浩毅：獣医内科学教室（D棟2階）matsumotoxxnvl.u.ac.jp（xxを@にする） Eメールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	110980R5	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（小動物/学外）	単位数	8.0
学科	獣医学科（60分）	学年	5
担当教員	藤田 道郎, 原田 恭治		

授業のねらい	<p>本学付属動物医療センターは二次診療施設であるため、来院する症例は専門的な分野に集中する傾向が強い。本実習は学外の一次診療施設にて小動物臨床実習を行い、一般診療に必要な技能や知識を習得する。</p>
到達目標	<p>小動物の一般診療における疾患の診断方法や治療方法を説明できる。 小動物の一般診療に必要な動物の保定方法や検査方法を説明できる。</p>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>1) 実習期間は1週間とし、5年次もしくは6年次に履修する。 2) 実習する動物病院（1次診療施設）は学生が自らの希望で選択して構わない（家族や親戚が勤務・経営する動物病院は対象外）。 3) 希望する動物病院へ、学生が連絡し、受け入れの可否を直接確認する。 4) 特に希望はなく、適切な動物病院を紹介して欲しい場合には、所属研究室の教員、学年担任の教員、もしくは外科・原田へ相談する。 5) 実習受け入れ先の動物病院が決定したら、教務・学生課窓口にて「学外実習実施依頼書発行願」へ必要箇所を記入し提出する。（記載内容に従い、教務・学生課から実習先の動物病院へ依頼文書が郵送される。） 6) 実習終了後、レポート書類を作成し、外科・原田へ提出する。レポートの形式、量は自由とするが、実習中に経験した症例の中から一症例を選び、その治療経過報告を主な内容とする。レポートには、題名、学籍番号、氏名、実習先動物病院名、実習期間を明記すること。</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110980R5	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（小動物/学外）	単位数	8.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習期間中：当日経験した症例に関する復習、および翌日予定している検査や手術に関する予習（1時間程度） 実習終了後：レポート作成および文献学習（1週間程度）		
テキスト・参考文献他			
授業形態	個人、学外の小動物病院における実習		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	なし
レポート試験	50	実習終了後、レポートを課す。
平常点評価	50	欠席の有無や実習態度などから総合的に判断する。

オフィスアワー	原田恭治（外科）： 木曜日15：00~17：00、金曜日9：00~17：00
その他	

科目No.	110980R5	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（小動物/医療センター）	単位数	8.0
学科	獣医学科（60分）	学年	5
担当教員	藤田 道郎, 長谷川 大輔		

授業のねらい	実際の小動物臨床（特に二次診療）および臨床例を体験（演習）することによって、基本的な診療技能を身につける。
到達目標	1) コミュニケーション能力（対獣医師、対関係者、对患者）およびインフォームド・コンセントの重要性を理解・習得し、実施できる。2) 問題志向型の診断法と新療法を実施できる。3) 獣医師の義務と裁量権について説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	オーナーの前に出るため、獣医師（獣医学生）として相応しい身だしなみ、言葉遣いで参加すること。担当教員の指示なしに患者（動物）に接触しないこと。
概要・スケジュール	<p>各自2週間（計10日間）の実習期間が設けられる。  第1週、第2週と、それぞれ内科系、外科系の各診療科目をローテーションする。  内科系では午前中に診療、午後は検査の見学実習および自習時間とする。  外科系では午前中に診療、午後は手術および検査の見学実習を行う。  また夕方には内科系および外科系の各々でレクチャー（講義）の時間が設けられる。  全体の实習期間の最後に数日間にわたって各自が実習期間内に経験した症例についての症例発表会を学会形式にて行う。</p> <p>内科系診療科：総合診療科、消化器科、循環器科、呼吸器科、腎・泌尿器科、腫瘍科、内分泌科、血液病科、皮膚科、神経内科、行動治療科、画像診断科、生殖器科  外科系診療科：総合診療科、軟部外科、整形外科、脳神経外科、眼科、腫瘍外科、麻酔科、産科</p>
授業期間を通して課される課題	実習書にその日に経験した症例を端的に記録し、最終的に症例発表を行うべく症例を検討する。

科目No.	110980R5	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（小動物/医療センター）	単位数	8.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習の最後に症例発表会を行うため、実習期間から通常2週間以内に発表演題の抄録提出がある。また発表用のプレゼンテーションを発表会までに作成する必要がある。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	見学実習および症例発表会（プレゼンテーション）		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない
レポート試験	40	発表会の抄録・スライド作成、実際の発表内容を総合評価
平常点評価	60	全10回および症例発表会の出席を評価

オフィスアワー	各症例に関する質問は動物医療センターにおける各診療科目担当教員へ個別に問い合わせる。実習内容や出席等、実習全体に関する質問は医療センター助手あるいは長谷川（D棟2階放射線学教室：月火午前）まで
その他	

科目No.	110980R6	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（共済）	単位数	8.0
学科	獣医学科（60分）	学年	6
担当教員	藤田 道郎, 松本 浩毅		
授業のねらい	産業動物臨床の現場において、牛、馬、豚の消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、腎泌尿器疾患、運動器疾患、繁殖疾患、代謝疾患、内分泌疾患について、原因、病態、臨床症状、治療及び予防について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産業動物臨床現場について理解する。</li> <li>2. 牛、馬、豚の種々の疾患について、原因、病態、臨床症状、治療及び予防法について、それぞれを関連づけて説明できる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	解剖学、生理学、微生物学、薬理学、栄養学などの基礎教科を理解する。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	夏季及び春季の休業期間中に学外の産業動物診療施設において連続した2週間で臨床例を対象とした実習を行う。		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	110980R6	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（共済）	単位数	8.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	それぞれの疾病について、原因、病態、臨床症状、治療及び予防法を関連づけて理解し、説明できる。		
テキスト・参考文献他	参考書：獣医内科学改訂版 大動物編 文永堂出版株式会社。 主要症状を基礎にした牛の臨床 デーリイマン社		
授業形態	全国の各産業動物動物診療施設での実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は行わない。
レポート試験	80%	診療日誌及び症例検討会用の抄録とスライドにより評価する。
平常点評価	20%	実習受け入れ施設からの実習評価を参考にする。

オフィスアワー	松本浩毅：獣医内科学教室（D棟2階）matsumotoxxnvl.u.ac.jp（xxを@にすること）：Eメールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	110980R6	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（小動物/学外）	単位数	8.0
学科	獣医学科（60分）	学年	6
担当教員	藤田 道郎, 原田 恭治		

授業のねらい	<p>本学付属動物医療センターは二次診療施設であるため、来院する症例は専門的な分野に集中する傾向が強い。本実習は学外の一次診療施設にて小動物臨床実習を行い、一般診療に必要な技能や知識を習得する。</p>
到達目標	<p>小動物の一般診療における疾患の診断方法や治療方法を説明できる。 小動物の一般診療に必要な動物の保定方法や検査方法を説明できる。</p>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>1) 実習期間は1週間とし、5年次もしくは6年次に履修する。 2) 実習する動物病院（1次診療施設）は学生が自らの希望で選択して構わない（家族や親戚が勤務・経営する動物病院は対象外）。 3) 希望する動物病院へ、学生が連絡し、受け入れの可否を直接確認する。 4) 特に希望はなく、適切な動物病院を紹介して欲しい場合には、所属研究室の教員、学年担任の教員、もしくは外科・原田へ相談する。 5) 実習受け入れ先の動物病院が決定したら、教務・学生課窓口にて「学外実習実施依頼書発行願」へ必要箇所を記入し提出する。（記載内容に従い、教務・学生課から実習先の動物病院へ依頼文書が郵送される。） 6) 実習終了後、レポート書類を作成し、外科・原田へ提出する。レポートの形式、量は自由とするが、実習中に経験した症例の中から一症例を選び、その治療経過報告を主な内容とする。レポートには、題名、学籍番号、氏名、実習先動物病院名、実習期間を明記すること。</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110980R6	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（小動物/学外）	単位数	8.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習期間中：当日経験した症例に関する復習、および翌日予定している検査や手術に関する予習（1時間程度） 実習終了後：レポート作成および文献学習（1週間程度）		
テキスト・参考文献他			
授業形態	個人、学外の小動物病院における実習		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	なし
レポート試験	50	実習終了後、レポートを課す。
平常点評価	50	欠席の有無や実習態度などから総合的に判断する。

オフィスアワー	原田恭治（外科）： 木曜日15：00~17：00、金曜日9：00~17：00
その他	

科目No.	110980R6	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（小動物/医療センター）	単位数	8.0
学科	獣医学科（60分）	学年	6
担当教員	藤田 道郎, 長谷川 大輔		

授業のねらい	実習書にその日に経験した症例を端的に記録し、最終的に症例発表を行うべく症例を検討する。
到達目標	1) コミュニケーション能力（対獣医師、対関係者、对患者）およびインフォームド・コンセントの重要性を理解・習得し、実施できる。2) 問題志向型の診断法と新療法を実施できる。3) 獣医師の義務と裁量権について説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	オーナーの前に出るため、獣医師・獣医学生として相応しい身だしなみ、言葉遣いで参加すること。担当教員の指示なしに患者（動物）に接触しないこと。
概要・スケジュール	各自2週間（計10日間）の実習期間が設けられる。 第1週、第2週と、それぞれ内科系、外科系の各診療科目をローテーションする。 内科系では午前中に診療、午後は検査の見学実習および自習時間とする。 外科系では午前中に診療、午後は手術および検査の見学実習を行う。 また夕方には内科系および外科系の各々でレクチャー（講義）の時間が設けられる。 各自実習期間終了から数週間以内（通常2週間以内）に各自が実習期間内に経験した症例についての症例報告（レポート）を提出する。  内科系診療科：総合診療科、消化器科、循環器科、呼吸器科、腎・泌尿器科、腫瘍科、内分泌科、血液病科、皮膚科、神経内科、行動治療科、画像診断科、生殖器科 外科系診療科：総合診療科、軟部外科、整形外科、脳神経外科、眼科、腫瘍外科、麻酔科、産科
授業期間を通して課される課題	実習書にその日に経験した症例を端的に記録し、最終的に症例報告を行うべく症例を検討する。

科目No.	110980R6	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（臨床）（小動物/医療センター）	単位数	8.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習期間終了後、症例報告を提出する必要がある。実習期間外は提出締切までに報告症例について調査・考察する。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	見学実習およびレポート提出		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない
レポート試験	40	症例報告をレポートとして提出、レポート内容を評価
平常点評価	60	全10回の出席および実習態度を評価する

オフィスアワー	各症例に関する質問は動物医療センターにおける各診療科目担当教員へ個別に問い合わせる。実習内容や出席等、実習全体に関する質問は医療センター助手あるいは長谷川（D棟2階放射線学教室：月火午前）まで
その他	

科目No.	110990R5	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（応用）	単位数	1.0
学科	獣医学科（60分）	学年	5
担当教員	植田 富貴子, 落合 由嗣, 高野 貴士		
授業のねらい	獣医応用分野では、獣医公衆衛生学と獣医衛生学における関連法規ならびに動物衛生管理方法や食品衛生に関する最新のトピックを学び、人と動物の健康を害する要因を排除するための実地疫学の概要と方法について習得することを目標とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>（1） 獣医公衆衛生学と獣医衛生学に関する関連法規を説明できる。</li> <li>（2） 各動物種に合った最新の衛生管理方法を説明出来る。</li> <li>（3） 実地疫学についてその概要と方法について説明できる。</li> <li>（4） 食品衛生に関する最新のトピックに関して、リスクアナリシスを踏まえた問題点や解決策などを説明出来る。</li> </ul>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第 1回 厚生労働省職員（予定）：防疫論（1） 第 2回 山田文也：防疫論（2） 第 3回 齋藤了：食品衛生関連法規（1） 第 4回 齋藤了：食品衛生関連法規（2） 第 5回 山田文也：疫学演習（1） 第 6回 山田文也：疫学演習（2） 第 7回 山田文也：疫学演習（3） 第 8回 山田文也：疫学演習（4） 第 9回 森田達志：サンプルからの原因分離実習（1） 第10回 森田達志：サンプルからの原因分離実習（2）		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	110990R5	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（応用）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	毎回配布する資料を、まとめておくこと。		
テキスト・参考文献他	配布資料		
授業形態	教室内の講義と演習を中心にする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	-
レポート試験	0%	-
平常点評価	100%	出席率および演習中の質疑応答等により総合的に評価する。

オフィスアワー	植田富貴子、落合由嗣、高野貴士：獣医公衆衛生学教室（D棟4階） 水曜 16:00-17:00：但し、電話（内線3496、3497）または研究室にて事前に面接予約すること。
その他	

科目No.	110990R6	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（応用）	単位数	1.0
学科	獣医学科（60分）	学年	6
担当教員	植田 富貴子, 落合 由嗣, 高野 貴士		

授業のねらい	獣医応用分野では、獣医公衆衛生学と獣医衛生学における関連法規ならびに動物衛生管理方法や食品衛生に関する最新のトピックを学び、人と動物の健康を害する要因を排除するための実地疫学の概要と方法について習得することを目標とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 獣医公衆衛生学と獣医衛生学に関する関連法規を説明できる。</li> <li>(2) 各動物種に合った最新の衛生管理方法を説明出来る。</li> <li>(3) 実地疫学についてその概要と方法について説明できる。</li> <li>(4) 食品衛生に関する最新のトピックに関して、リスクアナリシスを踏まえた問題点や解決策などを説明出来る。</li> </ul>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>講義内容の都合上、第1回（疫学演習まとめ（2））から第7回（感染症関連法規）については5年次の総合臨床実習（応用）で既に終了しているため、本講義では、第8回（食品安全における様々な問題とその対策）から第10回（環境衛生関連法規）について行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第 1回 山田文也：疫学演習まとめ（1）</li> <li>第 2回 山田文也：疫学演習まとめ（2）</li> <li>第 3回 矢原芳宏：動物の衛生管理（1）</li> <li>第 4回 加藤宏光：動物の衛生管理（2）</li> <li>第 5回 石田卓夫：動物の衛生管理（3）</li> <li>第 6回 高野貴士：環境衛生実習</li> <li>第 7回 高野貴士：感染症関連法規</li> <li>第 8回 山本茂貴：食品安全における様々な問題とその対策</li> <li>第 9回 落合由嗣：食品衛生関連法規</li> <li>第10回 落合由嗣：環境衛生関連法規</li> </ul>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	110990R6	科目区分	必修
科目名	獣医総合実習（応用）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	毎回配布する資料を、まとめておくこと。		
テキスト・参考文献他	配布資料		
授業形態	教室内の講義と演習を中心にする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	-
レポート試験	0%	-
平常点評価	100%	出席率および講義中の質疑応答等により総合的に評価する。

オフィスアワー	植田富貴子、落合由嗣、高野貴士：獣医公衆衛生学教室（D棟4階） 水曜 16:00-17:00：但し、電話（内線3496、3497）または研究室にて事前に面接予約すること。
その他	

科目No.	111010R6	科目区分	必修
科目名	卒業論文	単位数	6.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	V 学科長		

授業のねらい	6年間の講義と実習で身につけた知識と技術をもとに実証研究のアプローチの仕方を習得する。
到達目標	研究の明確な目的のもと、適切な手法を用いデータを作成し、論文に仕上げることができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	データ作成に必要な機器の操作ならびに研究内容に関連する国内外文献の検索に習熟すること。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	原則として研究は配属した研究室にて行う。研究内容によっては学外の研究機関で行うことも可能である。 研究期間は研究室への配属が決まる3年次前期から6年次後期までの約3年半。
授業期間を通して課される課題	研究に関連する英語論文を収集し内容を理解する。

科目No.	111010R6	科目区分	必修
科目名	卒業論文	単位数	6.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	卒論は授業外学修に相当するので予習・復習時間を決めることはできない。		
テキスト・参考文献他	研究内容に関連する専門書および文献		
授業形態	主に研究室にて研究活動		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	-
レポート試験	100%	卒論および発表内容を所属研究室の指導教員が評価する。
平常点評価	0	-

オフィスアワー	研究室への直接の訪問の場合： お昼の休み時間、夕方の実習終了後。
その他	

科目No.	11104005	科目区分	選択必修
科目名	専門外国語Ⅲ	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	V 学科長		

授業のねらい	専門分野の英語論文内容が理解できる。
到達目標	英語科学論文について 1. 専門用語が理解できる。 2. 研究目的が説明できる。 3. 研究方法が説明できる。 4. 研究結果が説明できる。 5. 考察が説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	論文内容に関連する専門知識を確認しておく。
履修上の留意点	発表者のみならず、聴講者も内容に関連する専門分野のテキスト、参考書を持参する。
概要・スケジュール	所定の曜日、時間帯に担当者は論文内容を約30分を費やして説明する。 残りの30分は内容についての質疑応答に当てる。 週ごとに発表担当者を代えて行う。
授業期間を通して課される課題	概ね各専門分野に関連する内容の論文を担当者に選ばせる。

科目No.	11104005	科目区分	選択必修
科目名	専門外国語Ⅲ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	発表者には発表内容の要旨、関連知識などの資料を事前に準備させて聴講者に配布しておく。		
テキスト・参考文献他	例、病理学教室では病理学テキスト、標準組織学、医学英和辞典等		
授業形態	研究室単位で行う少人数のグループワーク。教員は発表内容について適宜アドバイスし、学生の理解を深めるよう努力する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	-
レポート試験	0	-
平常点評価	100	論文の理解度、発表力等を総合的に評価。

オフィスアワー	研究室への直接の訪問の場合： お昼の休み時間、夕方の実習終了後。
その他	専門外国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと学年が進むにつれ順次質の高い論文を選ぶように努める。

科目No.	11105005	科目区分	選択必修
科目名	専門外国語Ⅳ	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	Ⅴ 学科長		

授業のねらい	専門分野の英語論文内容が理解できる。
到達目標	英語科学論文について 1. 専門用語が理解できる。 2. 研究目的が説明できる。 3. 研究方法が説明できる。 4. 研究結果が説明できる。 5. 考察が説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	専門分野の英語論文内容が理解できる。
履修上の留意点	発表者のみならず、聴講者も内容に関連する専門分野のテキスト、参考書を持参する。
概要・スケジュール	所定の曜日、時間帯に担当者は論文内容を約30分を費やして説明する。 残りの30分は内容についての質疑応答に費やす。 週ごとに発表担当者を代えて行う。
授業期間を通して課される課題	概ね各専門分野に関連する内容の論文を担当者に選ばせる。

科目No.	11105005	科目区分	選択必修
科目名	専門外国語Ⅳ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	発表者には発表内容の要旨、関連知識などの資料を事前に準備させて聴講者に配布しておく。		
テキスト・参考文献他	例、病理学教室では病理学テキスト、標準組織学、医学英和辞典等		
授業形態	研究室単位で行う少人数のグループワーク。教員は発表内容について適宜アドバイスし、学生の理解を深めるよう努力する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	-
レポート試験	0	-
平常点評価	100	論文の理解度、発表力等を総合的に評価。

オフィスアワー	研究室への直接の訪問の場合： お昼の休み時間、夕方の実習終了後。
その他	専門外国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと学年が進むにつれ順次質の高い論文を取り扱うよう努める。

科目No.	11109005	科目区分	選択必修
科目名	獣医臨床解剖学	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	5
担当教員	尼崎 肇, 添田 聡, 大石 元治, 奥田 綾子, 印牧 信行		
授業のねらい	小動物を中心とした臨床診療を踏まえた解剖学について、臨床の専門教官を加えて実践的な解剖学を講義を主体にして進める。		
到達目標	小動物を中心とした臨床診療を踏まえた運動器、内臓、感覚器、口腔解剖学、臨床神経学、臨床神経学、臨床循環器学について理解する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学、獣医組織学および獣医発生学を理解しておく必要がある。		
履修上の留意点	出席を重視しており、レポートの提出を行うので、いずれの項目も修了しておく必要がある。		
概要・スケジュール	第1～2回：尼崎 肇 臨床解剖学のガイダンスと大動物の臨床解剖学 第3～5回：添田 聡 運動器の臨床解剖学 1 第6～8回：大石元治 運動器の臨床解剖学 2 第9～11 回：添田 聡 臨床神経解剖学 第 12～13 回：奥田綾子 臨床口腔解剖学 第 14～15 回：印牧信行 臨床眼科解剖学		
授業期間を通して課される課題	各授業後でのチェック（質問）		

科目No.	11109005	科目区分	選択必修
科目名	獣医臨床解剖学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため次回の講義で取り扱う資料を事前に読むこと（20分） 自宅で授業内容のまとめと整理を資料などを基に時間ごとに整理する（60分）		
テキスト・参考文献他	「獣医臨床解剖学」尼崎 肇 監訳, ファームプレス 「これだけは知っておきたい動物の体の話」ファームプレス 「獣医臨床組織学」尼崎 肇 監訳, ファームプレス		
授業形態	資料に基づく口述形式		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	-
レポート試験	80%	レポートを課す
平常点評価	20%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	am10:00～pm18:00 D棟 獣医解剖学教室 必要に応じて前もってアポイントが必要な場合がある。
その他	

科目No.	11110005	科目区分	選択必修
科目名	病理学特論	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	高橋 公正, 塚田 晃三, 道下 正貴		

授業のねらい	病理学特論では、病理学に関連した近年のトピック、もしくは獣医病理学IからIVの講義の中で特に注目される疾患に焦点を当て、学術的な要素から獣医師の現場での応用に至るまで幅広く理解することを目的とする。
到達目標	獣医病理学IからIVの知識で、様々な現場での応用ができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	予備知識として、生物学、獣医解剖学、獣医生理学、免疫学、獣医微生物学、獣医寄生虫学、感染症学の習得が必要である。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回. 高橋公正脱髄性疾患 第2回. 高橋公正牛白血病 第3回. 高橋公正これは腫瘍？ 非腫瘍？ 第4回. 高橋公正は虫類の病気 (1) 第5回. 高橋公正は虫類の病気 (2) 第6回. 高橋公正は虫類の病気 (3) 第7回. 道下正貴免疫染色 第8回. 道下正貴腫瘍随伴症候群 第9回. 道下正貴犬の乳腺腫瘍 第10回. 道下正貴がん幹細胞 第11回. 塚田晃三臓器再生プロジェクト 第12回. 塚田晃三腫瘍免疫 第13回. 塚田晃三自己免疫病と慢性炎症 第14回. 塚田晃三大学院進学と研究者への道 第15回. 塚田晃三まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	111100Q5	科目区分	選択必修
科目名	病理学特論	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業15時間+授業外学修時間(予習・復習)30時間=必要学習時間45時間		
テキスト・参考文献他	講義毎に、プリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	40(%)	学術的な小論文作成
レポート試験	0(%)	評価対象ではありません
平常点評価	60(%)	出席点(4点/回)

オフィスアワー	研究室への直接の訪問の場合：お昼の休み時間、夕方の実習終了後。
その他	

科目No.	111110Q4	科目区分	選択必修
科目名	野生動物学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	4
担当教員	羽山 伸一, 加藤 卓也		
授業のねらい	野生動物の飼育、臨床、保護、研究などの現場を知り、そこでの獣医師の役割や社会的使命を理解する。		
到達目標	野生動物の飼育、臨床、保護、研究などの現場での実習を通じ、それぞれの意義や獣医師がどのような役割を担っているかが説明できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	履修希望者は、以下の概要に記載したメニューから1つ選択して実習を行う。		
概要・スケジュール	<p>野生動物学実習の単位を認めるもの</p> <p>【1】野生動物学教室が主催する集中教育プログラム（原則として、夏期に実施）</p> <p>【2】野生動物学教室が認定した動物園、水族館、保護センターなどの施設実習</p> <p>【3】野生動物学教室が認定した学外の教育プログラム</p> <p>【2】と【3】の場合、履修希望者は、必ず野生動物学教室担当教員に相談すること。事前相談せずに行った実習については単位を認定できない場合がある。</p> <p>履修手順：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野生動物学教室担当教員との打ち合わせ</li> <li>2. 実習先の決定</li> <li>3. 実習先へ評価表と実習依頼文書を送付、または持参（※状況により、省略する）</li> <li>4. 実習開始</li> <li>5. 実習終了を野生動物学教室に連絡</li> <li>6. レポート提出（提出期限は、実習終了後1ヶ月以内）</li> </ol>		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	11111004	科目区分	選択必修
科目名	野生動物学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	各実習先で必要な知識については予習しておくこと。 また、関連資料を各自で収集し、レポート作成を行うのが望ましい。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	個別のプログラムを学生各自が受講する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない。
レポート試験	50	実習の目的、内容および考察について、A4版にまとめる。
平常点評価	50	出席状況と履修態度について評価する。

オフィスアワー	野生動物学教室 (3号棟2階※2014年2月現在) tkato【at】nvl.u.ac.jp (【at】=@) 月～金の午後。但し出張や会議等で不在にすることがあるので、上記メールで面接を予約すること。
その他	

科目No.	11113005	科目区分	選択必修
科目名	伴侶動物学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	堀 達也, 鷺巣 月美, 土田 修一, 入交 眞巳, 皆上 大吾, 百田 豊		
授業のねらい	各専門の教員および外部の非常勤講師の先生方により、普段の授業では習うことができない将来役立つ臨床的な内容について講義を行う。		
到達目標	各授業にて講義された内容を理解する		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 堀 達也不妊手術のメリット・デメリット 第2～3回 鷺巣月美動物医療現場におけるコミュニケーション 第4～5回 佐藤 隆獣医療裁判～獣医師の視点より 第6～7回 中川美穂子学校等の動物飼育の意義と獣医師の支援体制地域社会の専門家としての関わり 第8～9回 入交眞巳犬の行動学、犬の問題行動を予防するには？ 第10～11回 土田修一犬と猫の血液型 第12～13回 百田 豊皮膚バリア機能を司る角層の仕組み、シャンプー剤の全成分表示を読んで考えるシャンプーの仕組み 第14～15回 皆上大吾担がん動物のケア (講師の先生と内容は、都合により変更になることがあります)		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	11113005	科目区分	選択必修
科目名	伴侶動物学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業の理解を深めるため、講義を受けた内容について復習を行うこと（90分）。		
テキスト・参考文献他	とくになし		
授業形態	教室内での講義を中心とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない
レポート試験	20%	授業によっては、レポートにて評価を行う
平常点評価	80%	出席回数を評価する

オフィスアワー	堀 達也：獣医臨床繁殖学研究室（C棟3階）月～金の午後（ただし、医療センター業務、会議、出張などがある場合があるので、メールにて予定を確認してから来ていただくことが望ましい） e-mail：t-hori@nvl.u.ac.jp
その他	

科目No.	11114005	科目区分	選択必修
科目名	シンポジウム	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	植田 富貴子, 落合 由嗣, 池 和憲, 小林 真理子		
授業のねらい	本シンポジウムでは、「食の安全性の確保」、「人と動物の感染症」、「環境保全のために」を課題として講義し、これらの最新の知見を習得することを目標とする。		
到達目標	1) 食の安全性に関する最近の知見を習得すること。 2) 新たな人獣共通感染症（人と動物の間の共通感染症）発生の知見を習得すること。 3) 環境衛生に関する最新の知見を習得すること。 4) 我が国の防疫対策に関する最新の知見を取得すること。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回（4月13日）池和憲：人獣共通感染症の最近の動向Ⅰ 第2回（4月20日）山田章雄：人獣共通感染症の最近の動向Ⅱ 第3回（4月27日）井上智：人獣共通感染症の最近の動向Ⅲ 第4回（5月11日）吉川泰弘：人獣共通感染症の最近の動向Ⅳ 第5回（5月18日）落合由嗣：食品衛生の最近の動向Ⅰ 第6回（5月25日）本藤良：食品衛生の最近の動向Ⅱ 第7回（5月26日）※小林真理子：環境衛生の最近の動向Ⅰ 第8回（5月26日）※小林真理子：環境衛生の最近の動向Ⅱ 第9回（5月29日）※※小林真理子：環境衛生の最近の動向Ⅲ 第10回（6月1日）津田修治：食品衛生の最近の動向Ⅲ 第11回（6月8日）島田俊雄：食品衛生の最近の動向Ⅳ 第12回（6月15日）山田文也：我が国における防疫対策の動向Ⅰ 第13回（6月29日）青木英雄：我が国における防疫対策の動向Ⅱ 第14回（7月6日）鈴木明：環境衛生の最近の動向Ⅳ  ※：第7、8回の講義（5月26日）は、午後（13:00～15:10）に行います。 ※※：第9回の講義（5月29日）は、午後（13:00～14:00）に行います。		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	11114005	科目区分	選択必修
科目名	シンポジウム	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	毎回のテーマについて、まとめておくこと。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室内の講義を中心にする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	-
レポート試験	100	学期末にレポート提出
平常点評価	0	-

オフィスアワー	<p>植田富貴子、落合由嗣、高野貴士：獣医公衆衛生学教室（D棟4階） 水曜 16:00-17:00：但し、電話（内線3496、3497）または研究室にて事前に面接予約すること。</p> <p>小林真理子：獣医保健看護学科応用部門教室、基本的に火曜から金曜の12：00～12：30。</p>
その他	

科目No.	11115005	科目区分	選択必修
科目名	獣医臨床栄養学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	小山 秀一, 左向 敏紀, 坂根 弘, 徳本 一義, 藤井 立哉		
授業のねらい	各種疾病の病態を理解し、症状の改善・緩和、病態進行を遅延させる食事管理について学修する。		
到達目標	ペットフード製造、添加物、法律について説明できる。消化器疾患、肝疾患、糖尿病、皮膚疾患、心疾患、下部尿路疾患、腎疾患、等の疾病を持つ動物の栄養管理を説明できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 小山秀一：臨床栄養学とは 第2回 坂根 弘：ペットフードの歴史と産業、流通 第3回 坂根 弘：添加物、ペットフード安全法 第4回 坂根 弘：消化器疾患（下痢、膵臓疾患）の栄養管理 第5回 徳本一義：肝疾患の栄養管理 第6回 左向敏紀：糖尿病の栄養管理 第7回 徳本一義：皮膚疾患に対する栄養管理 第8回 左向敏紀：肥満に対する栄養管理 第9回 徳本一義：心疾患に対する栄養管理 第10回 徳本一義：腎疾患に対する栄養管理 第11回 藤井立哉：犬の下部尿路疾患に対する栄養管理 第12回 藤井立哉：猫の下部尿路疾患に対する栄養管理 第13回 藤井立哉：栄養管理と行動 第14回 藤井立哉：脂肪酸の代謝と疾患に対する応用 第15回 藤井立哉：ガン患者に対する栄養管理		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	11115005	科目区分	選択必修
科目名	獣医臨床栄養学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の事前配布による予習（30分） 授業内容のレポートまたは内容の確認テスト（70分）		
テキスト・参考文献他	小動物臨床栄養学		
授業形態	授業による講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない。
レポート試験	10%	授業内容のレポート
平常点評価	10%	小テスト

オフィスアワー	左向敏紀：獣医保健看護学科臨床部門（D棟1階） t-sako××nvl.u.ac.jp（××を@にすること） メールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	11116006	科目区分	選択必修
科目名	獣医畜産法規	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	牧野 ゆき		
授業のねらい	獣医師の業務に関連する法について、社会情勢の変化や、社会的な問題と関連づけて学び、獣医師を取り巻く環境を法律的側面からとらえることをめざす。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 獣医師や獣医療、動物と関連する各種法規の概要を理解し、説明できる。</li> <li>・ 獣医師の社会的責任及び社会において獣医療の果たすべき役割について理解し、説明できる。</li> <li>・ 獣医師及び獣医療を取り巻く国内外の社会情勢に目を向けることができる。</li> </ul>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	本講義で取り上げた問題にとどまらず、日常生活においても、獣医師や獣医療および動物等にかかわる社会的問題に常に目を向けるように心がけてほしい。		
概要・スケジュール	第1回 牧野ゆき：オリエンテーション（法の基礎知識）、家畜衛生組織（家畜保健衛生所法）、公衆衛生組織、国際機関 第2回 牧野ゆき：獣医事関連法規（1）（獣医師法） 第3回 牧野ゆき：獣医事関連法規（2）（診断書・処方せんの作成） 第4回 牧野ゆき：獣医事関連法規（3）（獣医療法） 第5回 牧野ゆき：家畜衛生行政関連法規（1）（家畜伝染病予防法） 第6回 牧野ゆき：家畜衛生行政関連法規（2）（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法、牛海綿状脳症対策特別措置法、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律） 第7回 牧野ゆき：公衆衛生行政関連法規（1）（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、検疫法、地域保健法、狂犬病予防法） 第8回 牧野ゆき：公衆衛生行政関連法規（2）（と畜場法、化製場等に関する法律、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律、食品衛生法、食品安全基本法） 第9回 牧野ゆき：動物の輸出入に関する法規 第10回 牧野ゆき：薬事関連法規（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、毒物及び劇物取締法） 第11回 牧野ゆき：環境行政関連法規（動物の愛護及び管理に関する法律、愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律） 第12回 牧野ゆき：関連諸法規（独占禁止法、個人情報保護法、製造物責任法、消費者契約法等） 第13回 牧野ゆき：獣医療契約 第14回 牧野ゆき：医療・獣医療事故（1）（獣医療事故総論） 第15回 牧野ゆき：医療・獣医療事故（2）（獣医療事故各論）		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	11116006	科目区分	選択必修
科目名	獣医畜産法規	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回講義で取り上げる内容について、資料の該当箇所を読んでおく（90分） 復習として、講義内容についてまとめ、関連する事項について新聞等を確認する（90分）		
テキスト・参考文献他	テキスト： 配布プリント使用 参考文献： 池本卯典・吉川泰弘・伊藤伸彦監修『獣医事法規』（緑書房） 池本卯典・小方宗次 編『獣医学概論』（文永堂出版） 農林水産省生産局畜産部（監）『獣医畜産六法』（新日本法規）		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	実施しない。
平常点評価	20%	出席状況や質問等、積極的な参加や問題意識の持ち方を考慮。

オフィスアワー	牧野ゆき：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） y-makino@vnl.u.ac.jp （xxを@にすること） 事前にメールで在室を確認のこと。
その他	

科目No.	11117006	科目区分	選択必修
科目名	病院経営学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	桜井 富士朗, 村中 志朗		
授業のねらい	小動物臨床に進む学生に対し、獣医師として病院経営のノウハウを知ることは重要である。本講座ではコンパニオンアニマルを取り巻く市場を細かく分析し、時代に応じた適正な病院経営ができるような考察力を身に着けることができる。		
到達目標	時代の変遷に伴う市場データを知り、小動物臨床業界の現況を把握し、また将来に向けての課題を克服する洞察力を身に着ける。また顧客（飼い主）のニーズを知ることで獣医療の適正化を図ることができるようにすることを目的とする。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	一般的な経済学や統計学の知識。		
履修上の留意点	内閣府や獣医師会、ペットフード協会、マスメディアが発表している各種データをもとに講義を行うため、講義中はデータ分析能力が問われる。		
概要・スケジュール	第1回 村中志朗 ペット飼育とそれを取り巻く社会環境 第2回 村中志朗 ペット産業（1） 第3回 村中志朗 ペット産業（2） 第4回 村中志朗 動物病院のマーケティング課題 第5回 桜井富士朗 勤務病院の選択 第6回 桜井富士朗 動物病院起業への課題 第7回 桜井富士朗 動物病院のマネージメント		
授業期間を通して課される課題	配布したペット経済のデータおよび課題を復習し、世界経済・日本経済の動向の中のペット経済の位置を常に意識する。ペット経済動向を講義ごとに適宜レポート提出する。		

科目No.	11117006	科目区分	選択必修
科目名	病院経営学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	経済学的センスを身につけるために、新聞の経済欄・政治欄を読み通せるようにする。もしくは日本経済新聞の1面・2面を通読できるようにする。		
テキスト・参考文献他	最新 動物病院経営指針 チクサン出版社（桜井富士朗監修），その他随時指示する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	40%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	30%	学期の中間にレポートを課す
平常点評価	30%	出席、小テスト、質疑応答の活発さを評価

オフィスアワー	桜井：Eメールにて受付 sakurai@ntu.ac.jp 村中：Eメールにて受付 sm0510@wondernet.ne.jp		
その他			

科目No.	11118006	科目区分	選択必修
科目名	畜産経営学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	小澤 壯行		
授業のねらい	動物社会科学の中心的な範疇とされる我が国における動物産業の現状と課題を理解し、動物、特に畜産に関わる支援者として成長するための基礎的な知見を身に付ける。		
到達目標	我が国の動物に係る産業とその経営様式（畜産経営学）の基礎を理解するとともに、獣医師として貢献すべき役割と今後の課題について理解する能力を醸成する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	新聞や各種メディアに日常的に接することにより、我が国経済・農業が置かれている立場を理解しておく必要がある		
履修上の留意点	受講学生に発言を求めることがあるので、その準備を怠らないこと。		
概要・スケジュール	<p>第1回：小澤壯行 イン트로ダクション なぜ「畜産経営」を学ばなくてはいけないのか。その意義を理解する。</p> <p>第2回：小澤壯行 畜産経営とは何か 一家族経営と企業経営・所得と利潤、付加価値形成および法人化を学ぶー</p> <p>第3回：小澤壯行 マネージメントサイクル ー経営管理手法の根幹であるマネージメントサイクルの仕組みを理解するー</p> <p>第4回：小澤壯行 財務諸表を読む① ー損益計算書の仕組みを理解するー</p> <p>第5回：小澤壯行 財務諸表を読む② ー貸借対照表の仕組みを理解するー</p> <p>第6回：小澤壯行 酪農経営① 酪農経営の展開過程と生乳生産の仕組みを学ぶ</p> <p>第7回：小澤壯行 酪農経営② 酪農経営の現状と課題について理解する。</p> <p>第8回：小澤壯行 肉牛経営① 肉牛経営の種別と現状を理解する。</p> <p>第9回：小澤壯行 肉牛経営② 肉牛経営の抱える課題について理解する。</p> <p>第10回：小澤壯行 養豚経営 養豚経営の現状と課題について学ぶ。</p> <p>第11回：小澤壯行 養鶏経営 養鶏経営の現状と課題について学ぶ。</p> <p>第12回：小澤壯行 軽種馬経営 軽種馬経営の現状と課題について学ぶ。</p> <p>第13回：小澤壯行 動物を取り巻く飼料・医薬・機械設備産業 動物を取り巻く各種支援産業について学ぶ</p> <p>第14回：小澤壯行 獣医師として果たすべき役割 畜産農家の「支援者」として何ができるのか？</p> <p>第15回：小澤壯行 コンクルージョン 我が国の進むべき途について論じ、理解する。</p>		
授業期間を通して課される課題	授業後に小レポートを提出してもらうので、講義内容を聞き逃さないこと。		

科目No.	11118006	科目区分	選択必修
科目名	畜産経営学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習（90分）・復習（90分）		
テキスト・参考文献他	特に指定しない。授業内にプリント等を配布する。		
授業形態	講義室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	70	記述式・70点満点
レポート試験	15	毎講義後に小レポートを課す
平常点評価	15	出席回数により加点する

オフィスアワー	担当教員と面談日を相談すること。 ozawa×nvl.u.ac.jp （×を@に変換すること）
その他	

科目No.	11119006	科目区分	選択必修
科目名	鳥・特殊動物の臨床	単位数	1.0
学科	獣医学科(60分)	学年	6
担当教員	野村 治, 滝沢 直樹		

授業のねらい	小動物臨床におけるエキゾチックペット診療の必要性は、年々高まってきている。しかしエキゾチックペットについての学習をする機会はいへん少なく、現場の獣医師であっても経験及び情報不足の状態である。今後診療に必要であるエキゾチックペット診療の基礎及び最新情報を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エキゾチック動物について理解する</li> <li>2. エキゾチックペット診療の診断・治療について理解する</li> <li>3. 実習を介して実際の実技等について体験・理解する</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 滝沢 直樹 鳥・特殊動物の臨床総論 第2回 滝沢 直樹 飼鳥の臨床 総論 1 第3回 滝沢 直樹 飼鳥の臨床 総論 2 第4回 滝沢 直樹 飼鳥の臨床 各論 1 第5回 滝沢 直樹 飼鳥の臨床 各論 2 第6回 滝沢 直樹 飼鳥の臨床 内科 1 第7回 滝沢 直樹 飼い鳥の臨床 内科 2 第8回 滝沢 直樹 飼い鳥の臨床 外科 第9回 滝沢 直樹 フェレットの臨床 第10回 滝沢 直樹 ウサギの臨床 助手 遠藤 第11回 滝沢 直樹 モルモットの臨床 第12回 滝沢 直樹 ハムスターの臨床 助手 小野 第13回 滝沢 直樹 爬虫類の臨床 助手 田向 第14回 滝沢 直樹 リスの臨床 第15回 滝沢 直樹 エキゾチックペット診療について 総括		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	11119006	科目区分	選択必修
科目名	鳥・特殊動物の臨床	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	学生である特性を生かし、出来るだけ小動物臨床の現場を見学し、比較検証することが将来に有用である。		
テキスト・参考文献他	授業毎にプリントを配布する。 参考文献等、授業中に紹介する。		
授業形態	パワーポイントでの講義と、鳥等を使った簡単な実習をする。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	70%	学期末に実施する。
レポート試験	0%	実施しない
平常点評価	30%	出席

オフィスアワー	滝沢直樹 滝沢犬猫鳥の病院 院長に電話にて予約 さいたま市北区宮原町2-95-3 048-652-2777 (木曜日・祝日休診)
その他	

科目No.	11120004	科目区分	選択必修
科目名	総合文化講座Ⅱ	単位数	1.0
学科	獣医学科(60分)	学年	4
担当教員	4V 担任		
授業のねらい	獣医学のみならず、その関連学問(農学、生命科学、環境科学など)についての知識を習得し、獣医師および関連領域の従事者としての社会的役割を認識する。		
到達目標	獣医学のみならず関連領域を含めた幅広い知識の習得		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	①受付で資料と「引換券」をもらう。②講義終了後、受付にて「引換券」を「総合文化講座報告書」と交換する。③「総合文化講座報告書」が8枚揃ったら、担任に提出する。		
概要・スケジュール	<p>前期 担当学科：動物科学科 詳細は授業の際に説明</p> <p>後期 担当学科：獣医学科 詳細は授業の際に説明</p>		
授業期間を通して課される課題	各回の講義についてのレポート提出		

科目No.	11120004	科目区分	選択必修
科目名	総合文化講座Ⅱ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	詳細は授業の際に説明		
テキスト・参考文献他	授業時間中に指示する		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない
レポート試験	100	各回の講義内容についてのレポートを各学年担任が評価する
平常点評価	0	レポート提出が出席点として組み込まれる

オフィスアワー	5V担任：池 和憲 (D棟4F獣医寄生虫学) メール (ike-k@nvl.u.ac.jp) にて予約すること, 宮川優一 (D棟3F内科学第2, 火曜, 水曜を除く曜日, またはメールで連絡 (ymiyagawa@nvl.u.ac.jp)) 6V担任：竹村直行 (D棟3F内科学第2) メール (nstakemura@nvl.u.ac.jp) にて予約すること, 入交真巳 (D棟4F教育推進室) irimajiri@nvl.u.ac.jp (&を@に変えて使用)
その他	過去の授業において、一般聴講者より授業中の態度が悪いとの苦情を多く受けました。授業態度が悪い場合は、教室からの退場及び単位非認定とします。

科目No.	11121005	科目区分	選択必修
科目名	生物学実験	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	土田 修一, 畠山 仁		

授業のねらい	2年次で開講された生物学実験では主に光学顕微鏡の操作について学んだが、今回は光学顕微鏡（光顕）、透過型電子顕微鏡（電顕）観察のために使用する機器の操作について学ぶことを主目的とする。
到達目標	電顕を用いて生物試料を観察するまでには様々な準備が必要であり、その作業を実験において一通り行う。限られた時間ではあるが、教員の実演をただ見るのではなく実際学生が操作してみるようにする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	事前に配布するプリントを読んで実習に参加すること
履修上の留意点	実習には積極的に参加すること
概要・スケジュール	第1回土田 修一, 畠山 仁 試料の解剖・切出・固定 第2回土田 修一, 畠山 仁 細針・毛針の作成 第3回土田 修一, 畠山 仁 自動包埋装置による包埋 第4回土田 修一, 畠山 仁 樹脂包埋 第5回土田 修一, 畠山 仁 ブロックのトリミング・厚切切片作製 第6回土田 修一, 畠山 仁 超薄切片作製 第7回土田 修一, 畠山 仁 電子染色 第8回土田 修一, 畠山 仁 電顕観察
授業期間を通して課される課題	実習での作業を完遂すること自体が課題である

科目No.	111210Q5	科目区分	選択必修
科目名	生物学実験	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	事前に配布したプリントを読むこと（30分程度） 前回の作業を確認をする（30分程度）		
テキスト・参考文献他	実習ごとにプリントを配布する。		
授業形態	実習形式		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない
レポート試験	0%	レポートは課さない
平常点評価	100%	出席、実習への取組みを総合的に評価する

オフィスアワー	畠山仁（代表）：比較細胞生物学教室（D棟2F）・木曜日13:00~14:00
その他	

科目No.	11122005	科目区分	選択必修
科目名	化学実験	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	田崎 弘之, 片山 欣哉, 佐藤 稲子		
授業のねらい	化学実験を教育指導する能力の修得を目的として、実験の計画から、準備、実施、片付けまで実験全体を理解し、実践する能力を養成する。		
到達目標	実験器具の取扱い、試薬の調製、基本的な実験操作、後片付け、廃液の処理等、一連の基礎実験法を身につける。また、提示されたテーマを基に実験を計画し、必要な器具、試薬についてまとめ、自ら主体的に準備から行き、安全に実験を企画、遂行できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし。		
履修上の留意点	教職課程においては必修科目である。 白衣と安全眼鏡を持参すること。 PowerPoint等の発表用ツールがインストールされたノートパソコンを持参することが望ましい。		
概要・スケジュール	<p>酸化還元反応、酸塩基反応、気体の分子量の測定、反応速度と濃度・温度の関係、有機化合物の合成などをテーマに、基本的な実験を自ら計画し実施する。それを生徒役である他の学生に説明し、実験させる。また、他班から説明を受けた複数の実験を実施し、いずれか一つについて結果をまとめ発表する。</p> <p>第1回 田崎 弘之 はじめに：化学実験の諸注意・心得・基礎知識  第2回 片山欣哉 佐藤稲子 各班に与えられたテーマに従い、実験方法をまとめる。  第3回 片山欣哉 佐藤稲子 まとめた実験方法で実験を実施し、発表用の形式に実験方法をまとめる。  第4回 片山欣哉 佐藤稲子 他班の学生が実験できるよう、実験方法を発表し、器具や試薬を準備する。  第5回 片山欣哉 佐藤稲子 他班が提示した実験方法に従い、実験を行う。  第6回 片山欣哉 佐藤稲子 実験結果をまとめ、発表する。</p>		
授業期間を通して課される課題	実験ごとに、指定された期日までレポートを提出する。		

科目No.	11122005	科目区分	選択必修
科目名	化学実験	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	特になし。		
テキスト・参考文献他	初回にテキストを配布する。		
授業形態	実験は3名程度のグループで行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	—
レポート試験	50	実験ごとのレポート評価点の合計とする。
平常点評価	50	発表内容、実習態度、出席、レポートの期限内提出を評価。

オフィスアワー	佐藤 稲子 獣医学総合教育部門 獣医学総合教育分野 生体分子化学研究室 (D棟5階) 集中実習である本実習の開講期間は随時対応する。また、その翌週の月曜日から金曜日の10:00~11:00。
その他	夏期休業中に実施する。詳細な日程は掲示板に掲示する。

科目No.	11123005	科目区分	選択必修
科目名	物理学実験	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	八木 昌平		

授業のねらい	科学では物理的な技術や測定 of 知識が重要になっている。基礎的な物理学に関する実験を行い、物理現象を観察し、物理量を測定し、法則を理解する。実験機器の使用法、データの取得と処理の方法、報告書の書き方などを修得し、問題解決能力のための素地を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学、物理学の基礎を理解し、実験、測定 of 技術を習得できる。</li> <li>2. 自然や社会 of 物と現象 of 理解と予測能力 of 向上ができる。</li> <li>3. 抽象的 of 思考能力 of 向上ができる。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	小中高 of 常識的な算数、数学 of 理解 of 確認をしてから履修に臨むこと。 高校数学が修得済みであること。 物理学を履修すること。
履修上の留意点	予習を必要とする。解らないときは逐次質問すること。
概要・スケジュール	第01回 八木 昌平：ガイダンス 第02回 八木 昌平：測定 第03回 八木 昌平：固体 of 比熱 第04回 八木 昌平：固体 of 比熱 第05回 八木 昌平：表面張力 第06回 八木 昌平：表面張力 第07回 八木 昌平：屈折 第08回 八木 昌平：屈折 第09回 八木 昌平：弦 of 定常波 第10回 八木 昌平：弦 of 定常波 第12回 八木 昌平：半導体 第13回 八木 昌平：半導体 第14回 八木 昌平：等電位線 第15回 八木 昌平：等電位線
授業期間を通して課される課題	ほぼ毎回につき課題を課すので、レポートに解しておくこと。

科目No.	11123005	科目区分	選択必修
科目名	物理学実験	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回の実験に関して理解に努めること.		
テキスト・参考文献他	大学新生のための物理入門 第2版, 廣岡 秀明, 共立出版		
授業形態	実験室での実験.		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	なし
レポート試験	80	次回の実験時にレポートを提出すること.
平常点評価	20	実習態度.

オフィスアワー	八木昌平 : 物理学教室 (D棟3階) shou*nlvlu.ac.jp (@に*を変更する.) メールにて事前に予約すること (水曜日12:30~13:30).
その他	

科目No.	11124006	科目区分	選択必修
科目名	獣医学特論	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	鷺巣 月美, 入交 真巳, 山口 千津子		

授業のねらい	動物福祉、伴侶動物行動学を中心に、獣医師として基本的な知識を身に着ける
到達目標	動物福祉について説明できる 犬および猫の正常な行動について説明できる
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	教室内での講義
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 山口千津子動物福祉の基本的な考え方 第2回 山口千津子動物福祉の現状 第3回 山口千津子動物福祉の現状と課題 第4回 山口千津子動物愛護管理法 第5回 山口千津子動物愛護管理法 第6回 田中亜紀 シェルターメディスンI 第7回 田中亜紀シェルターメディスンII 第8回 田中亜紀災害時動物医療 第9回 田中亜紀災害時動物医療の現状と課題 第10回 入交真巳 犬の行動学I 第11回 入交真巳 犬の行動学II 第12回 入交真巳 犬の問題行動 第13回 入交真巳 猫の行動学I 第14回 入交真巳 猫の行動学II 第15回 入交真巳 猫の問題行動
授業期間を通して課される課題	

科目No.	11124006	科目区分	選択必修
科目名	獣医学特論	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	主に復習に重点を置き、各回の授業内容を整理する。授業内容に関連した資料に目を通すようにする。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は行わない
レポート試験	80%	学期の最後にレポートを課す
平常点評価	20%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	入交真巳：獣医教育推進室（B棟3階）Eメールにて受付
その他	

科目No.	11125005	科目区分	選択必修
科目名	学外実習	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	6V 担任		

授業のねらい	学内の実習では経験できない内容について学外の施設で体験する。
到達目標	各自の実習内容により異なる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	個人で学外の実習を行う 実習先は大学が提示している海外実習を始め、個人的に参加した学外実習でも良い。
授業期間を通して課される課題	

科目No.	11125005	科目区分	選択必修
科目名	学外実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習期間は最低1週間とする		
テキスト・参考文献他			
授業形態	大学外実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない
レポート試験	50%	実習後提出する
平常点評価	50%	実習参加

オフィスアワー	6V担任：竹村直行（D棟3F内科学第2）メール(nstakemura@nvl.u.ac.jp)にて予約すること, 入交眞巳（D棟4F教育推進室）irimajiri@nvl.u.ac.jp (&を@に変えて使用)
その他	

科目No.	11126006	科目区分	選択必修
科目名	獣医眼科神経病学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	長谷川 大輔, 余戸 拓也		

授業のねらい	主要な神経眼科疾患についての各論(病態生理学, 診断, 治療, 予後)について理解することを目標とする。
到達目標	国家試験出題範囲, ならびに臨床上遭遇する機会の多い疾患の原因と治療を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	解剖学, 組織学, 発生学, 生理学, 薬理学, 遺伝学, 行動学, 内科学, 外科学, 臨床病理学, 放射線学
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 余戸拓也 眼科検査法 第2回 余戸拓也 眼球表面疾患1(眼瞼, 瞬膜) 第3回 余戸拓也 眼球表面疾患2(結膜, 強膜, 角膜) 第4回 余戸拓也 ぶどう膜疾患・緑内障 第5回 余戸拓也 水晶体疾患 第6回 余戸拓也 網膜疾患 第7回 余戸拓也 産業動物の眼科疾患 第8回 長谷川大輔 神経学的検査1: シグナルメントと観察 第9回 長谷川大輔 神経学的検査2: 姿勢反応と脊髄反射 第10回 長谷川大輔 神経学的検査3: 脳神経検査, その他と局在診断 第11回 長谷川大輔 脳疾患各論1: 変性, 奇形, 代謝性疾患 第12回 長谷川大輔 脳疾患各論2: 腫瘍, 特発性, 炎症, 外傷, 中毒; 脊髄疾患各論1: 変性, 奇形 第13回 長谷川大輔 脊髄疾患各論2: 腫瘍, 炎症, 外傷 第14回 長谷川大輔 末梢神経疾患各論 第15回 長谷川大輔 末梢神経筋接合部および筋疾患各論
授業期間を通して課される課題	

科目No.	11126006	科目区分	選択必修
科目名	獣医眼科神経病学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	神経病学では授業時間内に全ての疾患を網羅することはできない。このため学生は授業で取り上げることのできなかつた病態については各自授業外学習にて習得すること。		
テキスト・参考文献他	神経病学では適宜プリントを配布する。参考書：「獣医内科学改訂版（文永堂）」「図解小動物神経病学（インターズー）」		
授業形態	教室内での講義（座学）。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	70%	学期末に定期試験を実施
レポート試験	0%	特に設けない。
平常点評価	30%	必要に応じて出席日数を定期試験の得点に計上する。

オフィスアワー	神経病（長谷川大輔）：獣医放射線学教室（D棟2階）；月・火の午後（医療センター業務や会議，出張を除く） 眼科（余戸拓也）：獣医外科学教室（D棟2階）；水・金の午後（医療センター業務や会議，出張を除く）		
その他			

科目No.	11127005	科目区分	選択必修
科目名	獣医遺伝病学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	5
担当教員	鈴木 浩悦, 片山 健太郎, 栃木 裕貴		

授業のねらい	獣医遺伝病学では突然変異が細胞・個体に及ぼす影響を学んだ上で、様々な遺伝性疾患の原因遺伝子・発症機構および予防・対処方法などに関する知識を修得することを目指す。
到達目標	1. 突然変異が細胞および個体に対して及ぼす影響を理解する。 2. 様々な遺伝様式に関して、特徴およびその遺伝様式を生じさせる分子機構を説明出来る。 3. 遺伝性疾患の特徴を理解し、適切な対処方法を論じることができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第01回 片山健太郎：遺伝学の復習-ゲノムと遺伝子- 第02回 片山健太郎：DNAの損傷修復機構 第03回 片山健太郎：突然変異の種類と影響 第04回 片山健太郎：遺伝様式を決定する分子機構 第05回 片山健太郎：ゲノムインプリンティング 第06回 片山健太郎：多因子遺伝性疾患 第07回 片山健太郎：遺伝性疾患の遺伝学的解析方法 第08回 片山健太郎：産業動物の遺伝性疾患I 第09回 片山健太郎：産業動物の遺伝性疾患I 第10回 片山健太郎：伴侶動物の遺伝性疾患 第11回 片山健太郎：遺伝性疾患への対処 第12回 片山健太郎：遺伝性疾患を研究するための実験技術 第13回 鈴木浩悦：実験動物と遺伝学 第14回 栃木裕貴：ヒトの遺伝性疾患I 第15回 栃木裕貴：ヒトの遺伝性疾患 II
授業期間を通して課される課題	

科目No.	11127005	科目区分	選択必修
科目名	獣医遺伝病学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	各回の講義の最後に次回の講義テーマをアナウンスするので、教科書等で予習をすること（45分）。復習として、テーマごとにまとめを作成し、そのテーマに関して端的に説明できるようにすること（30分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業のテーマごとにプリントを配布する。 指定の参考書は無いが、講義の最初の回に市販の遺伝学の教科書を紹介する。		
授業形態	毎回テーマを定めて講義を行う。 また、必要に応じて理解を助けるための小テスト、およびその解説を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合（％）	評価方法
定期試験	95	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0	特別な事情が無い限りレポートは課さない。
平常点評価	5	出席カードによる出欠確認。

オフィスアワー	片山健太郎：獣医生理学教室（D棟5階） katayamaXnvl.u.ac.jp（火曜：11:00-12:00） 鈴木浩悦：獣医生理学教室（D棟2階） hiroetsuXnvl.u.ac.jp（火曜：13:00-15:00） 栃木裕貴：獣医生理学教室（D棟5階） ytochigiXnvl.u.ac.jp（火曜：13:00-14:00） （メールアドレスはXを@に変えて使用のこと）
その他	

科目No.	11128006	科目区分	選択必修
科目名	獣医歯科学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	奥田 綾子		
授業のねらい	顎顔面の発生異常に伴う障害、顎顔面・口腔内に発生する疾患を知り、口腔内疾患の全身への影響を理解し、それらの診断法と治療の原則を理解する。中でも最も罹患率の高い歯周炎については、病態発生・診断基準・治療法・予防法について学習する。		
到達目標	口腔内に発生する多くの疾患の臨床症状は非特異的であることを理解した上で、主な口腔内疾患の診断的検査法とその診断基準を理解し、実践できるようにする。顎顔面における異常の各種検査法の特異性と適用について理解する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	顎顔面構造の発生と解剖（臨床解剖学）と一般外科的手技		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	<p>口腔（口蓋、歯、顎）発生と解剖  小児歯科と歯科矯正の基礎  口腔内診査とレントゲン検査  歯周病学  歯内治療学・歯科補綴学の基礎  口腔外科1（顎顔面の整形外科、腫瘍や嚢胞）  口腔外科2（抜歯術、各部口腔粘膜の扱い、唾液腺の外科）</p>		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	11128006	科目区分	選択必修
科目名	獣医歯科学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	8月に麻布大学で実施する予定のオープンスキルセミナー（口腔内予防歯科処置の実際と抜歯術の基礎：仮題）への参加		
テキスト・参考文献他	イヌとネコの臨床歯科学①顎顔面の発生と解剖（ファームプレス）、プリント		
授業形態	スライドと参考資料を基とする座学とDVDによる手技の解説		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100	資料持込み、5択試験
レポート試験	0	-
平常点評価	0	-

オフィスアワー	kyomu × nv   u. ac. jp（×を@に変えて使用すること）、実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	11129006	科目区分	選択必修
科目名	獣医東洋医学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	糸数 七重		

授業のねらい	医療に携わるものとして知っておくべき医学システムのひとつである東洋医学（主として漢方医学）の基礎的な概念について理解し、基本的な利用法について理解する。
到達目標	東洋医学はどのような医学システムであるか説明できる。東洋医学に用いられる基礎的な理論や用語について、その意味を理解し、説明できる。東洋医学で用いる処方のうち、基本的なものについて理解し、説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし。ただし参考文献を事前に読んでおく和良好的。
履修上の留意点	配布テキスト（最初の講義にて配布予定）を毎回持参すること。
概要・スケジュール	第1回：糸数七重 漢方概論 (1) 東洋医学の歴史について学ぶ 第2回：糸数七重 漢方概論 (2) 東洋医学の考え方について学ぶ 第3回：糸数七重 漢方概論 (3) 東洋医学の特徴について学ぶ 第4回：糸数七重 漢方理論 (1) 八綱理論、六病位理論等について学ぶ 第5回：糸数七重 漢方理論 (2) 気血水理論、五臓理論等について学ぶ 第6回：糸数七重 診断と治療 (1) 病態解説と診断について学ぶ 第7回：糸数七重 診断と治療 (2) 病態解説と診断について学ぶ 第8回：糸数七重 方剤学 (1) 感染症領域で用いられる処方について学ぶ 第9回：糸数七重 方剤学 (2) 呼吸器領域で用いられる処方について学ぶ 第10回：糸数七重 方剤学 (3) 消化器領域で用いられる処方について学ぶ 第11回：糸数七重 方剤学 (4) 消化器領域のうち胆肝脾領域で用いられる処方について学ぶ 第12回：糸数七重 方剤学 (5) 婦人科領域で用いられる処方について学ぶ 第13回：糸数七重 方剤学 (6) 整形外科領域で用いられる処方について学ぶ 第14回：糸数七重 方剤学 (7) 高齢者に用いられる処方について学ぶ 第15回：糸数七重 方剤学 (8) その他の領域で用いられる処方および経絡について学ぶ
授業期間を通して課される課題	特になし

科目No.	11129006	科目区分	選択必修
科目名	獣医東洋医学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	テキストの講義前後の読み込み。予習（90分）・復習（90分）		
テキスト・参考文献他	授業に使用するテキストは最初の講義においてプリント冊子を配布する。 参考文献：漢方・中医学講座 基礎理論編（入江祥史著・医歯薬出版）		
授業形態	教室内での講義。パワーポイントを用いて講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	-	-
レポート試験	100%	学期末にレポートを課す。
平常点評価	-	-

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）、実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	111300Q6	科目区分	選択必修
科目名	獣医救急医療学	単位数	1.0
学科	獣医学科 (60分)	学年	6
担当教員	小山 秀一, 原 康, 長谷川 大輔, 堀 達也, 原田 恭治, 余戸 拓也		

授業のねらい	犬猫の救急対応を必要とする疾患について一般的なアプローチ法を学び、それぞれの疾患の病態および診断のプロセスを理解する。そして、各疾患に対する救急処置および治療法を修得する。
到達目標	1) 救急疾患へのアプローチ法を説明できる。 2) 代表的な救急疾患の病態、診断および治療が説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回小山秀一 救急医療についての総論  第2回小山秀一 急性心不全の病態、診断および治療  第3回小山秀一 重症不整脈の診断と治療  第4回余戸拓也 眼科の救急疾患1  第5回余戸拓也 眼科の救急疾患2  第6回余戸拓也 災害時の救急医療・腎泌尿器の救急疾患  第7回堀 達也 緊急を要する生殖器疾患：子宮蓄膿症の診断および治療法  第8回堀 達也 異常分娩時の対応：帝王切開時期の判断基準  第9回長谷川大輔脳疾患における救急医療  第10回長谷川大輔脊髄疾患における救急医療  第11回長谷川大輔末梢神経、神経筋接合部、筋疾患における救急医療  第12回原康ショック  第13回原田恭治急性腹症  第14回原田恭治心肺蘇生  第15回原田恭治外傷</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	11130006	科目区分	選択必修
科目名	獣医救急医療学	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため次回の講義で取り扱うテーマの資料または参考書を事前に読むこと（20分） 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（60分） など		
テキスト・参考文献他	犬と猫の救急医療（インターズー）、伴侶動物のための救急医療（チクサン出版）		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	なし
平常点評価	10%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	小山秀一：獣医内科学教室（D棟2階）hkoyama@nvl.u.ac.jp：Eメールにて受付または面接を予約 原 康：獣医外科学教室：金曜日9:00～12:00 堀 達也：獣医臨床繁殖学研究室（D棟3階）：月～金の午後（医療センターの業務や会議，出張を除く） 長谷川大輔：獣医放射線学教室（D棟2階）：月・火の午後（医療センターの業務や会議，出張を除く）
その他	

科目No.	210000R1	科目区分	必修
科目名	獣医学概論	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	科目責任者：学科長 単位認定者：学科長		
授業のねらい	獣医学概論は獣医学の役割とその全体像を明確に把握することが目的である。各々の分野の第一人者に講義してもらい獣医学の幅広い内容を知ってもらおう。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 獣医学の関連する幅広い分野を理解する。</li> <li>2. 獣医師に求められる哲学、獣医師の使命、社会的必要性を理解する。</li> <li>3. 獣医学の歴史、外国の獣医師との比較、国際貢献の必要性を理解する。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	最初の講義で配布される獣医学概論モデルコアカリキュラムのプリントを資料として各回の講義に携帯すること。		
概要・スケジュール	<p>第1回 河上栄一（獣医学部長） 獣医学概論の概要説明、獣医学教育の現状</p> <p>第2回 鷺巣月美（獣医学教育推進室長） 獣医療現場におけるコミュニケーションの重要性</p> <p>第3回 池本卯典（学長） 獣医倫理学と獣医学史</p> <p>第4回 村中志朗（東京都獣医師会長） 社会における獣医師の役割</p> <p>第5回 和田新平（水族医学・教授） 獣医学教育における魚病学</p> <p>第6回 植田富貴子（公衆衛生学・教授） 獣医学と公衆衛生の関係</p> <p>第7回 横須賀誠（実験動物学・教授） 動物の行動を決める脳の機能</p> <p>第8回 山田裕（特任教授） 産業動物の臨床現場</p> <p>第9回 小山秀一（獣医学科長） 心臓との働きと心臓病</p> <p>第10回 藤田道郎（放射線学・教授） ガンに罹患した動物の終末獣医療</p> <p>第11回 田中亜紀（カリフォルニア大学） 災害時の動物医療</p> <p>第12回 羽山伸一（野生動物学・教授） 野生動物と獣医療</p> <p>第13回 高橋公正（獣医病理学・教授） 動物疾患の病理学</p> <p>第14回 厄崎肇（獣医学専攻科長） 獣医学教育の国際化・クインズランド大学との連携</p> <p>第15回 栗本まさ子（客員教授） 食の安全と獣医師の役割</p>		
授業期間を通して課される課題	<p>毎回の講義テーマについて次回の講義前までに、200～300文字程度にまとめた講義の感想文を作成すること（平常点80%）。</p> <p>ワードファイルにて、獣医学教育推進室 鷺巣月美教授（tsukimi@nvl.u.ac.jp）まで電子メールで提出すること。</p> <p>その際、題名を【「獣医学概論」+第〇〇回+学年+学籍番号+氏名】とすること</p>		

科目No.	210000R1	科目区分	必修
科目名	獣医学概論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	上述の通り、毎回の講義テーマについて200~300文字程度にまとめた講義ノートを作成するので、要復習をすること。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	各回の講義はその分野の第一人者のパワーポイントスライドをもとにした講演が主となる。講演内容に関連するプリントを適宜配布する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施しない。
レポート試験	0	-
平常点評価	100	出席点 : 20% 各回の講義の要約 : 80%

オフィスアワー	新井敏郎 : 獣医生化学研究室 (D棟4階) taraiXnvlv.ac.jp (Xの代わりに@) 月曜日 16:00~18:00、水曜日 16:00~18:00は原則、研究室にいるのでEメールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	210020R4	科目区分	必修
科目名	動物福祉学 B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：入交 眞巳, 野瀬 出 単位認定者：入交 眞巳		

授業のねらい	OIE（は世界家畜保健機構）は獣疫の国際的伝搬の制御と動物の健康促進へ視点を広げている。その中で健康を守るためのアニマルウェルフェア改善への取り組みがなされている。世界的規模で獣医師たちの取り組むアニマルウェルフェアに関して理解することを目的とする。
到達目標	アニマルウェルフェア（動物福祉）とは何かを理解する。 アニマルウェルフェアに即した動物の飼育管理指導を行うことができるようになる。 「動物愛護」や「動物の権利」との考え方の違いを知る。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	「獣医倫理・動物福祉学」の教科書を携帯する
概要・スケジュール	第1回：入交 眞巳 動物福祉とは？その歴史から理解する 第2回：入交 眞巳 産業動物福祉に関して 第3回：野瀬 出 実験動物、伴侶動物とその福祉について 第4回：野瀬 出 展示動物と福祉（環境エンリッチメントについて） 第5回：入交 眞巳 伴侶動物と安楽死についてのディスカッション 第6回：入交 眞巳 実験動物と福祉についてのディスカッション 第7回：入交 眞巳 動物のQOL 動物の苦しみ 動物の幸せとは？のディスカッション 第8回：入交 眞巳 産業動物における取り組みに関するディスカッション
授業期間を通して課される課題	グループディスカッションとその内容の発表 毎回授業の後に小テスト

科目No.	210020R4	科目区分	必修
科目名	動物福祉学 B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業後の復習を通し内容を理解する（80分）		
テキスト・参考文献他	獣医学コアカリキュラム準拠 「獣医倫理・動物福祉論」		
授業形態	講義形式、グループに分かれたディスカッション形式		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70	学期末試験、小テスト
レポート試験	-	-
平常点評価	30	ディスカッションへの参加と発表

オフィスアワー	入交：D棟4階 「教育推進室2」 irimajiri*nvlu.ac.jp (*を@に変えて使用する) e-メールにて相談時間アポをとることが望ましい
その他	

科目No.	210040R1	科目区分	必修
科目名	獣医解剖学 I B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	科目責任者：尼崎 肇 単位認定者：尼崎 肇		
授業のねらい	解剖学総論としての牛、馬、豚、犬、兎および鶏を対象動物とし、動物体を構成する骨格系、筋系、脈管系、神経系について肉眼的構造と代表的な解剖学用語について理解する。		
到達目標	動物の肉眼的構造について理解することを目的としている。動物体を構成する基本構造について肉眼的構造を説明でき、代表的な解剖学用語について記述できる		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高等学校レベルの生物学一般と化学一般を理解しておく必要がある。		
履修上の留意点	出席を重視しており、期末試験を実施し到達度の確認を行う。		
概要・スケジュール	<p>第1～2回：尼崎 肇 体の部位、ならびに体腔と関連する構造、位置、および器官との関係、動物体の断面を示す用語、動物体や器官の位置関係を示す用語、動物の体肢の方位用語および動物体を構成する基本的な器官・系について学ぶ。</p> <p>第3回：大石元治 骨および骨格の構造による分類、頭部の骨の構造、位置関係、および動物間の差異、体幹の骨の構造、位置関係、および動物間の差異、および前肢および後肢の構成骨の構造と位置関係、動物間の差異について学ぶ。</p> <p>第4回：大石元治 骨の連結方法および関節の構造と分類および関節の種類について学ぶ。</p> <p>第5回：大石元治 骨格筋の総論的な分類ならびに皮筋と関節筋、頭部の主要な筋として顔面の筋、下顎の筋と舌骨・舌に終止する筋の位置関係と作用、体幹の主要な筋の位置関係と作用、および動物間の差異、および前肢と後肢の筋の位置関係と作用、動物間の差異について学ぶ。</p> <p>第6回：添田 聡 体循環系、肺循環系、心臓の構造、主な動脈、大動脈弓からの動脈の分岐の家畜による違い、主な静脈、リンパ管の総論的な名称、リンパ流の流路、および前肢および後肢の筋の位置関係と作用、動物間の差異について学ぶ。</p> <p>第7回：添田 聡 神経に関する一般的な概念と対応する構造、脳脊髄液の流路、大脳、小脳、脳幹の構造の概略、脊髄の構造、延髄、橋、中脳、間脳の構造、小脳の構造、大脳の構造、脳神経の走行と機能に関する概要、主要な脊髄神経の走行と機能、および自律神経の走行と機能に関する概要について学ぶ。</p>		
授業期間を通して課される課題	各授業後でのチェック（質問）		

科目No.	210040R1	科目区分	必修
科目名	獣医解剖学 I B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため次回の講義で取り扱う資料を事前に読むこと (20分) 自宅で授業内容のまとめと整理を資料などを基に時間ごとに整理する (60分)		
テキスト・参考文献他	「カラーアトラス獣医解剖学 上・下巻」緑書房 (テクサン出版社) 「イヌとネコの臨床解剖学」尼崎 肇 監訳, ファームプレス(株) 「これだけは知っておきたい動物の体の話」ファームプレス(株)		
授業形態	資料と教科書に基づく口述形式		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	B期間終了時に達成度試験を実施する
レポート試験	0%	-
平常点評価	0%	-

オフィスアワー	am10:00~pm18:00 D棟 獣医解剖学教室 必要に応じて前もってアポイントが必要な場合がある。
その他	

科目No.	210050R1	科目区分	必修
科目名	獣医解剖学Ⅱ	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	科目責任者：尼崎 肇 単位認定者：尼崎 肇		

授業のねらい	獣医解剖学は動物の肉眼的構造について理解することを目的として代表的な解剖学用語について理解し、対象動物間の解剖学的な差異、器官が担う機能と構造の対応関係、器官の臨床上の重要性を理解する。
到達目標	牛、馬、豚、犬、兎および鶏を対象動物とし、動物体を構成する消化器系、呼吸器系、泌原器系、生殖器系、内分泌系および感覚器系について主要な器官の肉眼的構造を説明でき、代表的な解剖学用語について記述できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高等学校レベルの生物学一般と化学一般および獣医解剖Ⅰを理解しておく必要がある。
履修上の留意点	出席を重視している。
概要・スケジュール	<p>第1～5回：尼崎 肇          口腔と咽頭、口腔と咽頭に関連する器官・組織（口腔腺、扁桃、歯、舌）の構造、位置関係、および動物間の差異、食道、胃、腸の構造、位置関係、および動物間の差異、肝臓各部の名称、肝臓の分葉の動物間の差異、膵臓各部の名称について学ぶ。</p> <p>第6～7回：大石元治          鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管の構造、および位置関係、および肺、気管支の構造、位置関係、および動物間の差異について学ぶ。</p> <p>第8～9回：添田 聡          腎臓各部の構造と動物間の差異、および尿管、膀胱、尿道の構造について学ぶ。</p> <p>第10～12回：大石元治          雄の生殖器の構造、位置関係、および動物間の差異、および雌の生殖器の構造、位置関係、および動物間の差異について学ぶ。</p> <p>第13～14回：添田 聡          扁桃の名称と位置、胸腺、脾臓の位置と各部名称、リンパ節（中心）の名称について学ぶ。</p> <p>第15回：添田 聡          甲状腺、上皮小体、副腎、傍節、下垂体、松果体の構造、位置、および動物間の差異について学ぶ。</p>
授業期間を通して課される課題	各授業後でのチェック（質問）

科目No.	210050R1	科目区分	必修
科目名	獣医解剖学Ⅱ	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため次回の講義で取り扱う資料を事前に読むこと（20分） 自宅で授業内容のまとめと整理を資料などを基に時間ごとに整理する（60分）		
テキスト・参考文献他	「カラーアトラス獣医解剖学 上・下巻」緑書房（テクサン出版社） 「イヌとネコの臨床解剖学」尼崎 肇 監訳，ファームプレス株 「これだけは知っておきたい動物の体の話」ファームプレス株		
授業形態	資料と教科書に基づく口述形式		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	100%	中間試験（約40%） 期末試験（約60%）
レポート試験	0%	-
平常点評価	0%	-

オフィスアワー	am10:00～pm18:00 D棟 獣医解剖学教室 必要に応じて前もってアポイントが必要な場合がある。
その他	

科目No.	210060R2	科目区分	必修
科目名	獣医解剖学Ⅲ A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：尼崎 肇 単位認定者：尼崎 肇		
授業のねらい	獣医解剖学IIに続き、感覚器、外皮および付属器、鶏の解剖などについて主要な肉眼的構造を説明でき、代表的な解剖学用語を理解し、対象動物間の差異について形態学および機能の一部について理解する。		
到達目標	感覚器、外皮および付属器、鶏の解剖などについて感覚器の構造と位置、皮膚、毛、角質器、乳房の構造の位置などを理解する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高等学校レベルの生物学一般と化学一般および獣医解剖学ⅠおよびⅡを理解しておく必要がある。		
履修上の留意点	出席を重視しており、期末試験を実施し到達度の確認を行う。		
概要・スケジュール	第1回：尼崎 肇 鶏の特徴的な骨、筋、外皮および各内臓諸器官の特徴、名称、構造および血管系および神経系 第2回：大石元治 泌尿器の構造 第3回：大石元治 運動器Ⅰ（前肢の構造） 第4回：大石元治 運動器Ⅱ（後肢の構造） 第5回：添田 聡 中枢神経系の内部構造および主な末梢神経系の走行と支配領域 第6回：添田 聡 視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器および鋤鼻器等の感覚器の構造 第7回：添田 聡 皮膚および皮膚付属器（角、肉球、附蟬、距、爪、蹄、乳房など）の構造 第8回：添田 聡 まとめ		
授業期間を通して課される課題	各授業後でのチェック（質問）		

科目No.	210060R2	科目区分	必修
科目名	獣医解剖学Ⅲ A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため次回の講義で取り扱う資料を事前に読むこと（20分） 自宅で授業内容のまとめと整理を資料などを基に時間ごとに整理する（60分）		
テキスト・参考文献他	「カラーアトラス獣医解剖学 上・下巻」緑書房（チクサン出版社） 「イヌとネコの臨床解剖学」ファームプレス㈱ 「これだけは知っておきたい動物の体の話」ファームプレス㈱		
授業形態	資料と教科書に基づく口述形式		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	100%	A期間終了時に達成度試験を実施する
レポート試験	0%	必要に応じて評価する
平常点評価	0%	必要に応じて評価する（毎時間簡単な確認を行う）

オフィスアワー	am10:00～pm18:00 D棟 獣医解剖学教室 必要に応じて前もってアポイントが必要な場合がある。		
その他			

科目No.	210070R2	科目区分	必修
科目名	獣医解剖学実習	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：大石 元治 単位認定者：尼崎 肇		
授業のねらい	獣医解剖学I, IIおよびIIIの講義において解説された動物体の形態と構造を、実際に肉眼的に観察して、その構造の仕組みを理解することを目的とする。また、臨床解剖学(応用解剖学)を常に念頭に置いた実習を目指している。		
到達目標	馬、牛、犬、鶏における解剖学的構造の理解を目的とする 教員のデモンストレーションに加えて学生自身の執刀による動物体構造の総合的な理解を目標とする(系統解剖学および局所解剖学的構造を把握することを目的とする)		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学 I, II および III での知識		
履修上の留意点	出席を重視しており、スケッチ、最終試験を実施し到達度を総合的に確認する。実習は前半と後半に分けて行う。		
概要・スケジュール	<p>第1～3回：添田 聡 骨学(馬、牛、犬) 全身骨格、前肢骨、後肢骨、脊椎、肋骨、胸骨</p> <p>第4回：大石元治 骨学(馬、牛、犬) 頭蓋骨、下顎骨</p> <p>第5回：尼崎 肇 馬の解剖学的特徴 消化器、泌尿生殖器、呼吸器、循環器、頭頸部の構造</p> <p>第6回：添田 聡 牛の解剖学的特徴 消化器、泌尿生殖器、呼吸器、循環器、頭頸部の構造</p> <p>第7～第11回：大石元治 犬の筋学 頭頸部の筋、前肢帯筋、前肢筋、胸壁の筋、腹壁の筋、後肢筋</p> <p>第12～18回：大石元治 犬の内臓学 胸腔臓器、腹腔臓器、骨盤腔臓器、頭頸部の構造</p> <p>第19回：添田 聡 脳の解剖学的特徴</p> <p>第20回：添田 聡 ニワトリの解剖学的特徴 消化器、泌尿生殖器、呼吸器、循環器、頭頸部の構造</p>		
授業期間を通して課される課題	スケッチ。各実習後でのチェック(スケッチの確認と質問)		

科目No.	210070R2	科目区分	必修
科目名	獣医解剖学実習	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習内容のまとめと整理を教科書を基に実習毎に整理する。スケッチブックに臓器の機能や種差など学習事項を加筆する。		
テキスト・参考文献他	カラーアトラス獣医解剖学 上・下巻, 緑書房 (チクサン出版社) イヌとネコの臨床解剖学, 尼崎 肇 監訳, ファームプレス(株) ベテリナリー・アナトミー 犬と猫の解剖カラーアトラス, インターズー(株) Evans and de Lahunta 犬の解剖, ファームプレス(株)		
授業形態	少人数のグループでの実習。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	実習期間中に複数回行う到達度確認試験を実施する
レポート試験	10%	スケッチを評価する (未提出の学生には単位を認めない)
平常点評価	10%	出席回数の足りない学生には単位を認めない

オフィスアワー	am10:00~pm18:00 D棟 獣医解剖学教室 必要に応じて前もってアポイントが必要な場合がある。
その他	

科目No.	210080R2	科目区分	必修
科目名	獣医組織学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：添田 聡 単位認定者：尼崎 肇		

授業のねらい	体の構造を支える細胞や組織に基本的な仕組みと働きの概要を理解する。
到達目標	体の構造を支える細胞や組織に基本的な仕組みと働きの概要である総論と各組織に関する各論を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高等学校レベルの生物学一般と化学一般を理解しておく必要がある。
履修上の留意点	出席を重視しており、途中で中間試験を実施到達度の確認を行う。
概要・スケジュール	<p>第1回：尼崎 肇 組織学入門・細胞学 A. 組織学の歴史 B. 組織学用語 C. 細胞</p> <p>第2～3回：尼崎 肇 上皮組織・支持組織 D. 上皮 E. 支持組織</p> <p>第4～5回：添田 聡 筋組織・神経組織 F. 筋組織 G. 神経組織</p> <p>第6～7回：尼崎 肇 脈管系・リンパ性器官 H. 脈管系 I. リンパ性器官</p> <p>第8～10回：尼崎 肇 消化器系・呼吸器系 J. 消化器系 K. 呼吸器系</p> <p>第11回：樺山実幸 泌尿器系</p> <p>第12回：樺山実幸 生殖器系 M1. 雄性生殖器 M2. 雌性生殖器</p> <p>第13回：添田 聡 内分泌系</p> <p>第14回：添田 聡 皮膚・付属器系</p> <p>第15回：添田 聡 神経系・感覚器系 P1 中枢神経系 P2 末梢神経系 Q 感覚器系神経系</p>
授業期間を通して課される課題	各授業後でのチェック（質問）

科目No.	210080R2	科目区分	必修
科目名	獣医組織学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	自宅で授業内容のまとめと整理を教科書を基に時間ごとに整理する。		
テキスト・参考文献他	「獣医組織学 第六版」日本獣医解剖学会 編, 学窓社 「獣医組織学実習マニュアル 新版」学窓社 「獣医臨床組織学」ファームプレス(株)		
授業形態	資料と教科書に基づく口述形式		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	試験結果
レポート試験	0%	必要に応じて行う
平常点評価	0%	必要に応じて行う (毎時間簡単な確認を行う)

オフィスアワー	am10:00~pm18:00 D棟 獣医解剖学教室 必要に応じて前もってアポイントが必要な場合がある。
その他	ほとんどの評価は期末試験 (約60%) の評価に基づくが中間試験 (約40%) の結果も考慮して総合的に判断する (100%) 。

科目No.	210090R2	科目区分	必修
科目名	獣医発生学 I B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：大石 元治 単位認定者：尼崎 肇		

授業のねらい	体の構造が配偶子から形成される基本的な仕組みと働きを理解する。
到達目標	体の構造が配偶子から形成される基本的な仕組みと働きに関する総論的概要を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高等学校レベルの生物学一般と化学一般を理解しておく必要がある。
履修上の留意点	出席を重視しており、B期間終了時に試験を実施する。
概要・スケジュール	第1回：尼崎 肇 発生学概要 第2回：尼崎 肇 細胞周期と細胞分裂の仕組み 第3回：尼崎 肇 受精と卵割 第4回：尼崎 肇 胚形成 第5回：榊山実幸 肺葉分化 第6回：榊山実幸 胎膜と胎盤 第7回：大石元治 循環器系の発生 第8回：尼崎 肇 獣医発生学総論のまとめ
授業期間を通して課される課題	各授業後でのチェック（質問）

科目No.	210090R2	科目区分	必修
科目名	獣医発生学 I B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	自宅で授業内容のまとめと整理を教科書を基に時間ごとに整理する。		
テキスト・参考文献他	「獣医発生学」学窓社 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠「獣医解剖・組織・発生学」学窓社		
授業形態	資料と教科書に基づく口述形式		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	試験結果にて判断する
レポート試験	0%	必要に応じて行う
平常点評価	0%	必要に応じて行う（毎時間簡単な確認を行う）

オフィスアワー	am10:00～pm18:00 D棟 獣医解剖学教室 必要に応じて前もってアポイントが必要な場合がある。
その他	

科目No.	210100R2	科目区分	必修
科目名	獣医発生学Ⅱ A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：大石 元治 単位認定者：尼崎 肇		

授業のねらい	体の構造が配偶子から形成される基本的な仕組みと働きの概要を理解する。
到達目標	体の構造の形成過程の基本的な仕組みと働きに関する各論の概要を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高等学校レベルの生物学一般と化学一般と獣医発生学Ⅰを理解しておく必要がある。
履修上の留意点	出席を重視しており、途中で中間試験を実施し到達度の確認を行う。
概要・スケジュール	第1回：尼崎 肇 循環器系の発生・臓側中胚葉と壁側中胚葉の発生 第2回：尼崎 肇 沿軸中胚葉の発生 第3回：尼崎 肇 中間中胚葉の発生 泌尿生殖器の発生 第4回：榊山実幸 中枢神経系の発生 a神経系の発生 b神経堤の発生 第5回：榊山実幸 表面外胚葉の発生 第6回：榊山実幸 内胚葉系の発生 第7回：大石元治 内分泌系の発生とまとめ
授業期間を通して課される課題	各授業後でのチェック（質問）

科目No.	210100R2	科目区分	必修
科目名	獣医発生学Ⅱ A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	自宅で授業内容のまとめと整理を教科書を基に時間ごとに整理する。		
テキスト・参考文献他	「獣医発生学」学窓社 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠「獣医解剖・組織・発生学」学窓社		
授業形態	資料と教科書に基づく口述形式		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	100%	試験結果にて判断する
レポート試験	0%	必要に応じて評価する
平常点評価	0%	必要に応じて評価する（毎時間簡単な確認を行う）

オフィスアワー	am10:00～pm18:00 D棟 獣医解剖学教室 必要に応じて前もってアポイントが必要な場合がある。
その他	

科目No.	210110R2	科目区分	必修
科目名	獣医組織発生学実習 I	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：樺山 実幸 単位認定者：尼崎 肇		
授業のねらい	体の構造を支える細胞や組織に基本的な仕組みと働きの概要を標本の組織標本の観察を基に理解する。		
到達目標	体の構造を支える細胞や組織に基本的な仕組みと働きの概要である主に総論に関する知識を理解する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高等学校レベルの生物学一般と化学一般および獣医組織学での授業内容の一部を理解しておく必要がある。		
履修上の留意点	出席と毎回の理解度および試験を重視している。		
概要・スケジュール	第1回：尼崎 肇 組織実習標本作成法と実習ガイダンス・上皮組織 第2回：樺山実幸 支持組織 線維性結合組織 第3回：添田 聡 支持組織 軟骨組織 第4回：添田 聡 支持組織 骨組織 第5回：添田 聡 支持組織 血液組織 第6回：樺山実幸 筋組織 第7回：樺山実幸 消化器1 第8回：樺山実幸 消化器2 第9回：樺山実幸 消化器3 第10回：樺山実幸 まとめ		
授業期間を通して課される課題	各授業後でのチェック（質問）		

科目No.	210110R2	科目区分	必修
科目名	獣医組織発生学実習 I	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	自宅で授業内容のまとめと整理を教科書を基に時間ごとに整理する。		
テキスト・参考文献他	「獣医組織学 第五版」日本獣医解剖学会 編, 学窓社 「獣医組織学実習マニュアル 新版」学窓社 「獣医臨床組織学」ファームプレス(株)		
授業形態	標本を顕微鏡にて観察しスケッチする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	中間および最終試験結果を評価する
レポート試験	0%	必要に応じて評価する
平常点評価	0%	必要に応じて評価する

オフィスアワー	am10:00～pm18:00 D棟 獣医解剖学教室 必要に応じて前もってアポイントが必要な場合がある。
その他	ほとんどの評価は、最終試験とスケッチなど提出物の評価によって行う（未提出の学生には単位を認めない）。また、出席回数の足りない学生には単位を認めない。

科目No.	210120R2	科目区分	必修
科目名	獣医組織発生学実習Ⅱ	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：樺山 実幸 単位認定者：尼崎 肇		
授業のねらい	体の構造を支える細胞や組織および体の構造が配偶子から形成される基本的な仕組みと働きに関する基本的な仕組みと働きの概要を標本の観察を基に理解する。		
到達目標	体の構造を支える細胞や組織および体の構造が配偶子から形成される基本的な仕組みと働きに関する基本的な仕組みと働きの概要についての各論に関する知識を標本の観察から理解する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高等学校レベルの生物学一般と化学一般および獣医組織学と獣医発生学Ⅰ・Ⅱを理解しておく必要がある。		
履修上の留意点	出席を重視しており、毎回の理解度の確認と最終的な試験を実施し到達度の確認を行う。		
概要・スケジュール	第1回：樺山実幸 呼吸器 第2回：樺山実幸 泌尿器 第3回：樺山実幸 生殖器1 第4回：樺山実幸 生殖器2 第5回：樺山実幸 神経組織 第6回：樺山実幸 内分泌器官 第7回：添田 聡 リンパ性器官 第8回：尼崎 肇 鶏胚の観察（初期発生の観察） 第9回：尼崎 肇 マウス胚の観察（器管発生中期の観察） 第10回：樺山実幸 まとめ		
授業期間を通して課される課題	各授業後でのチェック（スケッチの確認と質問）		

科目No.	210120R2	科目区分	必修
科目名	獣医組織発生学実習Ⅱ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	自宅での授業内容のまとめと整理を教科書を基に時間ごとに整理する。		
テキスト・参考文献他	獣医組織学 第六版」日本獣医解剖学会 編, 学窓社 「獣医組織学実習マニュアル 新版」学窓社 「獣医臨床組織学」ファームプレス(株)		
授業形態	顕微鏡による標本観察とスケッチ		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	主に中間および最終試験結果、提出物で評価する
レポート試験	0%	必要に応じて評価する
平常点評価	0%	必要に応じて評価する（毎時間簡単な確認を行う）

オフィスアワー	am10:00～pm18:00 D棟 獣医解剖学教室 必要に応じて前もってアポイントが必要な場合がある。
その他	

科目No.	210130R1	科目区分	必修
科目名	獣医生理学 I B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	科目責任者：片山 健太郎, 栃木 裕貴 単位認定者：鈴木 浩悦		

授業のねらい	生理学は「生きることの理（ことわり）」を学ぶ学問である。生理学的に正常な状態から逸脱したのが病気であり、病気を理解するためには生理学の知識が必要である。生理学Iでは総論的に生理学IからIVに共通して必要な概念として細胞生理学を中心に学ぶ。
到達目標	1. 細胞の構造と機能を説明できる。 2. 遺伝子発現、細胞周期、および細胞死の過程を説明できる。 4. 細胞膜を介する物質輸送と細胞間の情報伝達の様式を分類し説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	事前に生物学の基本的な知識が習得されていることが望ましい。
履修上の留意点	各項目の最初に講義資料を配布するので、毎回の講義に持参すること。
概要・スケジュール	第1回：鈴木浩悦 生理学とは何だろうか？ 第2～3回：栃木裕貴 細胞の構造と機能 第4回：栃木裕貴 遺伝情報の発現と蛋白質合成 第5回：栃木裕貴 体細胞分裂と細胞死 第6回：片山健太郎 細胞内における物質の輸送 第7回：片山健太郎 細胞膜を介する物質輸送 第8回：栃木裕貴 細胞間と細胞内の情報伝達
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210130R1	科目区分	必修
科目名	獣医生理学 I B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	事前に当該項目の部分を参考書等で予習するか、授業プリント中の不明な用語を調べることで授業の理解に役立つ(約90分間)。講義後、講義内容を網羅したまとめ問題を配付するので、授業プリントを参照しながら解答することで講義内容の定着を目指す(60分間)。		
テキスト・参考文献他	参考図書として、ギャノン生理学(丸善)、標準生理学(医学書院)、ガイトン生理学(エルゼビア)、シンプル生理学(南江堂)、細胞の世界(西村書店)、細胞の分子生物学(ニュートンプレス)		
授業形態	主にスライドによる講義を行う他、まとめ問題の解説を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	80	定期試験
レポート試験	0	特になし
平常点評価	20	講義への出席状況

オフィスアワー	鈴木浩悦：獣医生理学教室(D棟2階) hiroetsuXnvl.u.ac.jp 火曜：13:00-15:00 片山健太郎：獣医生理学教室(D棟5階) katayamaXnvl.u.ac.jp 火曜：11:00-12:00 栃木裕貴：獣医生理学教室(D棟5階) ytochigiXnvl.u.ac.jp 火曜：11:00-12:00 (メールアドレスはXを@に変えて使用のこと)
その他	

科目No.	210140R1	科目区分	必修
科目名	獣医生理学Ⅱ	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	科目責任者：鈴木 浩悦, 片山 健太郎 単位認定者：鈴木 浩悦		

授業のねらい	生理学Ⅱでは「体液と血液」、「神経」、「感覚器」、「筋」の生理学を学ぶ
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体液の恒常性維持、血液の機能、止血の機構を説明できる。</li> <li>2. ニューロンの伝導とシナプスにおける伝達を説明できる。</li> <li>3. 中枢神経、体性神経、自律神経を区別し説明できる。</li> <li>4. 各種感覚の受容機構を説明できる。</li> <li>5. 筋を分類し、興奮収縮連関を説明できる。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	生理学Ⅰの知識が必要である。構造と機能は表裏一体であり、同時進行中の解剖学や組織学が参考になるだろう。
履修上の留意点	各項目の最初に講義資料を配布するので、毎回の講義に持参すること
概要・スケジュール	<p>第1回：鈴木浩悦 細胞の環境とホメオスタシス</p> <p>第2回：鈴木浩悦 血液の一般性状</p> <p>第3回：鈴木浩悦 赤血球の機能</p> <p>第4回：鈴木浩悦 白血球と血小板の機能、血漿の組成</p> <p>第5回：鈴木浩悦 止血の概要</p> <p>第6回：鈴木浩悦 血小板反応と血液凝固</p> <p>第7回：鈴木浩悦 血液凝固の制御系、凝固系の評価法と異常</p> <p>第8回：鈴木浩悦 神経系の構成：中枢神経、体性神経、自律神経</p> <p>第9回：鈴木浩悦 ニューロンにおける興奮の伝導と活動電位</p> <p>第10回：鈴木浩悦 シナプスの構造と機能</p> <p>第11回：鈴木浩悦 様々な反射と中枢神経系</p> <p>第12回：鈴木浩悦 体性感覚と内臓感覚</p> <p>第13回：鈴木浩悦 特殊感覚</p> <p>第14回：片山健太郎 筋の分類、骨格筋の構造と興奮収縮連関</p> <p>第15回：片山健太郎 骨格筋のエネルギー代謝と疲労、平滑筋の収縮機構</p>
授業期間を通して課される課題	各項目が終了した後に講義のまとめとして問題を配布する。各自解答を作り、次回の講義で答え合わせと解説を行う。

科目No.	210140R1	科目区分	必修
科目名	獣医生理学Ⅱ	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	事前に当該項目の部分を参考書等で予習するか、授業プリント中の不明な用語を調べることで授業の理解に役立つ(約90分間)。講義後、講義内容を網羅したまとめ問題を配付するので、授業プリントを参照しながら解答することで講義内容の定着を目指す(約60分間)。		
テキスト・参考文献他	参考図書として、哺乳類と鳥類の生理学(学窓社)、ギャノン生理学(丸善)、標準生理学(医学書院)、ガイトン生理学(エルゼビア)、シンプル生理学(南江堂)、獣医生理学(文永堂)、Dukes' Physiology of Domestic Animals (Cornell University Press)		
授業形態	主にスライドによる講義を行う。各項目の終わりにまとめ問題の解説を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	80	定期試験
レポート試験	?	定期試験で合格点に達しない場合に課すことがある。
平常点評価	20	講義への出席状況

オフィスアワー	鈴木浩悦：獣医生理学教室(D棟2階) hiroetsuXnvl.u.ac.jp (Xを@に変えて使用のこと) 火曜：13:00-15:00  片山健太郎：獣医生理学教室(D棟5階) katayamaXnvl.u.ac.jp (Xを@に変えて使用のこと) 火曜：13:00-14:00
その他	

科目No.	210150R2	科目区分	必修
科目名	獣医生理学Ⅲ	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：鈴木 浩悦, 片山 健太郎 単位認定者：鈴木 浩悦		

授業のねらい	生理学IIIでは「循環」、「泌尿器」、「呼吸」、「骨」の生理学を学ぶ
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 循環器の特性と機能、調節機構を説明できる。</li> <li>2. 腎臓の機能を理解し、腎不全の状態を説明できる。</li> <li>3. 呼吸の機序とその調節機構を説明できる。</li> <li>4. 骨の性状と機能、骨疾患について説明できる。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	生理学IおよびIIの知識が定着していることが望ましい。特に、恒常性の維持や、血液の性状、神経の基礎について理解されている前提で講義する。構造と機能は表裏一体であり、同時進行中の解剖学や組織学が参考になるだろう。
履修上の留意点	各項目の最初に講義資料を配布するので、毎回の講義に持参すること。
概要・スケジュール	<p>第1回：鈴木浩悦 循環器系の概要—心臓の構造と特性</p> <p>第2回：鈴木浩悦 心臓の電気的活動</p> <p>第3回：鈴木浩悦 心臓の機械的活動</p> <p>第4回：鈴木浩悦 心臓と循環器系の調節</p> <p>第5回：鈴木浩悦 微小循環とリンパ</p> <p>第6回：鈴木浩悦 腎臓の発生学と腎機能の概要</p> <p>第7回：鈴木浩悦 糸球体濾過</p> <p>第8回：鈴木浩悦 尿細管の機能—再吸収と分泌</p> <p>第9回：鈴木浩悦 クリアランスと糸球体濾過率、腎機能不全</p> <p>第10回：鈴木浩悦 呼吸の機序—肺換気とガス交換</p> <p>第11回：鈴木浩悦 酸素と二酸化炭素の輸送</p> <p>第12回：鈴木浩悦 呼吸の調節</p> <p>第13回：鈴木浩悦 鳥類の呼吸</p> <p>第14回：片山健太郎 骨・軟骨の発生とカルシウムの代謝機構</p> <p>第15回：片山健太郎 リンの代謝機構と骨代謝疾患</p>
授業期間を通して課される課題	各項目が終了した後に講義のまとめとして問題を配布する。各自解答を作り、次回の講義で答え合わせと解説を行う。

科目No.	210150R2	科目区分	必修
科目名	獣医生理学Ⅲ	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	事前に当該項目の部分を参考書等で予習するか、授業プリント中の不明な用語を調べることで授業の理解に役立つ(約90分間)。講義後、講義内容を網羅したまとめ問題を配付するので、授業プリントを参照しながら解答することで講義内容の定着を目指す(60分間)。		
テキスト・参考文献他	参考図書として、哺乳類と鳥類の生理学(学窓社)、ギャノン生理学(丸善)、標準生理学(医学書院)、ガイトン生理学(エルゼビア)、シンプル生理学(南江堂)、獣医生理学(文永堂)、Dukes' Physiology of Domestic Animals (Cornell University Press)		
授業形態	主にスライドによる講義を行う。各項目の終わりにまとめ問題の解説を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	80	定期試験
レポート試験	?	試験が合格点に達しない場合、レポートを課すことがある。
平常点評価	20	講義への出席状況

オフィスアワー	鈴木浩悦：獣医生理学教室(D棟2階) hiroetsuXnvl.u.ac.jp (Xを@に変えて使用のこと) 火曜：13:00-15:00  片山健太郎：獣医生理学教室(D棟5階) katayamaXnvl.u.ac.jp (Xを@に変えて使用のこと) 火曜：11:00-12:00
その他	

科目No.	210160R2	科目区分	必修
科目名	獣医生理学Ⅳ A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：鈴木 浩悦, 栃木 裕貴 単位認定者：鈴木 浩悦		
授業のねらい	生理学Ⅳでは「消化」、「内分泌系」、「生殖」、「体温調節」の生理学を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化と吸収の機構と消化管機能の制御について説明できる。</li> <li>2. 反芻動物の消化の特徴について説明できる。</li> <li>3. 内分泌系の統合と各ホルモンの機能について説明できる。</li> <li>4. 生殖に関わる諸事象について説明できる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	生理学ⅠからⅢの知識が定着していることが望ましい。特に、神経系と循環器系の基礎について理解されていることが必要である。構造と機能は表裏一体であり、同時進行中の解剖学や組織学が参考になるだろう。		
履修上の留意点	各項目の最初に講義資料を配布するので、毎回の講義に持参すること。		
概要・スケジュール	第1回：鈴木浩悦 消化管の一般的機能とその制御 第2回：鈴木浩悦 消化管運動 第3回：鈴木浩悦 胃と付属腺の分泌 第4回：鈴木浩悦 腸における消化と吸収の機構 第5回：鈴木浩悦 反芻動物の消化 第6回：栃木裕貴 内分泌学総論 第7回：栃木裕貴 内分泌各論：代謝、成長、ストレス応答 第8回：栃木裕貴 生殖生理と体温調節		
授業期間を通して課される課題	各項目が終了した後に講義のまとめとして問題を配布する。各自解答を作り、次回の講義で答え合わせと解説を行う。		

科目No.	210160R2	科目区分	必修
科目名	獣医生理学IV A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	事前に当該項目の部分を参考書等で予習するか、授業プリント中の不明な用語を調べることで授業の理解に役立つ(約90分間)。講義後、講義内容を網羅したまとめ問題を配付するので、授業プリントを参照しながら解答することで講義内容の定着を目指す(60分間)。		
テキスト・参考文献他	参考図書として、哺乳類と鳥類の生理学(学窓社)、ギャノン生理学(丸善)、標準生理学(医学書院)、ガイトン生理学(エルゼビア)、シンプル生理学(南江堂)、獣医生理学(文永堂)、Dukes' Physiology of Domestic Animals (Cornell University Press)		
授業形態	主にスライドによる講義を行う。各項目の終わりにまとめ問題の解説を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	80	定期試験
レポート試験	0	特になし
平常点評価	20	講義への出席状況

オフィスアワー	鈴木浩悦：獣医生理学教室(D棟2階) hiroetsuXnvl.u.ac.jp (Xを@に変えて使用のこと) 火曜：13:00-15:00 栃木裕貴：獣医生理学教室(D棟5階) 火曜：13:00-14:00 ytochigiXnvl.u.ac.jp (Xを@に変えて使用のこと)
その他	

科目No.	210170R3	科目区分	必修
科目名	獣医生理学実習	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：栃木 裕貴 単位認定者：鈴木 浩悦		

授業のねらい	教科書を理解し、活きた知識として身につけるためには実際に実験や観察を行って、学説の一端を確認する必要がある。獣医生理学実習では教科書や参考書の理解に役立つような歴史的に重要な実験や、将来的に他の科目の講義や実習の基礎となる代表的な実験を取り上げる。
到達目標	1. 教科書で学んだ知識を、実験を通じて活きた知識として身につける。 2. 実験的検証に必要な論理や条件について理解する。 3. 注意深く観察する態度や実験を行う際の基礎的技術を習得する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医生理学I～IV」：実習の各項目に対し、教科書で復習してから実習に臨むこと。
履修上の留意点	実習書ならびに解剖器具を携帯すること。実習室内では白衣および靴もしくは上履きを着用のごと（ヒールのある靴およびビーチサンダルは厳禁）。レポートの提出期限厳守のごと。
概要・スケジュール	<p>第1回：鈴木浩悦 実習を行うに際してのオリエンテーション  第2回：鈴木浩悦 食用蛙の解剖  第3～5回：鈴木浩悦 食用蛙を用いた心臓運動に関する実験  第6～7回：片山健太郎 骨格筋：蛙神経筋標本を用いた実験  第8回：栃木裕貴 ラットの全身解剖  第9回：栃木裕貴 内分泌：性周期に関する実験  第10回：栃木裕貴 血液：血液凝固に関する実験  第11回：栃木裕貴 内分泌：去勢手術  第12回：栃木裕貴 内分泌：去勢動物解剖  第13回：栃木裕貴 消化：消化管ホルモン抽出  第14回：栃木裕貴 消化：化学的消化  第15～16回：栃木裕貴 消化：降灌流標本を用いた実験  第17回：栃木裕貴 下垂体摘出動物の解剖および組織観察  第18～20回：栃木裕貴 電気生理：ウサギを用いた実験</p> <p>実験内容や用いる動物、実験器具等の関係から、同一の項目を連続して行うことができないものもあり、このシラバスに記載された順で必ずしも実習が行われるわけではない。その点に関しては、実習初日のオリエンテーションで渡される獣医生理学実習の日程表に十分注意してもらいたい。</p>
授業期間を通して課される課題	各単元終了後にレポート（各自）の提出ならびに小テストを実施する。また、実習終了後に総合試験を実施する。

科目No.	210170R3	科目区分	必修
科目名	獣医生理学実習	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習書を熟読しその日の実習内容を理解した上で実習に臨むこと。また、関連する項目を教科書等で予習しておくこと。		
テキスト・参考文献他	獣医生理学実習書（日本獣医生命科学大学獣医生理学教室編）、哺乳類と鳥類の生理学（学窓社）、ギャノン生理学（丸善）、その他の参考書		
授業形態	その日に行われる実習内容についての講義の後、数人の班で実験を行う。実習の一部には、講義後、デモンストレーションを行うものもある。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	30	実習終了後に総合試験を実施する。
レポート試験	50	单元ごとにレポートを課す。
平常点評価	20	出席、小テストで評価する。

オフィスアワー	鈴木浩悦：獣医生理学教室（D棟2階）hiroetsu@nvlu.ac.jp 片山健太郎：獣医生理学教室（D棟5階）katayama@nvlu.ac.jp 栃木裕貴：獣医生理学教室（D棟5階）ytochigi@nvlu.ac.jp （Xを@に変えて使用のこと） 実習期間中は午前中のみ対応となります。Eメールにて面接を予約すること（月～金 午前中のみ）。
その他	

科目No.	210180R1	科目区分	必修
科目名	獣医生化学 I B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	科目責任者：新井 敏郎, 川角 浩 単位認定者：新井 敏郎		

授業のねらい	生化学は生命現象を化学的に分子レベルで解明する学問である。生体を構成する物質の構造、性質、機能、分布、存在様式などから物質の生化学的機能を理解することを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体を構成する分子の種類とその構成単位に関する基礎知識を理解する。</li> <li>2. 生体における化学反応を触媒する酵素の作用を理解する。</li> <li>3. 生体構成分子の代謝の概要と生命維持に必要な生体エネルギーの産生に関する基礎知識を理解する。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回：新井敏郎 電解質と緩衝液 第2回：新井敏郎 生体の構成分子 第3回：新井敏郎 細胞の構造、糖質の構造 第4回：新井敏郎 タンパク質の構造と性質 第5回：新井敏郎ヌクレオチド・核酸の構造 第6回：新井敏郎 代謝の概観と酵素 第7回：新井敏郎 酵素の分類と酵素反応の特徴 第8回：川角 浩 酵素反応速度論
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210180R1	科目区分	必修
科目名	獣医生化学 I B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために次回の講義で取り扱う項目を事前にテキストで確認しておくこと（20～30分） 復習として毎回のテーマについて200～300文字程度にまとめておく（40～60分）		
テキスト・参考文献他	獣医生化学（コアカリ対応）テキストを配布 参考書：ハーパー生化学（丸善） 参考書：獣医生化学（斎藤昌之他編集、朝倉書店）		
授業形態	テキストを中心に講義、適宜プリントを配布		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80	学期末にペーパー試験を実施し評価する。
レポート試験	0	評価は定期試験と平常点評価を総合して行う。
平常点評価	20	授業中に小テストを複数回実施する。

オフィスアワー	新井敏郎：獣医生化学研究室（D棟4階） tarai@nvlu.ac.jp （Xの代わりに@） 月曜日 16:00～18:00、水曜日 16:00～18:00は原則として研究室にいますのでEメールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	210190R2	科目区分	必修
科目名	獣医生化学Ⅱ	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：新井 敏郎, 川角 浩 単位認定者：新井 敏郎		

授業のねらい	獣医生化学Ⅱに引き続いて栄養成分（糖質、脂質、タンパク質）の代謝について概説する。代謝の臓器分とその相関、動物種特有の代謝機構から様々な疾病の発症メカニズムを生化学的に理解することを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養成分の代謝について理解する。</li> <li>2. 代謝の臓器分担とその相関および動物種特有の代謝機構について理解する。</li> <li>3. 肥満、糖尿病、ガンを対象として、それぞれの生化学的変化から発症メカニズムを理解する。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医生化学Ⅰの基礎知識を十分に理解しておくこと。
履修上の留意点	獣医生化学Ⅰで使用したテキストを携帯すること。
概要・スケジュール	第1回新井敏郎 糖質の代謝1 解糖、糖新生 第2回新井敏郎 糖質の代謝2 ペントースリン酸経路、グリコゲン代謝 第3回新井敏郎 クエン酸回路と酸化リン酸化 第4回新井敏郎 脂質の代謝1 脂肪酸の合成 第5回新井敏郎 脂質の代謝2 脂肪酸分解、ケトン体生成 第6回川角 浩 アミノ酸と窒素化合物の代謝1 アミノ酸の合成と分解 第7回川角 浩 アミノ酸と窒素化合物の代謝2 尿素回路、ヌクレオチド代謝 第8回川角 浩 代謝の臓器分担と相関1 代謝の臓器相関 第9回川角 浩 代謝の臓器分担と相関2 主要臓器の代謝特性とその役割 第10回 川角 浩 動物特有の代謝機構 第11回 川角 浩 臨床生化学（肥満の生化学） 第12回 川角 浩 臨床生化学（ガンの生化学） 第13回 新井敏郎 遺伝情報と発現 第14回 新井敏郎 細胞間情報伝達 第15回 川角 浩 組換えDNA技術
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210190R2	科目区分	必修
科目名	獣医生化学Ⅱ	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために次回の講義で取り扱う項目を事前にテキストで確認しておくこと（20～30分） 復習として毎回のテーマについて200～300文字程度にまとめておく（40～60分）		
テキスト・参考文献他	獣医生化学（コアカリ対応）テキストを配布 参考書：ハーパー生化学（丸善） 参考書：獣医生化学（朝倉書店）		
授業形態	テキストを中心に講義する。適宜プリントを配布する。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80	学期末にペーパー試験を実施し評価する。
レポート試験	0	評価は定期試験の結果および平常点評価を総合して行う。
平常点評価	20	授業中に小テストを複数回実施する。

オフィスアワー	新井敏郎：獣医生化学研究室（D棟4階） tarai@nvlu.ac.jp（Xの代わりに@） 月曜日 16:00～18:00、水曜日 16:00～18:00 原則として研究室にいますのでEメールにて受付、面接を予約
その他	

科目No.	210200R2	科目区分	必修
科目名	獣医生化学Ⅲ A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：新井 敏郎 単位認定者：新井 敏郎		
授業のねらい	獣医生化学IIIでは主に組換えDNA技術について学習する。組換えDNA技術は診断および病態の解析にも用いられる高度な技術である。授業では基礎的な知識を詳細かつ分かりやすく説明し、理解を深めることを目標とする。		
到達目標	「制限酵素とDNAリガーゼを説明できる」「遺伝子クローニングを説明できる」「DNA塩基配列決定法を説明できる」「DNA・RNAの検出法を説明できる」「ポリメラーゼ連鎖反応（PCR）を説明できる」		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医生化学I」「獣医生化学II」の基礎知識を確認してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点	授業中の発言・質疑など、主体的に授業に参加すること。テキスト・スライドを用いて講義を行う。		
概要・スケジュール	<p>テキストを用いるため、初回までに準備しておくこと。</p> <p>第1回 新井敏郎 核酸の基礎知識  第2回 新井敏郎 核酸の調整  第3回 川角 浩PCR法  第4回 川角 浩遺伝子クローニング  第5回 川角 浩塩基配列の決定法（DNAシーケンス法）  第6回 川角 浩遺伝子機能の解析  第7回 川角 浩発生工学（1）  第8回 川角 浩発生工学（2）</p>		
授業期間を通して課される課題	中間・最終テストを行う。事前に時期・内容等について説明するので注意すること。		

科目No.	210200R2	科目区分	必修
科目名	獣医生化学Ⅲ A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	各授業につき予習（90分）・復習（90分）を行うこと		
テキスト・参考文献他	テキスト：新バイオテクノロジーテキストシリーズ遺伝子工学 第2版 村山 洋 講談社 を初回授業までに用意しておくこと。スライド：講義スライドはサーバー 学生／授業事前資料／やまも 山本一郎／獣医生化学IIIフォルダにある（学外への公開は禁ずる）		
授業形態	教室内での講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	50	中間・最終試験を行う（時期等は事前にアナウンスする）
レポート試験	0	レポートは実施しない
平常点評価	50	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	山本一郎：獣医生化学教室（D棟4階） ichiroy×nvl.u.ac.jp （×の代わりに@）。Eメールにて受付後、面接を予約（平日16:00～17:00）。
その他	

科目No.	210210R3	科目区分	必修
科目名	獣医生化学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：山本 一郎 単位認定者：新井 敏郎		

授業のねらい	獣医学が対象とする生命現象を分子レベルの化学反応として理解するのが生化学である。本実習は生体内の種々の化学反応を解析・分析するための基礎技術力を養うとともに、組換えDNAを扱うための分子生物学的技術も習得することを目標とする。
到達目標	「実験器具、実験機器を適正に用いることができる」 「実験の作業工程およびデータを適正に記録、表記することができる」 「環境および安全に配慮して実験を行うことができる」
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医生化学I」「獣医生化学II」「獣医生化学III」「獣医遺伝子工学」の基礎知識を確認してから実習に臨むこと。
履修上の留意点	実習開始一週間前に実習教室扉等に開始時間、詳細なスケジュール、必要なもの、注意等を掲示するので確認すること。実習中に分からないことがあればその都度、教員等に確認すること
概要・スケジュール	前半は生化学的な実習、後半は組換えDNA技術を中心とした実習を行う。白衣、保護メガネ、実験データを保存するためのUSBメモリーを準備すること。各自必要であればノートパソコンの携帯・使用も許可する。 第1回 川角 浩 分光光度測定と比色定量法 第2回 川角 浩 タンパク質の定量法（ビウレット法、色素結合法） 第3回 川角 浩 血糖値の測定 第4回 川角 浩 酵素活性の測定と酵素速度のパラメーター（1） 第5回 川角 浩 酵素活性の測定と酵素速度のパラメーター（2） 第6回 山本一郎 ポリアクリルアミドゲル電気泳動によるタンパク質の分析 第7回 山本一郎 血中タンパク質のELISAによる定量法 第8回 山本一郎 動物ゲノムDNAを用いたPCR法と電気泳動法 第9回 山本一郎 PCR産物とプラスミドDNAのDNAリガーゼ処理 第10回 山本一郎 プラスミドDNAによる大腸菌の形質転換
授業期間を通して課される課題	全実習終了後、実習についてのレポートの提出を求める。期日厳守。

科目No.	210210R3	科目区分	必修
科目名	獣医生化学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	特に指定しないが、内容の理解を深めるため次回の実習内容のテキストを事前に読み、当日行った実習の実験結果についてのレポートを作成しておくことよい		
テキスト・参考文献他	テキスト：実習用テキストを配布する。講義スライド：実習で用いるスライドは事前に公開する（ファイル保存場所： 学生／授業事前資料／やまも 山本一郎／獣医生化学実習スライド。スライドは学外に公開しないことを条件として閲覧を許可する）		
授業形態	教室内での講義と実習を行う。実習は4～8名程度の小班単位で行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験を実施しない
レポート試験	50	学期末にて全実習のレポートを課す
平常点評価	50	出席、小テスト、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する
オフィスアワー	山本一郎：獣医生化学教室（D棟4階） ichiroy@nvl.u.ac.jp （×の代わりに@）。Eメールにて受付後、面接を予約（平日16:00～17:00）。	
その他		

科目No.	210220R2	科目区分	必修
科目名	獣医遺伝子工学 B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	山本 一郎		

授業のねらい	遺伝子工学は生化学とは異なり、学問というより様々な生命現象を解き明かすための技術である。本授業は技術解説を中心に複数の研究者がそれぞれの研究・業務内容の発表を行い、獣医生化学IIIで学んだ遺伝子工学の実際に触れる場としたい。
到達目標	「遺伝子工学の重要性を理解して説明できる」 「最新の研究に用いられる技術を理解して説明できる」
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医生化学I」「獣医生化学II」「獣医生化学III」の基礎知識を確認してから履修に臨むこと。
履修上の留意点	授業中の発言・質疑など、主体的に授業に参加すること。
概要・スケジュール	主に幅広く遺伝子工学を用いて研究を行っている研究者に講義を依頼する予定である。研究者には以下の内容で授業を行っていただくが予定が変更されることもある。その場合は事前に連絡する。授業内容が多様なため、授業の前週に授業内容の要旨を配布するので予習教材として活用すること。 第1回：新井敏郎 ウイルス工学と遺伝子工学 第2回：新井敏郎 遺伝子改変技術と突然変異動物の解析 第3回：新井敏郎 遺伝子工学を用いたペプチドフェロモンの地域個体群変異の研究 第4回：新井敏郎 メダカのテロメア・テロメレース研究 第5回：山本一郎 犬リンパ系腫瘍における癌抑制遺伝子p16のジェネティックおよびエピジェネティックな異常 第6回：山本一郎 遺伝子工学と再生医療 第7回：山本一郎 分子生物学的手法を用いた遺伝子機能解析 第8回：山本一郎 網羅的遺伝子発現解析からみえてきた繁殖期を知らせる遺伝子たち
授業期間を通して課される課題	全講義終了後、講義についてのレポート課題の提出を求める。期日厳守。提出方法については別途提示する。

科目No.	210220R2	科目区分	必修
科目名	獣医遺伝子工学 B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため次回の講義で取扱う要旨を事前に読み、キーワード等について予習する (90分) 授業後は各講演者の講演内容についてのレポートを作成すること (90分)		
テキスト・参考文献他	参考資料：授業毎に次回講演者の要旨をプリントして配布する。		
授業形態	教室内で講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験を実施しない
レポート試験	52	全8回終了後全講義のレポートを課す
平常点評価	48	出席、小テスト、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	山本一郎：獣医生化学教室 (D棟4階) ichiroy@nvl.u.ac.jp (×の代わりに@)。Eメールにて受付後、面接を予約 (平日16:00~17:00)。
その他	

科目No.	210230R2	科目区分	必修
科目名	獣医薬理学 I	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：金田 剛治 単位認定者：金田 剛治		

授業のねらい	この授業の前半は、総論として薬力学（薬理作用）、薬物動態学および薬の有害作用について学ぶ。また、この授業の後半は、各論として中枢神経系に作用する薬物について学ぶ。
到達目標	薬物の基本的な機序および作用の強さ、また生体内における薬の動きとそれに関与する要因について、また薬の有害作用について発現理由を説明できるようになる。中枢神経系に作用する薬物の薬理作用、機序、副作用、臨床応用、動物種差を説明できるようになることである。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	薬理学で学ぶ内容は、生理学・生化学と共通する内容がある。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回：金田剛治 薬と薬理学 第2回：金田剛治 作用の基本形式 第3回：金田剛治 用量反応関係 第4回：金田剛治 相互作用 第5回：金田剛治 薬の作用の強さと持続時間を変化させる要因 第6回：金田剛治 薬の体内動態と薬理作用 第7回：金田剛治 生体内変化 第8回：金田剛治 薬の生体内での運命 第9回：金田剛治 中間試験 第10回：金田剛治 薬の有害作用 第11回：金田剛治 全身麻酔薬 第12回：金田剛治 注射麻酔薬 第13回：金田剛治 鎮静薬 第14回：金田剛治 鎮痛薬 第15回：金田剛治 中枢興奮薬
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210230R2	科目区分	必修
科目名	獣医薬理学 I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容で理解できなかった内容は、授業終了後、質問するなどしてなるべく早く解決するよう心がけてほしい。薬理学で学ぶ内容は、1つ1つ、つながっており、1つの不理解は他の課目の不理解につながる。		
テキスト・参考文献他	テキスト：獣医薬理学 日本比較薬理学・毒性学会編 近代出版 参考図書：家畜薬理学 吐山著 養賢堂出版 小動物の薬物治療学 尾崎・浅井・辻元 編 オーム社		
授業形態	授業形式を基本として、教科書とプリントを中心に講義を行い、時にはスライドによって学習する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%を予定	学期末に定期試験（筆記試験）を行う
レポート試験	20%を予定	期間中に中間試験（筆記試験）を実施する
平常点評価	0%	平常点はないが、出席の代わりとして小テストを実施する場合がある。
オフィスアワー	金田剛治：獣医薬理学教室（D棟4階） t-kaneda@nvl.u.ac.jp（原則 火曜16:00-17:30）Eメールあるいは授業直後に受付または面談を予約（アドレスは×を@に変えて使用すること）	
その他		

科目No.	210240R3	科目区分	必修
科目名	獣医薬理学Ⅱ	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：金田 剛治, 田島 剛 単位認定者：金田 剛治		
授業のねらい	末梢神経系を分類し、臓器ごとに神経伝達物質、受容体、神経興奮に伴う作用の現れ方を理解し、関連する薬物について学習する。また、代表的なオータコイドとその受容体を列挙し、受容体が興奮したときの作用の現れ方について理解し、関連する薬物について学習する。		
到達目標	1. 末梢神経系の伝導、伝達に関連する薬物をあげ、薬理作用、機序、臨床応用、動物種差を説明できる。(コアカリ1-9-(5)関連) 2. 代表的なオータコイドとその受容体に関連する薬物をあげ、薬理作用、機序、臨床応用、動物種差を説明できる。(コアカリ1-9-(7)関連)		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	薬理学I、生理学の内容は理解している前提で講義を進める。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回：清水一政 末梢神経系概論 第2回：清水一政 局所麻酔薬 第3回：清水一政 副交感神経系に作用する薬物(1) コリン作動薬 第4回：清水一政 副交感神経系に作用する薬物(2) 抗コリン作動薬 第5回：清水一政 交感神経系に作用する薬物(1) アドレナリン作動薬 第6回：清水一政 交感神経系に作用する薬物(2) 抗アドレナリン作動薬 第7回：清水一政 神経節に作用する薬物、筋弛緩薬 第8回：清水一政 ヒスタミン、セロトニンに関連する薬物 第9回：金田剛治 血漿キニン・アンジオテンシンに関連する薬物 第10回：田島 剛 アラキドン酸代謝産物に関連する薬物 第11回：田島 剛 ケミカルメディエーターに関連する薬物 第12回：田島 剛 抗炎症薬 第13回：金田剛治 循環系に作用する薬物 第15回：金田剛治 循環系に作用する薬物		
授業期間を通して課される課題	講義内容に関して小テスト、レポートを課すことがある。		

科目No.	210240R3	科目区分	必修
科目名	獣医薬理学Ⅱ	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義前には教科書や資料に目を通し、内容（含む生理学の履修内容）を確認しておく。（30分程度） 講義後は、学習内容や不明な点を整理しておくこと。（60分程度） 扱った薬物がどのように使用されているか調べてみるのもよい。		
テキスト・参考文献他	テキスト：獣医薬理学（近代出版） 参考文献：グッドマン・ギルマン薬理書（廣川書店）、NEW薬理学（南江堂）、病態生理に基づく臨床薬理学（MEDSi）		
授業形態	板書あるいはパワーポイントによる講義。資料を配付することがある。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	90	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0	講義中にレポートを課した場合は平常点として評価する。
平常点評価	10	出席状況、レポート等を総合的に評価する

オフィスアワー	清水：獣医薬理学（D棟4階）k-shimizu×nvl.u.ac.jp 金田：獣医薬理学（D棟4階）t-kaneda×nvl.u.ac.jp 田島：獣医薬理学（D棟4階）t-tajima×nvl.u.ac.jp 原則として火曜16:00～17:30。授業後またはEメールにて面接を予約。（アドレスは×を@に変えて使用すること）
その他	

科目No.	210250R3	科目区分	必修
科目名	獣医薬理学Ⅲ A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：金田 剛治, 田島 剛 単位認定者：金田 剛治		
授業のねらい	薬理学Ⅲは基礎薬理学の原理と「疾病」をふまえて、動物の臓器・器官ごとの薬理的な基礎知識を再確認するとともに、動物医療に用いられてきた薬物の作用やその使用法等について学び、薬物の適切かつ安全な使用の確保のための知識を習得することを目的とする。		
到達目標	各項目で学んだ薬物について対象疾患の病態、代表的な治療薬の薬理作用、機序、臨床応用および副作用について説明できるようになる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医薬理学Ⅰ」および「獣医薬理学Ⅱ」で学んだ内容を確認してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回：田島 剛 消化器機能に影響する薬物 第2回：田島 剛 消化器機能に影響する薬物 第3回：田島 剛 免疫機能に影響する薬物 第4回：金田剛治 呼吸器系に作用する薬物 第5回：金田剛治 血液に作用する薬物 第6回：金田剛治 利尿薬 第7回：金田剛治 内分泌系に作用する薬物/消毒薬 第8回：金田剛治 まとめ		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210250R3	科目区分	必修
科目名	獣医薬理学Ⅲ A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	「獣医薬理学Ⅰ」と「獣医薬理学Ⅱ」に比べ、履修内容が多いので、授業終了後は、必ずプリントと教科書などを読み直し知識を整理しておくこと（20-30分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：獣医薬理学 日本比較薬理学・毒性学会編（近代出版） 参考図書：小動物の薬物治療学 尾崎・浅井・辻本編（オーム社）		
授業形態	授業形式を基本として時にはスライドおよびプリントによって学習する。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	90%	授業最終日に筆記試験を実施する
レポート試験	10%	学期中に小テストあるいはレポートを課す予定
平常点評価	0%	なし

オフィスアワー	金田剛治：獣医薬理学教室（D棟4階） t-kaneda@nvl.u.ac.jp（原則 火曜16：00-17：30）Eメールあるいは授業直後に受付または面談を予約 田島 剛：t-tajima@nvl.u.ac.jp（アドレスは×を@に変えて使用すること）		
その他			

科目No.	210260R3	科目区分	必修
科目名	獣医薬理学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：田島 剛 単位認定者：金田 剛治		
授業のねらい	様々な実験手技を通じて薬物の反応を多角的に観察・考察することで、薬物の作用の現れ方や作用機序に関する基礎知識を修得するとともに、生体反応を総合的に理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理学で用いられる基本的な実験手技を習得する。</li> <li>2. 得られた実験データを正しく解釈できる。</li> <li>3. 使用した薬物の体内動態や作用のメカニズムについて説明できる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	薬理学I～IIIおよび臨床薬理学および生理学の内容を復習しておくこと。		
履修上の留意点	動物アレルギーがある学生は事前に教員に相談すること。実習時には白衣、解剖セット、レポート作成用ノート（A4）が必要。薬理学や生理学の資料を持参することを推奨。		
概要・スケジュール	第1回：金田剛治 薬理学実習総論（実験動物の取扱い、試薬の調整、薬物投与方法、倫理） 第2回：金田剛治 動物の行動に対する薬物の影響 第3回：田島 剛 自律神経と平滑筋に作用する薬物 第4回：田島 剛 薬の標的分子と用量反応関係 第5回：田島 剛 副交感神経系に作用する薬物 第6回：金田剛治 交感神経系に作用する薬物 第7回：田島 剛 オータコイドに関連する薬物 第8回：田島 剛 運動神経と骨格筋に作用する薬物 第9回：金田剛治 中枢神経系に作用する薬物 第10回：金田剛治 呼吸及び循環に作用する薬物		
授業期間を通して課される課題	全実習終了後にレポートを提出する。詳細は実習中に指示。		

科目No.	210260R3	科目区分	必修
科目名	獣医薬理学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実験によっては待ち時間が生じるものもあるので、時間を効率よく使って学習すること。		
テキスト・参考文献他	テキスト：薬理学・毒性学実験（文永堂出版） 参考文献：獣医薬理学（近代出版）、グッドマン・ギルマン薬理書（廣川書店）、NEW薬理学（南江堂）		
授業形態	実習講義後、各班に分かれて実験を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない。
レポート試験	90	実習終了後に全項目についてレポートを提出する。
平常点評価	10	小テスト、質疑応答、参加態度などを総合して評価する。

オフィスアワー	金田：獣医薬理学（D棟4階）t-kaneda×nvl.u.ac.jp 田島：獣医薬理学（D棟4階）t-tajima×nvl.u.ac.jp 原則として火曜16:00～17:30。授業後またはEメールにて面接を予約。 （アドレスは×を@に変えて使用すること）
その他	

科目No.	210270R2	科目区分	必修
科目名	獣医遺伝・動物育種学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：鈴木 浩悦, 片山 健太郎 単位認定者：鈴木 浩悦		

授業のねらい	獣医遺伝・動物育種学では、DNAに生じた変化・突然変異が細胞、個体および集団に及ぼす影響について理解し、動物の育種改良および遺伝性疾患への対処の際に必要なとされる知識の修得を目指す。
到達目標	1. 突然変異の原因・種類・影響に関して理解する。 2. 様々な遺伝様式に関して、特徴とその遺伝様式を生じさせる分子機構を説明出来る。 3. 動物の遺伝形質・遺伝性疾患の特徴を理解し、遺伝性疾患への適切な対処方法を論じることが出来る。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回：片山健太郎 ゲノムの構成と遺伝子 第2回：片山健太郎 DNAの複製と修復 第3回：片山健太郎 突然変異の種類と影響 I 第4回：片山健太郎 突然変異の種類と影響 II 第5回：片山健太郎 遺伝様式を決定する分子機構 第6回：片山健太郎 ゲノムインプリンティング 第7回：片山健太郎 多因子遺伝性疾患 第8回：片山健太郎 遺伝性疾患の解析方法 第9回：片山健太郎 動物育種学の基礎 第10回：鈴木浩悦 実験動物と遺伝学 第11回：栃木裕貴 ヒトの遺伝性疾患 I 第12回：栃木裕貴 ヒトの遺伝性疾患 II 第13回：片山健太郎 産業動物の遺伝性疾患 第14回：片山健太郎 伴侶動物の遺伝性疾患 第15回：片山健太郎 獣医遺伝・動物育種学のまとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210270R2	科目区分	必修
科目名	獣医遺伝・動物育種学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	各回の講義の最後に次回の講義テーマをアナウンスするので、教科書等で予習をすること（60分）。復習として、各回（各テーマ）ごとにまとめを作成すること（90分）		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業のテーマごとにプリントを配布する。 指定の参考書は無いが、講義の最初の回に市販の遺伝学の教科書を紹介を行う。		
授業形態	各回ごとにテーマを定めて講義を行う。また、必要に応じて、理解を助けるための小テスト、およびその解説を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	95%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	特別な事情が無い限りレポートは課さない。
平常点評価	5%	出席カードによる出欠確認。

オフィスアワー	片山健太郎：獣医生理学教室 (D棟5階) katayamaXnvl.u.ac.jp (火曜：13:00-14:00) 鈴木浩悦：獣医生理学教室 (D棟2階) hiroetsuXnvl.u.ac.jp (火曜：13:00-15:00) 栃木裕貴：獣医生理学教室 (D棟5階) ytochigiXnvl.u.ac.jp (火曜：13:00-14:00) (メールアドレスはXを@に変えて使用のこと)
その他	

科目No.	210280R2	科目区分	必修
科目名	動物行動学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：中田 友明 単位認定者：横須賀 誠		

授業のねらい	動物行動学では、動物の行動に関する基礎的な考え方と基本法則を習得することを目的とする。また、動物の行動変容と学習理論の基礎を理解することで、4年次に別途開講される臨床行動学の基礎について理解することを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動物の行動の進化、行動の発達、行動の周期性の基礎を理解して説明出来る。</li> <li>2. 行動の動機づけと情動の関連性を理解して説明できる。</li> <li>3. 動物の行動に影響する脳内生体物質の基礎的な作用について理解して説明できる。</li> <li>4. アニマルウェルフェアの行動学的評価方法を理解して説明できる。</li> <li>5. 動物の行動変容と学習理論について理解して説明できる。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 動物行動学をテキストとして携帯すること。次回の講義おける「授業事前資料」が指示された場合は、授業前に手元に準備しておくこと。
概要・スケジュール	第1回：横須賀誠 動物行動学の基本概念 第2回：中田友明 行動の進化 第3回：中田友明 行動の発達 第4回：中田友明 行動の周期性 第5回：横須賀誠 行動に影響する生体物質 第6回：横須賀誠 行動の動機づけと情動系 第7回：横須賀誠 コミュニケーション行動（1） 第8回：横須賀誠 コミュニケーション行動（2） 第9回：横須賀誠 生殖行動 第10回：横須賀誠 社会行動 第11回：横須賀誠 維持行動 第12回：横須賀誠 行動学研究 第13回：入交眞巳 行動変容と学習理論 第14回：入交眞巳 アニマルウェルフェア 第15回：入交眞巳 臨床行動学（獣医行動治療学）の基礎
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210280R2	科目区分	必修
科目名	動物行動学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため、講義で取り扱う内容について（授業事前資料などを用いて）事前に目を通しておくこと（20分）。 復習として、毎回の授業テーマについて見直しておくこと（60分）。		
テキスト・参考文献他	獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 動物行動学 （インターズー）		
授業形態	講義室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	—	必要な場合は実施する
平常点評価	—	平常点としての加点は無いが、学則に則り出席が3分の2に達していない者は、定期試験を受験させない。

オフィスアワー	横須賀誠 病態獣医学部門・病態解析学分野（旧・比較動物医学）（D棟1階） mayokosuka@nvlu.ac.jp 講義の前後、あるいはEメールにて面接を予約のこと（月曜16:00～17:00）
その他	動物行動学に関連した学会、シンポジウムなどの情報を提供します。

科目No.	210290R2	科目区分	必修
科目名	実験動物学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：横須賀 誠 単位認定者：横須賀 誠		
授業のねらい	実験動物学では、動物実験に使用される動物の特性およびその飼育管理・疾病・遺伝子改変技術に関する基礎的な考え方を習得することを目的とする。また、動物を科学上の目的に使用することの倫理、関連する法律についても理解することを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主な実験動物の特性およびその飼育管理・疾病について理解して説明出来る。</li> <li>2. 実験動物に関する法令について理解して説明出来る。</li> <li>3. 動物実験の意義を理解し、有用な点と問題点を議論できる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 実験動物学をテキストとして携帯すること。次回の講義おける「授業事前資料」が指示された場合は、授業前に手元に準備しておくこと。		
概要・スケジュール	第1回：横須賀誠 総論、実験動物学と動物実験、適正な動物実験（意義、外挿、倫理） 第2回：横須賀誠 動物の取り扱い、個体識別、飼料採取 第3回：横須賀誠 実験動物の成立と系統・各実験動物の特性 第4回：横須賀誠 実験動物の特性1（小型齧歯類）（横須賀） 第5回：横須賀誠 各実験動物の特性2（ハムスター、スナネズミ。スunks、マストミス） 第6回：中田友明 各実験動物の特性3（ウサギ、モルモット） 第7回：中田友明 各実験動物の特性4（哺乳類・鳥類以外） 第8回：横須賀誠 各実験動物の特性5（サル類） 第9回：横須賀誠 実験動物の飼育管理 第10回：横須賀誠 実験動物の感染症1（人畜共通感染症） 第11回：横須賀誠 実験動物の感染症2（細菌病、ウイルス病、その他） 第12回：中田友明 実験動物の遺伝的コントロール1（育種） 第13回：中田友明 実験動物の遺伝的コントロール2（維持生産） 第14回：中田友明 実験動物の遺伝的コントロール3（モニタリング） 第15回：中田友明 実験動物の輸送		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210290R2	科目区分	必修
科目名	実験動物学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため、講義で取り扱う内容について（授業事前資料などを用いて）事前に目を通しておくこと（20分）。 復習として、毎回の授業テーマについて見直しておくこと（60分）。		
テキスト・参考文献他	モデル・コア・カリキュラム準拠 実験動物学（朝倉書店）		
授業形態	講義室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	—	必要な場合は実施する
平常点評価	—	平常点としての加点は無いが、学則に則り出席が3分の2に達していない者は、定期試験を受験させない。

オフィスアワー	横須賀誠 病態獣医学部門・病態解析学分野（旧・比較動物医学）（D棟1階） mayokosuka@nvlu.ac.jp 講義の前後、あるいはEメールにて面接を予約のこと（月曜16:00～17:00）
その他	実験動物学に関連した学会、シンポジウムなどの情報を提供します。

科目No.	210300R2	科目区分	必修
科目名	実験動物学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：畠山 仁 単位認定者：横須賀 誠		
授業のねらい	実験動物として使用数が多い動物種（ラット、マウス、ウサギ、モルモット、ウズラ）、ならびにヒトの運動・記憶・疾患の研究のために欠かせないサル類について、「実験動物学」の講義だけでは習得できない、実際の取扱や研究方法を実習を通じて習得することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マウス、ラット、モルモット、ウサギの取り扱い方法について理解する</li> <li>2. マウスの基礎的な行動解析法を理解して説明できる</li> <li>3. 3Rおよびアニマルウェルフェアを意識して、考え方を整理して、問題点や改善方法を議論できる</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	<p>白衣を準備し実習中は必ず着用する。</p> <p>実習中の事故や感染防止のため運動靴を着用すること。スリッパなど露出度が大きい履き物、ハイヒールなどでの実習参加は認めない。</p>		
概要・スケジュール	<p>第1回：横須賀誠 実験動物実習の概要</p> <p>第2回：横須賀誠 実験動物の取り扱い「マウス」</p> <p>第3回：中田友明 実験動物の取り扱い「ラット」</p> <p>第4回：中田友明 実験動物の取り扱い「ウサギ」</p> <p>第5回：中田友明 実験動物の取り扱い「モルモット」</p> <p>第6回：横須賀誠 実験動物の取り扱い「ウズラ」</p> <p>第7回：横須賀誠 実験動物の飼育管理「サル類」</p> <p>第8回：畠山 仁 マウスの行動観察と解析</p> <p>第9回：畠山 仁 実験動物の脳標本の観察・脳定位固定装置の使用法</p> <p>第10回：中田友明 遺伝子モニタリング</p>		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210300R2	科目区分	必修
科目名	実験動物学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため、実習で取り扱う内容について実習テキストに事前に目を通しておくこと（20分）。 復習として、毎回の実習テーマについて見直しておくこと（60分）。		
テキスト・参考文献他	担当教室作成の実習テキスト モデル・コア・カリキュラム準拠 実験動物学（朝倉書店）		
授業形態	実習室での講義と実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	実習最終日に実習内容に関する試験を実施する
レポート試験	20%	各実習毎にレポート課題を課す
平常点評価	—	平常点としての加点は無いが、学則に則り出席が3分の2に達していない者は、実習試験を受験させない。実習の単位認定も行わない。

オフィスアワー	横須賀誠 病態獣医学部門・病態解析学分野（旧・比較動物医学）（D棟1階） mayokosuka@nvlu.ac.jp 講義の前後、あるいはEメールにて面接を予約のこと（月曜16:00～17:00）
その他	実験動物学に関連した学会、シンポジウムなどの情報を提供します。

科目No.	210310R3	科目区分	必修
科目名	放射線生物学 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：田崎 弘之 単位認定者：藤田 道郎		

授業のねらい	電離放射線が生物におよぼす作用の知識の習得を目的とする。 また放射線が何故、抗腫瘍治療として用いられているか、その知識の習得を目的とする。 さらに放射線防護の知識の習得も目的とする。
到達目標	1. 電離放射線が生物におよぼす作用について理解する。 2. X線が放射線治療として用いられている理由について理解する。 3. 放射線障害および放射線防護について理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 田崎弘之放射線物理 第2回 田崎弘之計測と単位 第3回 藤田道郎電離放射線による分子・細胞レベルの作用 第4回 藤田道郎電離放射線による組織・生体レベルの作用 第5回 藤田道郎電離放射線の効果に影響を与える因子、放射線障害と放射線防護について 第6回 藤原亜紀腫瘍に対する放射線の作用(1) 第7回 藤原亜紀腫瘍に対する放射線の作用(2) 第8回 藤原亜紀放射線治療
授業期間を通して課される課題	放射線生物学は放射線治療を行う上で必ず理解しなければならない学問である。 授業終了後の試験では、その点を確認することを覚えておいて欲しい。

科目No.	210310R3	科目区分	必修
科目名	放射線生物学 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業中に配布するスライド資料をしっかりと理解しておくことが重要である。		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業中に配布するスライド資料 参考書：放射線生物学（裳華房社） 放射線生物学（秀潤社）		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	レポートを課す予定は今のところない。
平常点評価	10%	出席、授業態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー	藤田道郎：獣医放射線学教室（D棟2階） mfujita@nvl.u.ac.jp メールで随時受け付け 藤原亜紀：獣医放射線学教室（D棟2階） 月曜・水曜午後 田崎弘之：生体分子化学教室（D棟5階） 木曜13時～14時
その他	次年度より、田崎弘之5回、佐藤稲子2回、藤田道郎1回担当

科目No.	210320R2	科目区分	必修
科目名	獣医病理学 I B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：高橋 公正 単位認定者：高橋 公正		

授業のねらい	獣医学における病理学の役割、および様々な原因によって起きる生体の病的変化について、細胞レベル、組織レベル、器官レベルで理解する。
到達目標	病的変化は大きく退行性変化と増殖性変化に分けられることを学び、かつそのメカニズムを説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	生物学、獣医解剖学、獣医生理学の知識が必要である。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回：高橋公正 病理学の歴史と役割 第2回：高橋公正 細胞の構造、小器官の役割 第3回：高橋公正 細胞死（ネクロシスとアポトーシス） 第4回：高橋公正 細胞傷害・代謝異常による形態的变化（1） 第5回：高橋公正 細胞傷害・代謝異常による形態的变化（2） 第6回：高橋公正 細胞・組織の適応と再生 第7回：高橋公正 循環障害（1） 第8回：高橋公正 循環障害（2）
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210320R2	科目区分	必修
科目名	獣医病理学 I B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業 15 時間 + 授業外学修時間 (予習・復習) 30 時間 = 必要学習時間 45 時間		
テキスト・参考文献他	教科書 : 「動物病理学総論」日本獣医病理学会編 参考書 : 「動物病理カラーアトラス」日本獣医病理学会編 教員作成プリント		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	正答率60%以上を合格とする。
レポート試験	0%	-
平常点評価	0%	-

オフィスアワー	研究室への直接の訪問の場合 : お昼の休み時間、夕方の実習終了後。
その他	定期試験について、出席日数が5/8回に満たない場合は受験資格を有しない。

科目No.	210330R3	科目区分	必修
科目名	獣医病理学Ⅱ A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：高橋 公正, 塚田 晃三 単位認定者：高橋 公正		
授業のねらい	獣医病理学総論では、各種の病因によって起きる病的変化について、細胞レベル、組織レベル、器官レベルで観察される特徴的病変像およびその病態機序を学習する。		
到達目標	各種の病因によって起きる病的変化（細胞レベル、組織レベル、器官レベルで観察される特徴的病変像）およびその病態機序を説明できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	予備知識として、生物学、免疫学、獣医解剖学、獣医生理学の知識が必要である。		
履修上の留意点	「動物病理学総論」日本獣医病理学会編を教科書として使用する。		
概要・スケジュール	<p>獣医病理学Ⅱは、Ⅰに引き続き獣医病理学総論の後半を扱う。</p> <p>第1回：塚田晃三 炎症（1）  第2回：塚田晃三 炎症（2）  第3回：塚田晃三 免疫病理（1）  第4回：塚田晃三 免疫病理（2）  第5回：塚田晃三 免疫病理（3）  第6回：道下正貴 腫瘍（1）  第7回：道下正貴 腫瘍（2）  第8回：高橋公正 先天異常</p>		
授業期間を通して課される課題	特に予定していません。		

科目No.	210330R3	科目区分	必修
科目名	獣医病理学Ⅱ A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業15時間+授業外学修時間(予習・復習)30時間=必要学習時間45時間		
テキスト・参考文献他	テキスト：「動物病理学総論」日本獣医病理学会編 参考書：「動物病理カラーアトラス」日本獣医病理学会編 教員作成プリント		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	100(%)	60点以上を合格とする。
レポート試験	0(%)	特に評価対象としていません。
平常点評価	0(%)	特に評価対象としていません。

オフィスアワー	研究室への直接の訪問の場合：お昼の休み時間、夕方の実習終了後。
その他	定期試験について、出席日数が5/8回に満たない場合は受験資格を有しない。

科目No.	210340R3	科目区分	必修
科目名	獣医病理学Ⅲ B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：高橋 公正, 塚田 晃三 単位認定者：高橋 公正		

授業のねらい	獣医病理学IIIでは、獣医病理学総論（獣医病理学Ⅰ・Ⅱ）で習得した各種病的変化（病変）について、各種器官ごとに学習する。基本的な知識として各器官の解剖と生理について理解し、さらに、代表的な動物種に観察される各種器官の特徴的病変、病理学的分類、類症鑑別について学習する。
到達目標	循環器系、血液および造血系、体腔、呼吸器系における、各動物種に観察される特徴的病変について理解し、説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	予備知識として、生物学、獣医解剖学、獣医生理学、獣医病理学総論の習得が必要である。
履修上の留意点	教科書として使用する「動物病理学各論」日本獣医病理学会編の持参が必要である。
概要・スケジュール	第1回：道下正貴 循環器系（1） 第2回：道下正貴 循環器系（2） 第3回：高橋公正 血液および造血系（1） 第4回：高橋公正 血液および造血系（2） 第5回：塚田晃三 体腔、呼吸器系（1） 第6回：塚田晃三 呼吸器系（2） 第7回：塚田晃三 呼吸器系（3）
授業期間を通して課される課題	特に実施されない。

科目No.	210340R3	科目区分	必修
科目名	獣医病理学Ⅲ B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業15時間+授業外学修時間(予習・復習)30時間=必要学習時間45時間		
テキスト・参考文献他	テキスト：「動物病理学各論」日本獣医病理学会編 参考書：「動物病理カラーアトラス」日本獣医病理学会編		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	100(%)	60点以上を合格とする。
レポート試験	0(%)	特に評価対象としていません。
平常点評価	0(%)	特に評価対象としていません。

オフィスアワー	研究室への直接の訪問の場合：お昼の休み時間、夕方の実習終了後。
その他	定期試験について、出席日数が4/7回に満たない場合は受験資格を有しない。

科目No.	210350R3	科目区分	必修
科目名	獣医病理学IV	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：高橋 公正, 塚田 晃三 単位認定者：高橋 公正		

授業のねらい	獣医病理学IVでは、獣医病理学IIIに引き続き、獣医病理学総論で習得した各種の病変について、各種器官ごとに学習する。基本的な知識として各器官の解剖と生理について理解し、代表的な動物種に観察される各種器官の特徴的病変、病理学的分類、類症鑑別について学習する。
到達目標	消化器系、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系、運動器系、外皮系における、各動物種に観察される特徴的病変について理解し、説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	予備知識として、生物学、獣医解剖学、獣医生理学、獣医病理学総論の習得が必要である。
履修上の留意点	教科書として使用する「動物病理学各論」日本獣医病理学会編の持参が必要である。
概要・スケジュール	<p>獣医病理学IVでは、獣医病理学IIIに引き続き、教科書の以下に示す項目に沿って講義する。</p> <p>第1回：塚田晃三消化器系（口腔・食道・胃・腸管）（1）  第2回：塚田晃三消化器系（口腔・食道・胃・腸管）（2）  第3回：高橋公正消化器系（肝臓）  第4回：高橋公正消化器系（胆嚢・胆管・膵臓）  第5回：塚田晃三泌尿器系（1）  第6回：塚田晃三泌尿器系（2）  第7回：道下正貴生殖器系（1）  第8回：道下正貴生殖器系（2）  第9回：高橋公正神経系（1）  第10回：高橋公正神経系（2）  第11回：塚田晃三感覚器系  第12回：塚田晃三内分泌系  第13回：道下正貴運動器系（1）  第14回：道下正貴運動器系（2）  第15回：高橋公正外皮系</p>
授業期間を通して課される課題	中間試験を実施する。

科目No.	210350R3	科目区分	必修
科目名	獣医病理学IV	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業30時間＋授業外学修時間（予習・復習）60時間＝必要学習時間90時間		
テキスト・参考文献他	テキスト： 「動物病理学各論」日本獣医病理学会編 参考書： 「動物病理カラーアトラス」日本獣医病理学会編		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100 (%)	60点以上を合格とする。
レポート試験	0 (%)	特に評価対象としていません
平常点評価	0 (%)	特に評価対象としていません

オフィスアワー	研究室への直接の訪問の場合： お昼の休み時間、夕方の実習終了後。
その他	定期試験について、出席日数が10/15回に満たない場合は受験資格を有しない。

科目No.	210360R3	科目区分	必修
科目名	獣医病理学実習 I	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：道下 正貴 単位認定者：高橋 公正		

授業のねらい	動物疾患の代表的な形態学的変化とその意義を、病理組織学的検索を通して理解する。さらに鑑別診断、補助的なあるいは追加すべき検索方法に関する基礎知識を修得し、動物疾患の成り立ちを総合的に理解する能力を身につける。また、1年間を通じて、肉眼解剖検査（剖検）を修得することを目的に、病理解剖実習を実施する。
到達目標	1. 病理組織標本の代表的な作製法ならびに観察方法を理解する。 2. 変性と壊死、組織修復、循環障害、炎症および腫瘍の組織学的特徴を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医病理学 I、II（但し、同時進行で修得する場合あり）
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回：高橋公正 病理学的検査と病理組織標本作製法  第2回：高橋公正 細胞傷害と組織の再構築  第3回：道下正貴 タンパク質の代謝異常  第4回：塚田晃三 糖質および脂質の代謝異常  第5回：塚田晃三 循環障害  第6回：道下正貴 色素沈着と異物反応  第7回：塚田晃三 炎症(1)  第8回：塚田晃三 炎症(2)  第9回：道下正貴 腫瘍(1)  第10回：道下正貴 腫瘍(2)</p> <p>8 班体制による病理解剖学実習 高橋/塚田/道下</p>
授業期間を通して課される課題	病理解剖実習を受けた班は、実施後2週間以内にレポートを個々で提出する。

科目No.	210360R3	科目区分	必修
科目名	獣医病理学実習 I	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習：各項目について指定教科書および事前資料を読む。 復習：各項目についてまとめる。		
テキスト・参考文献他	動物病理学総論（文永堂） 動物病理カラーアトラス（文永堂） 獣医病理学実習マニュアル（学窓社）		
授業形態	各項目ごとにスライド・プリントで解説後、病理組織標本の鏡検、スケッチを行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70 (%)	実習最終日に鏡検試験もしくは筆記試験を行う。
レポート試験	25 (%)	スケッチブックを評価する。必要に応じてレポートを課す。
平常点評価	5 (%)	出席、実習への取り組みを総合的に評価する。

オフィスアワー	研究室（D棟3階）：昼休み、夕方に訪問可。
その他	

科目No.	210370R3	科目区分	必修
科目名	獣医病理学実習Ⅱ	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：道下 正貴 単位認定者：高橋 公正		

授業のねらい	動物疾患の代表的な形態学的変化とその意義を、病理組織学的検索を通して理解する。さらに鑑別診断、補助的なあるいは追加すべき検索方法に関する基礎知識を修得し、動物疾患の成り立ちを総合的に理解する能力を身につける。また、1年間を通じて、肉眼解剖検査（剖検）を修得することを目的に、病理解剖実習を実施する。
到達目標	各臓器における動物の重要な疾病の病変の組織学的特徴を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医病理学III、IV（但し、同時進行で習得する場合あり）
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回：高橋公正 家禽疾病  第2回：道下正貴 循環器・造血器  第3回：塚田晃三 呼吸器  第4回：塚田晃三 消化器（消化管、膵臓）  第5回：道下正貴 消化器（肝臓）  第6回：高橋公正 神経系  第7回：塚田晃三 泌尿器  第8回：道下正貴 生殖器  第9回：道下正貴 皮膚  第10回：道下正貴 運動器</p> <p>8班体制による病理解剖学実習 高橋/塚田/道下</p>
授業期間を通して課される課題	病理解剖実習を受けた班は、実施後2週間以内にレポートを個々で提出する。

科目No.	210370R3	科目区分	必修
科目名	獣医病理学実習Ⅱ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習：各項目について指定教科書および事前資料を読む。 復習：各項目についてまとめる。		
テキスト・参考文献他	動物病理学各論（文永堂） 動物病理カラーアトラス（文永堂） 動物病理学総論（文永堂）		
授業形態	各項目ごとにスライド、プリントで解説後、病理組織標本の鏡検、スケッチを行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70 (%)	実習最終日に鏡検試験もしくは筆記試験を行う。
レポート試験	25 (%)	スケッチブックを評価する。必要に応じてレポートを課す。
平常点評価	5 (%)	出席、実習への取り組みを総合的に評価する。

オフィスアワー	研究室（D棟3階）：昼休み、夕方に訪問可。
その他	

科目No.	210380R3	科目区分	必修
科目名	獣医免疫学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：土田 修一 単位認定者：土田 修一		

授業のねらい	免疫学の課題は、特異性、多様性、記憶、自己寛容の謎を解き明かすことにあった。獣医免疫学の講義は、それらの免疫現象のメカニズムを理解することによって、獣医学に必要な知識を修得することにある。
到達目標	①免疫学用語を理解・記憶し、慣れ親しむ ②それらの用語を用いて基本的免疫現象を説明できる ③基本的免疫現象が病気や健康にどう関わっているのか理解できる ④免疫現象の応用例を説明できる ⑤免疫系の進化を説明できる
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	生物学、生化学、細胞生物学、有機化学、分子生物学修得していることで、免疫現象の理解は容易になる
履修上の留意点	日本語を話すために日本語を憶えるように、免疫学用語を憶えない限り、免疫メカニズムを理解出来るとは思えない。
概要・スケジュール	第1回：塚田晃三 免疫の概念（免疫担当細胞と様々な場面で対応する免疫システム） 第2回：倉田 修 自然免疫における可溶性防御因子 第3回：倉田 修 B細胞の機能 第4回：倉田 修 T細胞の抗原認識 第5回：倉田 修 T細胞および他の免疫細胞の機能 第6回：倉田 修 サイトカインの役割 第7回：中垣和英 感染における生体防御 第8回：中垣和英 免疫不全 第9回：中垣和英 過敏反応 第10回：中垣和英 免疫介在性疾患 第11回：中垣和英 ワクチン 第12回：中垣和英 移植免疫 第13回：中垣和英 がん免疫 第14回：土田修一 MHC 第15回：中垣和英 まとめ
授業期間を通して課される課題	メールでも構わないので、分からないことは質問してください (nakagaki@nvlu.ac.jp)

科目No.	210380R3	科目区分	必修
科目名	獣医免疫学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	週90分の復習		
テキスト・参考文献他	用いるテキスト；Peter Parham「エッセンシャル免疫学」（笹月健彦 翻訳）メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考書；Janewayの「免疫生物学」（笹月健彦 翻訳） 南江堂		
授業形態	教科書を中心に、各単元をまとめ、スライド使って口頭で説明する。質問があれば、挙手によって講義を止めることができる。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	定期試験期間に試験を行う
レポート試験	0	ない
平常点評価	0	なし

オフィスアワー	塚田晃三：研究室への直接の訪問の場合：お昼の休み時間、夕方の実習終了後 倉田 修：水族医学研究室（D棟3階）kurata@nvl.u.ac.jp（12:00～13:00） 中垣和英：第二校舎学術フロンティア研究施設プレハブの二階にofficeがある。E-mailにて日時を決めて、口頭での質問を受けたい。口頭以外の質問は常時（nakagaki@nvl.u.ac.jp） 土田 修一：比較細胞生物学 D棟2階 tsuchida@nvl.u.ac.jp（12:00～13:00）
その他	

科目No.	210390R2	科目区分	必修
科目名	獣医微生物学 I	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：田口 文広 単位認定者：池 和憲		
授業のねらい	動物に感染するウイルスは動物の生命及び畜産の振興に重大な影響を与えるだけでなく、人獣共通感染症の原因ともなり、動物だけでなく人の公衆衛生にも大きな問題となる。本講義では、ウイルスと他の病原体との違いに注目し、その分類・構造・増殖様式・宿主に及ぼす影響を理解する。また、その滅菌・消毒法、診断・治療法についても理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウイルス独自の性状を理解し、その増殖様式を説明できる。</li> <li>2. ウイルスの分類・診断法・治療法・感染様式を説明できる。</li> <li>3. それぞれのウイルス科の性状とウイルス疾患を理解する。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	細胞分子生物学の中で、特に、核酸の合成、セントラルドグマ（転写・複製・翻訳）などの基礎知識を復習してから履修に臨む事。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回：氏家 誠 ウイルス発見の歴史とウイルスの一般性状・分類 第2回：氏家 誠 ウイルスの増殖過程 第3回：田口文広 ウイルスの検出・培養方法 第4回：氏家 誠 ウイルスの変異 第5回：氏家 誠 ウイルス発ガン/ウイルスの病原性・個体レベルでのウイルス感染 第6回：氏家 誠 ウイルスを見る/ウイルスの起源【中間まとめ】 第7回：氏家 誠 DNAウイルス I（ポックス・アスファ・パルボ・サーコウイルス科） 第8回：氏家 誠 DNAウイルス II（ヘルペス・イリド・アデノ・パピローマ・ポリオーマウイルス科） 第9回：氏家 誠 マイナス鎖RNAウイルス I（オルソミクソウイルス科） 第10回：氏家 誠 マイナス鎖RNAウイルス II（モノネガウイルス目） 第11回：氏家 誠 マイナス鎖RNAウイルス III（ブニヤ・アレナウイルス科）・2本鎖RNAウイルス 第12回：氏家 誠 逆転写酵素を持つウイルス科（レトロウイルス科・ヘパドナウイルス科） 第13回：田口文広 プラス鎖RNAウイルス I（ピコルナ・アストロ・カリシ・ノダ・ヘペウイルス科） 第14回：田口文広 プラス鎖RNAウイルス II（トガ・フラビウイルス科・ニドウイルス目） 第15回：氏家 誠 プリオン【期末まとめ】		
授業期間を通して課される課題	第6回に中間テスト、第15回に期末テストを行う。		

科目No.	210390R2	科目区分	必修
科目名	獣医微生物学 I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習：講義の資料に目を通し、指定教科書の当該項目を事前に読む事 (60分) 復習：授業で配布した資料に再度目を通し、重要項目を理解する事 (60分)		
テキスト・参考文献他	テキスト： 獣医微生物学第3版 (文永堂出版) 参考書： Principles of Virology The 3rd ed. (ASM Press)		
授業形態	講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	95%	中間テスト (50点)、期末テスト (50点) の合計100点で評価
レポート試験	0%	なし
平常点評価	5%	出席

オフィスアワー	田口 文広： 獣医感染症学教室 (D棟3F、9月以降よりD棟5F予定) ftaguchi@nvl.u.ac.jp 氏家 誠： 獣医感染症学教室 (D棟2F、9月以降よりD棟5F予定) ujike@nvl.u.ac.jp 共に平日10～17時
その他	

科目No.	210400R3	科目区分	必修
科目名	獣医微生物学Ⅱ	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：片岡 康 単位認定者：池 和憲		
授業のねらい	細菌と真菌について、分類、微細構造、増殖と代謝、変異と遺伝、滅菌と消毒、化学療法薬と薬剤耐性、感染と発病に関する知識を習得することを目的とし、さらにグラム陽性菌と真菌感染症の診断、治療および予防を安全・確実に行うための能力を身につけることを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細菌と真菌の分類や微細構造などについて理解する。</li> <li>2. 細菌と真菌の分類や微細構造などについて具体的に説明できる。</li> <li>3. 細菌と真菌に関する基本的な知識を、グラム陽性菌と真菌感染症の診断、治療および予防に対して応用することができる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医微生物学Ⅰ」の基礎知識を理解してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点	「獣医微生物学Ⅰ」で使用した教科書を携帯すること。 授業中の発言・質疑など、主体的に授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回 池 和憲： 微生物学の歴史 第2回 池 和憲： 細菌の分類と微細構造 第3回 池 和憲： 細菌の増殖と代謝 第4回 池 和憲： 細菌の遺伝学 第5回 池 和憲： 滅菌と消毒 第6回 池 和憲： 化学療法と薬剤耐性 第7回 池 和憲： 感染と宿主・寄生体関係 第8回 片岡 康： グラム陽性球菌 第9回 片岡 康： グラム陽性芽胞形成菌1 第10回 片岡 康： グラム陽性芽胞形成菌2 第11回 片岡 康： グラム陽性無芽胞性桿菌 第12回 片岡 康： 放線菌関連菌 第13回 片岡 康： 放線菌関連菌（抗酸菌） 第14回 倉田 修： 真菌学総論 第15回 倉田 修： 真菌学各論		
授業期間を通して課される課題	なし		

科目No.	210400R3	科目区分	必修
科目名	獣医微生物学Ⅱ	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために次回の講義で取り扱うテキストを事前に読むこと（30分） 復習として、毎回のテーマについてまとめておくこと（60分）		
テキスト・参考文献他	教科書：獣医微生物学第3版（文永堂） テキスト：学内LANに授業プリント（pdfファイル）を掲載		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	95	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0	なし
平常点評価	5	出席等積極的な参加を総合的に評価

オフィスアワー	片岡：獣医微生物学教室（D棟3階） ykataoka@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約（随時）
その他	

科目No.	210410R3	科目区分	必修
科目名	獣医微生物学Ⅲ A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：片岡 康 単位認定者：池 和憲		
授業のねらい	グラム陰性菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの形態、培養性状、抗原性、病原性およびそれらが引き起こす疾病に関する基礎的な知識を修得することを目的とし、細菌感染症の診断、治療および予防を安全・確実に行うための能力を身につけることを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グラム陰性菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて理解する。</li> <li>2. グラム陰性菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの引き起こす疾病について説明できる。</li> <li>3. グラム陰性菌に関する知識をそれらの感染症の診断、治療、予防に対して応用できる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医微生物学I、獣医微生物学II」の基礎知識を理解してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点	「獣医微生物学I、獣医微生物学II」で使用したテキストを携帯すること。 授業中の発言・質疑など、主体的に授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回：片岡 康 グラム陰性通性嫌気性桿菌1 第2回：片岡 康 グラム陰性通性嫌気性桿菌2 第3回：片岡 康 グラム陰性通性嫌気性桿菌3 第4回：片岡 康 グラム陰性好気性桿菌 第5回：片岡 康 グラム陰性好気性球菌・嫌気性桿菌 第6回：片岡 康 らせん菌 第7回：片岡 康 スピロヘータ 第8回：片岡 康 マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア		
授業期間を通して課される課題	なし		

科目No.	210410R3	科目区分	必修
科目名	獣医微生物学Ⅲ A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために次回の講義で取り扱うテキストを事前に読むこと（30分） 復習として、毎回のテーマについてまとめておくこと（60分）		
テキスト・参考文献他	教科書：獣医微生物学第3版（文永堂） テキスト：学内LANIに授業プリント（pdfファイル）を掲載		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	95	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0	なし
平常点評価	5	出席等積極的な参加を総合的に評価

オフィスアワー	片岡：獣医微生物学教室（D棟3階） ykataoka@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約（随時）
その他	

科目No.	210420R3	科目区分	必修
科目名	獣医微生物学実習 I	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：氏家 誠 単位認定者：池 和憲		
授業のねらい	獣医学において基本的な概念である無菌操作、病原体の特性およびその取扱いを体験的に学び、微生物学的な診断法の基礎を習得する。細菌およびウイルスを適切で安全に取り扱える能力ならびに基礎的な免疫学的手法を用いた診断法を実施する能力を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細菌培養、細胞培養、ウイルス培養など無菌操作の技術を修得し、微生物汚染を起こさないための手技を実践できる。</li> <li>2. 滅菌と消毒を理解し、対象微生物、対象物品および用途に応じて実践できる。</li> <li>3. 感染症の診断に利用する血清診断法を実践できる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医微生物学I、獣医微生物学II、獣医微生物学III」の基礎知識を理解してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点	「獣医微生物学I、獣医微生物学II、獣医微生物学III」で使用したテキストと教科書を携帯すること。実習中は自ら作業するようにし、主体的に実習に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回：片岡 康 消毒と常在菌 第2回：片岡 康 滅菌と培地作成、分離培養法 第3回：片岡 康 純培養とグラム染色 第4回：片岡 康 細菌継代法、熱抵抗性試験、薬剤感受性試験 第5回：片岡 康 抗酸菌染色 第6回：片岡 康 生化学的性状検査1 第7回：片岡 康 生化学的性状検査2 第8回：片岡 康 腸内細菌科同定法（IMViCシステム） 第9回：片岡 康 腸内細菌科同定法（API 20 E簡易同定キット）、実地試験 第10回：氏家 誠 筆記試験		
授業期間を通して課される課題	毎回の実験を行い、その場で判定または翌日に判定し、実験結果を記録する。		

科目No.	210420R3	科目区分	必修
科目名	獣医微生物学実習 I	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために次回の実習で取り扱うテキストを事前に読むこと (30分) 復習として、毎回のテーマおよび実験結果についてまとめておくこと (60分)		
テキスト・参考文献他	教科書：獣医微生物学実験マニュアル（テクサン出版）、獣医微生物学第3版（文永堂） テキスト：獣医微生物学実習プリントを配布		
授業形態	実習室内での講義および少人数（4人班）による実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	50	実習9日目に実地試験、実習10日目に筆記試験を実施
レポート試験	10	実習終了後に実習ノートを提出
平常点評価	40	出席等積極的な参加を総合的に評価

オフィスアワー	片岡：獣医微生物学教室（D棟3階） ykataoka@nvlu.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約（随時）
その他	

科目No.	210430R4	科目区分	必修
科目名	獣医微生物学実習Ⅱ	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：氏家 誠 単位認定者：池 和憲		
授業のねらい	獣医学において基本的な概念である無菌操作、病原体の特性およびその取扱いを体験的に学び、微生物学的な診断法の基礎を習得する。細菌およびウイルスを適切で安全に取り扱える能力ならびに基礎的な免疫学的手法を用いた診断法を実施する能力を身につける。		
到達目標	1. 細菌培養、細胞培養、ウイルス培養など無菌操作の技術を修得し、微生物汚染を起こさないための手技を実践できる。 2. 滅菌と消毒を理解し、対象微生物、対象物品および用途に応じて実践できる。 3. 感染症の診断に利用する血清診断法を実践できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医微生物学I、獣医微生物学II、獣医微生物学III」の基礎知識を理解してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点	「獣医微生物学I、獣医微生物学II、獣医微生物学III」で使用したテキストと教科書を携帯すること。実習中は自ら作業するようにし、主体的に実習に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回：片岡 康 グラム陽性球菌の形態学的特徴と生化学的性状 第2回：片岡 康 グラム陽性無芽胞性桿菌の形態学的特徴と生化学的性状 第3回：片岡 康 グラム陽性芽胞形成菌の形態学的特徴と生化学的性状 第4回：片岡 康 グラム陰性好気性桿菌、らせん菌、スピロヘータの形態学的特徴と生化学的性状 第5回：片岡 康 血清反応（凝集反応、沈降反応、補体結合反応） 第6回：氏家 誠 細胞培養法、ウイルス接種1（発育鶏卵） 第7回：氏家 誠 ウイルス接種2（培養細胞）、感染価測定1（ブランク） 第8回：氏家 誠 ウイルス検出1（GPE観察、ウイルス回収（発育鶏卵）、赤血球凝集（HA）試験） 第9回：氏家 誠 抗体検出（赤血球凝集阻止（HI）試験）、まとめ 第10回：氏家 誠 ウイルス検出2（GPE観察及び細胞の染色、感染価測定2（TCID50））、まとめ		
授業期間を通して課される課題	毎回の実験を行い、その場で判定または翌日に判定し、実験結果を記録する。		

科目No.	210430R4	科目区分	必修
科目名	獣医微生物学実習Ⅱ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために次回の実習で取り扱うテキストを事前に読むこと（30分） 復習として、毎回のテーマおよび実験結果についてまとめておくこと（60分）		
テキスト・参考文献他	教科書：獣医微生物学実験マニュアル（テクサン出版）、獣医微生物学第3版（文永堂） テキスト：獣医微生物学実習プリントを配布		
授業形態	実習室内での講義および少人数（4人班）による実習		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	50%	実習9日目に実地試験、実習10日目に筆記試験
レポート試験	10%	実習終了後に実習ノートを提出
平常点評価	40%	出席等積極的な参加を総合的に評価

オフィスアワー	片岡：獣医微生物学教室（D棟3階） ykataoka@nvlu.ac.jp 氏家：動物感染症学教室（D棟5階） ujike@nvlu.ac.jp
その他	

科目No.	210440R3	科目区分	必修
科目名	家禽疾病学 I B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：常盤 俊大 単位認定者：池 和憲		

授業のねらい	養鶏産業の実態に即応した家禽疾病の知識ならびに技術を修得する。養鶏産業現場での疾病動向等の総論と各家禽疾病ごとの各論を講義する。
到達目標	獣医師として、養鶏産業現場で様々な家禽疾病に対する診断・治療・予防等を総合的に判断できる知識を持つことができるようにする。これに加えて、養鶏産業の大まかな産業構造を理解して、家畜飼養衛生についても併せて理解できるようにする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 常盤俊大：養鶏産業および鶏の飼養衛生管理 第2回 常盤俊大：家禽疾病の検査および予防技術 第3回 常盤俊大：鶏のウイルス感染症：鳥インフルエンザ、ニューカッスル病、ウエストナイルウイルス感染症 第4回 常盤俊大：鶏のウイルス感染症：伝染性気管支炎、伝染性喉頭気管炎、鶏痘 第5回 常盤俊大：鶏のウイルス感染症：マレック病、白血病、伝染性ファブリキウス嚢病 第6回 常盤俊大：鶏のウイルス感染症：鶏貧血ウイルス感染症、鶏脳脊髄炎、産卵低下症候群 第7回 常盤俊大：鶏のウイルス感染症：ウイルス性腺鞘炎・関節炎、ニューモウイルス感染症
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210440R3	科目区分	必修
科目名	家禽疾病学 I B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	適宜、予習復習をすること。		
テキスト・参考文献他	鳥の病気（鶏病研究会編）を参考図書として推薦する。講義はその都度プリントを配布する予定。		
授業形態	スライドによる説明。配布資料アリ。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	レポート試験は実施しない。
平常点評価	10%	授業に対する積極性等を総合的に評価する。

オフィスアワー	kyomu×nv u. ac. jp（×を@に変えて使用すること） 実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	都合により、同日に2～3コマ連続で講義を実施することもあり。 その都度、掲示板や口頭で周知する。

科目No.	210450R4	科目区分	必修
科目名	家禽疾病学Ⅱ B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：常盤 俊大 単位認定者：池 和憲		
授業のねらい	養鶏産業の実態に即応した家禽疾病の知識ならびに技術を修得する。養鶏産業現場での疾病動向等の総論と各家禽疾病ごとの各論を講義する。		
到達目標	獣医師として、養鶏産業現場で様々な家禽疾病に対する診断・治療・予防等を総合的に判断できる知識を持つことができるようにする。これに加えて、養鶏産業の大まかな産業構造を理解して、家畜飼養衛生についても併せて理解できるようにする。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 伊藤 亮：鶏の細菌感染症：マイコプラズマ感染症、伝染性コリーザ、家禽コレラ 第2回 伊藤 亮：鶏の細菌感染症：大腸菌症、ひな白痢、家禽チフス 第3回 伊藤 亮：鶏の細菌感染症：サルモネラ症、ブドウ球菌症、壊死性腸炎 第4回 伊藤 亮：鶏の細菌感染症：ポツリヌス症、キャンピロバクター感染症、真菌症 第5回 伊藤 亮：鶏の原虫感染症：コクシジウム症、ロイコチトゾーン症、 第6回 伊藤 亮：鶏の原虫感染症：ヒストモナス症、クリプトスポリジウム症 第7回 常盤俊大：鶏の寄生虫感染症：内部寄生虫、外部寄生虫、鶏以外の家禽の疾病 第8回 塚田晃三：鶏の非感染性疾患：腹水症、骨形成異常、栄養・代謝障害性疾患、中毒		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210450R4	科目区分	必修
科目名	家禽疾病学Ⅱ B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	適宜、予習復習をすること。		
テキスト・参考文献他	鳥の病気（鶏病研究会編）を参考図書として推薦する。講義はその都度プリントを配布する予定。		
授業形態	スライドによる説明。配布資料アリ。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	レポート試験は実施しない。
平常点評価	10%	授業に対する積極性等を総合的に評価する。

オフィスアワー	kyomu×nvl@u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） 実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	都合により、同日に2～3コマ連続で講義を実施することもあり。 その都度、掲示板や口頭で周知する。

科目No.	210460R3	科目区分	必修
科目名	魚病学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：和田 新平 単位認定者：和田 新平		
授業のねらい	獣医学教育モデル・コア・カリキュラムおよび獣医師国家試験出題基準に準拠した内容の講義を通して、魚介類疾病の診断・対策に必要な基礎知識を学修し、獣医師国家試験に対応する基礎学力を身につけ、さらには関連する学際の中で議論する能力を獲得することを目標とする。		
到達目標	1. 魚介類を取り扱う際に必須の基礎的事項を理解し説明できる。 2. 魚介類の環境性・栄養性疾病、腫瘍、ウイルス性・細菌性・真菌性・原虫性・粘液胞子虫性・大型寄生虫性感染症の疫学、病態、診断・対策法を理解し説明できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高校の生物学、哺乳類の解剖学、組織学、生理学の知識が必要。微生物学・病理学に関する基礎知識を持つことが望ましい。		
履修上の留意点	学内LAN上に掲示される講義資料の事前ダウンロードを励行。 遅刻者が講義開始後20分を過ぎて講義室に入室することは禁止。		
概要・スケジュール	<p>第1回：和田新平 魚類と分類体系：魚類の定義および分類の概略と魚病学で対象となる有用魚種について学ぶ。</p> <p>第2回：和田新平 魚類解剖・生理学（1）：外形、体形、鰭、皮膚、鱗、色素胞。</p> <p>第3回：和田新平 魚類解剖・生理学（2）：。筋肉、骨格、鰓の形態的特徴と機能。</p> <p>第4回：和田新平 魚類解剖・生理学（3）：循環系、造血器官、血液、消化器系。</p> <p>第5回：和田新平 魚類解剖・生理学（4）：鰾、腎臓、内分泌系、生殖器系、神経系、感覚器系。</p> <p>第6回：和田新平 魚類飼育学・診断治療法・関連法規：種苗、飼料・餌料、水質、基本飼育技術、鎮静麻酔および診断治療法、持続的養殖生産確保法、水産資源保護法、薬事法。</p> <p>第7回：倉田 修 魚類免疫学：魚類の非特異的・特異的生体防御免疫系を担う細胞および可溶性因子、魚類免疫機構の特徴について学び、併せて魚類に使用される抗菌薬およびワクチンについても学ぶ。</p> <p>第8回：和田新平 環境性疾病・栄養性疾病・腫瘍：温度、溶存ガス、溶存窒素化合物および農薬による影響について学び、種々の栄養素の欠乏による疾病、変敗飼料による疾病および腫瘍について学ぶ。</p> <p>第9回：和田新平 魚介類の感染症（1）：RNAウイルスによる感染症。</p> <p>第10回：和田新平 魚介類の感染症（2）：DNAウイルスによる感染症。併せてクルマエビの体構造について学ぶ。</p> <p>第11回：和田新平 魚介類の感染症（3）：グラム陰性桿菌による感染症。</p> <p>第12回：和田新平 魚介類の感染症（4）：グラム陽性桿菌・球菌、滑走細菌による感染症。</p> <p>第13回：倉田 修 魚介類の感染症（5）：真菌による感染症。</p> <p>第14回：和田新平 魚介類の感染症（6）：原虫および粘液胞子虫による感染症。</p> <p>第15回：和田新平 魚介類の感染症（7）：大型寄生虫による感染症。</p>		
授業期間を通して課される課題	和田担当分の講義では、講義の最後に五択の小テスト（成績評価には加味しない）を実施。		

科目No.	210460R3	科目区分	必修
科目名	魚病学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	<p>次回の講義内容に関する資料を図書館等で事前に読む（30分）。  復習として、毎回の講義資料を再読（50分）。</p>		
テキスト・参考文献他	<p>テキスト：和田担当分（事前に学内LANの和田関係講義資料のフォルダにパワーポイントファイルの資料をアップするので、それをダウンロードして使用）。倉田担当分（講義前に当日使用する資料を配布）。  参考書：獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠「魚病学」（緑書房）</p>		
授業形態	<p>教室内での講義。</p>		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	レポート試験は実施しない。
平常点評価	0%	出席はとらない。

オフィスアワー	<p>和田新平：水族医学研究室（D棟3階）swada@nvlu.ac.jp  Eメールにて受付または面接を予約（12:00～13:00）  倉田 修：水族医学研究室（D棟3階）kurata@nvlu.ac.jp  Eメールにて受付または面接を予約（12:00～13:00）</p>
その他	<p>講義の進捗状況によって講義内容が変更される場合がある。</p>

科目No.	210470R3	科目区分	必修
科目名	動物感染症学 I	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：田口 文広 単位認定者：田口 文広		
授業のねらい	動物感染症学では、産業動物及び伴侶動物のウイルス感染症の病因、成立要因、発病機構、診断及び治療法を理解し、家畜伝染病予防法に基づいた感染症を制御する基本的な方策を学習・取得することを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動物のウイルス感染症について理解する。</li> <li>2. 動物のウイルス感染症の病因、発病機構、診断・治療法について説明できる。</li> <li>3. 家畜伝染病予防法に基づいて、動物のウイルス感染症に対する基本的方策を議論できる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医微生物学Iで学習したウイルス学の基本知識を十分に理解して、講義に臨むこと。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回： 田口文広 感染症の成立機序（感染症成立に必要な3条件、感染様式と発病） 第2回： 氏家 誠 感染症の検査・診断とバイオハザード 第3回： 田口文広 感染症の治療、予防及び感染症に関する法規 第4回： 田口文広 牛の重要なウイルス性疾患（法定伝染病を中心に） 第5回： 田口文広 牛の重要なウイルス性疾患（届出伝染病を中心に） 第6回： 田口文広 牛の重要なウイルス性疾患（その他の伝染病） 第7回： 田口文広 山羊、羊の重要なウイルス性疾患（プリオン病を含む） 第8回： 田口文広 中間まとめ 第9回： 田口文広 馬の重要なウイルス性疾患 第10回： 田口文広 豚の重要なウイルス性疾患（法定伝染病を中心に） 第11回： 田口文広 豚の重要なウイルス性疾患（届出伝染病を中心に） 第12回： 田口文広 犬・猫の重要なウイルス性疾患 第13回： 田口文広 動物由来人ウイルス感染症 第14回： 田口文広 新興・再興感染症 第15回： 田口文広 期末まとめ		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210470R3	科目区分	必修
科目名	動物感染症学 I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習： 2年時に学習したウイルス学を講義前に予習する。 復習： 授業で配布された資料を十分理解するために復習し、それぞれの授業のテーマについてまとめておく。		
テキスト・参考文献他	教科書： 動物の感染症 第3版 近代出版		
授業形態	配布資料に沿った教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	95%	定期試験
レポート試験	0%	実施しません
平常点評価	5%	出席

オフィスアワー	田口文広：獣医感染症学教室（D棟5階） メールでの質問は常時受け付け、 また、面談が必要な場合は、メールで予約する。 e.mail: ftaguchi@nvl.u.ac.jp
その他	

科目No.	210480R4	科目区分	必修
科目名	動物感染症学Ⅱ A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：片岡 康 単位認定者：田口 文広		
授業のねらい	産業動物（牛、馬、めん羊、山羊、豚、家きん、みつばちなど）および伴侶動物（犬、猫など）の細菌および真菌感染症の病因、成立要因、発病機序、疫学、臨床症状、診断、治療、予防および関連する法規、特に家畜伝染病予防法について基本的知識を修得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家畜の細菌性監視伝染病（法定伝染病）を説明できる。</li> <li>2. 家畜の細菌性および真菌性届出伝染病を説明できる。</li> <li>3. 家畜の細菌病および真菌病を説明できる。</li> <li>4. 伴侶動物の細菌性および真菌病を説明できる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医微生物学Ⅰ、獣医微生物学Ⅱ、獣医微生物学Ⅲ、獣医伝染病学Ⅰ」の基礎知識を理解してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点	「獣医微生物学Ⅱ、獣医微生物学Ⅲ」で使用したテキストと教科書を携帯すること。授業中の発言・質疑など、主体的に授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回：片岡 康 ワクチン 第2回：片岡 康 牛の急性敗血症・呼吸器病 第3回：片岡 康 牛の消化器病・異常産 第4回：片岡 康 馬の細菌病および真菌病 第5回：片岡 康 豚の細菌病および真菌病 第6回：片岡 康 家きんの細菌病および真菌病 第7回：片岡 康 伴侶動物の細菌病および真菌病 第8回：片岡 康 みつばちの細菌病および真菌病		
授業期間を通して課される課題	なし		

科目No.	210480R4	科目区分	必修
科目名	動物感染症学Ⅱ A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために次回の講義で取り扱うテキストを事前に読むこと（30分） 復習として、毎回のテーマについてまとめておくこと（60分）		
テキスト・参考文献他	教科書：動物の感染症第3版（近代出版）、獣医微生物学第3版（文永堂） テキスト：学内LANIに授業プリント（pdfファイル）を掲載		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	95%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	なし
平常点評価	5%	出席等積極的な参加を総合的に評価

オフィスアワー	片岡：獣医微生物学教室（D棟3階） ykataoka@nvlu.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約（随時）
その他	

科目No.	210490R3	科目区分	必修
科目名	獣医寄生虫学 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：池 和憲 単位認定者：池 和憲		

授業のねらい	<p>獣医寄生虫学は、動物に病害を及ぼす生物のうち、病害動物に関する種類、病原性、それらによって起こる疾病の病因、治療、予防などを扱う学問である。本講義ではまず寄生虫の概要とその分類の理解、さらに主にアピコンプレクス類原虫を理解することを目標とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寄生虫と寄生虫学を理解する（寄生虫とは？）。</li> <li>2. 獣医寄生虫学の分類を理解する。</li> <li>3. 原虫（特にアピコンプレクス類）の生物学、疫学、病因・病理学および疾病制御に関連する基礎知識を修得する。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	<p>高等学校「生物」の ” 生物の分類と系統 ” の節を復習する。</p>
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 池 和憲：獣医寄生虫学・寄生虫病学総論（1）寄生虫とは？（寄生虫と寄生虫学）  第2回 池 和憲：獣医寄生虫学・寄生虫病学総論（2）寄生生活の獲得と適応、宿主－寄生体関係など  第3回 池 和憲：原虫総論  第4回 池 和憲：蠕虫総論（1）  第5回 池 和憲：蠕虫総論（2）  第6回 池 和憲：節足動物総論  第7回 池 和憲：検査法</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210490R3	科目区分	必修
科目名	獣医寄生虫学 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、各寄生虫の分類学的位置の把握に努める（30分）。 復習として、専門用語および各寄生虫の生活環の整理と理解に努める（60分）。		
テキスト・参考文献他	<テキスト> 改訂 獣医寄生虫学・寄生虫病学 1 総論／原虫 石井俊雄著／今井壮一編 講談社サイエンティフィク		
授業形態	上記テキストの内容を基本に、スライドを用いて講述する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	必要に応じて実施する可能性あり。
平常点評価	0%	必要に応じて実施する可能性あり。

オフィスアワー	池 和憲（担当教員）：獣医寄生虫学教室（D棟4階）ike-k×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） Eメールにて受付または面談を予約（日時は応談）
その他	

科目No.	210500R3	科目区分	必修
科目名	獣医寄生虫病学 I B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：池 和憲 単位認定者：池 和憲		

授業のねらい	寄生虫病学は寄生虫の侵襲を受けた宿主側の反応と障害、さらには診断、治療、予防法を考究する学問である。従って本講義では寄生虫学を基礎とし、病因に関わる病理学の知識、内科学の一分野、さらに衛生学を関連づけて講述する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 獣医臨床および公衆衛生上重要な寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、流行の現状・疫学、診断、治療、予防および宿主の防御機構について理解する。</li> <li>2. 寄生虫による病害発生の機序やその対策についての考え方を身につける。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医寄生虫学」総論の専門用語の確認、および寄生虫の生活環の基本的な理解に努める。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 池 和憲：獣医原虫学各論 (1) アピコンプレックス類概論、コクシジウム類概説 第2回 池 和憲：獣医原虫学各論 (2) アイメリア、イソスポラ 第3回 池 和憲：獣医原虫学各論 (3) 組織シスト形成コクシジウム (トキソプラズマ) 第4回 池 和憲：獣医原虫学各論 (4) 組織シスト形成コクシジウム (その他) 第5回 池 和憲：獣医原虫学各論 (5) 住血胞子虫類、ピロプラズマ類概説 第6回 池 和憲：獣医原虫学各論 (6) 牛のピロプラズマ類、馬および犬のピロプラズマ類 第7回 池 和憲：獣医原虫学各論 (7) 鞭毛虫類概説、トリパノソーマ類、トリコモナス、ジアルジア 第8回 池 和憲：獣医原虫学各論 (8) 肉質虫類、繊毛虫類、その他の寄生原虫、まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210500R3	科目区分	必修
科目名	獣医寄生虫病学 I B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として各寄生虫の生活環を理解すること（45分）。 復習として各疾病の病因をまとめること（45分）。		
テキスト・参考文献他	<テキスト> 改訂 獣医寄生虫学・寄生虫病学 1 総論／原虫 石井俊雄著／今井壮一編 講談社サイエンティフィック 改訂 獣医寄生虫学・寄生虫病学 2 蠕虫他 石井俊雄著／今井壮一編 講談社サイエンティフィック		
授業形態	上記テキストの内容を基本に、スライドを用いて講述する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	必要に応じて実施する可能性あり。
平常点評価	0%	必要に応じて実施する可能性あり。

オフィスアワー	池 和憲（担当教員）：獣医寄生虫学教室（D棟4階） ike-k@nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） Eメールにて受付または面談を予約（日時は応談）
その他	

科目No.	210510R3	科目区分	必修
科目名	獣医寄生虫病学Ⅱ	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：池 和憲 単位認定者：池 和憲		

授業のねらい	寄生虫病学は寄生虫の侵襲を受けた宿主側の反応と障害、さらには診断、治療、予防法を考究する学問である。従って本講義では寄生虫学を基礎とし、病因に関わる病理学の知識、内科学の一分野、さらに衛生学を関連づけて講述する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 獣医臨床および公衆衛生上重要な寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、流行の現状・疫学、診断、治療、予防および宿主の防御機構について理解する。</li> <li>2. 寄生虫による病害発生の機序やその対策についての考え方を身につける。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医寄生虫学」総論の専門用語の確認、および寄生虫の生活環の基本的な理解に努める。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・吸虫 (1) 住血吸虫、肝蛭、双口吸虫 第2回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・吸虫 (2) 膾蛭、肝吸虫、肺吸虫、その他 第3回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・吸虫 (3) / 獣医蠕虫学各論・条虫 (1) 第4回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・条虫 (2) 裂頭条虫類、円葉条虫類 第5回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・条虫 (3) 円葉条虫類、囊虫 第6回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・線虫 (1) 回虫類 1 第7回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・線虫 (2) 回虫類 2 第8回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・線虫 (3) 蟯虫類、円虫類 1 第9回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・線虫 (4) 円虫類 2 第10回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・線虫 (5) 円虫類 3 第11回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・線虫 (6) 糞線虫類、胃虫類、眼虫類 第12回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・線虫 (7) 糸状虫類、顎口虫類 第13回 池 和憲：獣医蠕虫学各論・線虫 (8) 鞭虫・毛細線虫類、施毛虫、鉤頭虫 第14回 池 和憲：節足動物各論 (1) ダニ類 第15回 池 和憲：節足動物各論 (2) 昆虫類
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210510R3	科目区分	必修
科目名	獣医寄生虫病学Ⅱ	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として各寄生虫の生活環を理解すること（45分）。 復習として各疾病の病因をまとめること（45分）。		
テキスト・参考文献他	<テキスト> 改訂 獣医寄生虫学・寄生虫病学 2 蠕虫他 講談社サイエンティフィック <参考書> 図説 獣医衛生動物学 講談社サイエンティフィック		
授業形態	上記参考書の内容を基本に、スライドを用いて講述する。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	必要に応じて実施する可能性あり。
平常点評価	0%	必要に応じて実施する可能性あり。

オフィスアワー	池 和憲（担当教員）：獣医寄生虫学教室（D棟4階）ike-k×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） Eメールにて受付または面談を予約（日時は応談）
その他	

科目No.	210520R4	科目区分	必修
科目名	獣医寄生虫病学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：森田 達志 単位認定者：池 和憲		
授業のねらい	3年次に開講された「獣医寄生虫学」および「獣医寄生虫病学」で学んだ獣医学領域で扱うべき寄生虫類について、その形態、生態 および病態発生をより深く理解するとともに、獣医師として責任をもって寄生虫性疾患の診断を行うための当該分野に独特な理論と技術を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 獣医寄生虫学分野で一般に行われる検査方法を理解する。</li> <li>2. 獣医師として責任を持って寄生虫性疾患の診断ができる。</li> <li>3. 獣医寄生虫学および獣医寄生虫病学で学んだ内容をより深く理解する。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	既修の「獣医寄生虫学」および「獣医寄生虫病学」について復習し、知識を整理・確認しておく。		
履修上の留意点	感染性材料を扱うことも多いので緊張感を持って実習に参加すること。		
概要・スケジュール	<p>第1回：森田達志 イン트로ダクション、顕微鏡の使い方、接眼マイクロメーターによる計測法、原虫染色標本の観察1</p> <p>第2回：森田達志 原虫染色標本の観察2、実験動物の寄生虫検査</p> <p>第3回：森田達志 寄生虫学的糞便検査法概説、犬猫の寄生虫検査1</p> <p>第4回：森田達志 犬猫の寄生虫検査2</p> <p>第5回：森田達志 反芻動物の線虫類の検査</p> <p>第6回：森田達志 反芻動物の吸虫類の検査</p> <p>第7回：森田達志 豚の寄生虫検査、寄生虫病学領域における免疫学的検査法</p> <p>第8回：森田達志 生鮮原虫標本の観察、衛生動物の観察1</p> <p>第9回：森田達志 寄生虫の遺伝子診断、衛生動物の観察2</p> <p>第10回：森田達志 まとめ</p>		
授業期間を通して課される課題	毎回の実習終了時には、その日に描いたスケッチについて教員が班単位で確認する。また実習最終日には、実習で供覧した標本および実習用機器を対象とした実地試験を行う。		

科目No.	210520R4	科目区分	必修
科目名	獣医寄生虫病学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習のため授業外学修は強制ではないが、各実習日ごとに修得した知識と技術について復習し定着に努めること。		
テキスト・参考文献他	適宜プリントを配付する。 参考書： ・獣医寄生虫検査マニュアル(文永堂) ・改訂獣医寄生虫学・寄生虫病学1および2(石井著、講談社) ・獣医寄生虫学および獣医寄生虫学の講義プリント。		
授業形態	実習室における実習		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	60%	筆記試験(実習日程終了後)
レポート試験	10%	実習日程終了後にスケッチブック提出
平常点評価	出席; 20%、実習試験; 10%	出席および積極的参加。実習最終日に実地試験を行う。

オフィスアワー	獣医寄生虫学研究室(D棟4階) 池和憲 ike-k【at】nvl.u.ac.jp(【at】を@に置き換えてメールして下さい) 月~金の午後。但し実習・会議等で不在の可能性があるので、上記メールで面接を予約すること。 森田達志 t-morita【at】nvl.u.ac.jp(【at】を@に置き換えてメールして下さい) 日~金の午後。但し実習・会議等で不在の可能性があるので、上記メールで面接を予約すること
その他	

科目No.	210530R4	科目区分	必修
科目名	動物衛生学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：田中 良和 単位認定者：田中 良和		
授業のねらい	動物の健康維持のためには、様々な疾病の予防、蔓延防止などの対応が必要で、個体管理だけではなく、農場や国レベルでの対応が必要とされる。このため、動物の管理衛生法を理解することを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家畜伝染病予防法を中心とした日本における家畜衛生管理体制を理解する。</li> <li>2. 疾病予防法について理解し、説明ができる。</li> <li>3. 産業動物・特用家畜・伴侶動物と展示動物の衛生管理法を理解する。</li> <li>4. 家畜の中毒と飼料安全性についてその原因と症状・治療法を説明できる。</li> <li>5. 家畜排泄物の処理法と畜産環境保全について理解する。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	家畜の品種・生理について予備知識をもっておく。 微生物学・感染症学について復習し、感染症の疾病原因を理解しておく。		
履修上の留意点	授業前配布資料を事前に読んでおくこと。 産業動物の栄養・代謝について復習しておくこと。		
概要・スケジュール	第1回 田中良和 獣医衛生学概論 第2回 田中良和 家畜伝染病の国内防疫と国際防疫 第3回 田中良和 生産衛生と農場HACCP 第4回 田中良和 飼育施設の消毒 第5回 田中良和 家畜用ワクチンとワクチネーションプログラム 第6回 田中良和 家畜の生産環境 第7回 田中良和 放牧衛生・輸送衛生 第8回 田中良和 牛の衛生管理と搾乳衛生 第9回 田中良和 豚の衛生管理 第10回 田中良和 山羊・綿羊・ミツバチの衛生管理 第11回 田中良和 特用家畜の衛生管理・伴侶動物の衛生管理 第12回 成島悦雄 展示動物の衛生管理（1） 第13回 和田新平 展示動物の衛生管理（2） 第14回 田中良和 家畜の中毒と飼料安全性（ポジティブリスト制度を含む） 第15回 柿市徳英 家畜排せつ物と畜産環境管理ならびに環境保全型農業への取り組み		
授業期間を通して課される課題	講義時間中に小テストを2回程度実施する。		

科目No.	210530R4	科目区分	必修
科目名	動物衛生学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容理解のため、事前に講義資料を読んでおくこと（90分）。 講義後、講義プリントを中心に復習すること（60分）。		
テキスト・参考文献他	獣医衛生学（文永堂） 動物の衛生（文永堂） 講義ごとに適宜、参考プリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	50%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	レポート試験は課さない。
平常点評価	50%	各回の小テストの総合結果を最終的に評価する。

オフィスアワー	D棟3階：疾病予防獣医学部門 衛生・公衆衛生学分野（旧獣医衛生学教室） 火曜日：12：00～13：00
その他	

科目No.	210540R3	科目区分	必修
科目名	動物衛生学実習 I (牧場実習含む)	単位数	0.5
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：田中 良和 単位認定者：田中 良和		
授業のねらい	動物衛生学が対象とする産業動物の飼育環境と管理方法、疾病予防・防除方法、畜産廃棄物の管理方法など家畜予防衛生に関する基本的技能と手技を、関連する法規の趣旨とともに習得することで、獣医学科の学生が獣医臨床学・予防衛生学を総合的に理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 牧場での家畜の取り扱いと牧場管理の基礎知識と技能を修得する。</li> <li>2. 家畜の生体観察と測定に関する基礎知識と技能を修得する。</li> <li>3. 搾乳方法を修得し、実際の搾乳作業が実施できる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	[畜産学概論]、[獣医解剖学]、[獣医生理学] 家畜の品種論、解剖学・生理学の基礎知識を確認してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点	実習時につなぎ、長靴、帽子の着用を義務づける。 実習事前資料の熟読を行なうこと。		
概要・スケジュール	牧場にて2泊3日の集中実習を行う。この間、以下の項目を学ぶ。 第1回田中良和 牧場での家畜の取り扱いと牧場管理の基礎知識と技能を修得する。 a) 飼料給餌・畜舎清掃を行い、消毒薬の適切な使用方法と家畜の保定法を学ぶ。 b) 除角、去勢、削蹄、装蹄、断尾、切歯の意義を理解し、見学する。 第2回松本浩毅 牛の生態観察と測定に関する基礎知識と技能を修得する。 第3回手嶋隆洋 豚の生態観察と測定に関する基礎知識と技能を修得する。 第4回小山秀一 馬の生態観察と測定に関する基礎知識と技能を修得する。 第5回田中良和 乳牛の搾乳方法を修得し、実際の搾乳作業を実施できる。  実習協力者：大石 元治、山田 裕（特任）		
授業期間を通して課される課題	実習終了後、レポートを提出する。		

科目No.	210540R3	科目区分	必修
科目名	動物衛生学実習 I (牧場実習含む)	単位数	0.5
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習内容の理解のため、事前資料を読むこと (1時間)。 復習として、その日行なった実習内容をテーマ毎にまとめておく (30分)。		
テキスト・参考文献他	実習事前資料。 獣医解剖学。獣医衛生学。		
授業形態	班毎に分かれたグループワーク。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	該当なし
レポート試験	50 %	実習終了後、レポートを提出する。
平常点評価	50 %	出席点、参加態度などで評価する。

オフィスアワー	田中良和：毎週火曜日、12時から13時まで。 場所：D棟3階、疾病予防獣医学部門衛生分野 (旧獣医衛生学教室)。
その他	産業動物を扱う実習なので、危険防止のため、許可無く動物に接触することを禁じます。

科目No.	210550R4	科目区分	必修
科目名	動物衛生学実習Ⅱ(牧場実習含む)	単位数	0.5
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：田中 良和 単位認定者：田中 良和		

授業のねらい	動物衛生学が対象とする産業動物の飼育環境と管理方法、疾病予防・防除方法、畜産廃棄物の管理方法など家畜予防衛生に関する基本的技能と手技を、関連する法規の趣旨とともに習得することで、獣医学科の学生が獣医臨床学・予防衛生学を総合的に理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 牧場での家畜の取り扱いと牧場管理の基礎知識と技能を修得する。</li> <li>2. 産業動物の飼育環境と快適性に関する基礎知識と技能を修得する。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	畜産学概論、獣医生理学、獣医解剖学など家畜の品種論、解剖学、生理学の知識を確認して、履修に臨むこと。
履修上の留意点	実習時につなぎ、長靴、帽子の着用を義務付ける。 実習の事前講義を受け、配布資料を熟読すること。
概要・スケジュール	<p>牧場にて2泊3日の集中実習を行う。この間、以下の項目を学ぶ。</p> <p>第1回松本浩毅 家畜の飼育環境と快適性に関する基礎知識と技能を習得する。  第2回田中良和 家畜用飼料の種類を理解し、飼料作物の草刈・乾燥を行う。  第3回手嶋隆洋 乳用牛・肉用牛の牧野における衛生管理技術の基礎知識と技能を修得する。  第4回小林正典 牛の管理衛生Ⅰ（牛の繁殖管理を中心として）  第5回小山秀一 牛の管理衛生Ⅱ（牛の飼養管理を中心として）</p> <p>実習協力者：河上栄一・堀 達也・山田 裕（特任）</p>
授業期間を通して課される課題	実習終了後、レポートを提出する。

科目No.	210550R4	科目区分	必修
科目名	動物衛生学実習Ⅱ(牧場実習含む)	単位数	0.5
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習内容の理解のため、事前資料を読むこと(1時間)。 復習として、その日行なった実習内容をテーマ毎にまとめておく(30分)。		
テキスト・参考文献他	実習事前資料。		
授業形態	班毎に分かれたグループワークで実施する。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	該当なし
レポート試験	30%	実習終了後、実習内容に関するレポートを提出させ、評価する。
平常点評価	70%	出席点、参加態度で評価する。

オフィスアワー	田中良和：毎週火曜日、12時から13時まで。 場所：D棟3階、疾病予防獣医学部門衛生分野(旧獣医衛生学教室)。
その他	産業動物を扱う実習なので、危険防止のため、許可無く動物に接触することを禁じます。

科目No.	210570R3	科目区分	必修
科目名	公衆衛生学総論	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：植田 富貴子 単位認定者：植田 富貴子		

授業のねらい	公衆衛生に関連した様々な問題解決を行うためのアプローチの手法を通じて、国民の健康増進、動物福祉、地球環境保全に役立つ知識を学ぶ。
到達目標	<p>(1) 公衆衛生の基本的な考え方を理解し、獣医公衆衛生学の役割と課題、国民衛生の動向、食品衛生、感染症とその対策、人と動物の共生と公衆衛生、公衆衛生行政について説明できる。</p> <p>(2) 人や動物を取り巻く環境に関するこれまでの歴史と現状を理解し、化学物質や病原微生物と健康との関わりについての基礎的知識と必要な関連法規を説明できる。</p>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>公衆衛生学の暫定スケジュールとして、4年次終了までに総論、食品衛生、環境衛生、人獣共通感染症の基礎を終了し、5年次は食品衛生、環境衛生、人獣共通感染症についての最近の動向と法規等の変更点、およびさらに立ち入ったトピックを取り上げて講義を行う。</p> <p>* 高野助教が留学中のため当該部分の講義は本藤名誉教授が代行する。</p> <p>第1回 落合由嗣：公衆衛生学総論Ⅰ：公衆衛生の考え方と概要  第2回 落合由嗣：公衆衛生学総論Ⅱ：公衆衛生学の役割と課題、人と動物の共生と公衆衛生  第3回 高野貴士（本藤良）：国民衛生の動向Ⅰ  第4回 高野貴士（本藤良）：国民衛生の動向Ⅱ（感染症と非感染症およびその対策）  第5回 落合由嗣：公衆衛生行政Ⅰ（行政組織）、公衆衛生行政Ⅱ（法規）  第6回 植田富貴子：環境と獣医学の関係、獣医学の中での「環境」の取り扱い方  第7回 植田富貴子：環境の概念（大気、水、土壌、森林：生活環境の維持を含む）、環境汚染（環境問題）の発生要因  第8回 植田富貴子：現在の環境問題、地球環境問題、地域環境問題（公害）、国際動向  第9回 植田富貴子：地球環境問題Ⅰ  第10回 植田富貴子：地球環境問題Ⅱ  第11回 植田富貴子：地球環境問題Ⅲ  第12回 植田富貴子：地域環境問題（公害の歴史）  第13回 植田富貴子：地域環境問題（水質汚濁と土壌汚染、水質汚濁の歴史、水系感染症）  第14回 植田富貴子：地域環境問題（化学物質による水質汚濁、イタイイタイ病、水俣病等）  第15回 植田富貴子：地域環境問題（土壌汚染の歴史、農薬、有害化学物質）</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210570R3	科目区分	必修
科目名	公衆衛生学総論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	毎回の資料および講義内容を、まとめておくこと。		
テキスト・参考文献他	獣医公衆衛生学 I・II (文永堂)、配付資料		
授業形態	教室内の講義を中心にする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	-
平常点評価	0%	-

オフィスアワー	植田富貴子、落合由嗣、高野貴士：獣医公衆衛生学教室 (D棟4階) 水曜 16:00-17:00：但し、電話 (内線3496、3497) または研究室にて事前に面接予約すること。
その他	

科目No.	210580R4	科目区分	必修
科目名	公衆衛生学Ⅰ（環境衛生）	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：落合 由嗣 単位認定者：植田 富貴子		

授業のねらい	公衆衛生学は社会を構成する人々の社会的に健康な生活を保持、増進する科学である。獣医学領域における公衆衛生は、食品衛生、人獣共通感染症、環境衛生、衛生行政等と広範にわたる。本講義では、環境衛生分野および食品衛生分野における獣医師の役割とその内容を理解する事を目標とする。
到達目標	<p>(1) 人や動物を取り巻く環境に関するこれまでの歴史と現状を理解し、化学物質や病原微生物と健康との関わりについての基礎的知識と必要な関連法規を説明できる。</p> <p>(2) 食品の安全を確保することを目的に、害を及ぼす要因、その作用機序を理解し、どのように安全を確保するかを理解することで食の安全確保を総合的に進めるための基礎知識を学び、さらに、関連法規の概念ならびにその内容を理解する。</p>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>公衆衛生学の暫定スケジュールとして、4年次終了までに総論、食品衛生、環境衛生、人獣共通感染症の基礎を終了し、5年次は食品衛生、環境衛生、人獣共通感染症についての最近の動向と法規等の変更点、およびさらに立ち入ったトピックを取り上げて講義を行う。</p> <p>* 高野助教が留学中のため当該部分の講義は本藤名誉教授が代行する。</p> <p>第1回 落合由嗣：環境衛生Ⅰ（公衆衛生と環境衛生；大気、水質、土壌の現状）  第2回 落合由嗣：環境衛生Ⅱ（その他の環境問題；騒音、振動、地盤沈下、悪臭）  第3回 落合由嗣：環境衛生Ⅲ（有害化学物質排出の動向、廃棄物、医療廃棄物、放射線）  第4回 植田富貴子：食品衛生の概要（食品衛生行政を含む）  第5回 植田富貴子：食品の常在微生物・変質、食品微生物の増殖促進・抑制、微生物制御  第6回 植田富貴子：食品添加物  第7回 植田富貴子：食品の衛生管理、安全性評価、食品の有害性（生体反応）  第8回 植田富貴子：食中毒発生とその動向（1） 化学性食中毒（有害物質）  第9回 落合由嗣：食中毒発生とその動向（2） 自然毒  第10回 高野貴士（本藤良）：食中毒発生とその動向（3） ウイルス性食中毒  第11回 落合由嗣：経口感染症（食水系感染症を含む）、食品衛生管理：卵、乳、食肉、魚の衛生（食肉処理場の衛生管理を含む）  第12回 島田俊雄：細菌性食中毒発生とその動向（1）、①サルモネラ食中毒、②ブドウ球菌食中毒、③ボツリヌス食中毒  第13回 島田俊雄：細菌性食中毒発生とその動向（2）、①カンピロバクター食中毒、②病原大腸菌食中毒、③エルシニア食中毒  第14回 島田俊雄：細菌性食中毒発生とその動向（3）、①腸炎ビブリオ食中毒、ナグビブリオ食中毒  第15回 落合由嗣：細菌性食中毒発生とその動向（4）、①ウェルシュ菌食中毒、②セレウス食中毒</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210580R4	科目区分	必修
科目名	公衆衛生学 I (環境衛生)	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	毎回の資料および講義内容を、まとめておくこと。		
テキスト・参考文献他	獣医公衆衛生学 I・II (文永堂)、配付資料		
授業形態	教室内の講義を中心にする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	-
平常点評価	0%	-

オフィスアワー	植田富貴子、落合由嗣、高野貴士：獣医公衆衛生学教室 (D棟4階) 水曜 16:00-17:00：但し、電話 (内線3496、3497) または研究室にて事前に面接予約すること。
その他	

科目No.	210590R4	科目区分	必修
科目名	公衆衛生学Ⅱ（食品衛生）	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：落合 由嗣 単位認定者：植田 富貴子		

授業のねらい	公衆衛生学は社会を構成する人々の社会的に健康な生活を保持、増進する科学である。獣医学領域における公衆衛生は、食品衛生、人獣共通感染症、環境衛生、衛生行政等と広範にわたる。本講義では、食品衛生分野および人獣共通感染症分野における獣医師の役割とその内容を理解する事を目標とする。
到達目標	<p>(1) 食品の安全を確保することを目的に、害を及ぼす要因、その作用機序を理解し、どのように安全を確保するかを理解することで食の安全確保を総合的に進めるための基礎知識を学び、さらに、関連法規の概念ならびにその内容を理解する。</p> <p>(2) 人獣共通感染症学の概論、細菌性人獣共通感染症とその発生状況、ウイルス・リケッチャ性人獣共通感染症とその発生状況、原虫・寄生虫性人獣共通感染症とその発生状況、人獣共通感染症の疾病・予防対策と関連法規を理解する。</p>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>公衆衛生学の暫定スケジュールとして、4年次終了までに総論、食品衛生、環境衛生、人獣共通感染症の基礎を終了し、5年次は食品衛生、環境衛生、人獣共通感染症についての最近の動向と法規等の変更点、およびさらに立ち入ったトピックを取り上げて講義を行う。</p> <p>* 高野助教が留学中のため当該部分の講義は本藤名誉教授が代行する。</p> <p>第1回 落合由嗣 : 細菌性食中毒発生とその動向 (5)、その他の食中毒 (劇症性、プレシオモナス、エロモナス)、原虫・寄生虫性中毒発生とその動向 (6)</p> <p>第2回 高野貴士 (本藤良) : 人獣共通感染症総論Ⅰ (定義・概要を含む)</p> <p>第3回 高野貴士 (本藤良) : 人獣共通感染症総論Ⅱ</p> <p>第4回 高野貴士 (本藤良) : ウイルス性人獣共通感染症 (1)</p> <p>第5回 高野貴士 (本藤良) : ウイルス性人獣共通感染症 (2)</p> <p>第6回 高野貴士 (本藤良) : ウイルス性人獣共通感染症 (3)</p> <p>第7回 高野貴士 (本藤良) : ウイルス性人獣共通感染症 (4)</p> <p>第8回 落合由嗣 : 細菌性人獣共通感染症各論 (1)</p> <p>第9回 落合由嗣 : 細菌性人獣共通感染症各論 (2)</p> <p>第10回 落合由嗣 : 細菌性人獣共通感染症各論 (3)</p> <p>第11回 落合由嗣 : 細菌性人獣共通感染症各論 (4)</p> <p>第12回 落合由嗣 : リケッチャ性人獣共通感染症</p> <p>第13回 落合由嗣 : 真菌性人獣共通感染症</p> <p>第14回 落合由嗣 : 原虫性人獣共通感染症</p> <p>第15回 落合由嗣 : 寄生虫性人獣共通感染症</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210590R4	科目区分	必修
科目名	公衆衛生学Ⅱ（食品衛生）	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために、次回の講義で取り扱う内容を事前に読むこと。復習として、毎回のテーマについてまとめておくこと。		
テキスト・参考文献他	獣医公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ（文永堂）、配付資料		
授業形態	教室内での講義を中心とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	-
平常点評価	0%	-

オフィスアワー	植田富貴子、落合由嗣、高野貴士：獣医公衆衛生学教室（D棟4階） 水曜 16:00-17:00：但し、電話（内線3496、3497）または研究室にて事前に面接予約すること。
その他	

科目No.	210630R4	科目区分	必修
科目名	毒性学 I	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：植田 富貴子 単位認定者：植田 富貴子		

授業のねらい	化学物質が人や動物そして環境に及ぼす有害作用を理解し、その防止における獣医師の役割を理解する。化学物質の生体での有害作用、体内動態、毒性発現のメカニズムなどについて学び、毒性学の重要性を理解すると共に、リスク解析や規制方法を理解することを目標とする。
到達目標	毒性学と社会、化学物質の生体内動態、毒性試験と評価、化学物質の有害採用とその管理・規制、化学物質のリスクアナリシス、遺伝毒性と発ガン性、臓器毒性、環境毒性のそれぞれを説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 植田富貴子： 毒性学総論（毒性学と社会） 第2回 田島剛： 毒性試験の実施と評価 第3回 田島剛： 化学物質の有害作用とその管理・規制、化学物質のリスクアナリシス 第4回 田島剛： 遺伝毒性、発がん性、生殖発生毒性総論 第5回 田島剛： 臓器毒性総論Ⅰ（呼吸器・肝臓・腎臓） 第6回 田島剛： 臓器毒性総論Ⅱ（循環器・免疫・皮膚・感覚器・運動器） 第7回 田島剛： 臓器毒性総論Ⅲ（内分泌・血液・神経・消化器） 第8回 金田剛治： 化学物質の体内動態と代謝
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210630R4	科目区分	必修
科目名	毒性学 I	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために次回の講義で取り扱う内容を事前に読むこと。復習として、毎回のテーマについてまとめておくこと。		
テキスト・参考文献他	獣医毒性学（近代出版）、配付資料		
授業形態	教室内の講義を中心にする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	-
平常点評価	0%	-

オフィスアワー	植田富貴子、津田修治：獣医公衆衛生学教室（D棟4階） 水曜 16:00-17:00：但し、電話（内線3496、3497）または研究室にて事前に面接予約すること。 金田剛治：獣医薬理学教室（D棟4階） 火曜 17:00-18:00：但し、電話（内線3491）または研究室にて事前に面接予約すること。
その他	

科目No.	210650R4	科目区分	必修
科目名	獣医疫学 I A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：植田 富貴子 単位認定者：植田 富貴子		
授業のねらい	動物や人間集団における健康や疾病とそれらに関連する事象の分布や規定要因を解明し、集団レベルでの疾病予防対策を行う疫学の基本的な考え方を学び、そのために必要な疫学指標、疫学研究のデザインと手法、疫学的データ解析の基礎知識を修得する。		
到達目標	(1) 疫学の定義や考え方を理解し、適切な標本の選択、を説明できる。 (2) 疾病頻度の測定方法を理解し、適切な疫学指標を用いて説明できる。 (3) 疫学研究の種類、特徴、長所、短所を説明できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 植田富貴子：疫学の概念と歴史 第2回 山田文也：感染症・非感染症の疫学と発生要因、リスクアセスメント 第3回 山田文也：母集団と標本抽出方法、因果関係、およびバイアスとその制御 第4回 山田文也：統計手法、誤差と誤差制御、疾病頻度の測定方法 第5回 山田文也：疫学の指標、サーベイランス、スクリーニング 第6回 山田文也：疫学の種類Ⅰ（記述疫学、生態学的疫学、横断研究） 第7回 山田文也：疫学の種類Ⅱ（症例対照研究、コホート研究） 第8回 山田文也：疫学の種類Ⅲ（介入研究、その他の疫学、疫学資料）		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210650R4	科目区分	必修
科目名	獣医疫学 I A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	毎回の配付資料および講義内容をまとめておくこと。		
テキスト・参考文献他	配布資料、獣医疫学（近代出版）		
授業形態	教室内での講義を中心にする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0	-
平常点評価	0%	-

オフィスアワー	植田富貴子：獣医公衆衛生学教室（D棟4階） 水曜 16:00-17:00：但し、電話（内線3496、3497）または研究室にて事前に面接予約すること。
その他	

科目No.	210690R2	科目区分	必修
科目名	野生動物学Ⅰ（野生動物基礎）B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：羽山 伸一 単位認定者：羽山 伸一		
授業のねらい	野生動物学は、野生動物と人間との間にあるさまざまな問題を解決するための科学である。本講義では、そのための基礎科学である、生態学、個体群動態学、保全生物学、野生動物管理学、人と動物の関係学などを概説し、問題解決の考え方や必要な研究および技術について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野生動物に関わる基礎科学を理解できる</li> <li>2. 絶滅のメカニズムと対策について説明できる</li> <li>3. 野生動物の生息地と保全方法について説明できる</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	2年次前期の基礎生物学Ⅲ（動物学概論）で学んだ動物学の基礎知識への理解を確認してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 羽山伸一 野生動物学とは何か 第2回 羽山伸一 絶滅のメカニズムとMVP（最小維持可能個体数） 第3回 羽山伸一 絶滅危惧種とレッドリスト 第4回 羽山伸一 野生動物の生息地とその現状 第5回 羽山伸一 ワイルドライフマネジメントと順応的管理 第6回 羽山伸一 自然再生とその手法 第7回 羽山伸一 外来生物とは何か 第8回 羽山伸一 まとめ		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210690R2	科目区分	必修
科目名	野生動物学 I (野生動物基礎) B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習 (90分)、復習 (90分)		
テキスト・参考文献他	テキストとして「野生動物学」村田浩一、坪田敏男 編、(文永堂出版)を使用する。 そのほか、講義内に最新のものを指示する		
授業形態	おもにスライドを使用した講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70	論述試験を実施する
レポート試験	0	実施しない
平常点評価	30	出席と疑応答等積極的な参加を総合的に評価する。

オフィスアワー	①羽山伸一 野生動物学教室 ②hayama × nvl.u. ac. jp ③Eメールにて受け付け、日時を調整する
その他	

科目No.	210700R4	科目区分	必修
科目名	野生動物学Ⅱ（野生動物医学）A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：加藤 卓也 単位認定者：羽山 伸一		

授業のねらい	野生動物学Ⅱは、2年次の野生動物学Ⅰで講義した生態学や行動学等の基礎科学に立脚し、とくに獣医学および獣医師とかかわりの深い分野を中心に、問題解決の考え方や必要な研究および技術について学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野生動物の保全と獣医学との関わりを理解できる</li> <li>2. 野生動物の捕獲や検査に関わる技術や理論を理解できる</li> <li>3. 外来動物問題と動物福祉の関連を理解し、獣医師として行動できる</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 加藤卓也 野生動物の捕獲 第2回 加藤卓也 化学的不動化 第3回 羽山伸一 野生動物検査技術（1）性・年齢査定法 第4回 羽山伸一野生動物検査技術（2）繁殖・繁殖状態検査法 第5回 加藤卓也特定外来動物の生態と対策 第6回 羽山伸一外来動物問題と動物福祉 第7回 羽山伸一生息域外保全と野生復帰 第8回 羽山伸一まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210700R4	科目区分	必修
科目名	野生動物学Ⅱ（野生動物医学） A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習（90分）、復習（90分）		
テキスト・参考文献他			
授業形態	おもにスライドを使った講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	70	学期末に試験を実施する。
レポート試験	0	実施しない
平常点評価	30	出席と疑応答等積極的な参加を総合的に評価する。

オフィスアワー	①羽山伸一 野生動物学教室 ②hayama×nvl.u.ac.jp ③Eメールにて受け付け、日時を調整する
その他	

科目No.	210710R3	科目区分	必修
科目名	獣医内科学総論 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：小山 秀一 単位認定者：小山 秀一		

授業のねらい	内科診療の進め方の全体像を理解する。 問診、身体検査、診療記録、説明と同意、臨床検査の基本的概念を理解した上で、それらを理論的に組み立てて診療を進めるための実際的な考え方と知識を修得する。
到達目標	1) 診療の基本的な考え方と問診の考え方とその方法を理解する。 2) 一般的な身体検査と診療記録の意義とその記載法に関する基礎知識を理解する。 3) インフォームドコンセントと基本的な臨床検査の項目とその選択法に関する基礎知識を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 小山秀一 獣医療の基本的な考え方 第2回 小山秀一 問診の基本的な考え方とその方法 第3回 松本浩毅 身体検査の基本的な考え方とその方法1 第4回 松本浩毅 身体検査の基本的な考え方とその方法2 第5回 竹村直行 診療記録の意義とその記載法 第6回 竹村直行 説明と同意に関する基礎知識 第7回 小山秀一 基本的な臨床検査の項目とその選択法 第8回 小山秀一 まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210710R3	科目区分	必修
科目名	獣医内科学総論 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習時間17.5時間、復習時間17.5時間 内容の理解を深めるため次回の講義内容について参考書等を読むこと 復習として、毎回のテーマについてまとめておく		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布する。 獣医内科学（小動物編）（文永堂出版）		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	予定なし
平常点評価	10%	出席

オフィスアワー	小山秀一：獣医学科臨床獣医学部門治療学分野I獣医内科学研究室（D棟2階）hkoyamaxnvl.u.ac.jp（xxを@にすること）：Eメールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	210720R4	科目区分	必修
科目名	獣医内科学実習 I (一般診断・治療)	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：手嶋 隆洋 単位認定者：小山 秀一		

授業のねらい	動物に対する内科的治療を実施する上で、必要な診断法および治療法に関する基本的手技を身につける。
到達目標	①問診、身体検査、聴診、動物の保定について理解し、その意義が説明できる。 ②血液の採取法や塗抹標本の作製法を修得した上で、血液一般検査を実施し、その結果を評価できる。 ③尿検査や糞便検査について理解し、その結果を評価できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1・2回 松本浩毅 診察の進め方と身体検査について 第3回 小山秀一 聴診の方法とその解釈について 第4回 松本浩毅 採血法と投薬法について 第5回 手嶋隆洋 採尿法と尿検査について 第6回 手嶋隆洋 糞便検査について 第7・8・9回 松本浩毅 血液一般検査の方法とその解釈について、血液塗抹標本の作製 第10回 手嶋隆洋 実習内容に関するまとめ
授業期間を通して課される課題	実習項目に関するレポートを課す

科目No.	210720R4	科目区分	必修
科目名	獣医内科学実習 I (一般診断・治療)	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	配布資料による予習と復習		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室内での実習に関する講義と実習 実習場での実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70%	実習最終日に筆記試験を実施
レポート試験	20%	実習項目に関するレポートを課す
平常点評価	10%	出席状況および実習への取り組みを総合的に評価する

オフィスアワー	手嶋隆洋：臨床獣医学部門 獣医内科学研究室 (D棟2階) teshima63××nvl.u.ac.jp (××を@にすること) メールにて受付または面接を予約		
その他			

科目No.	210730R4	科目区分	必修
科目名	獣医内科学実習Ⅱ（一般診断・治療）	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：手嶋 隆洋 単位認定者：小山 秀一		

授業のねらい	動物に対する内科的治療を実施する上で、必要な診断法および治療法に関する基本的手技を身につける。
到達目標	①心電図検査について理解し、その結果を評価できる。 ②内分泌学的検査について理解し、その結果を評価できる。 ③心エコー検査の基本的断面について理解し、描出できる。 ④腹部エコー検査における腹部臓器の正常像について理解し、描出できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1・2回 小山秀一 心電図検査の意義、方法、解釈について 第3・4回 手嶋隆洋 内分泌学的検査の意義、方法、解釈について 第5・6回 松本浩毅 心エコー検査の基本的断面と腹部エコー検査における腹部臓器の正常像について 第7・8回 松本浩毅 心エコー検査および腹部エコー検査における描出の方法について 第9回 手嶋隆洋 エコー検査および腹部エコー検査手技のトレーニング 第10回 手嶋隆洋 実習内容に関するまとめ
授業期間を通して課される課題	実習項目に関するレポートを課す

科目No.	210730R4	科目区分	必修
科目名	獣医内科学実習Ⅱ（一般診断・治療）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	配布資料による予習と復習		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室内での実習に関する講義と実習 実習場での実習		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	70%	実習最終日に筆記試験を実施
レポート試験	20%	実習項目に関するレポートを課す
平常点評価	10%	出席状況および実習への取り組みを総合的に評価する

オフィスアワー	手嶋隆洋：臨床獣医学部門 獣医内科学研究室（D棟2階） teshima63××nvl.u.ac.jp（××を@にすること） メールにて受付または面接を予約		
その他			

科目No.	210740R4	科目区分	必修
科目名	獣医臨床病理学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：鷺巣 月美 単位認定者：鷺巣 月美		
授業のねらい	動物の状態を把握するための各種検体検査、特に血液検査、尿検査、血液化学検査、血液凝固検査を中心に学ぶ。検査結果の解釈に不可欠な病態生理についても合わせて学ぶことにより、病気の動物の体内で起きていることを理解できるようにする。		
到達目標	血液検査を中心とした検査結果について説明できる 血液細胞の産生（造血）とその異常について説明できる 血液化学検査項目を知り、各検査結果をどのように解釈するのか説明できる 検査結果から疾患の病態生理について説明できる		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医生理学、獣医生化学		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回鷺巣 月美 臨床病理学総論・検体の採取法について 第2回鷺巣 月美 血液検査（赤血球） 第3回盆子原 誠 血液検査（白血球）I 第4回盆子原 誠 血液検査（白血球）II 第5回盆子原 誠 血液凝固系の検査とその解釈 第6回鷺巣 月美 血液化学検査（序論）・血清蛋白質の検査 第7回盆子原 誠 免疫学的検査・分子生物学的検査 第8回 田村恭一 尿検査・電解質/酸塩基平衡/血液ガス・腎臓の検査 第9回鷺巣 月美 肝臓/胆道系の検査I 第10回 鷺巣 月美 肝臓/胆道系の検査II 第11回 盆子原 誠 消化管と膵臓の検査/運動器・骨疾患の検査 第12回小野憲一郎内分泌/代謝病の検査I 第13回小野憲一郎内分泌/代謝病の検査II 第14回 盆子原 誠 体液/貯留液/皮膚試料の検査・細胞診 第15回盆子原 誠 民間検査センターとの共同講義		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210740R4	科目区分	必修
科目名	獣医臨床病理学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	学内LANに送信された事前資料に目を通し、内容を理解するために必要な基礎知識については各自調べておく（30分）復習として、授業内容をまとめておく（60分）		
テキスト・参考文献他	モデル・コア・カリキュラム準拠PDF版「臨床病理学」：獣医臨床病理学会HPより無償ダウンロード可能		
授業形態	教室内での講義、質問形式による双方向講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0	評価方法としない
平常点評価	0	評価方法としない

オフィスアワー	盆子原誠 獣医臨床病理学教室（D棟2階）、Eメールbonkobara@nvlu.ac.jpにて予約。
その他	

科目No.	210750R4	科目区分	必修
科目名	獣医臨床病理学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：鷲巢 月美 単位認定者：鷲巢 月美		
授業のねらい	常の診察を行う上で必要な血液検査、血液化学検査、細胞診検査を総合的に理解し、適切な解釈ができるようにする。また、血液検査の延長上に位置する骨髓検査についても、基本的な見方ができるようにする。		
到達目標	1) 末梢血塗抹標本における血球形態の変化を適切に評価し病態を把握をする、2) 血液化学検査データの適切な解釈を行う、3) 骨髓塗抹標本における細胞の分類と病的変化の評価を行う、4) 細胞診標本の適切な評価を行う。以上を総合して病態の把握・診断ができる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医臨床病理学および動物血液病・免疫病学の内容を十分理解しておく。		
履修上の留意点	実習は午後1:30より開始。色鉛筆を持参する。白衣とスケッチブックは特に必要としない。		
概要・スケジュール	<p>第1回：鷲巢月美 末梢血塗抹標本の評価法についての講義 + 末梢血塗抹標本の鏡検  第2回：田村恭一 末梢血塗抹標本の鏡検  第3回：盆子原誠 骨髓塗抹標本の評価法についての講義 + 骨髓塗抹標本の鏡検  第4回：鷲巢月美 骨髓塗抹標本の鏡検  第5回：田村恭一 骨髓塗抹標本の鏡検  第6回：盆子原誠 細胞診標本の評価法についての講義 + 細胞診標本の鏡検  第7回：鷲巢月美 細胞診標本の鏡検  第8回：田村恭一 症例（ケーススタディ1）検討  第9回：盆子原誠 症例（ケーススタディ2）検討  第10回：鷲巢月美 まとめ</p> <p>ケーススタディ（数症例）については、実習期間（1回～7回）を通して各自時間を調整しながら評価を進める。</p>		
授業期間を通して課される課題	ケーススタディのレポート作成（提出は実習期間終了後）。		

科目No.	210750R4	科目区分	必修
科目名	獣医臨床病理学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容を理解するために必要な基礎知識については各自調べておく（30分）復習として、実習内容をまとめておく（60分）		
テキスト・参考文献他	犬猫の血液アトラス（テクサン出版） 犬と猫の臨床血液学（インターズー）		
授業形態	個人単位での実習		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80	実習期間最終日に実習内容に関する試験を実施する。
レポート試験	10	レポート提出は必須。各症例の病態の理解度を評価。
平常点評価	10	小テスト。

オフィスアワー	盆子原誠 獣医臨床病理学教室（D棟2階）、Eメールbonkobara@nvlu.ac.jpにて予約。
その他	

科目No.	210760R3	科目区分	必修
科目名	獣医臨床薬理学 B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：田島 剛 単位認定者：金田 剛治		
授業のねらい	臨床薬理学は基礎薬理学の原理と「疾病」を踏まえて、動物の臓器・器官ごとの薬理的な基礎知識を再確認すると共に、動物医療に用いられてきた薬物の作用やその使用法等について学び、薬物の適切かつ安全な使用の確保のための知識を習得することを目的とする。		
到達目標	各項目で学んだ薬物について対象疾患の病態、代表的な治療薬の薬理作用、機序、臨床応用および副作用について説明できるようになる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 金田剛治薬物治療の基本姿勢 第2回 金田剛治抗菌薬 第3回 金田剛治抗菌薬 第4回 金田剛治抗真菌薬・抗ウイルス薬 第5回 金田剛治抗腫瘍薬 第6回 金田剛治中毒と中毒治療薬 第7回 田島剛産業動物の薬物治療法 第8回 田島剛馬の薬物治療法		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210760R3	科目区分	必修
科目名	獣医臨床薬理学 B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	「獣医薬理学Ⅰ」と「獣医薬理学Ⅱ」に比べ、履修内容が多いので、授業終了後は、必ずプリントと教科書などを読み直し知識を整理しておくこと（20-30分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：獣医薬理学 日本比較薬理学・毒性学会編（近代出版） 参考図書：小動物の薬物治療学 尾崎・浅井・辻本編（オーム社）		
授業形態	授業形式を基本として時にはスライドおよびプリントによって学習する。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	90%を予定	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	10%を予定	学期中に小テストあるいはレポートを課す予定
平常点評価	0%	なし

オフィスアワー	金田剛治：獣医薬理学教室（D棟4階） t-kaneda@nvl.u.ac.jp（原則 火曜16：00-17：30）Eメールあるいは授業直後に受付または面談を予約（アドレスは×を@に変えて使用すること）
その他	

科目No.	210770R4	科目区分	必修
科目名	獣医呼吸器病学 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：藤田 道郎 単位認定者：藤田 道郎		
授業のねらい	鼻から胸腔にかけての呼吸生理、解剖の理解と、種々の疾患の病態生理、診断および治療について習得してもらう。		
到達目標	呼吸器系の働き、各疾患の診断や治療などについて習得してもらう。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回：藤田道郎 鼻腔疾患について 第2回：藤田道郎 鼻咽頭疾患について 第3回：藤田道郎 咽喉頭疾患について 第4回：藤田道郎 気管疾患について 第5回：藤田道郎 気管支疾患について 第6回：藤田道郎 肺疾患について 第7回：藤田道郎 胸腔疾患について 第8回：藤田道郎 縦隔疾患について		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210770R4	科目区分	必修
科目名	獣医呼吸器病学 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	獣医療において呼吸器に特化した参考書は少ない。授業の復習をしっかりと行う必要がある。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	スライドを用いて行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90	ペーパーテスト
レポート試験	0	原則、レポートによる評価は実施しない。
平常点評価	10	授業出席の回数や態度で評価する。

オフィスアワー	随時、教室訪問あるいは大学アドレスにて。
その他	

科目No.	210780R4	科目区分	必修
科目名	獣医循環器病学 B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：小山 秀一 単位認定者：小山 秀一		

授業のねらい	犬猫の循環器系の構造と機能を理解した上で、主な循環器疾患の原因、病態生理、症状、診断法および治療法を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心臓および血管系の構造と機能を説明できる。</li> <li>2) 循環器系の血行動態を学び、心不全の分類、症状および病態が説明できる。</li> <li>3) 循環器疾患の検査法を学び、診断法の説明ができる。</li> <li>4) 代表的な先天性心疾患と後天性心疾患の病態、症状、診断法および治療法が説明できる。</li> <li>5) 心筋・心膜疾患の病態、症状、診断法および治療法が説明できる。</li> <li>6) 犬糸状虫症の病態、症状、診断法および治療法が説明できる。</li> <li>7) 危険な不整脈の心電図上の特徴を学び、治療方針が説明できる。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学および獣医生理学での循環器に関する知識を整理しておく。
履修上の留意点	スライドを使用する。
概要・スケジュール	<p>第1回 小山秀一 循環器の構造、機能および血行動態を学び、心不全の分類および病態を学習する</p> <p>第2回 小山秀一 循環器疾患の症状、検査法および診断法を学習する</p> <p>第3回 小山秀一 代表的な先天性心疾患の病態、症状、診断法と治療法を学習する</p> <p>第4回 小山秀一 犬の僧帽弁閉鎖不全症の原因、病態、症状、診断法と治療法を学習する</p> <p>第5回 小山秀一 心筋症の分類、病態、症状、診断法と治療法を学習する</p> <p>第6回 小山秀一 心膜疾患の原因、病態、症状、診断法と治療法を学習する</p> <p>第7回 小山秀一 犬糸状虫症の病態、症状、診断法と治療・予防法を学習する</p> <p>第8回 小山秀一 危険な不整脈の心電図上の特徴を学び、治療方針を学習する</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210780R4	科目区分	必修
科目名	獣医循環器病学 B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義時間720分(12時間)、予習16.5時間・復習16.5時間 内容の理解を深めるため次回の講義内容について参考書等を読むこと 復習として、毎回のテーマについてまとめておく		
テキスト・参考文献他	授業ごとに講義資料を配付する 獣医内科学第2版小動物編(文永堂)、小動物の心臓病学(インターズー)		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	予定なし
平常点評価	10%	出席、質疑応答などを評価する

オフィスアワー	獣医学科臨床獣医学部門治療学分野I獣医内科学研究室(D棟2階) メールアドレス: hkoyamaxnu.ac.jp Eメールで受け付ける
その他	

科目No.	210790R4	科目区分	必修
科目名	獣医消化器病学Ⅰ（内科）B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：松本 浩毅 単位認定者：小山 秀一		

授業のねらい	消化器科診療の進め方の全体を理解する。 各種検査の方法やその評価方法について理解した上で診療を進めるための考え方と知識を修得する。
到達目標	1. 診療の進め方とその方法を理解する。 2. 基本的な臨床検査の項目とその選択方法を理解する。 3. 基本的な治療法とその選択方法について理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回：松本浩毅 口腔・食道疾患 第2回：松本浩毅 胃疾患 第3回：松本浩毅 小腸疾患 第4回：松本浩毅 大腸疾患 第5回：左向敏紀 膵臓疾患（1） 第6回：左向敏紀 膵臓疾患（2） 第7回：左向敏紀 肝臓疾患（1） 第8回：左向敏紀 肝臓疾患（2）
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210790R4	科目区分	必修
科目名	獣医消化器病学Ⅰ（内科） B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	毎回の講義内容を理解するために参考書などを事前に読むこと。 復習として毎回のテーマについてまとめる		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとのプリントを配信する。 獣医内科学（小動物編）文永堂出版		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	10%	授業中に小テストを行う
平常点評価	0%	予定なし

オフィスアワー	松本浩毅：獣医内科学研究室（D棟2階）matsumotoxxnvl.u.ac.jp（xxを@にすること） Eメールにて受付または面談を予約
その他	

科目No.	210800R4	科目区分	必修
科目名	獣医消化器病学Ⅱ（外科） A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：余戸 拓也 単位認定者：原 康		

授業のねらい	消化器系の外科疾患について、原因、病態、症状、診断法および外科的治療法について理解する。
到達目標	外科的治療に必要な、口腔、食道、胃腸、肛門、肝臓、膵臓の疾患について、その病態生理、診断法および外科的治療法について説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回・原田恭治口腔内の外科疾患 第2回・原田恭治食道の外科疾患 第3回・原田恭治反芻動物の消化器外科（1） 第4回・原田恭治反芻動物の消化器外科（2） 第5回・余戸拓也胃の外科疾患 第6回・余戸拓也腸の外科疾患 第7回・余戸拓也肝臓・胆道系の外科疾患（1） 第8回・余戸拓也肝臓・胆道系の外科疾患（2）・膵臓の外科疾患
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210800R4	科目区分	必修
科目名	獣医消化器病学Ⅱ（外科） A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の理解を深めることを目的として、次回の講義で取り扱う資料を事前に読むこと（予習）（30分）。復習として、毎回のテーマについてまとめておくこと（30分）		
テキスト・参考文献他	テキスト：スラッター小動物の外科手術。：授業ごとにプリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	-	-
平常点評価	10%	出席回数

オフィスアワー	原 康：毎週金曜日9:00～12:00（会議、出張を除く） 原田恭治：木曜日15:00～17:00、金曜日9:00～17:00 余戸拓也：獣医外科学教室（D棟2階）；水・金の午後（医療センター業務や会議, 出張を除く）
その他	

科目No.	210810R4	科目区分	必修
科目名	獣医泌尿器病・生殖器病学 I B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：竹村 直行 単位認定者：竹村 直行		
授業のねらい	獣医泌尿器病・生殖器病学では、これまでに学んできた解剖学，組織学，生理学，薬理学および病理学などの内容を振り返りながら，有病率が高い代表的な泌尿器病の病態，症状，診断法および治療法を学ぶ。		
到達目標	泌尿生殖器（特に泌尿器）の構造と機能を理解し，主な泌尿器病，特に各種尿石症および急性腎不全の原因，病態生理，症状，診断法と治療法に関する知識を習得する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学，獣医組織学，獣医生理学，獣医病理学，獣医薬理学の知識が不可欠である。		
履修上の留意点	学内ネットワークを介して事前に講義内容（スライドハンドアウト）を配布するので，各自で印刷・持参すること。なお，必要に応じて参考書や文献を紹介する。		
概要・スケジュール	第1回 宮川優一 泌尿器の構造と機能，泌尿器疾患の臨床症状 (1/3) 第2回 宮川優一 泌尿器の構造と機能，泌尿器疾患の臨床症状 (2/3) 第3回 宮川優一 泌尿器の構造と機能，泌尿器疾患の臨床症状 (3/3) 第4回 竹村直行 泌尿器疾患の診断法 第5回 竹村直行 尿石症 (1/2) 第6回 竹村直行 尿石症 (2/2) 第7回 宮川優一 急性腎不全 (1/2) 第8回 宮川優一 急性腎不全 (2/2)		
授業期間を通して課される課題	学生の理解度に応じて復習または予習を指示したり，課題を出すことがある。		

科目No.	210810R4	科目区分	必修
科目名	獣医泌尿器病・生殖器病学 I B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義15時間＋講義外学習時間（予習・復習）30時間＝必要学習時間45時間		
テキスト・参考文献他	参考書として「獣医内科学（第2版，文永堂）」を指定する。その他，必要に応じて文献や書籍を紹介する。		
授業形態	講義内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	100	60点以上を合格と判定する
レポート試験	0	特に評価対象としない
平常点評価	0	特に評価対象としない

オフィスアワー	宮川優一：火曜，水曜は全日研究室を不在にしていることが多いですので，それ以外なら対応可能です。 竹村直行：Eメールで事前に面談の予約をすること（nstakemura@nvl.u.ac.jp アットマーク@は半角に置き換えて送信すること）。なお，水曜は終日診療日なので面談不可。
その他	なし

科目No.	210820R4	科目区分	必修
科目名	獣医泌尿器病・生殖器病学Ⅱ A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：竹村 直行 単位認定者：竹村 直行		
授業のねらい	獣医泌尿器病・生殖器病学では、これまでに学んできた主に解剖学、組織学、生理学、薬理学および病理学の内容を振り返りながら、有病率が高い代表的な泌尿器病の病態、症状、診断法および治療法を学ぶ。		
到達目標	泌尿生殖器（特に泌尿器）の構造と機能を理解し、主な泌尿器病、特に慢性腎臓病、上部および下部尿路の炎症性または感染性疾患の原因、病態生理、症状、診断法と治療法に関する知識を習得する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学、獣医組織学、獣医生理学、獣医病理学、獣医薬理学に加え、前期に学んだ獣医泌尿器病・生殖器病学の知識が不可欠である。		
履修上の留意点	学内ネットワークを介して事前に講義内容（スライドハンドアウト）を配布するので、各自で印刷・持参すること。なお、必要に応じて参考書や文献を紹介する。		
概要・スケジュール	第1回 竹村直行 慢性腎臓病(1/3) 第2回 竹村直行 慢性腎臓病(2/3) 第3回 竹村直行 慢性腎臓病(3/3) 第4回 宮川優一 上部尿路の炎症性疾患と感染性疾患(1/2) 第5回 宮川優一 上部尿路の炎症性疾患と感染性疾患(2/2) 第6回 竹村直行 下部尿路の炎症性疾患と感染性疾患(1/2) 第7回 宮川優一 下部尿路の炎症性疾患と感染性疾患(2/2)		
授業期間を通して課される課題	学生の理解度に応じて復習または予習を指示したり、課題を出すことがある。		

科目No.	210820R4	科目区分	必修
科目名	獣医泌尿器病・生殖器病学Ⅱ A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義15時間＋講義外学習時間（予習・復習）30時間＝必要学習時間45時間		
テキスト・参考文献他	参考書として「獣医内科学（第2版，文永堂）」を指定する。その他，必要に応じて文献や書籍を紹介する。		
授業形態	講義内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（％）	評価方法
定期試験	100	60点以上を合格と判定する
レポート試験	0	特に評価対象としない
平常点評価	0	特に評価対象としない

オフィスアワー	宮川優一：火曜，水曜は全日研究室を不在にしていることが多いですので，それ以外なら対応可能です。 竹村直行：Eメールで事前に面談の予約をすること（nstakemura@nvl.u.ac.jp アットマーク@は半角に置き換えて送信すること）。なお，水曜は終日診療日なので面談不可。
その他	なし

科目No.	210830R3	科目区分	必修
科目名	獣医内分泌代謝学 I B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：手嶋 隆洋 単位認定者：小山 秀一		

授業のねらい	生体細胞が細胞外に分泌する化学伝達物質であるホルモンの作用を理解し、ホルモンによる生体内代謝機能変化を理解する。ホルモン異常による病態（亢進症・低下症）の診断法と治療法を習得する。
到達目標	内分泌のホルモン分泌機構、および関連疾患時の検査方法、治療法、看護・管理方法を説明できる。糖代謝、カルシウム代謝、脂質代謝および関連疾患を説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 左向敏紀 内分泌学総論 ①内分泌とは ②ホルモン分泌機構、ホルモンの種類と臨床との関係 ③フィードバック機構、作用機序</p> <p>第2回 手嶋隆洋 視床下部・下垂体疾患 ①尿崩症について ②下垂体性矮小症と先端肥大症について</p> <p>第3回 手嶋 隆洋 甲状腺疾患 ①甲状腺ホルモンの種類、働き、検査方法</p> <p>第4回 手嶋 隆洋 甲状腺機能低下症と甲状腺機能亢進症 ①甲状腺機能低下症の原因と病態、症状、診断、治療 ②甲状腺機能亢進症の原因と病態、症状、診断、治療</p> <p>第5回 森昭博 副腎皮質疾患 ①副腎ホルモンの働き、ストレスと対応、関連疾病</p> <p>第6回 森昭博 副腎皮質機能低下症 ①急性副腎不全の原因、分類、治療、管理方法 ②アジソン病の病態と診断、治療、管理方法</p> <p>第7回 森昭博 副腎皮質機能亢進症 ①原因、分類、症状、検査方法</p> <p>第8回 森昭博 副腎皮質機能亢進症の治療法 ①内科治療、外科治療、放射線療法</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210830R3	科目区分	必修
科目名	獣医内分泌代謝学Ⅰ B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	事前配布する授業資料による予習（60分） 授業内容に関する復習（120分）		
テキスト・参考文献他	獣医内科学（文永堂出版）		
授業形態	授業での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	予定はない。
平常点評価	20%	出席状況や小テストを実施した場合はその結果を総合的に評価する。

オフィスアワー	左向敏紀：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） t-sako××nvl.u.ac.jp（××を@にすること） メールにて受付または面接を予約 森昭博：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） amori××nvl.u.ac.jp（××を@にすること） メールにて面談を予約 手嶋隆洋：獣医学科臨床獣医学部門獣医内科学研究室（D棟2階） teshima63××nvl.u.ac.jp（××を@にすること） メールにて面談を予約		
その他			

科目No.	210840R4	科目区分	必修
科目名	獣医内分泌代謝学Ⅱ A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：手嶋 隆洋 単位認定者：小山 秀一		

授業のねらい	生体細胞が細胞外に分泌する化学伝達物質であるホルモンの作用を理解し、ホルモンによる生体内代謝機能変化を理解する。ホルモン異常による病態（亢進症・低下症）の診断法と治療法を習得する。
到達目標	内分泌のホルモン分泌機構、および関連疾患時の検査方法、治療法、看護・管理方法を説明できる。糖代謝、カルシウム代謝、脂質代謝および関連疾患を説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 森昭博 副甲状腺疾患  ①上皮小体機能亢進症の病態，鑑別診断，治療  ②上皮小体機能低下症の病態，鑑別診断，治療</p> <p>第2回 森昭博 上皮小体とカルシウム代謝  ①低カルシウム血症の病態と症状，治療  ②高カルシウム血症の病態と症状，治療</p> <p>第3回 左向敏紀 膵臓疾患  ①膵臓から分泌されるホルモンと働き  ②インスリンの構造，分泌様式，作用機序</p> <p>第4回 左向敏紀 犬の糖尿病  ①発症原因，病態，合併症，診断方法，救急治療法</p> <p>第5回 左向敏紀 犬の糖尿病の維持療法  ①食事療法，インスリン療法，管理方法，定期検診</p> <p>第6回 左向敏紀 猫の糖尿病  ①発症原因，病態，合併症 ②食事療法，インスリン療法，管理方法，定期検診</p> <p>第7回 手嶋隆洋 インスリノーム，脂質異常  第8回 左向敏紀 中毒</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210840R4	科目区分	必修
科目名	獣医内分泌代謝学Ⅱ A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	事前配布する授業資料による予習（60分） 授業内容に関する復習（120分）		
テキスト・参考文献他	獣医内科学（文永堂出版）		
授業形態	授業での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	予定はない。
平常点評価	20%	出席状況や小テストを実施した場合はその結果を総合的に評価する。

オフィスアワー	左向敏紀：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） t-sako××nvl.u.ac.jp（××を@にすること） メールにて受付または面接を予約 森昭博：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） amori××nvl.u.ac.jp（××を@にすること） メールにて面談を予約 手嶋隆洋：獣医学科臨床獣医学部門獣医内科学研究室（D棟2階） teshima63××nvl.u.ac.jp（××を@にすること） メールにて面談を予約		
その他			

科目No.	210850R3	科目区分	必修
科目名	獣医臨床栄養学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：佐々木 典康 単位認定者：佐々木 典康		

授業のねらい	動物の健康維持に必要な五大栄養素の機能・代謝を理解し、動物の特性やライフステージに合わせた栄養管理の重要性を学ぶ。さらに各種疾病時の病態を理解し、症状の改善・緩和や病態進行を遅延させるための栄養管理法を修得する。
到達目標	五大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ミネラル、ビタミン）の体内での利用および代謝経路を説明できる。また、五大栄養素の欠乏や過剰で生じる病態を説明できる。腎・下部尿路疾患、心疾患、消化器疾患、肝疾患などの動物への栄養管理法を説明できる。ペットフードの製造工程および関連法規を説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	栄養管理には、まず動物の正常な解剖生理を理解することが必須である。そのため、本講義の履修にあたっては、獣医解剖学、獣医生理学、獣医生化学の知識を修得しておくとともに、再確認をしておくことが重要である。
履修上の留意点	出席は厳しくチェックするので、遅刻をしないこと。講義回数の2/3以上の出席がない場合は定期試験の受験資格を失います。欠席した場合には欠席届を提出すること。
概要・スケジュール	<p>第1回：佐々木典康 栄養学の歴史と五大栄養素、水</p> <p>第2回：佐々木典康 糖質の代謝と働き、その関連疾患</p> <p>第3回：佐々木典康 タンパク質、アミノ酸の代謝と働き、その関連疾患</p> <p>第4回：佐々木典康 脂質の代謝と働き、その関連疾患</p> <p>第5回：佐々木典康 ミネラル・ビタミンの役割と働き、その関連疾患</p> <p>第6回：佐々木典康 動物の食性と解剖生理機能の比較</p> <p>第7回：佐々木典康 飼養標準と栄養要求量</p> <p>第8回：佐々木典康 ライフステージと栄養、疾病と栄養管理の考え方</p> <p>第9回：佐々木典康 ペットフードの製造工程、ペットフードに関する法規（ペットフード安全法）</p> <p>第10回：佐々木典康 下部尿路疾患、腎疾患に対する栄養管理</p> <p>第11回：佐々木典康 心疾患に対する栄養管理</p> <p>第12回：佐々木典康 肥満・糖尿病に対する栄養管理</p> <p>第13回：佐々木典康 消化器疾患、肝疾患に対する栄養管理</p> <p>第14回：佐々木典康 産業動物の代謝病と栄養管理</p> <p>第15回：佐々木典康 ホームメイド・フードと中毒</p>
授業期間を通して課される課題	適宜、講義時間中に小テストを実施する。また、外部講師の講義（3回）の中から興味を持った1題を選び、レポートを作成し期限内に提出する。

科目No.	210850R3	科目区分	必修
科目名	獣医臨床栄養学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として講義内容に関連する解剖学・生理学・生化学の分野を学習しておく (90分) 復習として、当日配布された資料を読み、講義の内容をまとめておく (90分)		
テキスト・参考文献他	特に指定の教科書はない。必要に応じてプリントを配布する。 さらに詳しく勉強したい場合：「小動物の臨床栄養学【第5版】岩崎利郎、辻本元 監訳」、 「COMPANION ANIMAL NUTRITION, Ackerman N.」など		
授業形態	スライド・配布資料を中心とした講義形式		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	60	定期試験期間中に筆記試験を実施する
レポート試験	20	外部講師の講義内容に関してレポートを作成する
平常点評価	20	出席状況および小テストで評価する

オフィスアワー	佐々木典康：獣医生化学研究室（獣医学教育推進室）：D棟5階 noris@nvlu.ac.jp（※「♪」記号を「@」に置き換えること） 原則として火・木・金曜日の13:00～15:00（可能であれば事前にメールで予約すること）。
その他	

科目No.	210860R4	科目区分	必修
科目名	獣医血液病・免疫病学 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：田村 恭一 単位認定者：鷲巣 月美		
授業のねらい	動物の血液病・免疫病について、標準的な診断プロセスを理解する。また、診断結果に応じた治療法について学習する。		
到達目標	動物の血液病および免疫病について、診断方法・診断基準が説明できる 動物の血液病および免疫病について、適切な治療方法と予後が説明できる		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医臨床病理学、獣医生理学、獣医生化学、獣医内科学		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 盆子原 誠造血機構（骨髄）と血液・免疫系疾患の検査 第2回 田村 恭一貧血と赤血球増加症 第3回 盆子原 誠白血球増加症と白血球減少症 第4回 盆子原 誠出血傾向 第5回 盆子原 誠免疫介在性血液疾患 第6回 盆子原 誠リンパ系腫瘍・白血病と骨髄異形成症候群I 第7回 盆子原 誠リンパ系腫瘍・白血病と骨髄異形成症候群II 第8回 盆子原 誠ケーススタディ		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210860R4	科目区分	必修
科目名	獣医血液病・免疫病学 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	学内LANに送信された事前資料に目を通し、内容を理解するために必要な基礎知識については各自調べておく（30分）復習として、授業内容をまとめておく（60分）		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室内での講義、質問形式による双方向講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0	評価方法としない
平常点評価	0	評価方法としない

オフィスアワー	盆子原誠：獣医臨床病理学教室（D棟2階）、Eメールbonkobara@nvlu.ac.jpにて予約。
その他	

科目No.	210880R4	科目区分	必修
科目名	動物行動治療学 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：入交 眞巳 単位認定者：鷲巢 月美		
授業のねらい	小動物臨床、大動物臨床、公衆衛生獣医師として就職した際に動物の問題行動への対処法やアニマルウェルフェアに即した動物管理飼育に関する質問への回答を正しく行える		
到達目標	動物の成城行動、異常行動、問題行動に関して理解し、問題行動があった場合はその対処法を理解して治療に用いることができる。また産業動物や展示動物のウェルフェアに即した飼育に関して具体的なアドバイスができる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「動物行動学」での基礎知識を理解確認してから履修に挑むこと		
履修上の留意点	「臨床行動学」のテキストを携帯すること。必要に応じて「動物行動学」のテキストも参考にすること。		
概要・スケジュール	第1回：入交眞巳 問題行動とコンサルテーション 第2回：入交眞巳 行動治療の方法 第3回：入交眞巳 犬における攻撃性に関連する問題行動 第4回：入交眞巳 犬における恐怖・不安に起因する問題行動およびその他の問題行動 第5回：入交眞巳 猫における問題行動 第6回：入交眞巳 犬猫以外の動物における問題行動 第7回：入交眞巳 問題行動の予防 第8回：入交眞巳 まとめと復習		
授業期間を通して課される課題	毎回授業の後に小テストを行う		

科目No.	210880R4	科目区分	必修
科目名	動物行動治療学 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために授業前に教科書の当てはまる章を読んでくる(30分)。復習としては小テストの問題に関して考え、理解する(50分)		
テキスト・参考文献他	「臨床行動学」 コアカリキュラム準拠 インターズー 「動物行動学」 コアカリキュラム準拠 インターズー		
授業形態	講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	80	学期末に試験を行う
レポート試験	-	-
平常点評価	20	毎授業時の小テスト

オフィスアワー	入交：D棟4階 「教育推進室2」 irimajiri*nvlu.ac.jp (*を@に変えて使用する) e-メールにて相談時間アポをとることが望ましい
その他	

科目No.	210890R3	科目区分	必修
科目名	獣医外科学総論 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：原 康 単位認定者：原 康		

授業のねらい	獣医外科学総論では、獣医解剖学、獣医生理学、獣医生理化学、獣医薬理学、獣医病理学などの基礎獣医学を基盤として、動物の外科的疾患に共通した事象について、その病態、診断、治療法について学ぶことを目標とする。
到達目標	「外科侵襲」、「損傷」、「炎症」、「腫瘍」、「ショック」、「出血・止血機構」、「化学療法」、「輸血療法」、そして「手術療法」について説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学、獣医組織学、獣医生理学、獣医生理化学、獣医薬理学、獣医微生物学、獣医病理学
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回・原康・獣医外科学の歴史 第2回・原康・損傷 / 炎症 第3回・原康・出血 / 止血機構 第4回・原康・腫瘍 第5回・原康・ショック 第6回・原康・外科侵襲 第7回・原康・輸血・輸液療法 第8回・原康・化学療法
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210890R3	科目区分	必修
科目名	獣医外科学総論 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の理解を深めることを目的として、次回の講義で取り扱うテーマに関する基礎獣医学の知識を確認しておくこと（予習）（30分）。 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（60分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	なし	なし
平常点評価	10%	出席回数

オフィスアワー	原 康：毎週金曜日9:00～12:00（会議、出張などを除く）
その他	

科目No.	210900R3	科目区分	必修
科目名	手術学総論 B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：原田 恭治 単位認定者：原 康		
授業のねらい	手術を実施する場合、解剖学や生理学などの基礎獣医学の基礎知識、そしてそれに裏付けられた技術が必要である。手術学総論では、理論的で安全な手術の実施方法について理解することを目標とする。		
到達目標	理論的かつ安全な手術方法を理解する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学、獣医組織学、獣医生理学、獣医生理化学、獣医微生物学、獣医薬理学、獣医病理学		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回・原田恭治 手術の歴史的発展と特性 第2回・原田恭治 無菌法と消毒法 第3回・原田恭治 手術創と感染 第4回・原田恭治 手術器具および手術室 第5回・原田恭治 手術の準備 第6回・原田恭治 手術手技 第7回・原田恭治 手術創の管理 第8回・原田恭治 低侵襲手術		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210900R3	科目区分	必修
科目名	手術学総論 B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の理解を深めることを目的として、次回の講義で取り扱う資料を事前に読むこと（予習）（30分）。 復習として、毎回のテーマについてまとめておくこと（30分）		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	なし	なし
平常点評価	10%	出席回数

オフィスアワー	原 康：毎週金曜日9:00～12:00（会議、出張を除く） 原田恭治：木曜日15:00～17:00、金曜日9:00～17:00 余戸拓也：獣医外科学教室（D棟2階）；水・金の午後（医療センター業務や会議、出張を除く）
その他	

科目No.	210910R3	科目区分	必修
科目名	獣医麻酔学 B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	科目責任者：神野 信夫 単位認定者：原 康		

授業のねらい	動物に対する鎮痛法、鎮静法、ならびに麻酔法に関して、使用する各種の薬物や手技について論理的に習得することを目的とする。また、動物に対して安全な麻酔管理ができるように、呼吸・循環を含む生理学をも熟知することを目標とする。
到達目標	動物の鎮痛法、鎮静法、麻酔法の要点について説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学、獣医生理学、獣医生理化学、獣医薬理学
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回・神野 信夫・獣医麻酔学概論 第2回・神野 信夫・麻酔前の患者評価/麻酔前投薬 第3回・神野 信夫・静脈内麻酔法 第4回・神野 信夫・吸入麻酔法 第5回・神野 信夫・周術期の疼痛管理 第6回・神野 信夫・周術期のモニタリング 第7回・神野 信夫・周術期の輸液管理 第8回・神野 信夫・各種疾患と麻酔
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210910R3	科目区分	必修
科目名	獣医麻酔学 B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の理解を深めることを目的として、次の講義で対象となる分野に関連した基礎獣医学（解剖学、生理学、薬理学）を確認しておくこと（予習）（30分）。 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（30分）。		
テキスト・参考文献他	獣医臨床麻酔学（学窓社）		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	なし	なし
平常点評価	10%	出席回数

オフィスアワー	原 康：毎週金曜日9:00～12:00（会議、出張などを除く） 原田恭治：木曜日15:00～17:00、金曜日9:00～17:00 余戸拓也：獣医外科学教室（D棟2階）；水・金の午後（医療センター業務や会議、出張を除く） 多川政弘：毎週月曜日9:00～12:00（会議、出張などを除く） 神野信夫：毎週金曜日13:30～15:00（会議、出張などを除く）
その他	

科目No.	210920R4	科目区分	必修
科目名	獣医外科学実習 I-1 (手術学)	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：神野 信夫 単位認定者：原 康		

授業のねらい	手術を実施する場合、解剖学や生理学などの基礎獣医学の基礎知識、そしてそれに裏付けられた技術が必要である。獣医外科学実習 I-1 では、理論的で安全な手術の実施方法について理解することを目標とする。
到達目標	手術前の準備（手洗い、ガウンテクニック）、術野消毒、基本的な手術手技（縫合、内固定）、そして開腹手術を実施する事が出来るようになる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学、獣医組織学、獣医生理学、獣医生理化学、獣医微生物学、獣医薬理学、獣医病理学
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回・神野信夫・滅菌：手洗い、ガウンテクニック、消毒、手術器械の準備 第2回・神野信夫・滅菌：手洗い、ガウンテクニック、消毒、手術器械の準備 第3回・余戸拓也・手術基本手技：両手結び、片手結び、器械縫合 第4回・余戸拓也・手術基本手技：両手結び、片手結び、器械縫合 第5回・原田恭治・整形外科手術の基本手技（内固定） 第6回・原田恭治・整形外科手術の基本手技（内固定） 第7回・余戸拓也・卵巣子宮全摘出術・去勢手術・消化管吻合・脾臓摘出術 第8回・余戸拓也・卵巣子宮全摘出術・去勢手術・消化管吻合・脾臓摘出術 第9回・原康・まとめ 第10回・原康・まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210920R4	科目区分	必修
科目名	獣医外科学実習 I-1 (手術学)	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の理解を深めることを目的として、次回の講義で取り扱う資料を事前に読むこと(予習)(30分)。復習として、毎回のテーマについてまとめておくこと(30分)		
テキスト・参考文献他	テキスト:スラッター小動物の外科手術。動画でわかる縫合法ガイドブック。:授業ごとにプリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義。模擬臓器や生体を用いた手術実習。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	なし	なし
レポート試験	40%	テーマに沿ったレポートにより、手術手技や周術期管理が理解できているかをみる。
平常点評価	60%	出席回数

オフィスアワー	原 康:毎週金曜日9:00~12:00(会議、出張を除く) 原田恭治: 木曜日15:00~17:00、金曜日9:00~17:00 余戸拓也:獣医外科学教室(D棟2階):水・金の午後(医療センター業務や会議,出張を除く)  神野信夫: 毎週金曜日13:30~15:00 (会議、出張などを除く)
その他	

科目No.	210930R4	科目区分	必修
科目名	獣医外科学実習 I-2 (手術学)	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：余戸 拓也 単位認定者：原 康		

授業のねらい	手術を実施する場合、解剖学や生理学などの基礎獣医学の基礎知識、そしてそれに裏付けられた技術が必要である。獣医外科学実習 I-2では、理論的で安全な手術の実施方法について理解することを目標とする。
到達目標	理論的かつ安全な手術方法を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学、獣医組織学、獣医生理学、獣医生理化学、獣医微生物学、獣医薬理学、獣医病理学
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第01回・神野信夫全身麻酔法 第02回・神野信夫全身麻酔法 第03回・余戸拓也卵巣子宮全摘出術・去勢手術，肺葉切除術 第04回・余戸拓也卵巣子宮全摘出術・去勢手術，肺葉切除術 第05回・原田恭治脊椎の外科手術 (Hemilami, VS) 第06回・原田恭治脊椎の外科手術 (Hemilami, VS) 第07回・原田恭治整形外科手術 (FH0, LFS) 第08回・原田恭治整形外科手術 (FH0, LFS) 第09回・原康 まとめ 第10回・原康まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210930R4	科目区分	必修
科目名	獣医外科学実習 I-2 (手術学)	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の理解を深めることを目的として、次回の講義で取り扱う資料を事前に読むこと(予習)(30分)。復習として、毎回のテーマについてまとめておくこと(30分)		
テキスト・参考文献他	テキスト：スラッター小動物の外科手術。：授業ごとにプリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義。模擬臓器や生体を用いた手術実習。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	なし	なし
レポート試験	40%	テーマに沿ったレポートにより、手術手技や周術期管理が理解できているかをみる。
平常点評価	60%	出席回数

オフィスアワー	原 康：毎週金曜日9:00～12:00(会議、出張を除く) 原田恭治：木曜日15:00～17:00、金曜日9:00～17:00 余戸拓也：獣医外科学教室(D棟2階)；水・金の午後(医療センター業務や会議、出張を除く) 神野信夫：毎週金曜日13:30～15:00(会議、出張などを除く)
その他	

科目No.	210940R4	科目区分	必修
科目名	獣医外科学実習Ⅱ（麻酔学）	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：神野 信夫 単位認定者：原 康		

授業のねらい	<p>小動物に対して麻酔を実施する際の基本手技を習得すること。  本実習では、安全に麻酔を実施するための基本的な考え方および手技を実習を通して習得する事を目的としている。  麻酔導入および維持に必要な器具の準備、麻酔のリスク評価を行ったうえで、実際に麻酔導入・維持・覚醒を経験し、各過程で生じる生体変化に対してどのように対処するかを考え、実践することを重要視している。</p> <p><del>また、麻酔実施時に必要な輸液療法および疼痛管理の基本手技を体得する</del></p>
到達目標	<p>麻酔準備、麻酔リスク評価、麻酔導入・維持・覚醒、疼痛管理の基本手技を実施する事が出来るようになる。</p>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	<p>獣医麻酔学、獣医生理学、獣医薬理学、獣医生理化学、獣医解剖学</p>
履修上の留意点	<p>実際の薬剤および注射針等を使用するため、それらを適正に取り扱うよう注意する事。</p>
概要・スケジュール	<p>第 1回・神野信夫輸液・輸血療法（1）  第 2回・神野信夫輸液・輸血療法（2）  第 3回・神野信夫注射麻酔法（1）  第 4回・神野信夫注射麻酔法（2）  第 5回・神野信夫吸入麻酔法（1）  第 6回・神野信夫吸入麻酔法（2）  第 7回・神野信夫局所麻酔、硬膜外鎮痛法（1）  第 8回・神野信夫局所麻酔、硬膜外鎮痛法（2）  第 9回・原康まとめ  第10回・原康まとめ</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210940R4	科目区分	必修
科目名	獣医外科学実習Ⅱ（麻酔学）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習内容の理解を深めることを目的として、次回の実習で取り扱う資料を事前に読むこと（予習）（30分）。復習として、毎回のテーマについてまとめておくこと（30分）		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室内での講義。模擬臓器や生体を用いた手術実習。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	なし	なし
レポート試験	40%	テーマに沿ったレポートにより、麻酔基本手技や疼痛管理が理解できているかをみる
平常点評価	60%	出席回数

オフィスアワー	原 康：毎週金曜日9:00～12:00（会議、出張などを除く） 原田恭治：木曜日15:00～17:00、金曜日9:00～17:00 余戸拓也：獣医外科学教室（D棟2階）；水・金の午後（医療センター業務や会議、出張を除く） 神野信夫：毎週金曜日13:30～15:00（会議、出張などを除く）
その他	

科目No.	210950R4	科目区分	必修
科目名	獣医軟部外科学 I	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：原 康                      単位認定者：原 康		

授業のねらい	外科的治療が必要となる、犬猫の神経疾患に関して、その病態生理および診断、治療オプション、予後を学ぶ。また、一般臨床で遭遇する機会の多い、皮膚、耳、生殖器疾患に関する病態生理および診断、治療オプション、予後を学ぶ。
到達目標	外科的治療に必要な、中枢神経、末梢神経、耳、生殖器の疾患について、その病態生理、診断法および外科的治療法について説明できる。 また、基本的な皮膚形成外科の手技に関して説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学、獣医生理学、獣医生化学、獣医微生物学、獣医病理学、獣医薬理学、獣医外科学総論、獣医手術学総論
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回・原康・脳神経外科・総論 第2回・原康・神経学的検査法 第3回・原康・脳の外科疾患（1） 第4回・原康・脳の外科疾患（2） 第5回・原康・脊髄・脊椎の外科疾患（1） 第6回・原康・脊髄・脊椎の外科疾患（2） 第7回・原康・脊髄・脊椎の外科疾患（3） 第8回・原康・末梢神経の外科疾患 第9回・余戸拓也 ・皮膚形成外科（1） 第10回・余戸拓也 皮膚形成外科（2） 第11回・原田恭治・耳の外科疾患（1） 第12回・原田恭治・耳の外科疾患（2） 第13回・余戸拓也・生殖器の外科疾患（1） 第14回・余戸拓也・生殖器の外科疾患（2） 第15回・余戸拓也・生殖器の外科疾患（3）
授業期間を通して課される課題	

科目No.	210950R4	科目区分	必修
科目名	獣医軟部外科学 I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の理解を深めることを目的として、次回の講義で対象とする器官の解剖学的、組織学的、ならびに生理学的特徴を改めて確認しておくこと（予習）（30分）。 復習として、授業で取り上げたテーマについてまとめておくこと（30分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布する。 スラッター小動物の外科手術 スモールアニマル・サージェリー		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	なし	なし
平常点評価	10%	出席回数

オフィスアワー	原 康：毎週金曜日9:00～12:00（会議、出張などを除く） 原田恭治：木曜日15:00～17:00、金曜日9:00～17:00 余戸拓也：獣医外科学教室（D棟2階）；水・金の午後（医療センター業務や会議、出張を除く）
その他	

科目No.	210960R4	科目区分	必修
科目名	獣医軟部外科学Ⅱ	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：原田 恭治 単位認定者：原 康		
授業のねらい	外科的治療が必要となる、犬猫の内分泌系、腎・泌尿器系、呼吸器系、循環器系、脾臓および各種ヘルニアに関して、その病態生理および診断、治療オプション、予後を学ぶ。		
到達目標	外科的治療に必要な犬猫の内分泌系、腎・泌尿器系、呼吸器系、循環器系、脾臓および各種ヘルニア疾患について、その病態生理、診断法および外科的治療法について説明できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学、獣医生理学、獣医生化学、獣医微生物学、獣医病理学、獣医薬理学、獣医外科学総論、獣医手術学総論		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回・原康・内分泌系の外科疾患（1） 第2回・原康・内分泌系の外科疾患（2） 第3回・原康・内分泌系の外科疾患（3） 第4回・原康・腎臓・泌尿器系の外科疾患（1） 第5回・原康・腎臓・泌尿器系の外科疾患（2） 第6回・原康・腎臓・泌尿器系の外科疾患（3） 第7回・原康・上部呼吸器系の外科疾患（1） 第8回・原康・上部呼吸器系の外科疾患（2） 第9回・原康・下部呼吸器系の外科疾患（1） 第10回・原康・下部呼吸器系の外科疾患（2） 第11回・多川政弘・循環器系の外科疾患（1） 第12回・多川政弘・循環器系の外科疾患（2） 第13回・原田恭治・脾臓の外科疾患 第14回・余戸拓也・ヘルニア（1） 第15回・余戸拓也・ヘルニア（2）		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210960R4	科目区分	必修
科目名	獣医軟部外科学Ⅱ	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の理解を深めることを目的として、次の講義で対象となる分野に関連した基礎獣医学（解剖学、生理学、薬理学）を確認しておくこと（予習）（30分）。 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（30分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布する。 スラッター小動物の外科手術（文永堂出版） スモールアニマル・サージェリー（インターズー）		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（％）	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	なし	なし
平常点評価	10%	出席回数

オフィスアワー	原 康：毎週金曜日9:00～12:00（会議、出張などを除く） 余戸拓也：獣医外科学教室（D棟2階）；水・金の午後（医療センター業務や会議、出張を除く） 多川政弘：毎週月曜日9:00～12:00（会議、出張などを除く） 原田恭治：木曜日15:00～17:00、金曜日9:00～17:00
その他	

科目No.	210970R4	科目区分	必修
科目名	獣医運動器病学 I B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：原 康 単位認定者：原 康		
授業のねらい	動物の運動効果系器官（特に骨）に発生する疾患について、その病態を理解し、診断法、治療法、そして予防法について学ぶことを目的とする。		
到達目標	動物の運動効果系器官（特に骨）に発生する疾患の病態、診断法、治療法について説明できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学、獣医生理学、獣医生理化学、獣医微生物学、獣医病理学、獣医薬理学、獣医外科学総論		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回・原康・獣医整形外科学の歴史 第2回・原田恭治・整形外科学的検査法 第3回・原田恭治・骨の構造と生理 第4回・原田恭治・代謝性骨疾患 第5回・原康・骨折①分類、治癒機転 第6回・原康・骨折②治療法（1） 第7回・原康・骨折③治療法（2） 第8回・原康・骨折④合併症		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	210970R4	科目区分	必修
科目名	獣医運動器病学 I B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の理解を深めることを目的として、次回の講義で対象とする器官の解剖学的、組織学的、ならびに生理学的特徴を改めて確認しておくこと（予習）（30分）。 復習として、授業で取り上げたテーマについてまとめておくこと（30分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布する。 スラッター小動物の外科手術（文永堂出版） スモールアニマル・サージェリー（インターズー） 小動物の整形外科・骨折治療ハンドブック—Brinker, Piermattei, Floの整形外科学バイブル（インターズー）		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	なし	なし
平常点評価	10%	出席回数

オフィスアワー	原 康：毎週金曜日9:00～12:00（会議、出張などを除く） 原田恭治：木曜日15:00～17:00、金曜日9:00～17:00
その他	

科目No.	211020R4	科目区分	必修
科目名	獣医画像診断学 I (軟部) B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：藤田 道郎 単位認定者：藤田 道郎		
授業のねらい	X線検査、超音波検査、CT検査の原理と画像診断をするために必要となる読陰ポイントについて理解してもらう		
到達目標	X線、超音波、CT各装置の原理と軟部組織におけるX線画像、超音波画像、CT画像読影に関するポイントを理解してもらう。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 藤田道郎 X線装置の原理、管電圧や管電流が画像に及ぼす影響などについて 第2回 藤田道郎 放射線測定装置、透視X線装置、CT装置、陽電子放出断層撮影装置(PET)の原理などについて 第3回 藤田道郎 胸部疾患のX線画像の読陰ポイントについて 第4回 小山秀一 超音波の特性と超音波診断装置の原理 第5回 小山秀一 超音波の生体内特性と超音波ドプラ法 第6回 小山秀一 心エコー図の基本像 第7回 小山秀一 腹部臓器の基本像		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	211020R4	科目区分	必修
科目名	獣医画像診断学 I (軟部) B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	画像診断装置の原理は複雑なので参考書などと併せて十分復習をしておく必要がある。 画像診断の読陰ポイントについては講義中に重要なポイントを述べるのでそれらをしっかりと押さえておく。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	授業スライドを用いて講義する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	98%	ペーパーテストによる評価
レポート試験	0%	本講義ではレポートによる評価は行わない。
平常点評価	2%	3分の2以下の授業回数出席者は減点とすることもある。

オフィスアワー	藤田については獣医放射線教授室まで随時、またはメールにて。
その他	

科目No.	211030R4	科目区分	必修
科目名	獣医画像診断学Ⅱ（運動器） A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：長谷川 大輔 単位認定者：藤田 道郎		

授業のねらい	講義では、頭部や脊髄などの中枢神経疾患系に対する画像診断（X線、CT、MRI）および骨格系、消化器系、泌尿生殖器系などに対する画像診断（X線、CT）について臨床例画像を用いて説明するので画像からどのように臨床診断をしていくかについて理解してもらう。
到達目標	中枢神経系、骨格系、消化器系および泌尿生殖器系の画像診断読陰についての大切なポイントを習得してもらう。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 長谷川大輔 頭部および脊柱のX線診断 第2回 長谷川大輔 頭蓋内の画像診断（CT、MRI） 第3回 長谷川大輔 脊髄の画像診断（CT、MRI） 第4回 藤田道郎 骨格系の画像診断（基礎編） 第5回 藤田道郎 骨格系の画像診断（応用編） 第6回 藤田道郎 消化器系の画像診断 第7回 藤田道郎 泌尿生殖器系の画像診断
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211030R4	科目区分	必修
科目名	獣医画像診断学Ⅱ（運動器） A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	X線、CTおよびMRI診断学に関する参考書は多数存在しているので自分にとって内容が理解しやすい書籍を購入し、授業の復習を行うことが重要である。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	スライドを学生に見せながら行う		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90	ペーパーテスト
レポート試験	0	原則としてレポートによる評価は行わない。
平常点評価	10	授業出席の回数や態度で評価する。

オフィスアワー	随時、教室訪問あるいは大学アドレスへのメールにて。
その他	

科目No.	211040R4	科目区分	必修
科目名	獣医画像診断学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：藤原 亜紀 単位認定者：藤田 道郎		
授業のねらい	本実習では獣医画像診断学I、IIで学んだ知識を基に、実際にX線撮影を行い、その技術法および読影法を習得することを目的とする。また内視鏡操作や神経学的検査についても学んでもらう。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. X線撮影法について理解する。</li> <li>2. X線投影法について実施できる。</li> <li>3. 1, 2の目的に到達し、かつ基礎的なX線撮影を読影できる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	獣医画像診断学I 獣医画像診断学II		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 藤原亜紀 診断用X線装置、増感紙とフィルム 第2回 藤原亜紀 放射線防護、黒化度とコントラスト 第3回 藤原亜紀 保定と現像、正常X線スケッチ 第4回 藤原亜紀 内視鏡 第5回 藤原亜紀 膀胱造影法、排泄性尿路造影法 第6回 藤原亜紀 上部消化管造影 第7回 藤原亜紀 神経学的検査、脊髄造影法 第8回 藤原亜紀 CT, MRI 第9回 藤原亜紀 フィルムリーディングI 第10回 藤原亜紀 フィルムリーディングII		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	211040R4	科目区分	必修
科目名	獣医画像診断学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	獣医画像診断学IおよびIIにおいて学んだ知識の復習(120分)		
テキスト・参考文献他	テキストは使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。		
授業形態	教室における講義、少人数の実習		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0	試験は実施しない。
レポート試験	0	レポートは実施しない。
平常点評価	100	出席点、フィルムリーディングを併せて評価する

オフィスアワー	獣医放射線学教室(D棟2階) 藤田：mfujita@nvl.u.ac.jp(事前にメールで受け付け) 長谷川：月曜午後、火曜午後 藤原：月曜午後、水曜午後
その他	

科目No.	211050R4	科目区分	必修
科目名	生産動物臨床学 I B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：小山 秀一 単位認定者：小山 秀一		

授業のねらい	牛の消化器疾患の病態、原因、症状、診断法、治療法および予防法を理解する
到達目標	牛の各消化器の疾患について、病態、原因、症状診断法および治療法を説明できる。 1. 口および食道 2. 第一胃から第三胃 3. 第四胃 4. 腸 5. 子牛の下痢
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	解剖学、生理学、微生物学などの基礎教科を理解する。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 小山 秀一 総論 第2回 山田 裕 牛の口および食堂の疾患 第3回 山田 裕 牛の第一胃の疾患 第4回 山田 裕 牛の第二胃から第四胃の疾患 第5回 山田 裕 第四胃の疾患 第6回 山田 裕 牛の腸の疾患 第7回 山田 裕 子牛の下痢 原因と病態 第8回 山田 裕 子牛の下痢 治療
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211050R4	科目区分	必修
科目名	生産動物臨床学 I B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業ごとに予習90分、復習90分 疾病について、原因・病態・症状・治療法・予防法を区別して覚えるのではなく、それぞれを関連づけて一つのストーリーとして理解する。		
テキスト・参考文献他	参考書：獣医内科学改訂版 大動物編 文永堂出版(株)、主要症状を基礎にした牛の臨床 デーリィマン社、 子牛の科学 緑書房、 子牛の医学 緑書房		
授業形態	講義はパワーポイントによって行い、ハンドアウトを配布する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	レポート提出の予定は無い。
平常点評価	20%	出席状況、受講態度および質問など、積極性を評価する。

オフィスアワー	小山秀一：D棟2階 山田裕：C棟4階、内線3271、e-mail yutaka_y@nvl.u.ac.jp
その他	

科目No.	211090R4	科目区分	必修
科目名	獣医臨床繁殖学 I	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：河上 栄一 単位認定者：河上 栄一		

授業のねらい	臨床繁殖学Iでは、雌雄の生殖器の構造と機能・性ホルモン・発情周期・卵子の成熟と精子の形成・繁殖技術・受精と妊娠および分娩について理解および修得することを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種動物における雌雄の生殖器の構造と機能の特徴について理解する。</li> <li>2. 様々な種類の性ホルモンの作用について理解する。</li> <li>3. 卵子の成熟および精子の形成について理解する。</li> <li>4. 各種動物の発情周期の特徴について理解する。</li> <li>5. 最新の繁殖技術について理解する。</li> <li>6. 受精・妊娠および分娩の機序について理解する。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	解剖学・組織学・生理学・生化学の中の生殖生理学に関連した内容を十分に理解しておく。
履修上の留意点	「動物臨床繁殖学」の教科書を携帯すること。
概要・スケジュール	第1回 小林正典 雄の生殖器の特徴と性ホルモン 第2回 小林正典 精子の形成と射精 第3回 堀 達也 雌の生殖器の特徴と性ホルモン 第4回 堀 達也 生殖機能とホルモン 第5回 堀 達也 性成熟とホルモン 第6回 堀 達也 人工授精と繁殖技術 第7回 堀 達也 卵子の成熟と排卵 第8回 堀 達也 犬・猫の発情周期 第9回 小林正典 豚・緬羊・山羊の発情周期 第10回 河上栄一 牛・馬の発情周期 第11回 河上栄一 受精および胚の発育 第12回 河上栄一 着床および妊娠 第13回 河上栄一 妊娠診断 第14回 河上栄一 妊娠の生理 第15回 河上栄一 分娩の機序
授業期間を通して課される課題	特になし。

科目No.	211090R4	科目区分	必修
科目名	獣医臨床繁殖学 I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義内容を深く理解するため、次回の講義に関する教科書のページを読んでおくこと。講義を受けた内容の復習を行うこと。		
テキスト・参考文献他	使用する教科書：「動物臨床繁殖学」（朝倉書店） 毎回の講義で、参考書としてプリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	実施しない。
平常点評価	20%	出席割合を評価する。

オフィスアワー	獣医学科 臨床獣医学部門 治療学分野II 獣医臨床繁殖学研究室 (D棟3階) 事前に担当教員と相談の上、適宜、時間設定を行う。
その他	

科目No.	211110R4	科目区分	必修
科目名	獣医臨床繁殖学実習 I	単位数	0.5
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	科目責任者：堀 達也 単位認定者：河上 栄一		
授業のねらい	獣医臨床繁殖学実習では、獣医臨床繁殖学の講義で教授した内容について、実際に動物や生体材料を用いて、学生一人一人に体験させ、野外での臨床応用に資する基本的手技を理解し、習得することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 雄性生殖器の形態や機能を理解する。</li> <li>2. 精液検査法や子宮頸管粘液検査法について習得する。</li> <li>3. 凍結精液の作成法について理解・習得する。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	「獣医臨床繁殖学実習I」で配布する実習用テキストを携帯すること。		
概要・スケジュール	第1回小林正典 雄動物の生殖器の構造・機能 第2回小林正典 精液採取・検査I（精子活力・精子生存率・精子数） 第3回堀達也 精液採取・検査II（精子の形態・精子奇形率） 第4回堀達也 凍結精液の作成法 第5回堀達也 凍結精液の融解後検査、牛の子宮頸管粘液検査		
授業期間を通して課される課題	第5回終了後、実習内容に関する筆記試験を実施する。		

科目No.	211110R4	科目区分	必修
科目名	獣医臨床繁殖学実習 I	単位数	0.5
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	次回の実習内容について実習用テキストを事前に読むこと（15分）。 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（30分）。		
テキスト・参考文献他	実習用テキスト（第1回の実習時に配布）を使用する。		
授業形態	顕微鏡実習室において、学生は小班に分かれて履修する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90%	実習最終日に筆記試験を実施する。
レポート試験	3%	実習スケッチの提出により評価する。
平常点評価	7%	出席、実習態度を総合的に評価する。

オフィスアワー	獣医学科 臨床獣医学部門 治療学分野II 獣医臨床繁殖学研究室（D棟3階） 事前に担当教員と相談の上、適宜、時間設定を行う。
その他	

科目No.	211160R1	科目区分	必修
科目名	比較細胞生物学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	土田 修一, 畠山 仁		

授業のねらい	細胞生物学は生命の基本単位である細胞に焦点をあて、細胞で営まれる生命活動を分子レベルで理解し、獣医学を学ぶための基礎知識の習得を目的とする。
到達目標	<p>遺伝情報の流れを理解し説明できる。</p> <p>細胞膜の構造と機能を理解し説明できる。</p> <p>細胞骨格について理解し説明できる。</p> <p>細胞内情報伝達を理解し説明できる。</p>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「生物学」の内容の理解を確認してから履修に臨むこと。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 土田修一・畠山仁 細胞生物学研究法</p> <p>第2回 土田修一 遺伝情報の保存と読み取り 1. DNAの構造と複製 I</p> <p>第3回 土田修一 遺伝情報の保存と読み取り 2. DNAの構造と複製 II</p> <p>第4回 土田修一 遺伝情報の保存と読み取り 3. 転写と翻訳 I</p> <p>第5回 土田修一 遺伝情報の保存と読み取り 4. 転写と翻訳 II</p> <p>第6回 土田修一 遺伝情報の保存と読み取り 5. 発現の調節</p> <p>第7回 土田修一 タンパク質の修飾と細胞内輸送</p> <p>第8回 土田修一 細胞膜 I</p> <p>第9回 土田修一 細胞膜 II</p> <p>第10回 土田修一 細胞骨格</p> <p>第11回 土田修一 情報伝達</p> <p>第12回 土田修一 細胞周期と細胞分裂 I</p> <p>第13回 土田修一 細胞周期と細胞分裂 II</p> <p>第14回 土田修一 組織の成り立ちと細胞外マトリックス</p> <p>第15回 土田修一 まとめ</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211160R1	科目区分	必修
科目名	比較細胞生物学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	<p>次回の講義内容に関する事前配布資料を読むこと（30分）。  復習として、毎回の講義資料を再読する（60分）。</p>		
テキスト・参考文献他	<p>授業ごとにプリントを配布する。 参考書：Essential細胞生物学</p>		
授業形態	<p>教室内での講義</p>		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	10%	中間にレポートを課することがある。
平常点評価	10%	出席状況を評価する。

オフィスアワー	土田 修一：比較細胞生物学（D棟2階 tsuchida@nvlu.ac.jp（12：00～13：00））
その他	

科目No.	211170R1	科目区分	必修
科目名	生体分子化学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	科目責任者：片山 欣哉 単位認定者：田崎 弘之		

授業のねらい	生体分子を理解するための基盤として有機化学の基礎知識を身につけ、生物を構成する生体分子の構造と性質について理解を深めることを目的とする。
到達目標	簡単な有機化合物について、構造式から化合物名あるいは化合物名から構造式を書くことができる。 生体分子について、生体内での役割を説明できる。 生体分子の化学構造からその性質を予想し、生体内での挙動を考察できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 田崎弘之 生体分子の命名法 1 第2回 田崎弘之 生体分子の命名法 2 第3回 田崎弘之 生体分子の反応機構 1 第4回 田崎弘之 生体分子の反応機構 2 第5回 田崎弘之 生体分子の立体化学 1 第6回 田崎弘之 生体分子の立体化学 2 第7回 片山欣哉 糖質 第8回 片山欣哉 脂質と生体膜 第9回 片山欣哉 アミノ酸 第10回 片山欣哉 タンパク質 第11回 片山欣哉 酵素 第12回 片山欣哉 ヌクレオチド 第13回 片山欣哉 核酸 第14回 片山欣哉 生体分子の反応 (1) 第15回 片山欣哉 生体分子の反応 (2)
授業期間を通して課される課題	第1~6回には毎回宿題を課す。 第7~15回には小テストを行う。

科目No.	211170R1	科目区分	必修
科目名	生体分子化学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習：テキストのキーワードについて調べ、ノートにまとめる。(30分) 復習：小テストの復習。宿題で課された問題および章末問題の解答。(40分)		
テキスト・参考文献他	生体分子の化学 化学同人		
授業形態	講義を中心とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	期末試験 100 (~60) %	総合評価は基本的に期末試験の結果による。
レポート試験	宿題 0 (~15) %	記述内容を評価、提出物は返還しない。
平常点評価	小テスト 0 (~15) % 出席点 0 (~10) %	宿題、小テストおよび出席点を加味する場合がある。

オフィスアワー	田崎 弘之 獣医学総合教育分野 生体分子化学研究室 (D棟5階) 開講期間の毎週金曜日 13:00~14:00 片山 欣哉 獣医学総合教育分野 生体分子化学研究室 (D棟5階) 開講期間の毎週月曜日 9:00~10:00		
その他			

科目No.	211180R2	科目区分	必修
科目名	生物統計学 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	大坂 元久		
授業のねらい	統計学では、統計学の中でも使用頻度の高いものについて概説する。手法の理論をイメージとして理解し、実際に使えるようになることを目的とする。毎回、例にそって説明し、その場で理解できることを目指す。そして、実際の計算方法になれることを目指す。		
到達目標	基本事項をきちんと理解し、将来独学できる下地をつくること。獣医師国家試験に出題される可能性のある事項を理解すること、論文で頻用される統計学的手法を理解し、実際に応用できることを目標とする。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	板書をきちんとノートにとれば、理解できるはずである。		
履修上の留意点	ルートの計算できる簡単な電卓を必ず用意すること。「統計・確率の意味がわかる」野崎昭弘ほか著ベレ出版を可能なら読むことを薦める。		
概要・スケジュール	第1回 大坂元久 実際に扱うデータの分布の例示・2項分布と正規分布の関係 第2回 大坂元久 標準偏差とは何か・検定と推定の考え方 第3回 大坂元久 比率の検定 第4回 大坂元久 1標本にもとづく母集団平均の推定 第5回 大坂元久 適合度検定・独立性の検定・見込み比 第6回 大坂元久 相関係数・敏感度・特異度 第7回 大坂元久 交絡因子・Kaplan-Meierの生存曲線 第8回 大坂元久 確認		
授業期間を通して課される課題	確認テストを必ず受けること。		

科目No.	211180R2	科目区分	必修
科目名	生物統計学 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	前回のノートを復習すること（30分）		
テキスト・参考文献他	座右の書にしてほしい。いまは買う必要はない。生物統計学入門—ハーバード大学講義テキスト 丸善		
授業形態	板書で講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0	定期試験はない。
レポート試験	0	レポートなどはない。
平常点評価	100	確認テストで判定する。

オフィスアワー	C棟3階数学・生物統計学分野教室にて。面接は osaka×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）で予約してからのみ受け付ける。面接時間は火曜日15：00から1600。
その他	統計学は本で自学自習するとなかなかやっかいである。講義は一期一会であり私にとって舞台でもある。教えるとは「希望を語ること」という理念のもとたのしく学びましょう。

科目No.	211190R1	科目区分	必修
科目名	化学実習 I	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	科目責任者：佐藤 稲子 単位認定者：田崎 弘之		
授業のねらい	自らの手を動かして実験を行うことにより、授業でこれまで学んだ化学の原理や知識を確認して、確実に体得する経験を積む。さらに、生体分子の性質を理解する。また、実験結果についてレポートとしてまとめることで、論理的な考察を行い、報告できるようにする。		
到達目標	実験器具の取扱い方法に始まり、試薬の秤量の仕方、試薬の調製法、基本的な実験操作方法、後片付け等、一連の基礎実験法を身につける。また、実験するという行為を通じて、自然現象に解析的にアプローチするための基礎力を養成する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし。		
履修上の留意点	白衣と安全眼鏡を持参すること。		
概要・スケジュール	第1回 片山欣哉 はじめに：化学実験の諸注意・心得・基礎知識 第2回 佐藤稲子 中和法 第3回 佐藤稲子 pH 測定と中和滴定曲線 第4回 佐藤稲子 陽イオンの分析 第5回 佐藤稲子 アセトアニリドの合成 第6回 佐藤稲子 糖の分析 第7回 佐藤稲子 脂溶性ビタミンの分析 第8回 片山欣哉 タンパク質の定量法 第9回 片山欣哉 生体分子の分離・精製（1） 第10回 片山欣哉 生体分子の分離・精製（2）		
授業期間を通して課される課題	実験ごとに、指定された期日までレポートを提出する。		

科目No.	211190R1	科目区分	必修
科目名	化学実習 I	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実験の理解を深めるために、指示した演算や文献調査を事前に行うこと。(60分)		
テキスト・参考文献他	初回にテキストを配布する。		
授業形態	実験は2~3名程度のグループで行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	—
レポート試験	60	実験ごとのレポート評価点の合計とする。
平常点評価	40	実習態度、出席、レポートの期限内提出を評価する。

オフィスアワー	佐藤 稲子 獣医学総合教育部門 獣医学総合教育分野 生体分子化学研究室 (D棟5階) 開講期間の毎週月曜日16:00~17:00または金曜日16:00~17:00
その他	生体分子化学実習に名称変更予定

科目No.	211200R1	科目区分	必修
科目名	生物学実習 I	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	科目責任者：畠山 仁 単位認定者：土田 修一		
授業のねらい	ウシガエルの解剖では各臓器の形態の把握および解剖用語・生体機構の理解、そして解剖器具の取扱に慣れることを、顕微鏡観察では生命の最小単位である細胞、その集合体である組織の把握および理解、そして顕微鏡操作および標本作製（作成）に慣れることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スケッチ描画法、実験レポート作成法を習得する。</li> <li>2. ウシガエルの解剖が適切にできる。</li> <li>3. 顕微鏡操作が適切にできる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	時間内に観察し、形態を描画およびレポートを作成する。		
概要・スケジュール	第1回 畠山 仁 名簿作成、オリエンテーション 蛙の解剖Ⅰ 外部形態・口腔 第2回 畠山 仁 蛙の解剖Ⅱ 消化器系・呼吸器系・泌尿生殖器系 第3回 畠山 仁 蛙の解剖Ⅲ 循環器系・神経系 第4回 畠山 仁 蛙の解剖Ⅳ 筋肉系 第5回 佐藤 稲子 顕微鏡・ミクロメーター使用法 第6回 佐藤 稲子 細胞の構造・原形質流動 第7回 畠山 仁 維管束—植物組織標本作製法 第8回 畠山 仁 動物組織標本作製法Ⅰ 薄切・伸展・貼付 第9回 畠山 仁 動物組織標本作製法Ⅱ 染色・封入 第10回 畠山 仁 動物組織標本作製法Ⅲ 標本観察		
授業期間を通して課される課題	プリント・スケッチ・レポート・見本のノート貼付 レポート見本の筆写		

科目No.	211200R1	科目区分	必修
科目名	生物学実習 I	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	プリント・スケッチ・レポート・見本のノート貼付（10分程度） レポート見本の筆写（50分程度） 前回の実習の確認（30分程度）		
テキスト・参考文献他	実習ごとにプリントを配布する。		
授業形態	実習形式		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない
レポート試験	80%	スケッチ・実験レポート
平常点評価	20%	出席、標本作製を総合的に評価する

オフィスアワー	畠山仁（代表）：比較細胞生物学教室（D棟2F）・木曜日13:00~14:00
その他	比較細胞生物学実習に名称変更予定

科目No.	211210R1	科目区分	必修
科目名	動物心理学 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	柿沼 美紀, 野瀬 出		
授業のねらい	様々な種類の動物を比較検討することでヒトおよび動物の発達メカニズムを探る。特にヒト, チンパンジー, イヌ, ラットなどの社会性の発達に焦点をあてる。		
到達目標	哺乳類において共通している子育てや発達のメカニズムを理解するとともに, その種に特有の行動を適切に説明できる。社会性の発達の観点から, ペットの問題行動の原因と対応を議論する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第01回 柿沼美紀 動物心理学とは 第02回 柿沼美紀 行動の遺伝 第03回 柿沼美紀 攻撃と和解 第04回 柿沼美紀・野瀬出 脳の進化 第05回 野瀬出 学習理論 第06回 柿沼美紀 社会的認知の起源 第07回 柿沼美紀 アタッチメントと母子分離 第08回 柿沼美紀 動物の問題行動・動物虐待		
授業期間を通して課される課題	授業内で小レポートを課す。		

科目No.	211210R1	科目区分	必修
科目名	動物心理学 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、授業内で指定された資料を読んでおく（60分）。 復習として、その日の授業内容を整理してまとめる（60分）。		
テキスト・参考文献他	岡野恒也 監修 社会性の比較発達心理学 プレイン社		
授業形態	講義を中心とする。視聴覚教材も使用する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	20	授業内で小レポートを課す。
平常点評価	10	出席状況、質疑応答など積極的な授業参加を評価する。

オフィスアワー	月曜日12:00-13:00、D棟4階 比較発達心理学研究室 Eメールで予約をすること。送信の際はメールアドレスの◎を@にする。 柿沼美紀 (kakinuma-miki@nvl.u.ac.jp)、野瀬出 (inose@nvl.u.ac.jp)
その他	

科目No.	211220R1	科目区分	必修
科目名	畜産学概論 I A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	東條 英昭		
授業のねらい	畜産は、人類が家畜から動物性食品や被服材料を得るための不可欠な産業であり、農業の一部門である。畜産学は、畜産を合理的に営むために研究する学問である。本講義では、農業における畜産の位置付けや獣医学との関連性について理解することを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 畜産における獣医学の役割について説明できる。</li> <li>2. 獣医学と畜産学との関連性について理解する。</li> <li>3. 家畜産業における獣医医療の問題点を整理し、議論できる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「獣医学総論」 獣医学の概要と獣医師の社会的使命を理解しておくこと。		
履修上の留意点	毎回の講義時には、既に配布した資料（プリント）やノートを持参すること。できるだけ受講者と議論しながら講義を進めたいので、主体的に質疑・応答に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回：東條英昭 畜産と畜産学 第2回：東條英昭 家畜と家畜化の歴史 第3回：東條英昭 畜産と畜産技術I 第4回：東條英昭 畜産と畜産技術II 第5回：東條英昭 畜産と食の安全I 第6回：東條英昭 畜産と食の安全II 第7回：東條英昭 畜産と環境 第8回：東條英昭 日本の畜産と欧米の畜産		
授業期間を通して課される課題	特になし		

科目No.	211220R1	科目区分	必修
科目名	畜産学概論 I A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために、次回で取り扱うテーマについて下調べをしておく（20分）。復習として、毎回のテーマについて、ノートや配布資料を基にまとめておく（60分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとに資料（プリント）を配布する。参考書：新畜産学概論、佐々木義之編著、養賢堂、2000年		
授業形態	配布したプリントの説明と板書を併用し、テーマによってはスライド（パワーポイント）を使って解説する。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	60 %	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0 %	学期の中期には特に小テストやレポートは課さない
平常点評価	40 %	出席、質疑・応答等積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	メールアドレス：ahtojoxmail.ecc.u-tokyo.ac.jp(xを@に変えて使用すること)、実施方法：教務・学生課を通して調整する。
その他	

科目No.	211250S4	科目区分	選択
科目名	専門外国語	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	4
担当教員	各研究室		

授業のねらい	専門分野の英語論文内容が理解できる。
到達目標	英語科学論文について 1. 専門用語が理解できる。 2. 研究目的が説明できる。 3. 研究方法が説明できる。 4. 研究結果が説明できる。 5. 考察が説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	専門分野の英語論文内容が理解できる。
履修上の留意点	発表者のみならず、聴講者も内容に関連する専門分野のテキスト、参考書を持参する。
概要・スケジュール	所定の曜日、時間帯に担当者は論文内容を約30分を費やして説明する。 残りの30分は内容についての質疑応答に費やす。 週ごとに発表担当者を代えて行う。
授業期間を通して課される課題	概ね各専門分野に関連する内容の論文を担当者に選ばせる。

科目No.	211250S4	科目区分	選択
科目名	専門外国語	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	発表者には発表内容の要旨、関連知識などの資料を事前に準備させて聴講者に配布しておく。		
テキスト・参考文献他	例、病理学教室では病理学テキスト、標準組織学、医学英和辞典等		
授業形態	研究室単位で行う少人数のグループワーク。教員は発表内容について適宜アドバイスし、学生の理解を深めるよう努力する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	-
レポート試験	0	-
平常点評価	100	論文の理解度、発表力等を総合的に評価。

オフィスアワー	研究室への直接の訪問の場合： お昼の休み時間、夕方の実習終了後。
その他	

科目No.	211260S1	科目区分	選択
科目名	English Communication I V1	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	バリー ヘイタ		

授業のねらい	To improve both general communication skills and specific speaking and listening skills of English in meaningful communicative situations
到達目標	Better cognitive skills in processing visual and aural information as well as increased ability to communicate in English through extensive and intensive practice in requesting, confirming and providing information, .
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	Class1-2Personal and private information Class3-7Asking for travel and timetable information Class 8-10 Cognitive understanding of the situation Class11-14Confirming the time and date Class 15Review
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211260S1	科目区分	選択
科目名	English Communication I V1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	At least 7 sessions of vocal reading(10 minutes each between classes) for reviewing maintaining both contextual understanding and the communication skills introduced in a previous class.		
テキスト・参考文献他			
授業形態	Collaborative study Student interaction Self application Task solving Vocal training Speaking practice Active learning Content continuity		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70%	End of Semester test
レポート試験	0%	None
平常点評価	30%	Assignments, blackboard presentations, mini-quizes

オフィスアワー	kyomuXnvl.u. ac. jp
その他	

科目No.	211260S1	科目区分	選択
科目名	English Communication I V2	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	佐藤 エミリー		

授業のねらい	学ぶ英語から使う英語へ 英語で世界とつながろう！ 本授業では、世界とつながる「道具」としての英語を使うための、実践的な読み・書き・聞き・話すスキルを伝授します。
到達目標	1. 「使う」英語の基本を知る（英語を母語としない人同士のコミュニケーションの基本を学ぶ） 2. 「語る中身」を持つ（前期は動物に関連したビデオを視聴し、ブログ記事やニュースを読む） 3. 英語で「発信」できるようになる（外国人獣医大生との交流をシミュレーションする）
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	中学レベルの英語力
履修上の留意点	授業には辞書（英和・和英）を持参すること。電子辞書やスマホ・タブレットも可。
概要・スケジュール	第1回 佐藤エミリーオリエンテーション（コミュニケーションの歴史を振り返る、データシート作成等） 第2回 佐藤エミリー基本英語の復習 第3回～第7回佐藤エミリー 読み・書き・聞き・話すの4技能の基本演習 主な演習内容： 読解（動物関連のニュースや読み物） リスニング（AnimalPlaneのビデオ等） 基本英会話（反復練習、レシテーション・シャドーイング） 英作文（簡単なメッセージの作成） 第8回～第13回佐藤エミリー 国際交流（国際獣医大生会議を日本で開催する等）を想定した演習 主な演習内容：参加者の出身国の調査 自己紹介、大学・キャンパス紹介、交流会、東京案内のシミュレーション 履歴書作成 第14回 佐藤エミリー復習 第15回 佐藤エミリー期末試験
授業期間を通して課される課題	「動物クイズ」や「獣医師の基本英単語」などの予習課題

科目No.	211260S1	科目区分	選択
科目名	English Communication I V2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習：課題の動物クイズ、獣医師の英単語調べ、英作文等の作業（45分） 復習：授業中に読んだ英文を読み直して意味を確認し、指定した英文を暗記して言えるようにする（45分）		
テキスト・参考文献他	自作のテキストを毎回配布し、参考資料やサイトも随時紹介 講師のサイト { <a href="http://members.jcom.home.ne.jp/ayako.e.sato/">http://members.jcom.home.ne.jp/ayako.e.sato/</a> } 視聴予定サイト { <a href="http://www.animalplanet.com/">http://www.animalplanet.com/</a> }		
授業形態	講義、読み・書き・聞き・話す演習（グループ演習を含む）、PC演習（学期中に1回実施予定）		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	50%	学期末に試験（筆記・オーラル）を実施
レポート試験	30%	英作文、発表、履歴書作成などの課題
平常点評価	20%	出席、積極的な授業参加等

オフィスアワー	メールアドレス: emilysato87@gmail.com (×を@に変えて使用すること) 実施方法: 教務・学生課を通して調整する
その他	受験勉強から解放された皆さんと一緒に、実用的な「使える英語」をめざして楽しく授業を進めたいと思います。

科目No.	211270S1	科目区分	選択
科目名	English Communication II V1	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	バリー ヘイタ		

授業のねらい	To improve further both general and specific communication skills as well as proficiency in using English as a means of verbal interaction.
到達目標	Further improvement of the cognitive and communicative skills practised in the previous semester for requesting, confirming and providing relevant and accurate information in specific contexts.
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	Class1-4 Daily routines and habits Class5-8 Describing objects Class 9-11 Explaining positions and places Class12-14 Instructions and processes Class 15 Review
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211270S1	科目区分	選択
科目名	English Communication II V1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	At least 7 sessions of vocal revision and practice(10 minutes each between classes) to maintain understanding and improve communication skills to use in subsequent classes and in the real world.		
テキスト・参考文献他			
授業形態	task solving pair work collaborative study active learning intensive practice self responsibility		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70%	End of term test
レポート試験	0%	None
平常点評価	30%	Assignments, presentations, and mini-quizes

オフィスアワー	kyomuXnv u. ac. jp
その他	

科目No.	211270S1	科目区分	選択
科目名	English Communication II V2	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	佐藤 エミリー		

授業のねらい	英語で世界とつながろう！ 学ぶ英語から使う英語 そして考える英語へ 後期は、英語を専門的な場面で使うための読み・書き・聞き・話すスキルを磨きます。科学の世界におけるコミュニケーションに必須のクリティカル・シンキング（批判的思考）も紹介します。
到達目標	世界の獣医大生や獣医師と交流し、専門的な内容についてやりとりするための知識やスキルが身につく
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	前期のEnglish Communication I V2の授業を受講していること
履修上の留意点	前期同様、辞書を持参すること
概要・スケジュール	<p>第1回 佐藤エミリー オリエンテーション（授業内容の紹介など）</p> <p>第2回～第13回 佐藤エミリー 読み・書き・聞き・話す演習 演習内容：  獣医師に必須の英単語（体の組織・器官の名称、医学用語等）の確認（毎週、課題を提出）  リーディング（海外の獣医病院・獣医大学・獣医師協会や国際機関の資料、獣医学関連の最新ニュースや論文など）  リスニング（動物・獣医学関連のビデオ教材）  スピーキング（ディスカッション、ミニプレゼンテーション、獣医師の誓い）  ライティング（ミニプレゼンの原稿作成、グリーティングカード作成など）  PC演習（後期も1回実施予定）</p> <p>第14回 佐藤エミリー 復習  第15回 佐藤エミリー 期末試験（筆記・オーラル）</p>
授業期間を通して課される課題	獣医師の英単語調べ

科目No.	211270S1	科目区分	選択
科目名	English Communication II V2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習：単語調べ（45分） 復習と課題：授業内容の確認、英文ニュース調べや英作文等（45分）		
テキスト・参考文献他	自作のテキストを毎回配布し、自作のサイト { <a href="http://members.jcom.home.ne.jp/ayako.e.sato">http://members.jcom.home.ne.jp/ayako.e.sato</a> } を利用してさまざまな資料や情報検索方法を紹介します。		
授業形態	講義と演習（グループ演習も含む）		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	50%	期末試験（筆記・オーラル）
レポート試験	30%	課題の英単語調べ、英文ニュース調べ、英作文など
平常点評価	20%	出席、積極的な授業参加

オフィスアワー	メールアドレス：emilysato87@gmail.com（×を@に変えて使用すること） 実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	獣医学関連の最新ニュースも随時取り上げます。2014年度はエボラ出血熱関連のニュース記事などを読みました。

科目No.	211280S2	科目区分	選択
科目名	English Communication III V1	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	佐藤 エミリー		

授業のねらい	英語で世界とつながろう！ 「学ぶ」英語から「使う」英語、「考える」英語へ 世界とつながる道具としての英語を使うための、実践的な読み・書き・聞き・話すスキルを伝授します。
到達目標	1. 「使う」英語の基本を知る（英語を母語としない人同士のコミュニケーションの基本を学ぶ） 2. 動物や獣医学に関わる基本用語を身につける 3. 「語る中身」を持つための資料やネット検索方法を知る
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	原則としてEnglish Communication I&IIのV1受講者を対象とします。
履修上の留意点	辞書（電子辞書やスマホも可）を毎回持参すること
概要・スケジュール	第1回 佐藤エミリーオリエンテーション（コミュニケーションの歴史を振り返る, データシート作成等） 第2回 佐藤エミリー 基本英語の復習 第3回～第13回佐藤エミリー 英語コミュニケーションに必要な読み・書き・聞き・話す4技能の演習 獣医師に必須の英単語（体の組織・器官、医学用語など）調べ リーディング：動物・獣医学について読む（題材は動物関連ニュース、海外の獣医大・獣医病院のサイトなど）、獣医学論文の読み方を知る リスニング：オンラインの教材やニュースを使用 スピーキング：反復練習、獣医師の基本英会話、英文の暗記と発表 ライティング（メール・ツイッター・ブログに使える単語・文型・略語などをベースとした英作文、科学コミュニケーションに必須であるクリティカル・シンキングの紹介） PC演習 第14回 佐藤エミリー 復習 第15回 佐藤エミリー 期末試験（筆記とオーラル）
授業期間を通して課される課題	獣医師の基本英単語調べ

科目No.	211280S2	科目区分	選択
科目名	English Communication III V1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習： 英単語調べ（45分） 復習： 授業内容の確認、履歴書作成や作文等の課題（45分）		
テキスト・参考文献他	自作のテキストを毎回配布し、参考資料やサイトを毎回紹介する。 講師のサイト{ <a href="http://members.jcom.home.ne.jp/ayako.e.sato/">http://members.jcom.home.ne.jp/ayako.e.sato/</a> }		
授業形態	講義、教室内での読み・書き・聞き・話す演習（グループ演習も含む）、PC演習		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	50%	学期末試験（筆記・オーラル）
レポート試験	30%	単語調べ、履歴書作成、作文、英文暗記等の課題
平常点評価	20%	出席、積極的な授業参加

オフィスアワー	メールアドレス： emilysato87@gmail.com（×を@に変えて使用すること） 実施方法： 教務・学生課を通して調整する
その他	楽しい、満足できる授業をめざし、受講生のリクエストには可能な限り応じます。

科目No.	211280S2	科目区分	選択
科目名	English Communication III V2	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	バリー ヘイタ		

授業のねらい	To provide conceptually based, widely applicable and practical materials for intermediate and upper level students of English to have an interactive and relevant learning experience.
到達目標	Greater proficiency in the processing and presentation of both visual and aural information leading on to even greater development of oral fluency in English.
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	Class1-3 Organisation description Class4-6 Product/price comparison Class7-10 Bad business sense Class11-14 Australian posting Class 15 Review
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211280S2	科目区分	選択
科目名	English Communication III V2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	At least 7 sessions of vocalised review(10 minutes each between classes).		
テキスト・参考文献他			
授業形態	pair work task solving active learning collaborative study conceptual basis practical interaction		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70%	End of term test
レポート試験	0%	None
平常点評価	30%	Assignments, presentations, and problem solutions

オフィスアワー	kyomuXnv u. ac. jp
その他	

科目No.	211290S1	科目区分	選択
科目名	国語	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	西連寺 成子		
授業のねらい	大学という学びの場において日本語能力は大きく影響する。そこで当授業を他の学習の基礎になる文章の読解や文章作成に必要な力を養うものと位置付ける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 文章の読み取りや作成、問題練習などを通して、論理的思考力を鍛える。</li> <li>2 小論文や作文を書く練習を通して、文章作成力を高める。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	講義の中に演習を組み込むため、積極的に取り組むこと。 400字詰め原稿用紙を用意すること。(必要な時は事前に告知する)。		
概要・スケジュール	<p>第1回：西連寺成子ガイダンス  第2回：西連寺成子国語表現の基礎的学習（原稿用紙の使い方、悪文訂正など）  第3回：西連寺成子作文（1）作文を書くポイントの確認  第4回：西連寺成子作文（2）テーマ別作文の作成・1  第5回：西連寺成子作文（3）テーマ別作文の作成・2  第6回：西連寺成子作文（4）テーマ別作文の作成・3  第7回：西連寺成子論理的な文章に関する基礎事項の確認  第8回：西連寺成子社説から学ぶ 縮約文の作成  第9回：西連寺成子論理的な文章（長文）の読解（1）  第10回：西連寺成子論理的な文章（長文）の読解（2）  第11回：西連寺成子レポート作成における注意事項の確認  第12回：西連寺成子小論文（1） テーマ別小論文の作成・1  第13回：西連寺成子小論文（2） テーマ別小論文の作成・2  第14回：西連寺成子小論文（3） テーマ別小論文の作成・3  第15回：西連寺成子補足説明など</p>		
授業期間を通して課される課題	授業中に作成した小論文や作文は 当日の授業終了後に提出する（後日提出は基本的に受け付けない）。		

科目No.	211290S1	科目区分	選択
科目名	国語	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義内容の理解のため、復習としてノートをもとめておくこと（60分～90分程度）。特に文章読解の講義の時には、講義中に使用した文章をよく読みなおし、理解に努めること。		
テキスト・参考文献他	必要に応じてプリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義及び演習。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	40%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	なし
平常点評価	60%	講義中に作成した提出物への評価及び授業態度。

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） 実施方法：教務・学生課を通して調節する
その他	

科目No.	211300S1	科目区分	選択
科目名	独語講読 V1	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	山本 裕子		

授業のねらい	独語講読では、ドイツ語を生活語とする人々の社会や日常に関する会話文や講読テキストを読んだり、ドイツに住む人々や動物に関する短い紹介映像を見たり、英語と似た医学用語を学んだりしながら、初歩的なドイツ語を理解し、その背景にある社会について考えるきっかけを得ることを目指す。
到達目標	1. ドイツ語の入門的な文法事項を理解し、運用できる。 2. 初歩的なレベルの講読テキストや会話表現を理解できる（ドイツ語技能検定試験5級程度のレベル）。 3. 現代ドイツ社会に関する簡単な知識を得ることができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	とくに必要ない。
履修上の留意点	教科書を必ず毎回携帯すること。授業開始時に毎回配布するプリントは、各自できちんと保管すること。
概要・スケジュール	第1回山本裕子 ガイダンス、辞書、参考書紹介、ドイツ語を話す人々と社会、文字と発音（プリント） 第2回山本裕子 Lektion1自己紹介の表現①（Dialog1） アルファベットと発音、挨拶と数字、人称代名詞と動詞 第3回山本裕子 Lektion1 自己紹介の表現②（Dialog2） 動詞の現在人称変化と位置、文メロディ 第4回山本裕子 Lektion1 自己紹介の表現③（Dialog3, Lesetext） 動詞の現在人称変化、言語と国籍 第5回山本裕子 Lektion2 持ち物の表現（Dialog1） 名詞の性と格、名詞と定／不定冠詞の1格と4格 第6回山本裕子 Lektion2 家族紹介の表現（Dialog2, Lesetext） 所有冠詞、家族の形 第7回山本裕子 Lektion3 趣味の表現（Dialog 1,2） 不規則動詞、否定疑問文、趣味 第8回山本裕子 Lektion3 言語をめぐる表現（Lesetext, Dialog3） 名詞と冠詞の複数形、言語と話者 第9回山本裕子 Lektion4土産をめぐる表現（Lesetext, Dialog1） 名詞と冠詞の3格と前置詞 第10回山本裕子 Lektion4 旅行と乗り物の表現①（Dialog2） 3格支配の前置詞、融合形 第11回山本裕子 Lektion4 旅行と乗り物の表現②（Dialog3） 4格支配の前置詞、人気の旅行先 第12回山本裕子 試験範囲の確認、既習学習事項の総復習 第13回山本裕子 試験範囲についての質疑応答 第14回山本裕子 期末テスト、前期学習事項の確認 第15回山本裕子 前期学習事項の総復習
授業期間を通して課される課題	1. 文法確認のために小テストを数回、学習事項全般の確認のために期末テストを1回実施する。 2. 文法などの練習問題を、次回までの課題とする場合がある。

科目No.	211300S1	科目区分	選択
科目名	独語講読 V1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	辞書または教科書巻末の単語集を使って、教科書の会話文や講読テキスト（Dialog, Lesetext）を予習し（20～30分）、配布プリントと教科書、付属のDVD-ROMを使って、音読しながら復習すること（20～40分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：教科書『ドイツ語の時間くときめきミュンヘン』DVD-ROM付 コミュニカティブ版』（清野智昭、時田伊津子、牛山さおり著）のほか、授業ごとに配布するプリントを使用する。 参考書：授業ではとくに使用しないが、自習のための参考書を授業時間中に紹介する。		
授業形態	教室内での講義形式の授業だが、ランダムに一人ずつ指名して発言を求めたり、ペアワークもおこなう。 ドイツ社会に関する映像資料や映画などを毎回使用する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	定期試験期間ではなく、授業期間内に期末テストを実施する。
レポート試験	0%	レポート試験は実施しない。
平常点評価	20%	小テスト(10%), 出席・質疑応答(10%)の状況に基づき評価する
オフィスアワー	非常勤で研究室やオフィシャルなメールアドレスはないため、教務・学生課（メールアドレス：kyomu@nvl.u.ac.jp [×を@に変えて使用すること]）を通して調整する。	
その他	かんたんな質問や相談は、授業の後に受けつける。	

科目No.	211300S1	科目区分	選択
科目名	独語講読 V2	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	山本 裕子		

授業のねらい	独語講読では、ドイツ語を生活語とする人々の社会や日常に関する会話文や講読テキストを読んだり、ドイツに住む人々や動物に関する短い紹介映像を見たり、英語と似た医学用語を学んだりしながら、初歩的なドイツ語を理解し、その背景にある社会について考えるきっかけを得ることを目指す。
到達目標	1. ドイツ語の入門的な文法事項を理解し、運用できる。 2. 初歩的なレベルの講読テキストや会話表現を理解できる（ドイツ語技能検定試験5級程度のレベル）。 3. 現代ドイツ社会に関する簡単な知識を得ることができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	とくに必要ない。
履修上の留意点	教科書を必ず毎回携帯すること。授業開始時に毎回配布するプリントは、各自できちんと保管すること。
概要・スケジュール	第1回山本裕子 ガイダンス、辞書、参考書紹介、ドイツ語を話す人々と社会、文字と発音（プリント） 第2回山本裕子 Lektion1自己紹介の表現①（Dialog1） アルファベットと発音、挨拶と数字、人称代名詞と動詞 第3回山本裕子 Lektion1 自己紹介の表現②（Dialog2） 動詞の現在人称変化と位置、文メロディ 第4回山本裕子 Lektion1 自己紹介の表現③（Dialog3, Lesetext） 動詞の現在人称変化、言語と国籍 第5回山本裕子 Lektion2 持ち物の表現（Dialog1） 名詞の性と格、名詞と定／不定冠詞の1格と4格 第6回山本裕子 Lektion2 家族紹介の表現（Dialog2, Lesetext） 所有冠詞、家族の形 第7回山本裕子 Lektion3 趣味の表現（Dialog 1,2） 不規則動詞、否定疑問文、趣味 第8回山本裕子 Lektion3 言語をめぐる表現（Lesetext, Dialog3） 名詞と冠詞の複数形、言語と話者 第9回山本裕子 Lektion4土産をめぐる表現（Lesetext, Dialog1） 名詞と冠詞の3格と前置詞 第10回山本裕子 Lektion4 旅行と乗り物の表現①（Dialog2） 3格支配の前置詞、融合形 第11回山本裕子 Lektion4 旅行と乗り物の表現②（Dialog3） 4格支配の前置詞、人気の旅行先 第12回山本裕子 試験範囲の確認、既習学習事項の総復習 第13回山本裕子 試験範囲についての質疑応答 第14回山本裕子 期末テスト、前期学習事項の確認 第15回山本裕子 前期学習事項の総復習
授業期間を通して課される課題	1. 文法確認のために小テストを数回、学習事項全般の確認のために期末テストを1回実施する。 2. 文法などの練習問題を、次回までの課題とする場合がある。

科目No.	211300S1	科目区分	選択
科目名	独語講読 V2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	辞書または教科書巻末の単語集を使って、教科書の会話文や講読テキスト（Dialog, Lesetext）を予習し（20～30分）、配布プリントと教科書、付属のDVD-ROMを使って、音読しながら復習すること（20～40分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：教科書『ドイツ語の時間くときめきミュンヘン』DVD-ROM付 コミュニカティブ版』（清野智昭、時田伊津子、牛山さおり著）のほか、授業ごとに配布するプリントを使用する。 参考書：授業ではとくに使用しないが、自習のための参考書を授業時間中に紹介する。		
授業形態	教室内での講義形式の授業だが、ランダムに一人ずつ指名して発言を求めたり、ペアワークもおこなう。 ドイツ社会に関する映像資料や映画などを毎回使用する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	定期試験期間ではなく、授業期間内に期末テストを実施する。
レポート試験	0%	レポート試験は実施しない。
平常点評価	20%	小テスト(10%), 出席・質疑応答(10%)の状況に基づき評価する
オフィスアワー	非常勤で研究室やオフィシャルなメールアドレスはないため、教務・学生課（メールアドレス：kyomu@nvl.u.ac.jp [×を@に変えて使用すること]）を通して調整する。	
その他	かんたんな質問や相談は、授業の後に受けつける。	

科目No.	211310S1	科目区分	選択
科目名	独語文法 V1	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	山本 裕子		
授業のねらい	独語文法では、ドイツ語の初級文法事項を学んだうえで、会話文や講読テキストを読んだり、現代ドイツ社会における人や動物に関する紹介映像を見たり、英語と似た医学用語を学んだりしながら、基礎的なレベルのドイツ語を理解し、その背景にある社会について考える手がかりを得ることを目指す。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語の初級文法事項を理解し、運用できる。</li> <li>2. 基礎的なレベルの講読テキストや会話表現を理解できる（ドイツ語技能検定試験4級程度のレベル）。</li> <li>3. 現代ドイツ社会に関する様々な知識を得て、社会問題を考察する手がかりを得ることができる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「独語講読」で得た知識を理解していることが前提になる。		
履修上の留意点	教科書を必ず毎回携帯すること。毎回配布するプリントは、各自で保管すること。		
概要・スケジュール	<p>第1回山本裕子ガイダンス、既習文法事項と発音の復習、命令形（プリント）</p> <p>第2回山本裕子Lektion5体調を表す表現（Dialog1）既習文法事項の復習、命令形、代名詞の3・4格</p> <p>第3回山本裕子Lektion5 保健衛生制度（Lesetext）代名詞の3・4格と再帰代名詞、合成語の発音</p> <p>第4回山本裕子Lektion5時刻の表現①（Dialog2）時刻をあらわす表現、ドイツに関するクイズ</p> <p>第5回山本裕子Lektion5時刻の表現②（Dialog3）分離動詞と非分離動詞</p> <p>第6回山本裕子Lektion6買物の表現①（Dialog2, Lesetext）分離動詞と話法の助動詞、買い物事情</p> <p>第7回山本裕子Lektion6 買物の表現②（Dialog1）話法の助動詞、リズムの練習</p> <p>第8回山本裕子Lektion7 道案内の表現（Dialog1）3・4格支配の前置詞</p> <p>第9回山本裕子Lektion7 住居についての表現（Dialog2, Lesetextの一部）3・4格支配の前置詞と接続詞</p> <p>第10回山本裕子Lektion8過去の出来事についての表現（Dialog1）現在完了形、聞き返すときの表現</p> <p>第11回山本裕子Lektion8 ドイツと日本の有給休暇日数（Lesetext）現在完了形、過去分詞</p> <p>第12回山本裕子 山本裕子Lektion8 過去の出来事についての表現（Dialog2）過去形、試験範囲の確認</p> <p>第13回山本裕子試験範囲の総復習と質疑応答</p> <p>第14回山本裕子期末テスト、前期学習事項の確認</p> <p>第15回山本裕子前期学習事項の総復習</p>		
授業期間を通して課される課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文法確認のために小テストを数回、学習事項全般の確認のために期末テストを1回実施する。</li> <li>2. 文法などの練習問題を次回までの課題とする場合がある。</li> </ol>		

科目No.	211310S1	科目区分	選択
科目名	独語文法 V1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	辞書または教科書巻末の単語集を使って、教科書の会話文や講読テキスト（Dialog, Lesetext）を予習し（20～30分）、復習は、配布プリントと教科書、付属のDVD-ROMを使って、音読しながらおこなうこと（20～40分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：教科書『ドイツ語の時間 くときめきミュンヘン』DVD-ROM付 コミュニカティブ版』（清野智昭、時田伊津子、牛山さおり著）のほか、授業ごとに配布するプリントを使用する。 参考書：授業ではとくに使用しないが、自習のための参考書については適宜紹介する。		
授業形態	教室内での講義形式の授業だが、ランダムに一人ずつ指名して発言を求めたり、ペアワークもおこなう。 現代ドイツ社会に関する映像資料や映画などを毎回使用する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	定期試験期間ではなく、授業期間内に期末テストを実施する。
レポート試験	0%	レポート試験は実施しない。
平常点評価	20%	小テスト(10%), 出席・質疑応答(10%)の状況に基づき評価する
オフィスアワー	非常勤で研究室やオフィシャルなメールアドレスはないため、教務・学生課（メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp [×を@に変えて使用すること]）を通して調整する。	
その他	かんたんな質問や相談は、授業の後に受けつける。	

科目No.	211310S1	科目区分	選択
科目名	独語文法 V2	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	山本 裕子		

授業のねらい	独語文法では、ドイツ語の初級文法事項を学んだうえで、会話文や講読テキストを読んだり、現代ドイツ社会における人や動物に関する紹介映像を見たり、英語と似た医学用語を学んだりしながら、基礎的なレベルのドイツ語を理解し、その背景にある社会について考える手がかりを得ることを目指す。
到達目標	1. ドイツ語の初級文法事項を理解し、運用できる。 2. 基礎的なレベルの講読テキストや会話表現を理解できる（ドイツ語技能検定試験4級程度のレベル）。 3. 現代ドイツ社会に関する様々な知識を得て、社会問題を考察する手がかりを得ることができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「独語講読」で得た知識を理解していることが前提になる。
履修上の留意点	教科書を必ず毎回携帯すること。毎回配布するプリントは、各自で保管すること。
概要・スケジュール	第1回山本裕子 ガイダンス、既習文法事項と発音の復習、命令形（プリント） 第2回山本裕子 Lektion5体調を表す表現（Dialog1） 既習文法事項の復習、命令形、代名詞の3・4格 第3回山本裕子 Lektion5 保健衛生制度（Lesetext） 代名詞の3・4格と再帰代名詞、合成語の発音 第4回山本裕子 Lektion5時刻の表現①（Dialog2） 時刻をあらわす表現、ドイツに関するクイズ 第5回山本裕子 Lektion5時刻の表現②（Dialog3） 分離動詞と非分離動詞 第6回山本裕子 Lektion6買物の表現①（Dialog2, Lesetext） 分離動詞と話法の助動詞、買い物事情 第7回山本裕子 Lektion6 買物の表現②（Dialog1） 話法の助動詞、リズムの練習 第8回山本裕子 Lektion7 道案内の表現（Dialog1） 3・4格支配の前置詞 第9回山本裕子 Lektion7 住居についての表現（Dialog2, Lesetextの一部） 3・4格支配の前置詞と接続詞 第10回山本裕子Lektion8過去の出来事についての表現（Dialog1） 現在完了形、聞き返すときの表現 第11回山本裕子Lektion8 ドイツと日本の有給休暇日数（Lesetext） 現在完了形、過去分詞 第12回山本裕子Lektion8 過去の出来事についての表現（Dialog2） 過去形、試験範囲の確認 第13回山本裕子試験範囲の総復習と質疑応答 第14回山本裕子期末テスト、前期学習事項の確認 第15回山本裕子前期学習事項の総復習
授業期間を通して課される課題	1. 文法確認のために小テストを数回、学習事項全般の確認のために期末テストを1回実施する。 2. 文法などの練習問題を次回までの課題とする場合がある。

科目No.	211310S1	科目区分	選択
科目名	独語文法 V2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	辞書または教科書巻末の単語集を使って、教科書の会話文や講読テキスト（Dialog, Lesetext）を予習し（20～30分）、復習は、配布プリントと教科書、付属のDVD-ROMを使って、音読しながらおこなうこと（20～40分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：教科書『ドイツ語の時間 くときめきミュンヘン』DVD-ROM付 コミュニカティブ版』（清野智昭、時田伊津子、牛山さおり著）のほか、授業ごとに配布するプリントを使用する。 参考書：授業ではとくに使用しないが、自習のための参考書については適宜紹介する。		
授業形態	教室内での講義形式の授業だが、ランダムに一人ずつ指名して発言を求めたり、ペアワークもおこなう。 現代ドイツ社会に関する映像資料や映画などを毎回使用する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	定期試験期間ではなく、授業期間内に期末テストを実施する。
レポート試験	0%	レポート試験は実施しない。
平常点評価	20%	小テスト(10%), 出席・質疑応答(10%)の状況に基づき評価する
オフィスアワー	非常勤で研究室やオフィシャルなメールアドレスはないため、教務・学生課（メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp [×を@に変えて使用すること]）を通して調整する。	
その他	かんたんな質問や相談は、授業の後に受けつける。	

科目No.	211320S1	科目区分	選択
科目名	仏語 V1	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	大柳 貴		

授業のねらい	フランス語での日常会話表現を通して、正しい発音と初級文法事項の段階的学習を行う。「生活言語」としてのフランス語の運用能力を養成し、併せてフランス文化に対する興味を喚起することを本科目の目標とする。
到達目標	1. フランス語で挨拶や自己紹介が出来る。 2. フランス語を使って、日常的な簡単なやり取りが出来る。 3. フランス語で書かれた簡単な文の意味が理解出来る。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	初習言語なので、出来る限り欠席せず積極的に発音練習や問題演習に参加すること。
概要・スケジュール	第1回大柳 貴 導入～フランス語に親しむ/Alphabet 第2回大柳 貴 フランス語の文字と発音/スペルと音の関係 第3回大柳 貴 挨拶・自己紹介/ 名前・国籍を言う êtreの現在形 第4回大柳 貴 提示表現「～があります」/ 名詞の性・数/ 不定冠詞・定冠詞 第5回大柳 貴 練習問題演習 (口頭・筆記) 第6回大柳 貴 所有「～を持っている」/ 疑問文・否定文/ avoirの現在形 第7回大柳 貴 練習問題演習 (口頭・筆記) 第8回大柳 貴 好みを言う「～が好きです」/ 第1群規則動詞 部分冠詞 中性代名詞en 第9回大柳 貴 練習問題演習 (口頭・筆記) 第10回大柳 貴 プティックで買い物「どんな物?」/ vouloirの現在形 形容詞の性・数・位置 第11回大柳 貴 各種形容詞 (指示・疑問・所有) / 練習問題演習 (口頭・筆記) 第12回大柳 貴 ～へ行く (aller)・～から来る (venir) の現在形 第13回大柳 貴 疑問副詞 / pouvoirの現在形/ 練習問題演習 (口頭・筆記) 第14回大柳 貴 「いつ?何時に?」 時刻の表現/ 曜日・月・季節 第15回大柳 貴 練習問題演習 (口頭・筆記) / 復習とまとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211320S1	科目区分	選択
科目名	仏語 V1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	前回の授業内容を復習し、質問事項があればまとめておくこと（30分） 次回授業で扱う単元の単語を調べ、教科書添付のCDを使って音読の練習をしておくこと。練習問題は自力で解答を準備しておくこと。（60分）		
テキスト・参考文献他	話してみようフランス語-Oui;-) ~Parlons français（朝日出版社）		
授業形態	教室内での講義（文法解説、文化紹介。筆記・口頭による練習問題演習を含む）		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	60%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	レポートは実施しない。
平常点評価	40%	出席（20%）、問題演習・授業参加（20%）

オフィスアワー	メールアドレス：kyomuXnvl.u.ac.jp（Xを@に変えて使用すること） 実施方法：教務・学生課を通して調整する。
その他	遅刻は2回で1回欠席とカウントする。授業回数の3分の1以上欠席した場合、定期試験の受験資格を失う。

科目No.	211320S1	科目区分	選択
科目名	仏語 V2	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	黒木 朋興		

授業のねらい	フランスの学習は単に外国を使いこなすことのみならず、価値観の多様性を理解することを目指すべきだと考える。そこで英語や日本語との違いを考えた後、フランス語の世界がどのような文化的背景の下に成り立っているかを考えたい。
到達目標	1、挨拶、自己紹介、友人の紹介などが出来るようにする。 2、フランス語の動詞の活用、形容詞の変化を理解する。 3、フランス語の勉強の仕方の基本的な方向性を理解する。  実際に発音することによってフランス語を体感したい。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	初習言語なので、出来る限り欠席せず積極的に発音練習や問題演習に参加すること。
概要・スケジュール	第1回黒木朋興 ガイダンス。フランスがどういう国だか、映像等を使って説明する。 第2回黒木朋興 フランス語のアルファベットの読み方を学ぶ。『エマのフランス』L0。フランス語の平叙文と疑問文の作り方について学ぶ。 第3回黒木朋興 フランス人の挨拶の仕方をDVDで学ぶ。教科書に載っている正式なものから、フランス人が日常的に使っているものまで学ぶ。 第4回黒木朋興 いろいろな挨拶を聞いて、正式なものかかだけたものか、考える。簡単な自己紹介がフランス語で出来るようにする。 第5回黒木朋興 L0のフランス語の疑問文の作り方について説明する。 第6回黒木朋興 L1の本文を読む。名詞の男性形・女性形、形容詞の語形変化を説明する。 第7回黒木朋興 L2を参考にしながら、動詞の活用を学ぶ。 第8回黒木朋興 友達や家族の紹介が出来るようにする。 第9回黒木朋興 1から20までの数字を学ぶ。 第10回黒木朋興 L3. avoir, vouloirやdireなどの基本的な動詞を学ぶ。英語と英語の冠詞の違いについて学ぶ。 第11回黒木朋興 L3の本文を読む。簡単な会話練習をする。 第12回黒木朋興 進路調整のための予備日とする。 第13回黒木朋興 L4の会話文を読む。 第14回黒木朋興 L4の会話文を読む。 第15回黒木朋興 L4の文章を読む。
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211320S1	科目区分	選択
科目名	仏語 V2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習（90分）・復習（90分）		
テキスト・参考文献他	『エマのフランス』（駿河台出版社） プリント		
授業形態	教室内での講義・演習		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	筆記試験
レポート試験	0%	レポートは実施しない。
平常点評価	20%	出欠及び授業参加度

オフィスアワー	メールアドレス：kyomuXnvl.u.ac.jp(Xを@に変えて使用すること) 実施方法：教務・学生課を通して調整する。
その他	授業回数の3分の1以上欠席した場合、定期試験の受験資格を失う。

科目No.	211340S2	科目区分	選択
科目名	基礎生物学Ⅰ・Ⅱ（命名法・自然科学概論）	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	竹村 直行, 畠山 仁		

授業のねらい	課題に対して自分で考えを表明することや、チームで発表する機会を通じて、議論や発表の難しさを体験してもらう（畠山） 動物の疾病を診断し治療するプロセスを学ぶ（竹村）
到達目標	議論や発表に積極的に参加できる（畠山） 今後の専門教科を学ぶ必然性を明快に説明できる（竹村）
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	講義については、事前に配布するプリントを読んで講義に参加すること
履修上の留意点	第1～7回の授業では、学生に議論と発表をしてもらうので積極的に参加すること 第8～15回の講義では、担当教員は多くの学生に質問するので積極的に回答すること
概要・スケジュール	第1回 畠山仁 オリエンテーション 血液学の説明 第2回 畠山仁 血液学について議論 命名法・研究不正の説明 第3回 畠山仁 命名法・研究不正について議論 行動生態学の説明 第4回 畠山仁 行動生態学について議論 腫瘍学の説明 第5回 畠山仁 腫瘍学について議論 エピジェネティクスの説明 第6回 畠山仁 エピジェネティクスについて議論 獣医学コアカリの説明 第7回 畠山仁 獣医学コアカリについて議論 第8回 竹村直行 診断の進め方と思考プロセス 第9回 竹村直行 心音および呼吸音の聴診 第10回 竹村直行 過剰流涎（りゅうぜん）が見られた犬の診断・治療 第11回 竹村直行 不整脈の猫の診断・治療 第12回 竹村直行 病院の待合室で突然呼吸困難に陥った犬の診断・治療 第13回 竹村直行 長期間にわたり元気がない犬の診断・治療 第14回 竹村直行 膀胱がんの犬の診断・治療 第15回 竹村直行 大量の水を飲み大量の尿を排泄する犬の診断・治療
授業期間を通して課される課題	学生の理解度に応じてレポート提出を課す場合がある。

科目No.	211340S2	科目区分	選択
科目名	基礎生物学Ⅰ・Ⅱ（命名法・自然科学概論）	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	第1～7回の講義では、事前に配布したプリントを読み、テーマについて調べる（1時間程度）。第8～15回の講義では、事前配布したプリントを読むこと（20分程度）。その後、各自の興味に応じて講義中に出てきた疾患について自主的に調べて復習すると良い（1時間程度）。		
テキスト・参考文献他	参考となるテキストや文献は随時講義中に紹介する。		
授業形態	教室内で事前配布したプリントに沿ってパワーポイントを使って講義を進める。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	100%	学期末の定期試験期間内に実施する
レポート試験	0%	レポート提出を課した場合には10%とする
平常点評価	0%	平常点は評価しないが、講義中は活発な発言を求める

オフィスアワー	畠山仁：比較細胞生物学教室（D棟2階）・木曜日13:00～14:00 竹村直行：Eメールで事前に面談の予約を取る（メールアドレス：nstakemura@nvl.u.ac.jp、アットマーク@は半角に置き換えて送信すること）
その他	

科目No.	211350S2	科目区分	選択
科目名	基礎生物学Ⅲ・Ⅳ	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	森田 達志, 加藤 卓也		

授業のねらい	<p>以下、独立した2教科の内容記述のため、基礎生物学ⅢとⅣを各々[Ⅲ][Ⅳ]で示す。  [Ⅲ]2年次必修科目の「野生動物学Ⅰ」に関連する、野生動物学の基本的事項について学ぶ。  [Ⅳ]人獣に病害をおよぼす獣医学的に重要な「動物」のうち、特に無脊椎動物を中心に学ぶ。</p>
到達目標	<p>[Ⅲ] 野生動物学の基礎となる、進化と生物多様性、野生動物の形態・生理・行動学的特徴、ならびに生態と生息環境について理解する。  [Ⅳ] 獣医師として知っておくべき直接的害を及ぼす動物や高学年で学ぶ病原体の媒介者について、生態とその対策を身につける。</p>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	<p>[Ⅲ] 野生動物への関心を持ち、関連著書等に触れておくことが望ましい。  [Ⅳ] 感染症、特に動物媒介性疾患の概念をあらかじめ身につけておくこと講義の理解が深まる。</p>
履修上の留意点	<p>独立して2科目を講義するが単位認定は2科目が連動する。すなわち成績判定にあたっては両科目に50点ずつが配分され、総計60点以上で合格となる。一方の科目のみの単位認定は無い。</p>
概要・スケジュール	<p>[Ⅲ]  地球上には、あらゆる分類群の動物がみられ、その形態や生体機構も多種多様である。本科目では、多様な生態系を生み出した系統進化のメカニズムに始まり、野生動物の形態・生理・行動学的特徴、さらに野生動物の生態と生息環境との関係についてまで学び、野生動物学の基本的事項を説明できることを目標とする。なお、本講義は選択科目だが、2年次必修科目の「野生動物学Ⅰ」に関連するため、受講されることを推奨する。  【第1回】加藤卓也 オリエンテーション  【第2回】加藤卓也 野生動物の系統進化と分類  【第3回】加藤卓也 野生動物の形態学  【第4回】加藤卓也 野生動物の生理学  【第5回】加藤卓也 野生動物の行動学  【第6回】加藤卓也 野生動物の生態と生息環境  【第7回】加藤卓也 生物多様性</p> <p>[Ⅳ]  この科目では、獣医学で扱う家畜および人間に対して害を及ぼす「動物（菌、細菌、ウイルス含まず）」のうち、獣医寄生虫学および獣医寄生虫病学で扱う原生動物、扁形動物、線形動物および鉤頭動物を除いたもの、特に節足動物（ダニ類、昆虫類）を中心にその生態と病害を学ぶ。学習の対象動物群は、人獣に直接的に害を及ぼすものの他、様々なウイルス、細菌あるいは寄生虫の媒介者となるものが多く含まれ、後に学ぶ感染症関連科目の理解を深めるうえでも重要である。本科目は選択科目とされているが、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムの寄生虫病学における「節足動物総論」と「節足動物各論Ⅰ-Ⅱ」の内容を包含する。  【第8(1)回】森田達志 イントロダクション・軟体動物・扁形動物・類線形動物  【第9(2)回】森田達志 節足動物概論・クモ類  【第10(3)回】森田達志 マダニ類  【第11(4)回】森田達志 中気門類・前気門類  【第12(5)回】森田達志 無気門類  【第13(6)回】森田達志 シラミ類  【第14(7)回】森田達志 ノミ類  【第15(8)回】森田達志 双翅類</p>
授業期間を通して課される課題	<p>[Ⅲ] 毎回の講義始めに、前回講義内容に関する小テストを実施する、また、適宜レポート課題を課す。  [Ⅳ] 毎回の講義後にレポート課題を課す。</p>

科目No.	211350S2	科目区分	選択
科目名	基礎生物学Ⅲ・Ⅳ	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	[III] 指定教科書により次回講義予定の予習をする(30分)。復習として、配布資料も併用してレポートを作成提出する(60分)。 [IV] 次回講義までに指定教科書の講義予定部分を読む(30分)。受講後は講義を反駁すると共にレポートを作成し提出する(60分)。		
テキスト・参考文献他	[III] 獣医学・応用動物科学系学生のための野生動物学(村田浩一・坪田敏男, 文永堂出版) [教科書として必須] ほか参考図書を、講義中に随時紹介。 [IV] 図説獣医衛生動物学(今井壯一他・講談社サイエンティフィク) [教科書として必須]		
授業形態	[III] 教室内での講義。必要に応じて調査機材や標本を用いたデモンストレーションを行う。 [IV] 教室内での講義。レポートで認められた質問や事実誤認のうち普遍性の高いものは次回講義時に解説。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	割合は科目により異なる	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	割合は科目により異なる	講義中に適宜レポート提出を課す
平常点評価	割合は科目により異なる	出席・小テスト・レポート・質疑応答等について総合的に評価

オフィスアワー	[III] 加藤卓也 野生動物学研究室(3号棟2階※2014年2月現在) tkato[at]nvl.u.ac.jp ([at]=@) 月～金の午後。但し出張や会議等で不在にすることがあるので、上記メールで面接を予約すること。 [IV] 森田達志 獣医寄生虫学研究室(D棟4階) t-morita[at]nvl.u.ac.jp ([at]=@) 月～金の午後。但し実習・会議等で不在の可能性があり、上記メールで面接を予約すること。		
その他	[III] 選択科目ではあるがコアカリキュラムの必須項目を含むので、履修が強く望まれる。 [IV] 選択科目ではあるがコアカリキュラムの必須項目を含むので、履修が強く望まれる。		

科目No.	211360S2	科目区分	選択
科目名	基礎生物学Ⅴ・Ⅵ（脊椎動物・遺伝学）	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	土田 修一, 和田 新平, 倉田 修		

授業のねらい	3年次前期に開講される魚病学、2年次後期に開講される獣医遺伝・動物育種学およびより高学年で学ぶ種々の遺伝病を理解するための基礎として、魚類の生物学的基礎知識と遺伝学の基礎知識を修得する。
到達目標	1. 円口類、軟骨魚類、硬骨魚類の分類、解剖および生理機能を理解し説明できる。 2. 脊椎動物の血球形態を理解し説明できる。魚類の採血法を習得する。 3. 遺伝学の基礎となる遺伝法則、多型、染色体、遺伝病を理解し説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高校の生物学、哺乳類の解剖学、組織学、生理学の基礎知識が必要。
履修上の留意点	学内LAN上に掲示される和田担当分の講義資料を事前にダウンロードして講義時に参照。採血実技：白衣、血球観察：色鉛筆とスケッチブック。遺伝学は随時プリントを配布。
概要・スケジュール	第1回 和田新平 魚類の分類Ⅰ 第2回 和田新平 魚類の分類Ⅱ 第3回 和田新平 魚類の解剖・生理Ⅰ 第4回 和田新平 魚類の解剖・生理Ⅱ 第5回 和田新平 魚類の解剖・生理Ⅲ 第6回 倉田 修 脊椎動物の血球 第7回 倉田 修 魚類の採血法および血液塗抹標本の作製法Ⅰ 第8回 倉田 修 魚類の採血法および血液塗抹標本の作製法Ⅱ 第9回 倉田 修 魚類の血球観察Ⅰ 第10回 倉田 修 魚類の血球観察Ⅱ 第11回 土田修一 遺伝法則と形式遺伝学 第12回 土田修一 遺伝的多型 第13回 土田修一 連鎖と遺伝距離 第14回 土田修一 染色体 第15回 土田修一 性決定、遺伝病
授業期間を通して課される課題	脊椎動物の血球に関する講義範囲ではレポートを課す。

科目No.	211360S2	科目区分	選択
科目名	基礎生物学Ⅴ・Ⅵ（脊椎動物・遺伝学）	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	<p>次回の講義内容に関する資料を図書館等で事前に読む（30分）。  復習として、毎回の講義資料を再読（50分）。</p>		
テキスト・参考文献他	<p>テキスト：和田担当分（事前に学内LANの和田関係講義資料のフォルダにパワーポイント資料をアップするので、それをダウンロードして使用）。倉田担当分（学内LANの授業事前資料倉田フォルダに講義資料をアップする）。土田担当分（随時、資料を配布）。</p>		
授業形態	<p>教室内での講義。実習室での実技（血球観察）。</p>		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	50%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	20%	血球形態に関するレポートを課す。
平常点評価	30%	出席状況を評価。

オフィスアワー	<p>和田新平：水族医学研究室（D棟3階）swada@nvl.u.ac.jp（12:00～13:00、火曜と木曜を除く16:00～18:00）  倉田 修：水族医学研究室（D棟3階）kurata@nvl.u.ac.jp（12:00～13:00）  土田修一：比較細胞生物学研究室（D棟2階）tsuchida@nvl.u.ac.jp（12:00～13:00）</p>
その他	<p>講義の進捗状況によって講義内容が変更される場合がある。</p>

科目No.	211370S3	科目区分	選択
科目名	研究用機器論	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	担当教員, V 学科長		

授業のねらい	獣医学研究および獣医療で使用される大型機器の原理と使用法を学ぶ。
到達目標	各機器の利用目的、原理、操作が説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>各機器について実際使用し研究を行っている教員から説明を受ける。</p> <p>機器名</p> <p>第1, 2回：森田達志 走査型電子顕微鏡</p> <p>第3, 4回：畠山 仁 透過型電子顕微鏡</p> <p>第5, 6回：植田富貴子 微量元素分析装置</p> <p>第7, 8回：新井敏郎 DNAシーケンサー</p> <p>第9, 10回：藤田道郎 磁気共鳴イメージング(MRI)</p> <p>第11, 12回：小山秀一 超音波診断装置</p> <p>第13, 14回：片山欣哉 質量解析装置</p> <p>第15回：塚田晃三 フローサイトメーター</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211370S3	科目区分	選択
科目名	研究用機器論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として毎回のテーマについてまとめる（2時間）。		
テキスト・参考文献他	担当教員が配布するプリント等。		
授業形態	各機器についての講義を受け操作を行う。さらに得られた結果についての解釈の仕方も学ぶ。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	-
レポート試験	100	各機器の講義終了時にレポートを課す。
平常点評価	0	-

オフィスアワー	研究室への直接の訪問の場合： お昼の休み時間、夕方の実習終了後。
その他	出席が3分の2に満たない場合は単位取得資格がない。

科目No.	211380S1	科目区分	選択
科目名	生物学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	土田 修一		

授業のねらい	生物学は生物および生命現象を研究する科学分野であり、その対象は広い。生物は多様である一方で、共通のしくみを持っている。本科目では生物の構造と機能を学び、生物の多様性と共通性を理解することを目的とする。
到達目標	生物の基本となる細胞の構造、構成物質について理解し説明できる。 生命活動におけるエネルギーの流れを理解し説明できる。 生物の機能単位である器官の成り立ちについて学び、個体として秩序ある活動を理解し説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高校の生物学の基礎知識を理解していることが望まれる。
履修上の留意点	主体的な授業参加が望まれる。
概要・スケジュール	第1回土田修一 生物学の歴史と生物の特性 第2回土田修一 モデル生物 第3回土田修一 細胞の基本構造 I 第4回土田修一 細胞の基本構造 II 第5回土田修一 細胞の構成物質 I 第6回土田修一 細胞の構成物質 II 第7回土田修一 生命活動とエネルギー I 第8回土田修一 生命活動とエネルギー II 第9回土田修一 生命活動とエネルギー III 第10回 土田修一 生体の構造と機能 I 第11回 土田修一 生体の構造と機能 II 第12回土田修一 生体の構造と機能 III 第13回土田修一 生体の構造と機能 IV 第14回土田修一 ホメオスタシス 第15回土田修一 まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211380S1	科目区分	選択
科目名	生物学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	<p>次回の講義内容に関する事前配布資料を読むこと（30分）。  復習として、毎回の講義資料を再読する（60分）。</p>		
テキスト・参考文献他	<p>授業ごとにプリントを配布する。 参考書：キャンベル生物学</p>		
授業形態	<p>教室内での講義</p>		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	10%	中間にレポート提出を課することがある。
平常点評価	10%	出席状況を評価する。

オフィスアワー	土田 修一：比較細胞生物学 (D棟2階 tsuchida@nvlu.ac.jp (12:00~13:00))
その他	

科目No.	211390S1	科目区分	選択
科目名	生物学入門 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	土田 修一, 畠山 仁		

授業のねらい	生物学入門は高校で生物学を履修してこなかった獣医学科の学生を対象に、並行して開講される生物学の内容の復習ならびに補習を目的とする。
到達目標	生物に共通する特徴を理解し説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 土田修一 生物学入門の概要 第2回 土田修一 生活の中の微生物 第3回 土田修一、畠山 仁 細胞 第4回 土田修一 エネルギー 第5回 土田修一 血液型 第6回 土田修一 遺伝子 第7回 土田修一 生物の多様性と普遍性 第8回 土田修一 まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211390S1	科目区分	選択
科目名	生物学入門 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回の講義資料を再読する（30分）。		
テキスト・参考文献他	授業ごとにプリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	20%	学期中にレポートを課することがある。
平常点評価	10%	出席状況を評価する。

オフィスアワー	土田修一：比較細胞生物学（D棟2階 tsuchida@nvl.u.ac.jp（12：00～13：00））
その他	

科目No.	211400S2	科目区分	選択
科目名	生物学実習Ⅱ	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	土田 修一, 畠山 仁		

授業のねらい	1年次で開講された生物学実習Ⅰでは主に光学顕微鏡の操作について学んだが、今回は光学顕微鏡（光顕）、透過型電子顕微鏡（電顕）観察のために使用する機器の操作について学ぶことを主目的とする。
到達目標	電顕を用いて生物試料を観察するまでには様々な準備が必要であり、その作業を実験において一通り行う。限られた時間ではあるが、教員の実演をただ見るのではなく実際学生が操作してみるようにする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	事前に配布するプリントを読んで実習に参加すること
履修上の留意点	実習には積極的に参加すること
概要・スケジュール	第1回 土田修一, 畠山 仁 試料の解剖・切出・固定 第2回 土田修一, 畠山 仁 細針・毛針の作成 第3回 土田修一, 畠山 仁 自動包埋装置による包埋 第4回 土田修一, 畠山 仁 樹脂包埋 第5回 土田修一, 畠山 仁 ブロックのトリミング・厚切切片作製 第6回 土田修一, 畠山 仁 超薄切片作製 第7回 土田修一, 畠山 仁 電子染色 第8回 土田修一, 畠山 仁 電顕観察
授業期間を通して課される課題	実習での作業を完遂すること自体が課題である

科目No.	211400S2	科目区分	選択
科目名	生物学実習Ⅱ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	事前に配布したプリントを読むこと（30分程度） 前回の作業を確認をする（30分程度）		
テキスト・参考文献他	実習ごとにプリントを配布する。		
授業形態	実習形式		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない
レポート試験	0%	レポートは課さない
平常点評価	100%	出席、実習への取組みを総合的に評価する

オフィスアワー	畠山仁（代表）：比較細胞生物学教室（D棟2F）・木曜日13:00～14:00
その他	生物学実習に名称変更予定

科目No.	211410S1	科目区分	選択
科目名	化学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	田崎 弘之		
授業のねらい	物理化学を中心に学ぶ。特に、熱力学に関しては大学ではじめて学ぶことになるが、化学は、物質とエネルギーの変化を叙述する学問であるため、必須の知識となる。		
到達目標	化学の知識を定性的なものから定量的な理解できるようにする。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし		
履修上の留意点	化学実習（必修）、生体分子化学（必修）を履修する上で履修しておくことが望ましい。		
概要・スケジュール	第1回 田崎弘之序論 第2回 田崎弘之原子の電子配置（量子化学） 第3回 田崎弘之原子の電子配置（量子化学） 第4回 田崎弘之化学結合（混成軌道・分子軌道） 第5回 田崎弘之化学結合（混成軌道・分子軌道） 第6回 田崎弘之物質の状態（気体の分子運動論） 第7回 田崎弘之物質の状態（状態図） 第8回 田崎弘之物質の状態（緩衝液） 第9回 田崎弘之物質の変化（化学熱力学） 第10回 田崎弘之物質の変化（化学熱力学） 第11回 田崎弘之物質の変化（化学熱力学） 第12回 田崎弘之物質の変化（化学平衡） 第13回 田崎弘之物質の変化（化学平衡） 第14回 田崎弘之物質の変化（化学反応速度） 第15回 田崎弘之化学の応用と展開		
授業期間を通して課される課題	毎回宿題を出す。		

科目No.	211410S1	科目区分	選択
科目名	化学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習：教科書を読み、宿題で指定されたことを調べてくる。(40分) 復習：講義ノートの整理と配布資料を使って、宿題で課された問題を解いて授業内容を把握する。(60分)		
テキスト・参考文献他	理系のための基礎化学 増田芳男・澤田清編 化学同人		
授業形態	講義を中心とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	60%	期末試験は、記述式と選択式を混合させた形で行う。
レポート試験	宿題 35%	記述内容を評価、提出物は返還しない。
平常点評価	出席点 5%	宿題の提出をもって出席とする。

オフィスアワー	田崎弘之 獣医学総合教育部門・獣医学総合教育分野 生体分子化学教室 (D棟5階) 開講期の毎週木曜日 13時～14時
その他	

科目No.	211420S1	科目区分	選択
科目名	化学入門 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	田崎 弘之, 佐藤 稲子		

授業のねらい	化学を学ぶ上で、必要とされる基礎知識を習得する。 特に、後期に開講される化学実習（必修）の履修に必要な化学の基礎知識を本科目では学習する。
到達目標	1. 化学の歴史を知り、化学の知識でできることを理解する。 2. 物質質量を含む、化学の量を表す単位について理解し、実験データの取り扱いに利用できる。 3. 有効数字と誤差について理解し、実験データの取り扱いに利用できる。 4. 酸と塩基を定義でき、中和反応を理解し、中和滴定による未知試料水溶液の濃度を決定できる。 5. 緩衝作用を説明でき、目的の濃度、目的のpHの緩衝溶液を作成する知識を身につける。 6. 有機化合物の構造式を描くことができ、その性質と特徴を理解できる。 7. さまざまな生体分子の定性と定量の知識を身につける。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし
履修上の留意点	特になし
概要・スケジュール	第1回 田崎弘之 オリエンテーション、序論、化学の歴史 第2回 佐藤稲子 SI単位系 溶液の濃度 第3回 佐藤稲子 有効数字と誤差 第4回 佐藤稲子 酸と塩基 第5回 田崎弘之 緩衝液と緩衝作用 第6回 田崎弘之 有機化合物の構造 第7回 田崎弘之 生体分子の定性と定量（1） 第8回 田崎弘之 生体分子の定性と定量（2）
授業期間を通して課される課題	毎回、宿題を出す。

科目No.	211420S1	科目区分	選択
科目名	化学入門 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習：教科書を読み、宿題で指定されたことを調べてくる。(40分) 復習：講義ノートの整理と宿題で課された問題を解いて授業内容の把握する。(60分)		
テキスト・参考文献他	教科書 これわかる化学 三共出版 その他、適宜プリントを配布する。		
授業形態	講義を中心とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	60%	期末試験は、記述式と選択式を混合させた形で行う。
レポート試験	宿題 35%	記述内容を評価、提出物は返還しない。
平常点評価	出席点 5%	宿題の提出をもって出席とする。

オフィスアワー	獣医学総合教育部門・獣医学総合教育分野 生体分子化学教室 (D棟5階) 開講期の毎週木曜日 13時～14時
その他	

科目No.	211430S2	科目区分	選択
科目名	化学実習Ⅱ	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	田崎 弘之, 片山 欣哉, 佐藤 稲子		
授業のねらい	化学実験を教育指導する能力の修得を目的として、実験の計画から、準備、実施、片付けまで実験全体を理解し、実践する能力を養成する。		
到達目標	実験器具の取扱い、試薬の調製、基本的な実験操作、後片付け、廃液の処理等、一連の基礎実験法を身につける。また、提示されたテーマを基に実験を計画し、必要な器具、試薬についてまとめ、自ら主体的に準備から行い、安全に実験を企画、遂行できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし。		
履修上の留意点	教職課程においては必修科目である。 白衣と安全眼鏡を持参すること。 PowerPoint等の発表用ツールがインストールされたノートパソコンを持参することが望ましい。		
概要・スケジュール	<p>酸化還元反応、酸塩基反応、気体の分子量の測定、反応速度と濃度・温度の関係、有機化合物の合成などをテーマに、基本的な実験を自ら計画し実施する。それを生徒役である他の学生に説明し、実験させる。また、他班から説明を受けた複数の実験を実施し、いずれか一つについて結果をまとめ発表する。</p> <p>第1回 田崎弘之 はじめに：化学実験の諸注意・心得・基礎知識  第2回 片山欣哉、佐藤稲子 各班に与えられたテーマに従い、実験方法をまとめる。  第3回 片山欣哉、佐藤稲子 まとめた実験方法で実験を実施し、発表用の形式に実験方法をまとめる。  第4回 片山欣哉、佐藤稲子 他班の学生が実験できるよう、実験方法を発表し、器具や試薬を準備する。  第5回 片山欣哉、佐藤稲子 他班が提示した実験方法に従い、実験を行う。  第6回 片山欣哉、佐藤稲子 実験結果をまとめ、発表する。</p>		
授業期間を通して課される課題	実験ごとに、指定された期日までレポートを提出する。		

科目No.	211430S2	科目区分	選択
科目名	化学実習Ⅱ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	特になし。		
テキスト・参考文献他	初回にテキストを配布する。		
授業形態	実験は3名程度のグループで行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0	—
レポート試験	50	実験ごとのレポート評価点の合計とする。
平常点評価	50	発表内容、実習態度、出席、レポートの期限内提出を評価。

オフィスアワー	佐藤 稲子 獣医学総合教育部門 獣医学総合教育分野 生体分子化学研究室 (D棟5階) 集中実習である本実習の開講期間は随時対応する。また、その翌週の月曜日から金曜日の10:00~11:00。
その他	夏期休業中に実施する。詳細な日程は掲示板に掲示する。化学実習に名称変更予定。

科目No.	211440S1	科目区分	選択
科目名	物理学入門 A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	八木 昌平		

授業のねらい	科学を理解するためには数学，物理学の理解は必ず必要である。 物理学では，数学と物理学の基礎を理解することを目的とする。 特に物理学の基礎である力学を対象とし，数学の使い方と，物理学の概念の理解を目指す。
到達目標	1. 数学，物理学の基礎（力学）を理解する。 2. 自然や社会の物と現象の理解と予測能力の向上ができる。 3. 抽象的思考能力の向上ができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	小中高の常識的な算数，数学の理解の確認をしてから履修に臨むこと。 高校数学が修得済みであること。
履修上の留意点	予習復習を必要とする。解らないときは逐次質問すること。
概要・スケジュール	第1回八木昌平 算数，数学の確認 第2回八木昌平 基礎数学 1 第3回八木昌平 基礎数学 2 第4回八木昌平 単位 第5回八木昌平 力のつり合い 第6回八木昌平 運動の表し方 第7回八木昌平 運動の法則
授業期間を通して課される課題	ほぼ毎回につき課題を課すので，次回までに解いておくこと。

科目No.	211440S1	科目区分	選択
科目名	物理学入門 A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回の講義に関して理解に努めること。(60分) 復習として、講義に関し理解を深めること。(20分)		
テキスト・参考文献他	大学新入生のための物理入門 第2版, 廣岡 秀明, 共立出版 大学生のための基礎シリーズ 数学入門, 物理学入門, 東京化学同人 オトナのための算数・数学やりなおしドリル, 桜井 進, 宝島社		
授業形態	教室内での講義.		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80	学期末に定期試験を実施する.
レポート試験	20	なし
平常点評価	0	なし

オフィスアワー	八木昌平 : 物理学教室(D棟3階) shou*nv u. ac. jp(@に*を変更する.) メールにて事前に予約すること(水曜日12:30~13:30).
その他	

科目No.	211450S1	科目区分	選択
科目名	物理学 I	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	武藤 知巳		

授業のねらい	物理学は自然現象を根本的に理解することを目指す学問である。力学、電気、熱力学について基本的な概念や法則を学んだ上で、生物が備えている物理的な仕組みを明らかにすることによって、生命現象についての理解を深めることを目的とする。
到達目標	1. 加速度、力、エネルギーなどについて理解した上で、基本的な物体の運動が計算できる。 2. 電場、電位など、電気の基本的概念を理解した上で、電気回路の仕組みが説明できる。 3. 熱力学の法則を学び、体内における圧力の働きや体温維持の仕組みが説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	疑問点があれば質問をして、できるだけその場で解決すること。
概要・スケジュール	第1回武藤知巳 力のつりあい 第2回武藤知巳 速度と加速度 第3回武藤知巳 運動の法則 第4回武藤知巳 慣性力 第5回武藤知巳 運動量と力積 第6回武藤知巳 エネルギーと仕事 第7回武藤知巳 相対性理論 第8回武藤知巳 電場と電位 第9回武藤知巳 電気回路 第10回武藤知巳 圧力 第11回武藤知巳 熱と温度 第12回武藤知巳 熱の移動 第13回武藤知巳 熱力学第2法則とエントロピー 第14回武藤知巳 次元解析とスケールリング 第15回武藤知巳 まとめと補足
授業期間を通して課される課題	問題演習を毎回行う。

科目No.	211450S1	科目区分	選択
科目名	物理学 I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業の復習 (30分) 授業内で紹介する本を読む (60分)		
テキスト・参考文献他	テキスト：指定しない 参考文献：赤野松太郎他 『医歯系の物理学』 東京教学社		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	60%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	-
平常点評価	40%	毎回実施する問題演習の解答状況で評価する

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）、実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	211460S1	科目区分	選択
科目名	物理学Ⅱ	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	武藤 知巳		

授業のねらい	物理学Ⅱに引き続き、物理学の基本的な概念や法則を理解することによって、生命現象についての理解を深めることを目的とする。振動と円運動の力学の他、音や光の波としての性質などを学び、医療にどのように利用されているかを知る。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 振動や円運動を記述する方法を学び、電磁気的な現象への応用ができる。</li> <li>2. 音や光の波としての性質を学び、医療機器にどのように利用されているかを知る。</li> <li>3. 放射線について学び、半減期に関する計算ができる。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	疑問点があれば質問をして、できるだけその場で解決すること。		
概要・スケジュール	第1回武藤知巳	減衰と過渡現象	
	第2回武藤知巳	単振動と減衰振動	
	第3回武藤知巳	電気的な振動	
	第4回武藤知巳	円運動と慣性力	
	第5回武藤知巳	ローレンツ力と円運動	
	第6回武藤知巳	単振動と円運動	
	第7回武藤知巳	剛体の慣性モーメント	
	第8回武藤知巳	剛体の回転	
	第9回武藤知巳	音の重ね合わせ	
	第10回武藤知巳	音のドップラー効果	
	第11回武藤知巳	光の反射	
	第12回武藤知巳	光の屈折	
	第13回武藤知巳	光の回折	
	第14回武藤知巳	放射線	
	第15回武藤知巳	まとめと補足	
授業期間を通して課される課題	問題演習を毎回行う。		

科目No.	211460S1	科目区分	選択
科目名	物理学Ⅱ	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業の復習（30分） 物理に関する本を読む（60分）		
テキスト・参考文献他	テキスト：指定しない 参考文献：赤野松太郎他 『医歯系の物理学』 東京教学社		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	60%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	-
平常点評価	40%	毎回実施する問題演習の解答状況で評価する

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）、実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	211470S1	科目区分	選択
科目名	物理学実習 I	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	八木 昌平		

授業のねらい	科学では物理的な技術や測定 of 知識が重要になっている。基礎的な物理学に関する実験を行い、物理現象を観察し、物理量を測定し、法則を理解する。実験機器の使用法、データの取得と処理の方法、報告書の書き方などを修得し、問題解決能力のための素地を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学、物理学の基礎を理解し、実験、測定の技術を習得できる。</li> <li>2. 自然や社会の物と現象の理解と予測能力の向上ができる。</li> <li>3. 抽象的思考能力の向上ができる。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	小中高の常識的な算数、数学の理解の確認をしてから履修に臨むこと。 高校数学が修得済みであること。 物理学を履修すること。
履修上の留意点	予習を必要とする。解らないときは逐次質問すること。
概要・スケジュール	第1回八木昌平 ガイダンス 第2回八木昌平 測定 第3回八木昌平 固体の比熱 第4回八木昌平 固体の比熱 第5回八木昌平 表面張力 第6回八木昌平 表面張力 第7回八木昌平 屈折 第8回八木昌平 屈折 第9回八木昌平 弦の定常波 第10回八木昌平 弦の定常波 第12回八木昌平 半導体 第13回八木昌平 半導体 第14回八木昌平 等電位線 第15回八木昌平 等電位線
授業期間を通して課される課題	ほぼ毎回につき課題を課すので、レポートに解いておくこと。

科目No.	211470S1	科目区分	選択
科目名	物理学実習 I	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回の実験に関して理解に努めること.		
テキスト・参考文献他	大学新生のための物理入門 第2版, 廣岡 秀明, 共立出版		
授業形態	実験室での実験.		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	なし
レポート試験	80	次回の実験時にレポートを提出すること.
平常点評価	20	実習態度.

オフィスアワー	八木昌平 : 物理学教室 (D棟3階) shou*nvlu.ac.jp (@に*を変更する.) メールにて事前に予約すること (水曜日12:30~13:30).
その他	

科目No.	211480S1	科目区分	選択
科目名	物理学実習Ⅱ	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	八木 昌平		

授業のねらい	科学では物理的な技術や測定知識が重要になっている。基礎的な物理学に関する実験を行い、物理現象を観察し、物理量を測定し、法則を理解する。実験機器の使用法、データの取得と処理の方法、報告書の書き方などを修得し、問題解決能力のための素地を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学、物理学の基礎を理解し、実験、測定の技術を習得できる。</li> <li>2. 自然や社会の物と現象の理解と予測能力の向上ができる。</li> <li>3. 抽象的思考能力の向上ができる。</li> </ol>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	<p>小中高の常識的な算数、数学の理解の確認をしてから履修に臨むこと。</p> <p>高校数学が修得済みであること。</p> <p>物理学を履修すること。</p>
履修上の留意点	予習復習を必要とする。解らないときは逐次質問すること。
概要・スケジュール	<p>第1回八木昌平 ガイダンス</p> <p>第2回八木昌平 測定</p> <p>第3回八木昌平 薄いレンズ</p> <p>第4回八木昌平 薄いレンズ</p> <p>第5回八木昌平 光の回折</p> <p>第6回八木昌平 光の回折</p> <p>第7回八木昌平 ガラス薄膜の電位差</p> <p>第8回八木昌平 ガラス薄膜の電位差</p> <p>第9回八木昌平 電流が磁場から受ける力</p> <p>第10回八木昌平 電流が磁場から受ける力</p> <p>第11回八木昌平 電気抵抗</p> <p>第12回八木昌平 電気抵抗</p> <p>第13回八木昌平 熱電対</p> <p>第14回八木昌平 熱電対</p> <p>第15回八木昌平 熱電対</p>
授業期間を通して課される課題	ほぼ毎回につき課題を課すので、レポートに解しておくこと。

科目No.	211480S1	科目区分	選択
科目名	物理学実習Ⅱ	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回の実験に関して理解に努めること.		
テキスト・参考文献他	大学新生のための物理入門 第2版, 廣岡 秀明, 共立出版		
授業形態	実験室での実験.		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	なし
レポート試験	80	次回の実験時にレポートを提出すること.
平常点評価	20	実習態度

オフィスアワー	八木昌平 : 物理学教室 (D棟3階) shou*nvlu.ac.jp (@に*を変更する.) メールにて事前に予約すること (水曜日12:30~13:30).
その他	

科目No.	211490S1	科目区分	選択
科目名	数学 I・II (コンピュータ概論含む)	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	大坂 元久		

授業のねらい	生命現象を深く理解する視点として数学がある。基本的な数理モデルについて概説する。数理モデルはおもに微分方程式で記述される。このために高校で学習した微分積分を発展的に現象の記述に関連させながら学習し基礎力をつけるようにする。
到達目標	高校で学習した微分がいかに現象を記述するために有用であるかを理解する。普遍的な現象を実際に微分方程式で記述する方法を理解する。簡単な方程式の解を求める方法と解の意味を視覚化できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高校での微分積分を習得していること
履修上の留意点	板書をきちんとノートにとれば、理解できるはずである。
概要・スケジュール	第1回大坂元久 高校レベルの微分積分の復習 1 第2回大坂元久 高校レベルの微分積分の復習 2 第3回大坂元久 微分を新しい観点から見直す 1 第4回大坂元久 微分を新しい観点から見直す 2 第5回大坂元久 確認 第6回大坂元久 数理モデルとは 第7回大坂元久 人口はどこまで増加するか1 第8回大坂元久 人口はどこまで増加するか2 第9回大坂元久 ロジスティックモデルとカオスについて 第10回大坂元久 魚の性転換はどうして起きるのか 1 第11回大坂元久 確認 第12回大坂元久 魚の性転換はどうして起きるのか 2 第13回大坂元久 シマウマの模様はどうしてできるか1 第14回大坂元久 シマウマの模様はどうしてできるか2 第15回大坂元久 確認
授業期間を通して課される課題	3回の確認テストを必ず受けること。

科目No.	211490S1	科目区分	選択
科目名	数学Ⅰ・Ⅱ（コンピュータ概論含む）	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	前回のノートを復習すること（30分）		
テキスト・参考文献他			
授業形態	板書で講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験はない。
レポート試験	0	レポートなどはない。
平常点評価	100	3回の確認テストで判定する。

オフィスアワー	C棟3階数学・生物統計学分野教室にて。面接は osaka×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）で予約してからのみ受け付ける。面接時間は火曜日15：00から1600。
その他	統計学は本で自学自習するとなかなかやっかいである。講義は一期一会であり私にとって舞台でもある。教えるとは「希望を語ること」という理念のもとたのしく学びましょう。

科目No.	211500S1	科目区分	選択
科目名	健康科学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	濱部 浩一, 野口 泰子		
授業のねらい	保健分野の幅広い知識や問題解決能力を習得し、社会のニーズの変化に対応できる柔軟さと科学的思考力を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯に渡って自分自身の健康管理をすることができる。</li> <li>・健康と運動の関係を理解し、人に正確に伝えることができる。</li> </ul>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	普段から健康や運動に関する情報には敏感に反応し、積極的に見たり、聞いたり、読むようにして授業に臨むこと。		
履修上の留意点	健康について興味があり、学習した内容を積極的にこれからの健康管理につなげる意志のある学生が望ましい。		
概要・スケジュール	<p>第1回 濱部浩一, 野口泰子 現代の生活と健康：健康の定義、概念について学習する。</p> <p>第2回 濱部浩一, 野口泰子 生活習慣と健康：食生活や栄養について学習する。</p> <p>第3回 濱部浩一, 野口泰子 生活習慣と健康：休養、睡眠について学習する。</p> <p>第4回 濱部浩一, 野口泰子 生活習慣と健康：生活習慣病、メタボリックシンドロームについて学習する。</p> <p>第5回 濱部浩一, 野口泰子 生活習慣と健康：飲酒、喫煙について学習する。</p> <p>第6回 濱部浩一, 野口泰子 心の健康：メンタルヘルスについて学習する。</p> <p>第7回 濱部浩一, 野口泰子 心の健康：ストレス、ストレスマネジメントについて学習する。</p> <p>第8回 濱部浩一, 野口泰子 健康づくりのための政策：厚生労働省による健康づくり、健康日本21について学習する。</p> <p>第9回 濱部浩一, 野口泰子 少子高齢化社会・福祉社会と健康：人口・出生等の統計、高齢者福祉について学習する。</p> <p>第10回 濱部浩一, 野口泰子 運動：体力の概念、大学生の体力について学習する。</p> <p>第11回 濱部浩一, 野口泰子 運動：運動の意味について学習する。</p> <p>第12回 濱部浩一, 野口泰子 運動：運動処方、トレーニングについて学習する。</p> <p>第13回 濱部浩一, 野口泰子 運動と傷害について：外傷と傷害の違い、怪我の予防、応急手当について学習する。</p> <p>第14回 濱部浩一, 野口泰子 救急法：心肺蘇生法、AED、熱中症について学習する。</p> <p>第15回 濱部浩一, 野口泰子 定期試験の実施</p>		
授業期間を通して課される課題	自分自身の健康管理シート（レポート）を課す。		

科目No.	211500S1	科目区分	選択
科目名	健康科学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業で学習した内容を日常生活において実行してみる。また心肺蘇生法やAEDなどの救急法、日常生活や運動時に起こる怪我や熱中症などの応急手当は日々予習、復習し緊急時に備えるようにしておく。		
テキスト・参考文献他	教科書：大学生の健康・スポーツ科学（道和書院）		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	60%	授業最終日に試験を実施する。
レポート試験	20%	学期の間にてレポートを課す。
平常点評価	20%	出席、意欲、授業態度

オフィスアワー	kyomu×nvl@u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） 実施方法：教務・学生課を通して調整する。
その他	

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ウォーキング）	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	濱部 浩一, 小泉 健司, 野口 泰子		
授業のねらい	ウォーキングを通して歩くことの楽しさと、気軽に運動ができることを理解し、健康への意識を高めることを目的とする。腹式呼吸を実践しながらウォーキングを行い、体脂肪を燃焼させることを目標とする。参加者同士がコミュニケーションを養うことを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウォーキングの運動量について理解する</li> <li>2. ウォーキングを通じてコミュニケーション能力を養う。</li> <li>3. ウォーキングをしながら腹式呼吸を実践する方法を習得する。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし、全くの初心者でも参加することができる。		
履修上の留意点	配付された資料を携帯すること。 授業中は意欲的に質問し、研究的な態度で授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回 濱部 オリエンテーション、ウォーキングの手引きと腹式呼吸 第2回 濱部 高尾山 高尾山口～高尾山頂 第3回 濱部 高尾山 1号路コミュニケーショントレーニング 第4回 濱部 高尾山 高尾山頂～城山 第5回 濱部 高尾山 城山～高尾山口 第6回 濱部 都内千駄ヶ谷～外苑 コミュニケーショントレーニング 第7回 濱部 都内 日比谷公園～皇居 第8回 濱部 都内武道館～靖国神社 第9回 濱部 都内千駄ヶ谷～東京タワー コミュニケーショントレーニング 第10回 濱部 都内増上寺～竹芝棧橋 第11回 濱部 都内 レインボーブリッジ～お台場 第12回 濱部 高尾山 高尾山口～高尾山山頂 第13回 濱部 高尾山 稲荷山ルートコミュニケーショントレーニング 第14回 濱部 高尾山 高尾山山頂～城山 第15回 濱部 高尾山 城山～高尾山口		
授業期間を通して課される課題	ウォーキングのマナー、コミュニケーション能力のチェック、腹式呼吸達成度について申告する。		

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ウォーキング）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために事前配布テキストおよび資料を事前に読むこと（2時間）		
テキスト・参考文献他	テキスト：専用の手引きを配布する。		
授業形態	学外集中授業、教室内での説明会、講義、在宅学習での事前勉強、小グループ実習		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施しない
レポート試験	20	実習後レポートを課す
平常点評価	80	出席、質疑応答など積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	濱部（担当教員） 運動科学教室（E棟5階） hamabeXnvl.u.ac.jp（Xを@に変えて使用すること） Eメールにて受付又は面接を予約（水曜16時から17時）
その他	

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（スキー）	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	濱部 浩一, 小泉 健司, 野口 泰子		
授業のねらい	スキーの基礎技術を学び、スピードコントロールと自由自在なスキー操作の為の理論と技能を修得することを目的とする。スキーを通じて自然の厳しさを学び、フォームの向上、自由自在に滑り降りる爽快感を経験することを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スキーの基本操作について理解する</li> <li>2. スキーについて説明できる。</li> <li>3. 自分の技量にあった斜度、雪質での滑走を経験する。自在にスキー操作をする方法を習得する。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし、全くの初心者でも参加することができる。		
履修上の留意点	配付された資料を携帯すること。 授業中は意欲的に質問し、研究的な態度で授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回 濱部 オリエンテーション、スキー基礎技術 第2回 濱部 スキー場 スキーの制動基本姿勢 第3回 濱部 スキー場斜滑降の技能 第4回 濱部 スキー場外向の技能 第5回 濱部 スキー場外傾の技能 第6回 濱部 スキー場外向外傾の技能 第7回 濱部 スキー場上下動の技能 第8回 濱部 スキー場 抜重の技能 第9回 濱部 スキー場傾斜に併せたスピードコントロール 第10回 濱部 スキー場 エッジ操作 第11回 濱部 スキー場ストックワーク 第12回 濱部 スキー場ターンの前半と後半 第13回 濱部 スキー場大回り和小回り 第14回 濱部 スキー場雪質の理解と滑走 第15回 濱部 スキー場総合滑走 ビデオ撮影		
授業期間を通して課される課題	スキーの安全管理、マナー、技術理論に関して小テストを実施する。技術修得度について実技テストを実施する。		

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（スキー）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために事前配布テキストおよび資料を事前に読むこと（2時間）		
テキスト・参考文献他	内容の理解を深めるために事前配布テキストおよび資料を事前に読むこと（2時間）		
授業形態	学外集中授業、室内での説明会、講義、在宅学習での事前勉強、スキー場での少人数制での実習		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施しない
レポート試験	20	実習後レポートを課す
平常点評価	80	出席、質疑応答など積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	濱部（担当教員） 運動科学教室（E棟5階） hamabeXnvl@u.ac.jp（Xを@に交えて使用すること） Eメールにて受付又は面接を予約（水曜13時から17時）
その他	

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ダイビング）	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	濱部 浩一, 小泉 健司, 野口 泰子		
授業のねらい	ダイビング実習では、スクーバーユニットを利用して潜水方法および水中での技能に関する初歩からの理論と技能を修得することを目的とする。潜水に関する安全管理や器材に関する操作方法などを学び安全にダイビングをする方法について理解することを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スクーバーユニットの操作方法について理解する</li> <li>2. 水中でのダイビングについて説明できる。</li> <li>3. ライセンスカードを取得する。オープンウォーターもしくはアドバンスオープンウォーターの資格。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし、全くの初心者でも履修することができる。		
履修上の留意点	パディダイビングライセンス取得コースに関するテキスト一式を携帯すること。授業中は意欲的に質問し、研究的な態度で授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回 濱部 オリエンテーション ダイビングの概要 第2回 濱部 フリーフィンク、陸上でのユニット装着 第3回 濱部 スノーケル呼吸、レギュレーター呼吸、リカバリー／クリア、BCの給気／排気 第4回 濱部 マスククリア、マスク脱着 第5回 濱部 スノーケルレギュ交換、オクトパスブリージング、ロープ潜降 第6回 濱部 レギュリカバー／クリア、マスククリア、マスク脱着 第7回 濱部 中性浮力、スノーケリング、ユニットの解除と洗浄、ロギング 第8回 濱部 終日ポートダイビング、ユニットの組み立て点検、機材の装着 第9回 濱部 エントリー、ロープ潜行、レギュリカバー／クリアマスククリア 第10回 濱部 水中ツアー、ロープ浮上と安全停止、ディブリーフィンク 第11回 濱部 機材の装着、エントリー、ロープ潜降、中性浮力 第12回 濱部 オクトパスブリージング、水中ツアー、マスク脱着 第13回 濱部 ロープを目印とした浮上、安全停止、ユニットの解除 第14回 濱部 終日ポートダイビング、コンパスナビゲーション 第15回 濱部 ホバリング、エキジット、学科筆記試験		
授業期間を通して課される課題	テキストの練習問題を在宅学習にて解く。授業終了後にレポートを課す。		

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ダイビング）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために事前配布テキストおよび資料を事前に読むこと（15時間） 実習中は毎回ロギングにおいて復習する（60分×3日間）		
テキスト・参考文献他	テキスト：パディダイビングライセンス取得コース専用テキストを配布する。		
授業形態	学外集中授業 教室内での説明会、講義、在宅学習での事前勉強、実習先での少人数制での海洋実習、ロギングにおける講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	20	実技習熟度、学科試験
レポート試験	20	実習後レポートを課す
平常点評価	60	出席、質疑応答など積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	濱部（担当教員） 運動科学教室（E棟5階） hamabeXnvl.u.ac.jp（Xを@に変えて使用すること） Eメールにて受付又は面接を予約（水曜13時から17時）
その他	

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ゴルフ）	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	濱部 浩一, 小泉 健司, 野口 泰子		
授業のねらい	ゴルフのルール、マナー、基礎技術を学び、打ちっ放し練習場でのフルスイング、アプローチ、パターを練習してゴルフを総合的に理解することを目的とする。コースへ出てルールとマナーを実践しながらコースでラウンド経験することを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゴルフのルールとマナーについて理解する</li> <li>2. ゴルフについて説明できる。</li> <li>3. コースラウンドを経験する。決められた時間内にラウンドする方法を習得する。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし、全くの初心者でも参加することができる。		
履修上の留意点	<p>配付された資料を携帯すること。</p> <p>授業中は意欲的に質問し、研究的な態度で授業に参加すること。</p>		
概要・スケジュール	<p>第1回 濱部 オリエンテーション、ゴルフの概要</p> <p>第2回 濱部 ゴルフ練習場 グリップ クラブの知識</p> <p>第3回 濱部 ゴルフ練習場セットアップスイング マナー</p> <p>第4回 濱部 ゴルフ練習場ショートスイングフルスイング</p> <p>第5回 濱部 ゴルフ練習場 ミドルスイングフルスイング</p> <p>第6回 濱部 ゴルフコースルール、アプローチフルスイング</p> <p>第7回 濱部 ゴルフコースフルスイング、バンカーショット</p> <p>第8回 濱部 ゴルフコース傾斜のショットドライバー</p> <p>第9回 濱部 ゴルフコースラフからのショットラウンド</p> <p>第10回 濱部 ゴルフコースパッティングラウンド</p> <p>第11回 濱部 ゴルフコースピッチショット ラウンド</p> <p>第12回 濱部 ゴルフコースユーティリティ ラウンド</p> <p>第13回 濱部 ゴルフコースフェアウェーウッド ラウンド</p> <p>第14回 濱部 ゴルフコースコースマネージメントラウンド</p> <p>第15回 濱部 ゴルフコーススコアルールとマナーの実践</p>		
授業期間を通して課される課題	ゴルフのルール、マナー、技術理論に関して小テストを実施する。技術修得度について実技テストを実施する。		

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ゴルフ）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために事前配布テキストおよび資料を事前に読むこと（2時間）		
テキスト・参考文献他	専用テキストを配布する。		
授業形態	学外集中授業 教室内での説明会、講義、在宅学習での事前勉強、実習先での少人数制での練習場実習、コースでのラウンド実習		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施しない
レポート試験	20	実習後レポートを課す
平常点評価	80	出席、質疑応答など積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	濱部（担当教員） 運動科学教室（E棟5階） hamabeXnvl.u.ac.jp（Xを@に変えて使用すること） Eメールにて受付又は面接を予約（水曜16時から17時）
その他	

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（演部）	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	演部 浩一		
授業のねらい	運動課題に意欲的に取り組み、自らの課題を解決する態度や能力を身につける。また人や物との関わりの中で、協調性を高め、リーダーシップがとれるようにすることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯に渡って運動に親しみ、運動の効果を日常生活に生かすことができる。</li> <li>・豊かな心、健やかな体づくりを通して、たくましく生きていく力を身につけることができる。</li> </ul>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	普段から健康管理に気を配り、睡眠時間や疲労をためないように心掛け、体調を万全にして授業に臨むこと。		
履修上の留意点	運動ができる服装、体育館シューズ（内履き）で参加すること。裸足での参加は原則不可。また飲み物、タオルなども熱中症予防のために用意できると望ましい。		
概要・スケジュール	第1回 オリエンテーション 体育の授業の受け方、進め方、学外実習の種目説明 第2回 バasketボール 基礎練習（パス、ドリブル、シュート） 第3回 バasketボール 応用練習（3ON3、ゲームを通じて基本動作の確認） 第4回 バasketボール 試合形式（ルール、審判法を学びながら試合を行う） 第5回 バasketボール 試合形式（チームごとに作戦を立てながら試合を行う） 第6回 ストレッチ&トレーニング 基礎編（柔軟でバランスの良い体を目指した初歩的なストレッチを中心に行う） 第7回 ストレッチ&トレーニング 応用編（正しい姿勢で身体能力を引き出すトレーニングを行う。器具を使用する場合もある） 第8回 ストレッチ&トレーニング 応用編（身体動作を高め、怪我防止に役立つトレーニングを行う。器具を使用する場合もある） 第9回 バasketボール 基礎練習（パス、ドリブル、シュート） 第10回 バasketボール 応用練習（3ON3、ゲームを通じて基本動作の確認） 第11回 バasketボール 試合形式（ルール、審判法を学びながら試合を行う） 第12回 バasketボール 試合形式（チームごとに作戦を立てながら試合を行う） 第13回 ストレッチ&トレーニング 基礎編（柔軟でバランスの良い体を目指した初歩的なストレッチを中心に行う） 第14回 ストレッチ&トレーニング 応用編（正しい姿勢で身体能力を引き出すトレーニングを行う。器具を使用する場合もある） 第15回 ストレッチ&トレーニング 応用編（身体動作を高め、怪我防止に役立つトレーニングを行う。器具を使用する場合もある）		
授業期間を通して課される課題	それぞれの種目において技能テストを行う。		

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（濱部）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	普段から足腰を中心に体力を養うためのトレーニングや、怪我防止のためのストレッチなどを1日30分程度することが望ましい。		
テキスト・参考文献他	テキストは特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する場合がある。		
授業形態	アリーナ及びトレーニングルーム		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施しない
レポート試験	40	個人技能テスト、成績発表（チームの成績）など
平常点評価	60	出席、参加態度、意欲など

オフィスアワー	濱部（担当教員） 運動科学教室（E棟5階） hamabeXnvl.u.ac.jp（Xを@に変えて使用すること） Eメールにて受付又は面接を予約（水曜16時から17時）
その他	

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（小泉（健））	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	小泉 健司		
授業のねらい	運動課題に意欲的に取り組み、自らの課題を解決する態度や能力を身につける。また人や物との関わりの中で、協調性を高め、リーダーシップがとれるようにすることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯に渡って運動に親しみ、運動の効果を日常生活に生かすことができる。</li> <li>・豊かな心、健やかな体づくりを通して、たくましく生きていく力を身につけることができる。</li> </ul>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	普段から健康管理に気を配り、睡眠時間や疲労をためないように心掛け、体調を万全にして授業に臨むこと。		
履修上の留意点	運動ができる服装、体育館シューズ（内履き）で参加すること。裸足での参加は原則不可。また飲み物、タオルなども熱中症予防のために用意できると望ましい。		
概要・スケジュール	<p>第1回オリエンテーション 体育の授業の受け方、進め方、学外実習の種目説明</p> <p>第2回バスケットボール 基礎練習（パス、ドリブル、シュート）</p> <p>第3回バスケットボール 応用練習（3ON3、ゲームを通じて基本動作の確認）</p> <p>第4回バスケットボール 試合形式（ルール、審判法を学びながら試合を行う）</p> <p>第5回バスケットボール 試合形式（チームごとに作戦を立てながら試合を行う）</p> <p>第6回ストレッチ&amp;トレーニング 基礎編（柔軟でバランスの良い体を目指した初歩的なストレッチを中心に）</p> <p>第7回ストレッチ&amp;トレーニング 応用編（正しい姿勢で身体能力を引き出すトレーニングを行う。器具を使用する場合もある）</p> <p>第8回ストレッチ&amp;トレーニング 応用編（身体動作を高め、怪我防止に役立つトレーニングを行う。器具を使用する場合もある）</p> <p>第9回バスケットボール 基礎練習（パス、ドリブル、シュート）</p> <p>第10回 バスケットボール 応用練習（3ON3、ゲームを通じて基本動作の確認）</p> <p>第11回 バスケットボール 試合形式（ルール、審判法を学びながら試合を行う）</p> <p>第12回 バスケットボール 試合形式（チームごとに作戦を立てながら試合を行う）</p> <p>第13回 ストレッチ&amp;トレーニング 基礎編（柔軟でバランスの良い体を目指した初歩的なストレッチを中心に）</p> <p>第14回 ストレッチ&amp;トレーニング 応用編（正しい姿勢で身体能力を引き出すトレーニングを行う。器具を使用する場合もある）</p> <p>第15回 ストレッチ&amp;トレーニング 応用編（身体動作を高め、怪我防止に役立つトレーニングを行う。器具を使用する場合もある）</p>		
授業期間を通して課される課題	それぞれの種目において技能テストを行う。		

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（小泉(健)）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	普段から足腰を中心に体力を養うためのトレーニングや、怪我防止のためのストレッチなどを1日30分程度することが望ましい。		
テキスト・参考文献他	テキストは特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する場合がある。		
授業形態	アリーナ及びトレーニングルーム		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない
レポート試験	40%	個人技能テスト、成績発表（チームの成績）など
平常点評価	60%	出席、参加態度、意欲など

オフィスアワー	kyomu × nv   u. ac. jp 実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（野口(泰)）	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	野口 泰子		
授業のねらい	運動課題に意欲的に取り組み、自らの課題を解決する態度や能力を身につける。また人や物との関わりの中で、協調性を高め、リーダーシップがとれるようにすることを目標とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯に渡って運動に親しみ、運動の効果を日常生活に生かすことができる。</li> <li>・豊かな心、健やかな体づくりを通して、たくましく生きていく力を身につけることができる。</li> </ul>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	普段から健康管理に気を配り、睡眠時間や疲労をためないように心掛け、体調を万全にして授業に臨むこと。		
履修上の留意点	運動ができる服装、体育館シューズ（内履き）で参加すること。裸足での参加は原則不可。また飲み物、タオルなども熱中症予防の為に用意できると望ましい。		
概要・スケジュール	第1回 オリエンテーション体育の授業の受け方、進め方、学外実習の種目説明 第2回卓球 基礎練習（グリップ、ボール慣れ、ミニラリー） 第3回卓球 応用練習（サービス、スマッシュ、フットワーク、コース打ち分け） 第4回卓球 ダブルスゲーム（ダブルスのルール、審判法を学びながら試合を行う） 第5回卓球 ダブルスゲーム（トーナメント方式で行う） 第6回バレーボール 基礎練習（パス、サービス&レシーブ、ミニゲームからトス、スパイクにつなげる） 第7回バレーボール 試合形式（ルール、審判法を学びながら試合を行う） 第8回バレーボール 試合形式（トーナメント方式で行う） 第9回卓球 基礎練習（グリップ、ボール慣れ、ミニラリー） 第10回 卓球 応用練習（サービス、スマッシュ、フットワーク、コース打ち分け） 第11回 卓球 ダブルスゲーム（ダブルスのルール、審判法を学びながら試合を行う） 第12回 卓球 ダブルスゲーム（トーナメント方式で行う） 第13回 バレーボール 基礎練習（パス、サービス&レシーブ、ミニゲームからトス、スパイクにつなげる） 第14回 バレーボール 試合形式（ルール、審判法を学びながら試合を行う） 第15回 バレーボール 試合形式（トーナメント方式で行う）		
授業期間を通して課される課題	それぞれの種目において技能テストを行う。		

科目No.	211510S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（野口(泰)）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	普段から足腰を中心に体力を養うためのトレーニングや、怪我防止のためのストレッチなどを1日30分程度することが望ましい。		
テキスト・参考文献他	テキストは特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する場合がある。		
授業形態	アリーナ及び卓球場での実技		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない。
レポート試験	40%	個人技能テスト、成果発表（チームでの成績）など
平常点評価	60%	出席、参加態度、意欲など

オフィスアワー	kyomu × nv   u. ac. jp 実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	211520S1	科目区分	選択
科目名	心理学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	柿沼 美紀, 野瀬 出		
授業のねらい	心理学は人間の心理や行動を科学的に解明することを目的としている。本授業では「脳」と「こころ」の関係を生物学的に理解することで人に対する認識を深める。		
到達目標	心理学的事象について科学的知見に基づき説明ができる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 柿沼美紀、野瀬 出 ガイダンス 第2回 柿沼美紀 脳と心 第3回 野瀬 出 脳機能の研究手法 第4回 野瀬 出 視覚, 錯覚, 失認 第5回 野瀬 出 記憶, 忘却, 健忘 第6回 野瀬 出 感情, 動機づけ 第7回 野瀬 出 言語の獲得, 失語, 分離脳 第8回 野瀬 出 睡眠段階, 睡眠障害, 生体リズム 第9回 野瀬 出 ストレス 第10回 柿沼美紀 身近な精神障害 第11回 柿沼美紀 PTSD 第12回 柿沼美紀 家族とは何か 第13回 柿沼美紀 動物と人の関係 第14回 野瀬 出 社会的行動 第15回 柿沼美紀 まとめ		
授業期間を通して課される課題	授業内で小レポートを課す。		

科目No.	211520S1	科目区分	選択
科目名	心理学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、授業内で指定された資料を読んでおく（60分）。 復習として、その日の授業内容を整理してまとめる（60分）。		
テキスト・参考文献他	ピネル バイオサイコロジー 脳ー心と行動の神経科学 西村書店 その他に、適宜プリントを配布する。		
授業形態	講義を中心とする。視聴覚教材も使用する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	20	授業内で小レポートを課す。
平常点評価	10	出席状況、質疑応答など積極的な授業参加を評価する。

オフィスアワー	月曜日12:00-13:00、D棟4階 比較発達心理学研究室 Eメールで予約をすること。送信の際はメールアドレスの◎を@にする。 柿沼美紀 (kakinuma-miki@nvl.u.ac.jp)、野瀬出 (inose@nvl.u.ac.jp)
その他	

科目No.	211530S1	科目区分	選択
科目名	哲学概論	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	高村 夏輝		

授業のねらい	西洋哲学の基本問題を理解すること。
到達目標	哲学的問題とはどのようなものかを理解すること、および合理的思考を身につけること。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 ガイダンス 第2・3回 知覚の問題（デカルト） 第4・5回 観念論とその批判（バークリ） 第6・7回 科学的知識の問題（ヒューム） 第8・9回 アプリオリな知識の問題（カント） 第10・11回 普遍について（プラトン） 第12・13回 真理と正当化 第14・15回 哲学の限界と価値
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211530S1	科目区分	選択
科目名	哲学概論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義の前にテキストの該当箇所を一読してください。時間的な目安としては、予習90分、復習90分です。		
テキスト・参考文献他	バートランド・ラッセル著、高村夏輝訳、『哲学入門』、ちくま学芸文庫、1000円		
授業形態	講義形式で行います。しかし、講義中いつでも質問していただいて構いません。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	50	定期試験を実施します。
レポート試験	0	レポートは課しません。
平常点評価	50	出席回数と講義に対する熱意で評価します。

オフィスアワー	kyomu × nv   u. ac. jp ( × を @ に変えて使用すること)、実施方法：教務・学生課を通して調整します。
その他	

科目No.	211540S1	科目区分	選択
科目名	経済学概論	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	佐々木 輝雄		

授業のねらい	諸君の人生は経済社会の中で築き上げられていきます。それなら「経済学概論」を理解し、活用していった方が賢明であります。 経済学概論は社会の中で、諸君が主体的に堅実に人生を築いていけるよう支援することを目標としている。
到達目標	1. 経済社会の実際を理解することができる。 2. 経済分野を貫く基本原理を理解することができる。 3. 人生の設計、地域の振興、国家のあり方、他国との関係の在り方など具体的なテーマに応えられるようになる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	講義スケジュール表を見て、関連するニュースや記事に目を向けていこう。
履修上の留意点	講義の進行に合わせて、関連する情報に目を向けて確認をしていこう。
概要・スケジュール	第1回 佐々木輝雄 動物への対応から経済社会の発展度を考える 第2回 佐々木輝雄 流通の発展と生活の変化 第3回 佐々木輝雄 経済水準の決定論理と景気変動 第4回 佐々木輝雄 生活の安全性を維持する法と制度 第5回 佐々木輝雄 食生活の乱れと食育基本法の意義 第6回 佐々木輝雄 企業行動の行動と不祥事発生理由 第7回 佐々木輝雄 食料自給率の意味と世界の食料事情 第8回 佐々木輝雄 農業および漁業の現状とあり方 第9回 佐々木輝雄 食育基本法のねらいと教育のあり方 第9回 佐々木輝雄 少子化の実際とその背景および対策 第10回 佐々木輝雄 高齢化の実際とその背景および政策 第11回 佐々木輝雄 地産地消の進展と地方経済の活性化 第12回 佐々木輝雄 戦後の経済成長・発展と豊かさの意味 第13回 佐々木輝雄 貿易の効果と為替レートの変化の影響 第14回 佐々木輝雄 境問題の実態と対応 第15回 佐々木輝雄 財政の現状と税金
授業期間を通して課される課題	レポートによって疑問点や調べたことを確認していきます。

科目No.	211540S1	科目区分	選択
科目名	経済学概論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	1. テキストや配付資料の内容を理解する。(40分) 2. テキストや配付資料の内容をまとめてみて認識を深める。(40分)		
テキスト・参考文献他	テキスト：佐々木輝雄著『「食」から見直す日本』（創森社） 必要に応じて参考資料も配付する。		
授業形態	講義および映像による実態の確認。質問や意見交換の時間も設けます。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	60%	期末に定期試験を行う。
レポート試験	20%	講義の終了時に課題を案内する。
平常点評価	20%	出席状況を参考にする。

オフィスアワー	講義の後に予約し、随時対応していく。
その他	

科目No.	211550S1	科目区分	選択
科目名	法学	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	牧野 ゆき		

授業のねらい	獣医師という専門的職業人であると同時に、責任ある社会人として求められる社会的視野を、将来にわたって維持し、発展させていくために必要な、基礎的知識を身につける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法は社会の秩序を保つために重要な役割を果たすことを理解し、説明できる。</li> <li>・ 法は生活と深く関わっており、社会の動きに対応する存在であることを理解し、説明できる。</li> <li>・ 法を日常生活や獣医療における具体的問題と結びつけて理解し、実例をあげて説明できる。</li> </ul>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	「法」という、獣医学を専門とする学生にはなじみのない分野ではあるが、自分自身の問題として興味を持ち、積極的に取り組んで欲しい。
概要・スケジュール	第 1 回 牧野 ゆき オリエンテーション（法の基礎知識） 第 2 回 牧野 ゆき 民法（1）（不法行為：一般不法行為） 第 3 回 牧野 ゆき 民法（2）（不法行為：特殊の不法行為） 第 4 回 牧野 ゆき 民法（3）（製造物責任法） 第 5 回 牧野 ゆき 民法（4）（契約：契約総論） 第 6 回 牧野 ゆき 民法（5）（契約：契約各論（売買，消費貸借）） 第 7 回 牧野 ゆき 民法（6）（契約：契約各論（賃貸借，委任，請負）） 第 8 回 牧野 ゆき 消費者取引と法（1）（消費者契約法） 第 9 回 牧野 ゆき 消費者取引と法（2）（特定商取引法） 第 10 回 牧野 ゆき 家族生活と法（1）（婚姻） 第 11 回 牧野 ゆき 家族生活と法（2）（夫婦） 第 12 回 牧野 ゆき 家族生活と法（3）（離婚） 第 13 回 牧野 ゆき 家族生活と法（4）（親子） 第 14 回 牧野 ゆき 家族生活と法（5）（扶養） 第 15 回 牧野 ゆき 家族生活と法（6）（相続）
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211550S1	科目区分	選択
科目名	法学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回講義で取り上げる内容について、教科書の該当箇所を読んでおく（90分） 復習として、講義で取り上げた事例についてまとめ、類似の事例の有無を新聞等で確認する（90分）		
テキスト・参考文献他	池田 他『法の世界へ』（有斐閣アルマ） 他		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	実施しない。
平常点評価	20%	出席状況や質問等、積極的な参加や問題意識の持ち方を考慮。

オフィスアワー	牧野ゆき：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） y-makino@nvl.u.ac.jp （××を@にすること） 事前にメールで在室を確認のこと。
その他	

科目No.	211560S1	科目区分	選択
科目名	獣医学史	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	佐々木 典康		
授業のねらい	獣医学史の授業では、獣医療や獣医師が世界の文明や歴史の発展に大きく貢献してきた史実を学ぶことにより、自らの職業に対する誇り、自信、使命、責任などを考えて理解し、広い視野と社会的良識を具えた獣医師を養成することを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界や日本の獣医療や獣医学がどのように発展してきたのかを理解する。</li> <li>2. 獣医師がどのような社会的活動や役割を果たしてきたかを理解する。</li> <li>3. 自らの職業に対する誇り、自信、使命、責任などを持つことを目標とする。</li> </ol>		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	予備知識は必要としないが、獣医学全般に関する広い好奇心を持って臨んで欲しい。		
履修上の留意点	質問がある場合は出席カードの裏面に記述すること。質問は講義内容でなくても構わない。回答は次の講義の最初に行う。		
概要・スケジュール	第1回：佐々木典康 古代文明の発祥と獣医療 第2回：佐々木典康 狂犬病の歴史 第3回：佐々木典康 西洋と東洋における獣医療の進展 第4回：佐々木典康 日本における獣医療の進展〔1〕 第5回：佐々木典康 アラビア馬と西洋獣医の初来日 第6回：佐々木典康 日本における獣医療の進展〔2〕 第7回：佐々木典康 牛疫と口蹄疫（FMD）の歴史 第8回：佐々木典康 将軍徳川綱吉と「生類憐みの令」 第9回：佐々木典康 愛犬（義犬）の墓と動物愛護史〔1〕 第10回：佐々木典康 愛犬（義犬）の墓と動物愛護史〔2〕 第11回：佐々木典康 鳥インフルエンザ（AI）の歴史 第12回：佐々木典康 獣医学史における日本の特色 第13回：佐々木典康 日本における西洋獣医学の導入と獣医療の進展 第14回：佐々木典康 牛海綿状脳症状（BSE）の歴史とOne Health 第15回：佐々木典康 獣医学史の小論文作成		
授業期間を通して課される課題	学期末に提出するレポートでは獣医学史に対する関心や理解度を評価するので、毎回の講義で興味を持ったテーマについて調べておくようにする。		

科目No.	211560S1	科目区分	選択
科目名	獣医学史	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習としてテキストの該当部分を読み、不明な点を挙げておく (90分) 復習として、当日配布された資料を読み、講義の内容をまとめておく (90分) 講義で十分に理解できなかった点は出席カードの裏に記述して質問する。		
テキスト・参考文献他	『獣医学概論』（緑書房・2013年）の第2章 獣医史学（小佐々学 著）を使用する。		
授業形態	スライドによる講義形式。要旨，図表，写真など映像を多用して理解し易い講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	-	-
レポート試験	70	学期末に獣医史学に関する800字以内のレポートを提出
平常点評価	30	出席、質問内容および学期末に提出する感想文を総合的に評価

オフィスアワー	佐々木典康：獣医生化学研究室（獣医学教育推進室）：D棟5階 noris@nvlu.ac.jp（※「♪」記号を「@」に置き換えること） 原則として火・木・金曜日の13:00～15:00（可能であれば事前にメールで予約すること）。
その他	

科目No.	211570S2	科目区分	選択
科目名	総合文化講座	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	2V 担任		

授業のねらい	通常の講義だけでは十分に知ることが出来ない最新の科学的話題や科学研究の社会的意義を知る。
到達目標	科学研究の社会的意義を理解できる
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	①受付で資料と「引換券」をもらう。②講義終了後、受付にて「引換券」を「総合文化講座報告書」と交換する。③「総合文化講座報告書」が8枚揃ったら、担任に提出する。
概要・スケジュール	<p>前期 担当学科：動物科学科 総合テーマ：未定 詳細は授業の際に説明</p> <p>後期 担当学科：獣医学科 総合テーマ：未定 詳細は授業の際に説明</p> <p>※過去の授業において、一般聴講者より授業中の態度が悪いとの苦情を多く受けました。授業態度が悪い場合は、教室からの退場及び単位非認定とします。</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211570S2	科目区分	選択
科目名	総合文化講座	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	詳細は授業の際に説明		
テキスト・参考文献他	授業時間中に指示する		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	実施しない。
レポート試験	40	詳細は授業の際に説明する。
平常点評価	60	総合文化講座報告書の提出。

オフィスアワー	和田新平 (swada@nvl.u.ac.jp) E-メールで面会予約 (11:00-13:00)、D棟3階 水族医学研究室 氏家 誠 (ujike@nvl.u.ac.jp) E-メールで面会予約 (11:00-13:00)、D棟5階 獣医感染症学研究室
その他	レポートにおけるインターネットからのコピー・ペーストは点数になりません。

科目No.	211580S2	科目区分	選択
科目名	産業動物品種論 B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	小山 秀一, 小澤 壯行, 太田 能之, 吉田 達行, 時田 昇臣, 古田 洋樹, 岡田 幸之助, 長田 雅宏		
授業のねらい	産業動物品種論では、産業動物の品種を学習し、獣医師に必要な基礎的知識を身につける。		
到達目標	牛、豚、鶏、めん羊、山羊および実験動物の品種とその特性について理解する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 吉田達行 乳牛の品種とその特性 第2回 長田雅宏 肉牛の品種と特性 第3回 岡田幸之助 ブタの品種とその特性 第4回 太田能之 肉用鶏の品種とその特性 第5回 古田洋樹 産卵鶏・愛玩鶏の品種と遺伝子保存 第6回 時田昇臣 日本で飼育されている主要なメン羊品種の導入経緯と特性を学ぶ 第7回 小澤壯行 古くて新しい家畜・ヤギを考える 第8回 小山秀一 まとめ		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	211580S2	科目区分	選択
科目名	産業動物品種論 B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	レポート提出のためにも、毎回の授業の重要部分をまとめておく(40分)		
テキスト・参考文献他	配付資料		
授業形態	スライドを用いた教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	試験は実施しない
レポート試験	70%	A4版5枚以上(全講義のまとめと感想)
平常点評価	30%	出席、講義態度を総合的に評価する

オフィスアワー	吉田：動物遺伝育種学教室(E棟5F) yoshidat@nvl.u.ac.jp 長田：システム経営学教室(E棟5F) osada@nvl.u.ac.jp 岡田：動物生殖学教室(E棟5F) okada@nvl.u.ac.jp 太田：動物生産化学教室(E棟5F) ohta-y@nvl.u.ac.jp 古田：動物遺伝育種学教室(E棟5F) fhiroki@nvl.u.ac.jp 時田：動物栄養学教室(E棟5F) tokitan@nvl.u.ac.jp 小澤：システム経営学教室(E棟5F) ozawa@nvl.u.ac.jp
その他	

科目No.	211590S2	科目区分	選択
科目名	伴侶動物品種論 B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	中田 友明, 左向 敏紀, 堀 達也, 稲富 理香, 滝沢 直樹		
授業のねらい	獣医臨床に必要とされる伴侶動物の種としての特性や起源について学び、これを習得することを目的とする。		
到達目標	以下のことを理解・説明できる。 1. 犬の品種とそれらの特性 2. 猫の品種とそれらの特性 3. 小鳥の品種とそれらの特性 4. 愛玩動物としての爬虫類・両生類の品種とそれらの特性 5. 馬の起源・種類とそれらの特性		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 堀達也 犬の品種とそれらの特性 (1) 第2回 堀達也 犬の品種とそれらの特性 (2) 第3回 稲富理香猫の品種とそれらの特性 (1) 第4回 稲富理香猫の品種とそれらの特性 (2) 第5回 滝沢直樹鳥類の品種とそれらの特性 第6回 中田友明爬虫類・両生類の品種とそれらの特性 第7回 左向敏紀馬の起源、種類とそれらの特性 (講師の都合により、講義の順番は変更になることがあります)		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	211590S2	科目区分	選択
科目名	伴侶動物品種論 B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業の理解を深めるため、講義を受けた内容について復習を行うこと（60分）。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	—	出席回数によって評価する。ただし学則に則り出席が3分の2に達していない者は単位認定を行わない。
レポート試験	10%	一部の講義においてレポート課題を課す
平常点評価	90%	出席回数によって評価する。ただし、学則に則り出席が3分の2に達していない者は単位認定を行わない。

オフィスアワー	横須賀誠 病態獣医学部門・病態解析学分野（旧・比較動物医学）（D棟1階） mayokosuka@nvlu.ac.jp 講義の前後、あるいはEメールにて面接を予約のこと（月曜16:00～17:00）
その他	

科目No.	211600S2	科目区分	選択
科目名	畜産学概論Ⅱ・Ⅲ A期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	阿久澤 良造, 松本 光人		

授業のねらい	阿久澤:食品としての動物資源の利用について理解する。 松本: 畜産物を生産する家畜のエサである飼料について理解する。
到達目標	阿久澤:動物資源(乳、肉、卵)の成分および加工特性について理解する。 松本: 畜産物の安全性を確保するための飼料の利用法について理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>畜産学概論Ⅲ</p> <p>第1回 松本光人 飼料とは何か、化学的視点、生物学的視点、行政的視点などから考える</p> <p>第2回 松本光人 飼料と栄養との関係について学ぶ</p> <p>第3回 松本光人 飼料の安全性に係る諸要因について学ぶ</p> <p>第4回 松本光人 飼料の品質管理と畜産物の安全について学ぶ</p> <p>畜産学概論Ⅱ</p> <p>第5回 阿久澤良造 牛乳の成分と機能特性</p> <p>第6回 阿久澤良造 食肉・鶏卵の成分と機能特性</p> <p>第7回 阿久澤良造 乳利用(乳製品製造)</p> <p>第8回 阿久澤良造 食肉・鶏卵利用(食肉・鶏卵製品製造)</p>
授業期間を通して課される課題	Ⅲ(松本)最終講義の際、理解度を確認する小課題を課す。

科目No.	211600S2	科目区分	選択
科目名	畜産学概論Ⅱ・Ⅲ A期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	Ⅲ（松本）新出の専門用語についての復習（90分）。Ⅱ（阿久澤）事前配布資料を読むこと（30分）。授業でのまとめ事項について復習すること（60分）。		
テキスト・参考文献他	Ⅲ（松本）特にテキストは使用しない。関連テキストについては講義の中で紹介する。		
授業形態	Ⅲ（松本）スライド、配布資料を用いて講義主体に行う。 Ⅱ（阿久澤）講述中心に適宜プリントを配布する。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	Ⅲ：30% Ⅱ：0%	Ⅲ（松本） 小課題で理解度を確認する。Ⅱ（阿久澤） なし
レポート試験	Ⅲ：30% Ⅱ：50%	Ⅲ：最終講義後課題を与える Ⅱ：中間、最終に課題を課す
平常点評価	Ⅲ：70% Ⅱ：50%	Ⅲ：出席による Ⅱ：出席、質疑への積極的参加による

オフィスアワー	畜産学概論Ⅲ（松本） matsumoto x jataff.jp 実施方法：教務・学生課を通して調整する 阿久澤：乳肉利用学教室（E棟6階）aku x nvlu.ac.jp（×を@に変えて使用すること）直接またはEメールにて常時対応
その他	

科目No.	211610S3	科目区分	選択
科目名	病院経営学 B期間	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	桜井 富士朗, 村中 志朗		
授業のねらい	小動物臨床に進む学生に対し、獣医師として病院経営のノウハウを知ることは重要である。本講座ではコンパニオンアニマルを取り巻く市場を細かく分析し、時代に応じた適正な病院経営ができるような考察力を身に着けることができる。		
到達目標	時代の変遷に伴う市場データを知り、小動物臨床業界の現況を把握し、また将来に向けての課題を克服する洞察力を身に着ける。また顧客（飼い主）のニーズを知ること、獣医療の適正化を図ることができるようにすることを目的とする。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	一般的な経済学や統計学の知識。		
履修上の留意点	内閣府や獣医師会、ペットフード協会、マスメディアが発表している各種データをもとに講義を行うため、講義中はデータ分析能力が問われる。		
概要・スケジュール	第1回 村中志朗 ペット飼育とそれを取り巻く社会環境 第2回 村中志朗 ペット産業（1） 第3回 村中志朗 ペット産業（2） 第4回 村中志朗 動物病院のマーケティング課題 第5回 桜井富士朗 勤務病院の選択 第6回 桜井富士朗 動物病院起業への諸課題 第7回 桜井富士朗 動物病院のマネージメント		
授業期間を通して課される課題	照会したペット経済のデータおよび課題を復習し、世界経済・日本経済の動向の中のペット経済の位置を常に意識する。ペット経済動向を講義ごとに適宜レポートする。		

科目No.	211610S3	科目区分	選択
科目名	病院経営学 B期間	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	経済学的センスを身につけるために、新聞の経済欄・政治欄を読み通すこと。もしくは日本経済新聞の1面・2面を通読できるようにする。		
テキスト・参考文献他	「最新 動物病院経営指針」チクサン出版社、その他、随時文献を用意する。		
授業形態	教室内での講義、		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	40%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	30%	学期の中間にレポートを課す
平常点評価	30%	出席、小テスト、質疑応答の活発さを評価

オフィスアワー	桜井：Eメールにて受付 sakurai@ntu.ac.jp 村中：Eメールにて受付 sm0510@wondernet.ne.jp		
その他			

科目No.	211630S3	科目区分	選択
科目名	魚病学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	和田 新平, 倉田 修		

授業のねらい	病態獣医学科目の一つである魚病学をより具体的に理解するために、魚類の解剖学、組織学、生理学、病理学および微生物学について実習を行う。それらを通して、魚病の診断・対策に必須の基礎的知識および技術を修得することを目標とする。
到達目標	1. 魚類の種々の生物学的特徴および魚病の病理学・微生物学的特徴を説明できる。 2. 魚病の診断・治療に必須の基礎的知識・技術を理解し実践できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	3年次前期開講の魚病学で学んだ内容の復習 1年次から3年次にかけて受講する各実習内容の理解
履修上の留意点	白衣ないしスクラブスーツ等の着用および開始時間厳守 スケッチブック、色鉛筆、レポート用紙、筆記具、解剖器具を持参
概要・スケジュール	第1回 和田新平, 倉田 修 病魚の簡易検査法 第2回 和田新平, 倉田 修 魚類の麻酔法 第3回 和田新平, 倉田 修 ニジマスの採血法および解剖観察 第4回 和田新平, 倉田 修 キンギョを用いた実験感染法 第5回 和田新平, 倉田 修 キンギョの採血法、解剖観察、病原菌分離法 第6回 和田新平, 倉田 修 ブリの解剖観察 第7回 和田新平, 倉田 修 魚類の血球観察 第8回 和田新平, 倉田 修 魚病細菌の性状検査法 第9回 和田新平, 倉田 修 魚病卵菌および真菌の培養法 第10回 和田新平, 倉田 修 淡水性卵菌類の観察 第11回 和田新平, 倉田 修 不完全菌類の観察 第12回 和田新平, 倉田 修 正常組織標本観察（鰓、脾臓） 第13回 和田新平, 倉田 修 病理組織標本観察（細菌性感染症） 第14回 和田新平, 倉田 修 学外水生動物大型展示施設見学 第15回 和田新平, 倉田 修 実習内容に関するまとめ
授業期間を通して課される課題	実習開始時に出席確認 実習終了時にその日の実習内容をレポートにまとめて提出（終了時の出席確認）

科目No.	211630S3	科目区分	選択
科目名	魚病学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	次回実習の内容について事前に実習書・参考書を読む(20分) 復習として、その日の実習内容をレポートとしてまとめる(60分)		
テキスト・参考文献他	テキスト：水族医学研究室で用意した実習書を配布 参考書：獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠「魚病学」(緑書房) 新魚病図鑑 第2版(緑書房)		
授業形態	実習室内での個人実習(いくつかの実習項目は少人数のグループワーク)		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	60%	実習最終日に筆記試験を実施
レポート試験	20%	実習日ごとに提出されるレポートを評価
平常点評価	20%	出席状況を評価

オフィスアワー	和田新平：水族医学研究室(D棟3階) swada@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約(12:00~13:00) 倉田 修：水族医学研究室(D棟3階) kurata@nvl.u.ac.jp (12:00~13:00)
その他	参加人数および使用魚介類の入荷状況によって実習内容が変更される場合がある。

科目No.	211640S3	科目区分	選択
科目名	野生動物学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	3
担当教員	羽山 伸一, 加藤 卓也		
授業のねらい	野生動物の飼育、臨床、保護、研究などの現場を知り、そこでの獣医師の役割や社会的使命を理解する。		
到達目標	野生動物の飼育、臨床、保護、研究などの現場での実習を通じ、それぞれの意義や獣医師がどのような役割を担っているかが説明できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	履修希望者は、以下の概要に記載したメニューから1つ選択して実習を行う。		
概要・スケジュール	<p>野生動物学実習の単位を認めるもの</p> <p>【1】野生動物学教室が主催する集中教育プログラム（原則として、夏期に実施）</p> <p>【2】野生動物学教室が認定した動物園、水族館、保護センターなどの施設実習</p> <p>【3】野生動物学教室が認定した学外の教育プログラム</p> <p>【2】と【3】の場合、履修希望者は、必ず野生動物学教室担当教員に相談すること。事前相談せずに行った実習については単位を認定できない場合がある。</p> <p>履修手順：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野生動物学教室担当教員との打ち合わせ</li> <li>2. 実習先の決定</li> <li>3. 実習先へ評価表と実習依頼文書を送付、または持参（※状況により、省略する）</li> <li>4. 実習開始</li> <li>5. 実習終了を野生動物学教室に連絡</li> <li>6. レポート提出（提出期限は、実習終了後1ヶ月以内）</li> </ol>		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	211640S3	科目区分	選択
科目名	野生動物学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	各実習先で必要な知識については予習しておくこと。 また、関連資料を各自で収集し、レポート作成を行うのが望ましい。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	個別のプログラムを学生各自が受講する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない。
レポート試験	50	実習の目的、内容および考察について、A4版にまとめる。
平常点評価	50	出席状況と履修態度について評価する。

オフィスアワー	野生動物学教室 (3号棟2階※2014年2月現在) tkato【at】nvl.u.ac.jp (【at】=@) 月～金の午後。但し出張や会議等で不在にすることがあるので、上記メールで面接を予約すること。
その他	

科目No.	211650S2	科目区分	選択
科目名	比較発達心理学実習	単位数	1.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	科目責任者：野瀬 出 単位認定者：柿沼 美紀		
授業のねらい	動物の行動観察の基本的技術を学ぶことを目的とする。多摩動物公園において飼育動物の行動を記録し、データの収集方法、分析方法について学ぶ。また、フィールドにおける野生動物の観察も実施し、フィールド調査の実施方法を習得する。		
到達目標	動物を観察することで、その種の行動特性および個体差について理解する。データを整理・分析し、見ているだけでは分からない行動傾向を明らかにする。レポートをまとめ、適切な形式で観察結果を報告する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物心理学		
履修上の留意点	授業時間内に4回多摩動物公園へ訪問する。フィールド調査は9月～10月に多摩地域での実施を予定している。交通費は自己負担となる。		
概要・スケジュール	第1回 柿沼美紀 オリエンテーション、実習準備 第2回 野瀬 出 多摩動物公園実習(1) 行動観察の基礎 第3回 野瀬 出 データ整理 エクセルを使うー行動範囲 第4回 野瀬 出 多摩動物公園実習(2) 行動観察実践 第5回 野瀬 出 データ整理 行動範囲と相互作用 第6回 野瀬 出 多摩動物公園実習(3) 行動観察実践 第7回 野瀬 出 データ整理 社会的相互作用(1) 第8回 野瀬 出 多摩動物公園実習(4) 行動観察実践 第9回 野瀬 出 データ整理 社会的相互作用(2) 第10回 柿沼美紀 行動観察のまとめ ※上記スケジュールとは別にフィールド調査を実施する。		
授業期間を通して課される課題	計5回のレポート課題が課される。		

科目No.	211650S2	科目区分	選択
科目名	比較発達心理学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	基本的に授業時間内でレポートを作成・提出する。レポートが完成しなかった場合は、授業時間外に課題に取り組む。		
テキスト・参考文献他	授業中に指示する。 その他に、適宜プリントを配布する。		
授業形態	実習形式で行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施しない。
レポート試験	80	提出されたレポートに基づき評価する。
平常点評価	20	出席状況、質疑応答など積極的な授業参加を評価する。

オフィスアワー	月曜日12:00-13:00、D棟4階 比較発達心理学研究室 Eメールで予約をすること。送信の際はメールアドレスの◎を@にする。 柿沼美紀 (kakinuma-miki@nvl.u.ac.jp)、野瀬出 (inose@nvl.u.ac.jp)
その他	

科目No.	211660S2	科目区分	選択
科目名	学外実習	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	2
担当教員	2V 担任		

授業のねらい	学外実習では、生きている様々な動物（産業動物、小動物、野生動物）の特徴を実感を持って理解するとともに、実際に動物に触れることで、動物を適切に扱えるようになるための基本的な手技を身につけることを目的とする。
到達目標	産業動物、小動物、野生動物の特徴を列挙でき、且つ、動物を安全に扱うことができるようになる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	履修登録、成績評価の際は「学外実習I（1単位）」「学外実習II（1単位）」と表記するため注意すること。
概要・スケジュール	<p>学外実習2単位は、以下の学外実習より選択することができる。</p> <p>【1単位の实習】          附属牧场実習、北海道実習、個人実習（45時間以上で1単位）</p> <p>【2単位の实習】          オーストラリア実習、タイ実習、個人実習（90時間以上）</p> <p>それぞれの実習の内容とスケジュールは、各担当教員から説明される。</p> <p>※個人実習以外の実習は、実習参加希望者数、実習を実施する国および地域の状況によって中止となる場合がある。</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	211660S2	科目区分	選択
科目名	学外実習	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	詳細は別途説明する		
テキスト・参考文献他	別途指示する		
授業形態	実習		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0	行わない
レポート試験	100	実習に参加して感じた重要な事柄と感想を記載したレポート
平常点評価	0	無し

オフィスアワー	和田新平 (swada@nvl.u.ac.jp) E-メールで面会予約 (11:00-13:00)、D棟3階 水族医学研究室 氏家 誠 (ujike@nvl.u.ac.jp) E-メールで面会予約 (11:00-13:00)、D棟5階 獣医感染症学研究室
その他	レポートにおけるインターネットからのコピー・ペーストは認めない。

科目No.	211330S1	科目区分	選択
科目名	中国語 V1	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	大江 平和		

授業のねらい	本授業では、初めて中国語を学ぶ獣医学科1年生を対象に、発音や初歩的な文法事項を学ぶ。全15回の授業を通して、簡単な自己紹介や挨拶を含む初歩的な会話を中国語でできるようになることを本授業のねらいとする。
到達目標	①できるだけ正確な発音を身につけ、自己紹介や挨拶などを含む簡単な会話を習得する。 ②初歩的な基本文法事項を理解し、定着させ、初歩的な会話の読み書きを習得する。 ③中国語の学習を通して、国際的な視野をもつための一助とする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	①授業で使用するので、指定されたテキストは必ず入手し、毎回の授業に携帯すること。 ②発音練習、会話練習、質疑など、主体的かつ積極的に参加すること。
概要・スケジュール	第1回大江平和 発音① 第2回大江平和 発音② 第3回大江平和 発音③ 第4回大江平和 発音④ 第5回大江平和 第1課 こんにちは： 動詞「是」の構文などを学ぶ。 第6回大江平和 第1課 こんにちは： 名前の言い方、挨拶ことばなどを学ぶ。 第7回大江平和 第2課 学校： 助詞「的」、疑問詞「どれ?」「何?」などを学ぶ。 第8回大江平和 第2課 学校： 語気助詞「は?」などを学ぶ。 第9回大江平和 第3課 新宿： 動詞述語文などを学ぶ。 第10回大江平和 第3課 新宿： 副詞「~も」、連動文などを学ぶ。 第11回大江平和 第4課 カメラを買う： 助動詞「~したい」などを学ぶ。 第12回大江平和 第4課 カメラを買う： 反復疑問文、形容詞述語文などを学ぶ。 第13回大江平和 第5課 家族を語る： 年齢の言い方などを学ぶ。 第14回大江平和 第5課 家族を語る： 動詞「有」、比較の言い方などを学ぶ。 第15回大江平和 総復習
授業期間を通して課される課題	学期中にレポートを1回課し、小テストを2~3回実施する。

科目No.	211330S1	科目区分	選択
科目名	中国語 V1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深め、定着を図るため、予習・復習をすることが望ましい。(30分)		
テキスト・参考文献他	相原茂・陳淑梅・飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』 朝日出版社、2014年。		
授業形態	教室内での講義・演習など。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	75%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	15%	学期中にレポートを1回課し、小テストを2~3回実施する。
平常点評価	10%	出席、質疑応答等積極的な授業への取り組みを総合的に評価する。

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu× nvl.u.ac.jp (×を@ に変えて使用すること)、 実施方法：教務・学生課を通して調整する。
その他	

科目No.	211330S1	科目区分	選択
科目名	中国語 V2	単位数	2.0
学科	獣医学科	学年	1
担当教員	大江 平和		

授業のねらい	本授業では、初めて中国語を学ぶ獣医学科1年生を対象に、発音や初歩的な文法事項を学ぶ。全15回の授業を通して、簡単な自己紹介や挨拶を含む初歩的な会話を中国語でできるようになることを本授業のねらいとする。
到達目標	①できるだけ正確な発音を身につけ、自己紹介や挨拶などを含む簡単な会話を習得する。 ②初歩的な基本文法事項を理解し、定着させ、初歩的な会話の読み書きを習得する。 ③中国語の学習を通して、国際的な視野をもつための一助とする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	①授業で使用するので、指定されたテキストは必ず入手し、毎回の授業に携帯すること。 ②発音練習、会話練習、質疑など、主体的かつ積極的に参加すること。
概要・スケジュール	第1回大江平和 発音① 第2回大江平和 発音② 第3回大江平和 発音③ 第4回大江平和 発音④ 第5回大江平和 第1課 こんにちは： 動詞「是」の構文などを学ぶ。 第6回大江平和 第1課 こんにちは： 名前の言い方、挨拶ことばなどを学ぶ。 第7回大江平和 第2課 学校： 助詞「的」、疑問詞「どれ?」「何?」などを学ぶ。 第8回大江平和 第2課 学校： 語気助詞「は?」などを学ぶ。 第9回大江平和 第3課 新宿： 動詞述語文などを学ぶ。 第10回大江平和 第3課 新宿： 副詞「~も」、連動文などを学ぶ。 第11回大江平和 第4課 カメラを買う： 助動詞「~したい」などを学ぶ。 第12回大江平和 第4課 カメラを買う： 反復疑問文、形容詞述語文などを学ぶ。 第13回大江平和 第5課 家族を語る： 年齢の言い方などを学ぶ。 第14回大江平和 第5課 家族を語る： 動詞「有」、比較の言い方などを学ぶ。 第15回大江平和 総復習
授業期間を通して課される課題	学期中にレポートを1回課し、小テストを2~3回実施する。

科目No.	211330S1	科目区分	選択
科目名	中国語 V2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深め、定着を図るため、予習・復習をすることが望ましい。(30分)		
テキスト・参考文献他	相原茂・陳淑梅・飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』 朝日出版社、2014年。		
授業形態	教室内での講義・演習など。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	75%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	15%	学期中にレポートを1回課し、小テストを2～3回実施する。
平常点評価	10%	出席、質疑応答等積極的な授業への取り組みを総合的に評価する。

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）、 実施方法：教務・学生課を通して調整する。
その他	